

こどもエコクラブくしろさんへ
師範から一言

こどもエコクラブくしろのみなさん、こんにちは！

みんなの作ったエコクラブ新聞「釧路湿原 風だより 2014」を見てびっくりしました。誌面を3つに分けて、「身近な自然と 2014 活動報告」「釧路湿原に住む絶滅危惧の心配がある動植物の紹介」「自然災害から身を守る注意」をテーマに取り上げています。

紙面の構成、印刷かと思えるほどきれいに書かれた文字やイラスト、文章が理路整然と組み立てられていること等々、すばらしい出来栄です。さすがに、19 年続けてきたクラブの先輩から受けついだ実力を感じます。世界に誇れる釧路湿原やそこに暮らす動植物が守られるように、みんなの活動が活かされていることと思います。

冬のきびしい気候だけれど自然に恵まれた釧路で、一年間いろいろな活動—自然観察・外来生物調査と防除・勉強会参加や交流活動—をバランスよく実施していますね。

活動報告の内容は、時計回りに並べられた小さい写真と活動項目の箇条書きなので、少しわかりにくいですね。みんなが一番印象に残ったことや、がんばったことをもうちょっと説明してくるとよかったかな。外来生物の防除は、どのようにするのかかべ新聞を読んだ人は知りたいと思うでしょう。ウチダザリガニ以外の外来生物にはどんなものがあるのですか？外来生物の見分け方も、知りたいな。



こどもエコクラブくしろ

壁新聞のタイトル: 釧路湿原風だより 2014

とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★

釧路湿原自然再生の植樹では、苗木はどんぐりから作りましたか？どんな苦労があったかな？そんなことも書いてくれると、植樹活動に関心がある人たちにも参考になるでしょう。

釧路湿原の希少動植物について、「どう守り私たちと共生していったらよいかを考えるきっかけになれば」、と新聞には書かれています。みんなはどうすればよい か考えましたか？そのことを書いてくれるともっと良かった、と思いました。パズル遊びは 12 枚の生き物の絵をどのように使うのですか？食べる⇔食べられる の関係(食物連鎖といいます)で結びつけるとか…？以前、網走の流氷の上にいるオジロワシを見ましたが、釧路湿原では食べるものがちがうだろうなと思いました。

最近の自然災害といえば、東日本大震災ですが、釧路でも津波の被害がありましたね。

一方、台風や豪雨による災害も頻発しています。釧路湿原風だよりのテーマに選ばれたのはなぜか、考えてみました。

何となく、むかしより自然災害の回数が増えている感じがします。その原因について、みんなで話し合ってみましたか？

台風が北海道へ近づくことは、少なかったように思いますが、最近は強い勢力のまま接近することがめずらしくなりました。

地球上の大気の状態が変わってき たのでしょうか？生物の絶滅の原因の一つは、気候の変化です。わたしたちは、どのように関わればよいのでしょうか？すこしむずかしい問題ですが、考えてみて ください。災害時に必要な「非常持出袋」(ミニチュア)は、傑作ですね。中身も見ましたよ。ところで、みんなの家には、非常持出袋は用意していますか？地元自治会などが行う防災訓練などに参加してみると、実体験ができてよいと思います。

みんなは、自分たちの活動について情報発信をこころがけていますね。これからも、みんなの活動をかべ新聞にして、発表してくれることを期待しています。

★☆☆サポーターの方へ☆☆★

初めて拝読しましたが、内容、外観ともによくまとまった読みやすく、すばらしい新聞です。長年、こどもたちが釧路湿原という豊かな自然に直接ふれ、資源を大切にすることを育てることを狙いとした活動を行ってきた成果が、現在につながっていると思います。

壁新聞の作成には、11～12月を費やされています。文字、イラスト、写真には相当注意して作成された様子がよくわかります。これに使われる時間を、これから現在みられる問題を解決するために、どのように取り組んでいけばよいかについて、難しいことですが、こどもたちに考えさせることをお勧めします。その視点を持って環境問題に自ら取り組む人を増やしていきたいものです。「壁新聞 応募用紙」には、小学校5年10人とありましたが、壁新聞では「小中学生8名」がメンバーとなっています。一年間で、メンバーに変更がありましたか？新聞を読むときに、子どもたちの学年を意識しています。

「自然災害」をテーマの一つに取り上げられましたが、貴クラブが長年取り組まれてきたテーマと少しずれがあるように感じましたが、いかがでしょうか。ご承知のように、環境問題は互いに関係しあっていますから、境界線を引く必要はありませんが、生物種の絶滅の要因の面から、環境問題(自然災害の発生原因など)に気付かせる方法もあると思います。絶滅を防ぐために、外来生物の防除のほかにもいろいろな要因があり(たとえば、森林の維持、水質汚染の防止、気候変動)、それらについて何か取り組みを考えることもあるのではないかと思います。

いずれにせよ、豊富な年間活動の実践、壁新聞作成のご指導などに、拍手を送りたいと思います。まさに、継続は力なり！です。貴クラブのご活躍に期待しています。

北海道北見市 オホーツクエコクラブ

壁新聞のタイトル: 未来に残そう オホーツク海の流氷

読売新聞社賞 01-02

オホーツクエコクラブさんへ

師範から一言

オホーツクエコクラブのみなさん、こんにちは！

みんなの作ったエコクラブ新聞「未来に残そうオホーツク海の流氷」から、みんなが北見やオホーツク海沿岸の地に対する愛着や自然を残そうという思いが伝わってきました。全体のテーマの割り付けや、書いている記事の内容や写真の使い方も優れていて、とても分かりやすいです。使われているイラストも上手に描けていて感心しました。「未来に残したいもの」「ESD全国こどもフォトコミュニケーション」「流氷調査」「思い出の流氷のまち」と展開されていますが、今住んでいる北見からは流氷が見えないのでしょうか。みんなで懐かしんでいるようすがよくわかりました。

流氷のプラスとマイナスを比較している点もよかったです。観光客を集める観光資源としての効果が大きいこともわかりました。自然の状態でなかなか見ることができない「あざらし」や「おじろわし・おおわし」、観光船が氷を砕いて進むようす等、観光客には魅力的ですね。また、流氷が運んでくる「アイスアルジー」(氷中藻)が、海を豊かにしてくれて漁業を支えていることもわかりましたね。アイスアルジーが海洋生物のエサになり、食物連鎖につながっていくこともわかりました。たぶん、食物連鎖の頂点には、オジロワシやオオワシがいるのでしょう。流氷の海で食物連鎖が完結していることを見ることで、すばらしいと思います。



壁新聞のタイトル: 未来に残そう オホーツク海の流水

流水について、理解は深まりました。流水が未来に残せるように、みんなで努力しましょう。

02-04



HEP21 エコクラブさんへ
師範から一言

HEP21 エコクラブのみなさんが作った「ぼくたちとたんぶり池の仲間たち」かべ新聞は、メンバー一人一人が感じたこと、気がついたこと、発見したことを絵もいれて書いてある、とてもすばらしいかべ新聞です。文部科学大臣賞にふさわしい新聞になっています。

何が、どこがすばらしいか、を書きます。

一つ目は、メンバーぜんいんが参加して、一人一人が自分の手で新聞記事を書いています。だれかがまとめて書いたものではありません。エコクラブかつどうとして、みんながせっきょくてきに参加し、かつどうしているようすがとてもよく分かります。小学校1年生、2年生、3年生でもこんなにすばらしいかつどうができるのですね。そして記事を書けるのですね。

ビックリしました。

二つ目は、水をテーマにしてまとめて書いてあることです。4つのかつどうを楽しみましたが、つねに水のことをわすれずに、pHとでんどう度をはかって水のじょうたいがどうなっているのかを考え、かんさつして発見したこと、気がついたことを書いてくれました。水は私たちのみちかにあり、たいへんなじみのあるものですが、今回のかつどうをしてみて、いろいろと変化があることが分かったと思います。

三つ目は、新聞のまわりに何月何日にはかったデータをみると、とてもたくさんはかったことと、1年間をとおして気長に、そして毎週のようにはかったみんなのどりよくとかつどうをつづけたことがとてもすばらしいです。



HEP21 エコクラブ

壁新聞のタイトル:ぼくたちとたんぶり池の仲間たち〜ドキュメント・2014〜

四つ目は、水のことだけではなく、しょくぶつの葉っぱのこともよくかんさつしました。生き物についても、冬毛のことや虫のしゅるいやオスとメスのちがいや、鳥のこともよくかんさつしました。たんぶり池たんけんたいが春、秋、冬の生き物をよくかんさつして、考えたことがまとめてありました。みんなの生き物の見方がとてもおもしろいですね。

メダカのじゅうたん、スイミングのせんしゅのようなアマガエル、さるがどうろをはしたあとには、まめのたべかすがいっぱいあったよ、クルミの木がひつじのわらっている顔やかなしそうな顔に見えたよ、などなど。おとなの人には気がつかないことをみんなは、よくかんさつしましたね。オオウバユリのたねの落ち方にきょうみをもったともだちもありました。しょくぶつのたねがどうやって落ちるか、かんさつしてみると、いろいろとおもしろい落ち方に気がつくと思います。たんぽぽのたねは、風でとんでいく、オナモミのたねはどうぶつの毛にくっついていく、モミジやカエデのたねのとびかたは？鳥が食べてふんとともにたねが出るなど、おもしろいやり方で種をとおくへ運んでいることも調べるとよいと思います。

水のpHをはかって、いろいろなことを考えましたね。pHが7のときは水は酸性(さんせい)でもなく、アルカリ性でもなく、中性(ちゅうせい)といいます。みんなは酸性、中性、アルカリ性とはどういうのかをすでに勉強し、教えてもらったと思います。pHをはかって、数字が7より小さい時は、酸性といいます。7より大きい時はアルカリ性といいます。みんなが酸性雨というのにきょうみをもって、pHが5.6より小さい時が酸性雨と考えました。

pHが5.7や5.9あるいは6.1は7より小さいので酸性ですが、5.6より大きいので、は酸性雨とはいいいませんね。どうしてでしょうか？空気の中にあるにさんかたんそ(今、ちきゅうおんだんかでちゅうもくされているガスです)は、水によくとけますので、雨ににさんかたんそがとけてpHが5.6になり酸性になります。でもこの雨は酸性雨とはいいいません。じどうしゃやこうじょうのえんとつからでるはいガスにふくまれている、ちっそさんかぶつやいおうさんかぶつが雨にとけると、pHが5.6以下になります。そうです、pHが5.6より小さい雨にはよごれたガスがとけています。みんながはかった雨はpHが5.6以下の酸性雨が多かったようですが、なぜ、青森県で酸性雨が多かったのだろうか？

みんなはどう考えていますか？

川の水のものは雨の水ですが、どうしてpHが7前後で中性だったのでしょうか？川として流れていく間にいろいろな鉱物(こうぶつ)がとけます。これら鉱物はアルカリ性のものなので、雨で酸性になった水を中和(酸性とアルカリ性がはんのうすること)して、pHが7前後になります。

壁新聞のタイトル: ぼくたちとたんぶり池の仲間たち〜ドキュメント・2014〜

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

来年は、どんなかベ新聞がとどくのか、とても楽しみです。

02-02、02-03 (全2枚) ①が推薦

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

下長中エコクラブ
壁新聞のタイトル:①紙エコ ②Let's水質調査

下長中エコクラブ ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言

公害がほとんどない青森県から水質汚濁おだくの問題を取り上げてくれました。
1950 年から 60 年代にかけて水質汚濁おだくが進んだことを解説し、現在では徐々に改善がみられたという指摘は素晴らしいと思います。さらに実際に池と田んぼの水質を調査してみた報告が載っています。その結果、池の汚れた水が田んぼに流れ出ているという推察すいさつはよく気が付きましたね。もう一つ素晴らしいことは、参加した人が感想文を書いているところです。

とっておきのゴンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
冒頭ぼうとうの日本の水質汚濁おだくは、調べたことをまとめた原稿げんこうになっていますが、今では水質汚濁おだくの数値は徐々にじょじょに改善かいぜんされているという指摘してきは、とても大切なことで、どうしてそのように改善が進んだのか、考えてみるのが大切です。
これにはわが国における長い間の家庭や企業による環境保全の取り組みが効果的に働いているからです。見えないところで資源しげん、ごみの分別、紙のリサイクル、下水処理場の設置など、いろいろな側面を取り上げて勉強されることを勧すすすめます。自分で調べたことや人の話を聞いたときには自分で日記のようなメモを作っておくより深く記憶きおくすることができ、ほかの人に伝えるのも容易よういになります。



青森県十和田市 緑と太陽の保育園グリーン・キッズ
壁新聞のタイトル:①緑と太陽グリーンキッズ ②緑と太陽グリーンキッズ ミニ

02-06、02-07 (全 2 枚) 幼児

緑と太陽の保育園 グリーンキッズ①を書いたみなさんへ
師範から一言

とてもかわいらしいかべ新聞ですね。縁取りの黄色がかわいいなあと思っていたら、これはお菓子の箱を使ったものだそうです。ごみも減って、いいアイデアですね。
お散歩を通してのごみひろいでは、2.2kg ものごみがあったということで、残念です。タバコのすいがらが多いので、ごみを捨てているのは大人が多いのですね。道端では、ごみが落ちていて、他の人も捨てていいと思うのか、またどんどんごみが捨てられていくように思います。みなさんがごみ拾いをして、街がきれいになれば、これからごみを捨てる人はきっと少なくなっていくと思いますよ。

とっておきのゴンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
保育園でのごみを減らすために、ハンカチを持ってきて、なるべくペーパータオルは使わない、というのもいい取り組みです ね。このように、ごみ(使い捨て)になるものを初めから使わないことを「リデュース」といいます。ごみを減らすには、このリデュースが一番いいと言われている います。他にもこのような取り組みができるか、考えてみるといいと思います。
また、私はこの中で「なるべく」という考え方がとてもいいと思います。たまには、ハンカチを忘れてしまうこともありますね。エコの活動は無理をすると続きません。「なるべく」という気軽な気持ちで、まずは続けていくことが大切だと思うので、これからもみんなでがんばってほしいと思います。



緑と太陽の保育園グリーン・キッズ
壁新聞のタイトル:①緑と太陽グリーンキッズ ②緑と太陽グリーンキッズ ミニ

緑と太陽の保育園 グリーンキッズ②を書いてくれたみなさんへ
師範から一言

こちらのかべ新聞は「ミニ」で、未満児クラスの活動をまとめています。こちらでも、お菓子やティッシュの箱を再利用してかべ新聞を作っています。製作活動で作った作品も、廃材を利用しています。鯉のぼりの作品は特にかわいいなあと思いました。ここに載ってない作品も、どれもみんなの思い出に残るステキな作品なんだと思います。ごみの分別について、興味を持って聞くようになったというのは、みんなの意識が高まった証拠ですね。

グリーンカーテンは、いろいろな植物で作ってみましたね。「しかくマメ」というのは初めて聞きました。これは食べられるのかな？それぞれの植物の成長を観察することもできて、とてもいい経験でしたね。また、次の年のことも考えながら種を収穫したそうで、みんながグリーンカーテンを作るのを楽しみにしている様子がわかります。今年ももう種まきをしているかもしれませんね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
グリーンカーテンを作ってみて、おもしろかったことや大変だったことはありますか？
一言でもいいので、感想をサポートさんに伝えて、書いてもらってもいいと思いますよ。体験から得た言葉には力があるので、ぜひ多くの人に伝えてほしいと思います。



青森県十和田市 さつきエコクラブ
壁新聞のタイトル:もったいないアースレンジャー エコまる賞 02-05 幼児

(学)さつき学園認定こども園 さつき幼稚園さんへ
師範から一言

幼稚園のみなさんでも、できることにがんばって取り組んでいることがよくわかります。年長さんなので、字も自分たちでがんばって書いてくれましたね。すばらしいです。

ダンボールコンポストの堆肥づくりの紹介は、一つひとつ丁寧に書かれていて、とてもわかりやすいと思いました。地域の方に教えてもらって、みんなで手入れして堆肥を作ることができましたね。堆肥は作るのにどれくらい時間がかかるのかな？1週間後、2週間後と写真を撮ってのせてもいいですね。

左下の、製作活動では、廃材を使ったいろいろなアイデアがありましたね。

いらなくなったものでも、「なにかつかえないかな」とかんがえて、つかうことでごみをへらすことにもつながります。ようちえんでとりくんだことを、ぜひおうちでもやってみるといいですね。これからもせんせい、おうちのひと、ちいきのひととちからをあわせて、たのしくかつどうしてほしいとおもいます。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
3つの活動について、カラフルな枠でくくってあり、わかりやすくて目を引くと思います。なので、それぞれにタイトルがあるととってもわかりやすくなると思いますよ。

古道下・要害こどもエコクラブさんへ
師範から一言

この新聞からは、小岩井農場内の池や小川をていねいに観察し、ホテルを中心とした生態系について、参加した子どもたちが学んでいる姿が目には浮かんできますね。子どもたちの感想からも、カワシンジュ貝の様子を「川の底に刺さったようにいてびっくり」と書いているように、初めて出会うものへのおどろき、よろこびなどが伝わってきますね。
実際に自然の中に出かけ、その場で感じる不思議さ、新しい発見、楽しさはずっと心に残るものです。これからも観察や体験を通じて学ぶ機会を作ることからも、このようにぜひ研修に出かけて欲しいものです。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
この新聞からは、古道下要害子どもエコクラブの具体的な活動について余りよく分かりません。なぜ小岩井農場の見学に決めたのだろう？ この研修いつ行ったんだろう？ みんなの住む近くに小岩井農場があるのだろうか？ 古道下要害子どもエコクラブも何か生き物を守る活動をしているのでしょうか？ 疑問がいっぱいわいてきます。
次に新聞にするときは、このような疑問が少しでもわかるように書いておいてくれると、岩手県に住んでいない子どもエコクラブの仲間にも、岩手県での活動についても詳しくなってもらえること間違いなし。これからもホテルなどいろいろな生き物を観察する研修をするとともに、自分たちの活動についてもぜひPRして下さいね。



イオン石巻チアーズクラブさんへ
師範から一言

“自然と太陽”という大きなテーマに取り組んでくれましたね。太陽についていろいろなことを調べてくれて勉強になったと思います。イラストを使って、重力が地球の約 28 倍であることや、質量が太陽系惑星合計のおよそ 745 個分であることを分かりやすく書いてあります。
イオン鎮守の森の植樹活動では、たくさんの木を植えたようですね！ 大きく育ててほしいという気持ちを持ちつづけて、きかいがあれば植樹した場所を見に行くといいと思います。あるていど大きく育つまでは、とくにまわりの雑草に負けていないか、動物に食べられていないかなど、人がお世話をすることも必要です。
イオンの森の活動では1日は雨が降ってしまったようですが、森の木はよこんでいるかもしれません。木が成長するのに水が必要です。みんなの家で草花をそだてるときに水をあげるのと同じです。木が根っこからすいあげなかった水は、木が生えている土にしみこみ、その後はどこに行くのでしょうか？ 調べてみるとおもしろいと思います。
森ではどんなおもちゃを作ったのですか？「自然について学びました！」というふきだしがありますが、森の中で楽しむこと自体が大切な学びですね！ 自然とふれあいながら、五感(においをかいだり、見たり、さわったり、食べたり、聞いたり)をつかって自然を感じて、自然と友達になってください。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
太陽の大きさはあまりにも大きくて、温度はあまりにも高く実感できなかったということはありませんか？
太陽の基本データは、エコ活動をしているたくさんの方の子どもたちに読んでもらうことを考えると、ちょっとむずかしすぎる気がします。密度や温度の単位ケルビン、自転周期といったむずかしいことばはすべて書く必要はありませんよ。
太陽について調べて、自然体験もしてすばらしい活動だったと思います。太陽と自然のつながりはどうなっていると感じましたか？ みんなが植えてくれた木に太陽は必要ですか？ 必要だとしたらなぜでしょう？ そのようなつながりについても調べたり、考えたりすると、もっといい新聞になると思います。

マックスバリュ東北秋田イオンチアーズクラブさんへ
師範から一言

高尾山でカタクリの花に出会えたのですね。私も大好きで、里山に会いに行ったりするんですよ。
花はとても敏感で気温によって咲いたり閉じたり。植物ってすごいですよね。そんな花の観察ができたり、みそ造りに挑戦したり、たくさんの活動ができましたね。ありがとう。
夏のゴミ拾いボランティアではずいぶん悲しい思いもしたようですね。「ゴミを捨てるのも人間、拾うのも人間」ほんとに悲しいことです。でも、みなさんのような「郷土の力になる！」エコクラブメンバーがたくさんいて心強いです。みなさんの活動は、きっと地域の方々の心にも届くと思います。これからもがんばって活動を続けていってください。

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★……★
★

あがりこ大王の絵、力強くてなかなかいいですね。こんな形になった理由もよく調べられていていいですね。そういった郷土の歴史にも触れながら、郷土の力になっていってください。
今年の活動から来年の課題が見えてきたようですね。長く活動をしているからこそだと思います。クラブの先輩たちも応援してくれているようです。そんな先輩方に続くよう頑張っていってください。



【一言コメント】

新聞のデザインが目をはききます。真ん中にある地球では写真を使って、リクを表してアイデアもおもしろいです。そして、太陽と地球のイラストに大きな文字で書かれた言葉が、太陽と地球のつながりをとてもよく表しています。太陽とエネルギーという大きなテーマで、そのつながりをかんたんな言葉で表すのはむずかしいと思いますが、太陽から出ている「ひかり」と「ねつ」にくわえて、「エネルギー(ちからパワー)」と「そだてる」という太陽の恵みがあることが分かりやすく伝わっています。

太陽と地球のきよりが遠すぎて分からないという感想はその通りですね。太陽からとどく熱や光で、地球上の植物や動物が生きているということの気付きがとても大切です。約2.6haの土地に並んだ太陽光パネルは、びっくりする光景だったのではないのでしょうか。さいきん、再生可能エネルギーの利用をふやそうと、全国各地で太陽光パネルを用いて発電をする取り組みがふえています。家庭の屋根に取り付けられたパネルは見たことがあるかもしれませんね。パネルに雪がつもってしまうと、太陽の光を受けることができなくなってしまうので雪国では工夫が必要です。

植樹活動を通して、いろいろな発見があったようですね。新聞など紙はパルプといわれる植物のせんいを利用しているので、土にもどります。また、山に木があることがあたりまえかもしれないけど、木があることで山の動物が生きていけるという気付きがばらしいです。あたりまえの木のある風景をこれからも残していきましょう。

【ゴシドウ】

新聞なので記事がたくさん書いてあることは、すばらしいと思います。一方で、実験の話などは、おもしろくてやってみたい人もいると思うので、ことばで伝わりづらいことは絵で作り方をのせたりするのもアイデアの一つです。
黒いビニール袋で風船を作るとばす実験をしたのはおもしろいと思います。くもりで残念でしたが、ぜひまた晴れた日にチャレンジしてください。そのときは黒いビニールと白いビニールで風船を作って比べてみたらどうなるでしょう？
葉っぱカルタの記事を読んでみて、やってみたくまりました。写真を見ると葉っぱがたくさん並んでいますが、どのようにカルタゲームを進めていくのか今度教えてください。葉っぱの形はさまざまで、種類を見分けるとくちょうにもなっています。また、葉っぱの枝へのつきかたも見分けるポイントです。枝についた葉っぱをみるときは、枝に葉っぱがこうごについているか、それとも同じ場所に2枚ついているかを見てみてください。



湖南エコクラブさんへ 師範から一言

たくさんの活動について、1枚のかべ新聞にうまくまとめることができましたね。皆さんの地域にある「猪苗代湖(いなわしろこ)」を通じて、水について学んでいること、また年間を通じて、「知る・学ぶ」だけでなく、自ら調べ、伝える作業をしていることがよく分かります。「調べる」作業については、パックテストによるCOD調査、pH調査をすることで、その結果から、水のきれいさについて考えるよい機会になったようですね。「伝える」作業について、ポスターを書いてみたり、劇を作ってみたり、「替え歌」にしてみたりと、いろいろな工夫をしていますね。私も実際みなさんの劇を見たり、「エコクラブの歌」を聞いたりしてみたいなと思いました。引きつぎを受けた4年生は、歌を聞いてどう感じたのでしょうか。たぶん先ばいに行って、次の1年がんばろう、と勇気づけられたことでしょう。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

学校の授業での活動なので、毎年の水質調査結果が残っているのがいいですね。ただ、初めて読む人、パックテストのことをよく分からない人には、「COD 2」とか「COD4」とか書いてあっても、それがきれいな水なのか汚い水なのか、よく分からないので、もう少し詳しく結果について書いてあればもっとよかったなあ。

それはともかく、この新聞で4年間の調査でえた結果は、身近な水環境の変化を知ること
できる貴重なデータです。これからもぜひ続けて下さい。そして、水質が悪くなった年などあ
れば、なぜそうだったか、考察をぜひ入れて下さいね。また、「猪苗代湖」と一言でいって
も、大きな湖なので、それぞれの地域での生態系の違いなどもあると思います。さらに詳し
い「猪苗代湖」分析をし、水がきれいなところとそうでないところの関係も調べて下さいね。
また、湖南小学校の5年生は、猪苗代湖の推進を守るための活動はしているのかな？ もしているのだら
うね。どんな活動をしているのか、その実せんの様子も知りたかったですね。



茨城県水戸市 逆川こどもエコクラブ

壁新聞のタイトル: 逆川こどもエコクラブ⑪

08-01 横、08-02,08-03 横、08-04、08-05、08-06、08-07、08-08,08-09、08-10、08-11

推薦、08-12、08-13、08-14、08-15 横、08-16、08-17 (全 17 枚)

逆川こどもエコクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
 師範から一言———

千波湖の、こんちゅうたちを、しらべました。たくさんのこんちゅうがいて、たのしくしらべられたことが、よくわかりました。

ウチワヤンマやキイトンボ、チョウトンボなど、家のまわりでは少ないトンボを、たくさん見ることができましたね。オオシオカラトンボは、つかまえることができました。オオシオカラトンボとシオカラトンボは、形がにているので見分けるほうほうを勉強してみてください。ショウジョウトンボは、赤いきれいなトンボですね。千波湖には、赤トンボのなかまも、たくさん見ることができます。次のかんさつのときは、見ることができると思います。

ゲンジボタルもかんさつできましたね。ゲンジボタルは、数が少なくなったこ
んちゅうです。ゲンジボタルがみられたので、千波湖のまわりは、ゆたかな
しぜんが、のこっているといえます。ゲンジボタルや、ほかのたくさんの生き
にしてください。



とっておきのゴシドウ★……★

観察できた千波湖の生きもの種を紹介してくれました。観察できた種ごとに、写真や折り紙を用いて紹介したので、生きものを知らない人にとっても、分かりやすかったと思います。オオシオカラトンボを採集して、喜んでいる様子も伝わりました。千波湖の周辺では、いろいろな生きものが記録されています。今回、観察した以外にも、たくさんの生きものが生息していますので、これからも観察を続けてみてください。

今度、かべ新聞をまとめるときは、いくつか工夫をしてみましょう。かべ新聞を見る人を引きつけるためには、目立つことが大切です。写真を大きくしたり、タイトル名をキャッチーにしたりすることもいいでしょう。さらに、いつ、どこで、だれがといった情報を盛り込むことも大切です。

動植物と直に触れ合うことで、生きものを慈しむ心が育まれると思います。これからも、いろいろな事を体験してください。

逆川こどもエコクラブ

壁新聞のタイトル:逆川こどもエコクラブ②

逆川こどもエコクラブ②の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言—————

千波湖の昆虫について調べました。今回の調査では、16種のトンボやチョウが記録されました。茨城県南西部の雑木林では、なかなか見ることができないスミナガシも観察できましたね。それぞれの昆虫を写真で紹介してくれたので、どんな昆虫か一目で分かりました。ただ、こどもエコクラブの「壁新聞道場」では、重ね張りはすすめていません。次回は、重ね張りしないで示すような工夫をお願いします。

それから、「今まで見ることができなかった昆虫」についても調べました。南の方に分布していた昆虫が、水戸でも見られるようになってきたことが、よくわかりました。最近茨城県では、アカボシゴマダラが急速に分布を広げています。千波湖周辺でも、注意して観察してください。掲示物を見ると、項目ごとに色分けされており、とても見やすくなっています。昆虫は、小さな環境変化でも敏感に反映します。昆虫の観察を通して、環境の変化を見つけてください。



とっておきのゴシドウ★……★

観察したり、調べたりした昆虫たちのくらはは多様で、それぞれ違った性質を持っています。生きものの生態について少し述べてみましょう。

昆虫をはじめとして生きものは、生まれながらにして生息範囲を広げようと性質があります。また、今までにはあまりなかった花や木が、花壇や果樹園に植えられたことによって分布を広げる昆虫もいます。地球温暖化の影響は至る所に現れていますが、それが直接の原因なのか、2次的な原因なのかを区別することは、とても難しいことです。

「調べた昆虫」の中では、ウスバキトンボについて触れてみたいと思います。ウスバキトンボは、5月から6月にかけて南方から遠路はるばる日本にやってきて、暖くなるにつれ北上するトンボです。繁殖力が強いので、夏の間はどんどん北に進むのですが、水戸市で冬を越すことはできません。温暖化が進むと、水戸市でも冬を越すウスバキトンボが見られるようになってしまうかもしれませんね。

最後に、観察したことから、どんなことが言えるのか、どんなことを伝えないかについて記すといいと思います。そのためにタイトル名を工夫するのもよいでしょう。さらにバージョンアップすることを期待します。

逆川こどもエコクラブ

壁新聞のタイトル:逆川こどもエコクラブ③

逆川こどもエコクラブ③の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言—————

千波湖で見られた鳥について、44種を記しました。一目で姿が分かるように、すべての種を写真やスケッチで紹介したのに加え、水辺と野山の違いや、留鳥、夏・冬鳥、漂鳥など区別を色分けしたので、とても分かりやすいかべ新聞となりました。工夫の跡がうかがえました。

アオバズクについては“特出し”して、人のせいで子育てをやめてしまったと報告しました。黄色の台紙で紹介したのでとても目立ち、残念であったことが見る人に伝わったと思います。

今回の観察で“分かったこと”が、きちんと書かれていた点も評価できます。鳥がたくさん観察できるということは自然が豊かであること、自然を守っていききたいことなど、自分の考えをしっかりと訴えることができました。

とても分かりやすいかべ新聞となりました。これからも、観察会に積極的に参加してほしいなと思いました。



とっておきのゴシドウ★……★

かべ新聞として、とても分かりやすくまとめることができました。今回の新聞は、千波湖の生息する鳥をまとめたものなので、次回は目先を変えて、かべ新聞をつくることをおすすめします。たとえば、鳥の数の変化を冬と夏で比べるのも面白いですね。種類によって、好きな場所が違ふと思います。それを、まとめるのも面白いですよ。いろいろな観点から、テーマを探してみましょう。

テーマが決まったら、読み手がどうしたら興味を持って新聞を読んでもらえるかを考えてみましょう。そうしたら、いろいろな工夫が思いつくことでしょう。見出し(タイトル)を変えるのもよいでしょう。今回の新聞だったら「千波湖に44種の鳥」などのタイトルもいいかもしれません。文字の大きさに工夫するのもよいですね。

アオバズクがみられなくなった点、強調して紹介しましたね。感想は書かれていませんが、どんな気持ちだったのかが伝わってきました。この気持ちを大切に、次の新聞づくりにチャレンジしてください。期待しています。

逆川子どもエコクラブ

壁新聞のタイトル:逆川子どもエコクラブ④

逆川子どもエコクラブ④の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言—————

タイトルを見て、このかべ新聞で何を訴えたいかがすぐ分かりました。在来生物は難しい言葉ですが、言いたいことは新聞を見れば分かりますね。

千波湖は、水戸の中心にある池ですから、人の影響を受けやすい場所です。どのくらい外来生物がいるのか心配していましたが、今回の調査ではブラックバスやミシシippアカミミガメなど、4種類も外来生物が確認されました。これらは、食物ピラミッドの中で上位に位置しています。上位にいるということは、下位の動物を食べてしまうことになりますね。千波湖の将来が不安になってきました。千波湖の護岸工事の前後の様子が分かるように、重ね張りして比べることができるようにしました。

外来生物が侵入することで、生きもののつながりが崩れ、何種類もの魚が少なくなってしまうことが分かりました。さらに、ナマズ(ニホンナマズ)は、いなくなってしまったのです。千波湖に生きものは、いなくなってしまうのでしょうか？最後に、外来生物の侵入を防ぐ方法を考えました。いくつかの方法が提案されたので、それを実行すれば、千波湖にたくさんの生きものがもどってくると期待できますね！心配しましたが、解決策が示されていたのでホッとしました。小さな取り組みでも、それを繰り返したり、みんなで行ったりすることによって、大きな取り組みに変化しますね。千波湖での取り組みを大いに宣伝し、大きな取り組みに発展させていってください！



とっておきのゴシドウ★……★・

かべ新聞として、言いたいことを簡潔に記すことができました。いくつか工夫したり直したりすると、よりバージョンアップが期待できると思います。

ひとつの方法は、「きっかけ」とか「テーマ」という項目を目立つように書くといいでしょう。字を太くするだけでも、ここに何が書かれているのかが一目で分かるので効果的です。

千波湖の昔と今を重ね張りして、比べることができるようにしました。好い工夫なので、先ほど「師範からの一言！」では、“分かりやすい”とコメントをしました。しかし、子どもエコクラブの「壁新聞道場」では、重ね張りはすすめていません。次回、重ね張りしないで示すような工夫をお願いします。

それから、あとひとつ。新聞の書き方ではありませんが、生きものを観察するとき、その生きものをスケッチすることをおすすめします。スケッチすると、よく生きものを見ます。そのことが自然を見る目を育てます。チャレンジしてみてください。

逆川子どもエコクラブ

壁新聞のタイトル:逆川子どもエコクラブ⑤

逆川子どもエコクラブ⑤の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言—————

「ヒカリモってなに？」や「光るしくみは？」など、ヒカリモについて知りたいと思う内容を説明してくれました。タイトルのつけ方も、興味がわくようになっていますね。「光るじょうけん」のところは、“光る”という文字が、光っているように書いてあります。これも工夫ですね。

千波湖の周辺でのヒカリモの生息地を地図上に示しました。近代美術館の方にも印がついていますね。私は、水戸市の天然記念物になっている備前町のヒカリモしか知りませんでした。新しい生息地でしょうか？最新のデータですね、おどろきました。

「まとめ」のところでは、“東日本大震災のあとは見られなくなってしまった”と書かれていました。とても残念に思います。でも、みんなが協力して、ヒカリモの生態を調べたり、保全の活動をしたりすれば、きっと復活しますね。写真のように、きれいに光を反射するヒカリモの再生を期待しています。



とっておきのゴシドウ★……★・

水戸でのヒカリモの状況が、簡潔にまとめられていました。いろいろなことを調べると、とかく書きたくって、多くの内容を盛り込んでしまいます。しかし、このかべ新聞では、読者が知りたい内容をコンパクトにまとめて書かれていたので、とても分かりやすいものとなりました。

ヒカリモの生息地で、ヒカリモが完全になくなってしまったのかどうかについては、書かれていませんでした。その点について、知りたいと思ってしまいました。

ちょっと細かい内容になりますが、新聞を見やすくするために直すと効果的なことを、簡単に示します。ヒカリモについて、項目別に色分けしました。色分けした紙の幅が、それぞれ違ったり、写真の位置がずれていたりしました。それを直すだけで、見違えるような新聞になると思います。それから、写真の説明書きがあってもいいですね。

ヒカリモがその後どうなったか、知りたくなりました。これからも、ヒカリモについて調べ、また新聞にまとめてください。

逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:逆川こどもエコクラブ⑥

逆川こどもエコクラブ⑥の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言—————

水戸市のヒカリモは、天然記念物にもなっている備前町の洞くつの中で見られるものしか知りませんでした。近代美術館や少年の森でもヒカリモが観察できるのですね。しかも、水たまりで見られるのは驚きです。ヒカリモがどのように発生するのか、まだ分かっていないことがたくさんあるようです。これからも、続けて観察してほしいと思いました。

少年の森のヒカリモがなくなってしまったことが、“まとめ”のところに書かれていました。残念ですね。ホタルなどの光る虫は、街灯をつけると生息できなくなってしまいます。それと、同じようなことがヒカリモでもいえるのですね。生息地が工場や団地などに開発されると、生きものはへってしまいますが、少しの環境の変化でも、影響をうける生きものがいるのですね。

それから、ヒカリモが見られる場所を、地図や写真で紹介してくれました。とても分かりやすいですね。文章だけではなく図などが加わると、見る人の関心も高まりますね。



とっておきのゴシドウ★……★

ヒカリモを調べている様子が、要領よくまとめられています。内容ごとに“きっかけ”“方法”“わかったこと”“まとめ”の4項目に色分けもされているので、読みやすくよかったですと思います。次にまとめるときは、かべ新聞ということを意識して、目立つ題名や項目名をつけるのもよいでしょう。例えば、“天然記念物ヒカリモがあぶない”とか“消えたヒカリモ”などのタイトルがついていると、より効果的になりますね。

それから、“いつ”“どこで”“だれが”というような記述が大切です。新聞などの記事を書く場合は、これらのデータを書くことが基本です。どこかに、工夫して記しておきたいですね。

調査のまとめのところを見ると、環境の大切さが分かってきましたね。ヒカリモを生かすことを考えることは、それを通して他の生きものを大切にすることにもつながります。どうしたらヒカリモを守れるかをみんなで相談して、できることから始めてください。また、観察を続けてほしいとも思いました。その後のヒカリモについてかべ新聞に書くことを期待しています。

逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:逆川こどもエコクラブ⑦

逆川こどもエコクラブ⑦の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言—————

チョウとガをきれいに並べただけの新聞かと思いました。しかし、いろいろな工夫があるので、読めば読むほど内容があるかべ新聞になっています。

まず、水戸と石垣島の虫をくらべたのが、よかったと思います。特に、水戸とは大きく環境が違う石垣島にいるチョウをくわしく紹介してくれました。茨城と沖縄のちがいが分かりますね。それから、きれいな標本写真です。この標本は、自分で採集したものでしょうか？ 採集地も整理されており、貴重な資料となりますね。沖縄県の天然記念物のコノハチョウなどは、きれいなスケッチでの紹介ですね。それも工夫のひとつですね。

石垣島ではバナナ公園で昆虫を観察したのかな？ 私も数年前に訪れたことがあります。写真がでていたので、なつかしく思いました。感想では、昆虫が豊かにいるような環境ならば、ほかの動物たちも元気に暮らすことができることに触れています。そのような自然を、いつまでも残したいものです。

茨城の虫については、蛾を紹介してくれました。それぞれのくわしい説明と感想が書かれていたので、読んで楽しかったです。クロメンガタスズメは、近年、県内で見られるようになった種です。他の標本も同じですが、採集した記録は重要ですから、“いつ、どこで、だれが”というデータを、標本につけておいてください。

感想では、生きものの飼育の難しさを記しています。昆虫をはじめとして自然の中にいる多くの生きものは、人間が世話しなくても立派に成長します。自然のしくみの奥行きを感じ取れたらすばらしいと感じました。



とっておきのゴシドウ★……★

ちょっとした工夫で、より内容のある新聞になるので、それをいくつか紹介しましょう。

今回の新聞の一番のテーマは、「茨城と沖縄の比較」ですね。それぞれの場所で見ることができる昆虫を紹介してくれました。これらの昆虫の中には、両方の場所に生息するものと、どちらか一方にのみ生息するものがありますね。両方の地域で見られる昆虫に、小さなシールをはるだけでも、その区別がつきます。次回は参考にしてください。

沖縄と茨城を比べることで、いろいろな発見がありますね。今回は、チョウとガを比べましたが、比べるグループを同じにすると、よりいっそう効果的に比較することができます。

それから、ウスキシロチョウは、モンシロチョウとの区別がつきにくいですね。そのような昆虫に関しては、見分け方がないと親切ですね。いろいろ書きましたが、さらにバージョンアップした新聞を期待します。

逆川こどもエコクラブ

壁新聞のタイトル:逆川こどもエコクラブ⑧

逆川こどもエコクラブ⑧の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言———

千波湖にたくさんの生きものが生息しているようすが、一目で分かりました。魚の他にも、カメやカニが記録されましたね。千波湖学習会に参加しただけで、こんなに多くの生きものが観察できたのですから、水戸の中心街に近い千波湖ですが、思ったより自然が豊かなのだと思いました。

千波湖学習会のようすを写真でのせてくれました。ボートに乗って楽しく学習したことがよくわかりました。

かべ新聞を見て驚いたのは、ニオイガメが見つかったことです。ニオイガメは、もともと日本にいたカメではありません。きっとペットとして飼育していたものが逃げ出したが、飼いきれなくなって捨てられたのです。他の地域から人が持ち込んだ生きもののことを外来種といいます。千波湖ではニオイガメの他に、ミシシippアカミミガメ、ブラックバス、タイリクバラタナゴなども外来種ですね。古くから生息する魚たちに影響がないか心配ですね。

一方で、ニホンウナギが観察できました。環境省のレッドリストで絶滅危惧 IB 類という種に指定されて、絶滅のおそれが高い魚の一種です。そんな、生きものが生息する千波湖を、これからも大切にしていってください。



とっておきのゴシンドウ★……

ちょっとした情報を加えるだけで、かべ新聞でうたえる力が倍増します。たとえば、千波湖に昔からいる生きものと、外来種を区別するだけで、今、問題になっている生態系の保全の話題にも触れることができます。絶滅の恐れがある種に、シールをはってもよいですね。

それから、感想を書くのも大切です。この新聞では、ニオイガメのところに「びっくり」とあり、一言でしたがその気持ちが強く伝わりました。ビックリした気持ちを大切に、次は何を感じたのか、何をしたいのかを書くと、きっと新しい目標が決まると思います。ぜひ感想を加えてください。

千波湖学習会で、いろいろな生きものが生息していることが分かりましたね。いい面も見られましたが、悪い面も浮かび上がってきました。これからの千波湖をどのようにしたいか、みんなで考えるきっかけにして、自然を大切にしていってください。

逆川こどもエコクラブ

壁新聞のタイトル:逆川こどもエコクラブ⑨

逆川こどもエコクラブ⑨の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言———

とてもよくまとまったかべ新聞で、読んで「なるほど！」と思うことがたくさんありました。北関東を代表する河川的那珂川に注目して、その上流と下流の違いを比べてみました。同じ川ですが、自然の姿に違いがあることが分かり、有意義な結果をまとめることができましたね。虫グループは、クワガタムシの種類の違いに注目しました。栃木にはミヤマクワガタが多く、茨城にはノコギリクワガタが多いことが分かりました。「すみ分け」は、いろいろな動物でも知られています。いい結果が得られました。

魚グループは、那珂川の清流にはアユがたくさんいることをつきとめました。アユは時期によって河川を上ったり下ったりするので、下流の茨城の方でも見られることがありますね。

水グループは、下流になるにつれ COD の値が高くなることを調べました。川は、はじめは小さな流れであった雨水が集まり大きくなっていきます。そして、生きものを育て、人に利用された水はやがて海に流れます。下流のなるにつれ COD の値が高くなるのは、生きものや人間の活動の跡ですね。

食グループは、バーベキューをしました。茨城も栃木の食材も、おいしいという結果がでました。ともにいい結果が出たので、思わずほほえんでしまいました。わたしも、食べてみたかったと思ってしまいました。

4つのグループで、それぞれがテーマごとに学習したことが、分かりやすく、そしてほほえましくまとめられました。2つの地域の同じことと違うことが、実践で理解できたと思いました。この体験を通して、茨城の自然、つまり身の回りの自然を再認識することにもつながりましたね。楽しく、かべ新聞を読むことができました。



とっておきのゴシンドウ★……

かべ新聞中央に、那珂川で見られる生きものが図で表されている点、とても印象的です。ひとつだけ、リクエストしておきましょう。

4つのグループの、それぞれ結果を楽しく読むことができました。総合的な「まとめ」がなかったので、他のグループの結果を見てどう思ったかなど、「感想」などを聞きたいなと思いました。自分の研究は小さくても、4つの研究がまとまると、すっごく大きな研究になるはず。次回にも期待しています。

逆川子どもエコクラブ

壁新聞のタイトル:逆川子どもエコクラブ⑩

逆川子どもエコクラブ⑩の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言—————

千波湖の外来種の現状がとてもよくわかりました。自分たちで千波湖に入り自分たちで調べた結果の紹介なので、うったえる力がありますね。

今回の調査で、千波湖にはアメリカナマズ、オオクチバス、ブルーギル、ミシシippアカミガメの外来種が記録されました。それぞれについて、茨城県にどのように侵入してきたかなどについて解説をしました。私も知らないことがたくさんあり、“よく調べたな”と感心してしまいました。それぞれの種については、写真でも紹介しました。そのおかげで、生きものをよく知らない人にとっても、分かりやすい新聞になりました。それから、活動の様子の写真も入れたので、みんなでの調査風景が分かりました。

外来種のことで、ひとつお願いがあります。外来種とは、他の地域から人が持ち込んだ生きもののことです。生態系や経済に大きな影響を与えることがあるので、環境問題として扱われることが多くなりました。でも、外来種が好きこのんで日本にやってきたわけではありませんね。人が持ち込んでしまったのが、そもそもの原因なのです。外来種も大切な命がある生きものであることを思って、環境のことを考えていってほしいと思います。

とっておきのゴンドウ★……

千波湖にどんな外来種いるかが分かりました。それぞれのエピソードも面白かったです。

さて、新聞記者が記事を書くとき、出来事をわかりやすく要点を簡潔に手短かに伝えるために、常に守っている原則があります。それを知ると、かべ新聞をつくるときに大いに役に立つと思います。学校の国語か社会科の授業で習ったかもしれませんが、それは5W1Hです。

5Wは、いつ「When」、どこで「Where」、だれが「Who」、何を「What」、なぜ「Why」の5つの要素の頭文字を表しています。1Hは、どのように「How」の頭文字です。この5W1Hが入っていないと、読者に伝えなくてはいけない大切な内容がぬけていることになってしまいます。今回の新聞でも、この要素を記すと、よりグレードアップした新聞となります。ちょっとトライしてみてください。それから、活動や新聞をまとめるときの感想も知りたいですね。ちょっと考えてみてください。



逆川子どもエコクラブ

壁新聞のタイトル:逆川子どもエコクラブ⑪

逆川子どもエコクラブ⑪の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言—————

千波湖にどんな生きものがいるのかが、とてもよくまとめられました。見られた種についても、それぞれ詳しい解説がつけられたので、「千波湖生きもの図鑑」としても、役に立ちそうですね。“目的”や“結果”など、いくつかの項目に分けて、しかも項目名も赤で目立つので、配列が見やすく内容がすぐ分かりました。

“まとめ・感想”を読むと、いいことがたくさん書かれていますね。千波湖が想像していたよりきれいでした。身近な湖ですが、体験しないと気づかないことですね。魚だけではなく、たくさんの生きものが生息していることも分かりました。身の回りには、見過ごしていたことが結構あるものです。千波湖の生きものを観察したことで、生きものへの見方が変わったはずですね。

外来種の生存にも気づきました。外来種とは、他の地域から人が持ち込んだ生きもののことです。生態系に影響を与えることがあるので、環境問題として扱われることが多くなりました。でも、外来種が好きこのんで日本にやってきたわけではありません。外来種も大切な命がある生きものであることを思いながら、環境のことを考えていって下さい。



とっておきのゴンドウ★……

千波湖環境学習会で体験したことを、理科の自由研究の体裁を用いて、きれいに分かりやすくまとめてくれました。今回は、どのような壁新聞をつくったらよいかという視点から、この新聞を見直してみましょう。

新聞記者が書く記事には、見出し、リード(前文)、本文があります。見出しは、記事の内容を一目で伝える言わばタイトルですね。見出しは記事のエッセンスを短い言葉に凝縮します。思わずひざをたたくようなうまい見出しは、新聞の魅力のひとつでしょう。今回の内容なら「想像よりきれいな千波湖 外来種も生息するが・・・」のような見出しになっていいですね。リードは本文を簡潔にまとめたもので、数行のなかに本文のエッセンスが込められています。まとめ・感想の内容が、リード文にあたるでしょう。

ちょっと見方を変えると、まとめ方が大きく変わりますね。いろいろなまとめ方があってよいと思います。参考にしてください。

逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:逆川こどもエコクラブ⑫

逆川こどもエコクラブ⑫の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

千波湖周辺の生息する外来種の生きものが、一目で分かるようにまとめてくれました。それから、確認した種については、それぞれ詳しい解説がつけられたので、「千波湖外来種図鑑」としても役に立ちそうですね。
昔から見られるアメリカザリガニやウシガエルも外来種ということが、すぐ分かりました。このことを知らない人も多いと思います。グッピーが観察されたのはおどろきました。グッピーは熱帯生まれなので寒さに弱い魚です。茨城県で冬を越すのは難しいと思いましたが、千波湖でとれたのですね。環境省では、グッピーを要注意外来生物に選定して、野外へ放すことがないよう啓発しています。アメリカザリガニやミシシッピアカミミガメも要注意外来種ですね。
外来種を増やさないためには、まず私たちが行動を起こさねばなりませんね。「ペットとして飼ったもの、とったものは捨てない」ことも、そのひとつの方法ですね。新聞では、決意も書かれており感心しました。ホタルが乱舞したり、サケの産卵が見られたりするような自然を増やすためにはどうしたらよいか、みんなで考えて、保全活動をすすめていってください。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
外来種と在来種のちがいをまとめてくれました。外来種は、生態系や経済に大きな影響を与えることがあるので、環境問題として扱われることが多くなりました。でも、すべての外来種の繁殖力が強かったり、在来種を食べたりして他の生きものに影響を与えるわけではありません。
人が持ち込んでしまった生きもののうち、弱い生きものが絶滅し、強い生きものが生き残ったので、そのように感じるのです。それから、外来種は、好きこのんで日本にやってきたわけではありませんね。人が持ち込んでしまったのが、そもそもの原因なのです。外来種の立場になって考えると、単純に駆除すればよいのかどうか、考えさせられます。この問題は非常に難しいですね。これからどうしたらよいか、みんなで考え、住みやすい環境を作っていってください。

逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:逆川こどもエコクラブ⑬

逆川こどもエコクラブ⑬の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

千波湖周辺に生息する生きものについて、写真をはってまとめてくれました。一目で分かり、こんなに多くの魚がいることを知ることができました。
種類をよく見ると、千波湖にはメダカやウナギがいることが分かります。メダカは、環境省が発表したレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に、ウナギは絶滅危惧ⅠＢ類に選ばれていますね。ちょっと難しい単語が並びましたが、どちらの種も数が減ってきてしまっています。そのような種が千波湖にいるということは、千波湖の豊かな自然を反映していることになりますね。
一方で、外来種のオオクチバスやアメリカナマズなど４種も紹介しています。外来生物は、もともと千波湖には生息していなかったのですが、他の地域から人が持ち込んだ生きもののことですね。これらの魚が侵入したことで、もともといた魚などが少なくなってしまうかもしれません。でも、外来種の魚が好きこのんで千波湖に侵入したわけではありません。外来種の魚のせいにすることもできませんね。
一度、変えてしまった自然を元にもどすことは、とてもむずかしいことです。みんなと一緒に、どのようにしたらよいか考えていってください。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
千波湖に生息する魚や、その周辺で見られる昆虫を分かりやすくまとめることができました。そして、千波湖にはたくさんの生きものが生息することに気づきました。とても、よいことに気づいたので、それをアピールすることも大切です。タイトルを「自然豊かな千波湖」とするのも、ひとつの方法ですね。外来種のことに注目するなら「千波湖の外来種とは」のようにするのもよいでしょう。題名を工夫するだけで、読み手の印象が大きく変わります。みんなに何を伝えたいかをよく考えることが大切といえますね。
生きものについては、その性質を詳しく調べるのも面白いと思います。絶滅危惧種のお話もしましたが、それを紹介するだけでも内容が深まります。他の生きものの性質が分かると、また新しいことに気づくでしょう。
ひとつのことを調べると、また新しい疑問も生じてきます。いろいろなことに興味を持って調べ、たくさんの方の考え方を身につけてほしいと思います。

逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:逆川こどもエコクラブ⑭

逆川こどもエコクラブ⑭の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

タイトル、中タイトルのつけ方、気に入りました。まず、「黄金のヒカリモ」というタイトルが目に入り、次に「ヒカリモって何?」「光るしくみは?」「千波湖周辺の生育地」と、書かれている内容が一目で分かる題名がつけられました。読み手が何を知らないかを考えて、新聞をつくることができたと思います。図や写真を豊富に入れ込んだ点もよかったと思います。ただ、こどもエコクラブの「壁新聞道場!」では、重ねばりはすすめていません。次回は、重ねばりしないで示すような工夫をお願いします。「プランターにもヒカリモ発生!!」という、トピック欄も興味を持って読むことができました。今まで発生のなかった水戸市植物園で採集した水草から発生したというのは、とても不思議です。新たな群生地の発見につながるかもしれません。追加の調査が望まれます。
「まとめ」にも書いてありますが、ヒカリモの生態は謎だらけですね。いろいろな観点からヒカリモを見つめて、新しい発見につなげていって下さい。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
千波湖のヒカリモのことが、とてもよく分かりました。見出しの作り方にも工夫が見られました。オリジナルのデータが少ないので、これからの調査にも期待するかべ新聞となりました。
今回、ヒカリモを調査したことによって、現在分かっていることと、まだ分かっていないことがはっきりしました。“いつ発生するか”を突きとめることが、ひとつのきっかけとなり、いろいろな発見につながりそうです。毎日観察するのは難しいかもしれませんが、ぜひ、みんなで協力してヒカリモの謎の解明をしていって下さい。
それから、新しい発生地を探すのも面白いかもしれません。水戸市の周辺には、自然豊かな地がたくさんあります。千波公園や植物公園の他にも、森林公園やセツ洞公園など、自然が残っている場所がたくさんあります。違うところでヒカリモが見つければ、それも大きな発見ですね。千波湖以外の場所を訪れることは、水戸の自然を見直すきっかけにもなります。調査をすすめてみて下さい。

逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:逆川こどもエコクラブ⑮

逆川こどもエコクラブ⑮の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

なぜ、水生生物を調べたのか詳しく書いてあったり、調査の様子を写真で説明したり、工夫の跡がうかがえました。千波湖で行った水生生物調査の様子が分かりました。「千波湖とは」という項目もいいですね。水戸から遠いところに住んでいる人は、千波湖を知らない人も多いと思うので、とても親切だと思いました。
調査の結果を見ると、千波湖に多くの生きものの生育が確認されたのと同時に、外来の生きものの多さにおどろいたようです。アメリカナマズなどの魚、ミシシッピアカミミガメは、もともと千波湖には住んでいませんでしたね。これらが、なぜ千波湖で採集できたのか、その理由を考えてほしいと思います。そして、私たちは、これらの生きものとどう付き合っていくかを、みんなでよく考えて、千波湖の自然を守ってほしいと思います。これからの調査や、いろいろな活動を期待しています。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
調査の方法や、その結果が分かりやすく書かれていました。少し工夫をすることで、読み手の興味を高めることができると思います。
まず、見出しを考えてみましょう。この壁新聞で、1番いいたいことは何でしょうか? 千波湖にたくさんの生きものが生息したことを伝えたいなら「千波湖に残る豊かな自然」のようなタイトル、外来種が多くなってきたことを伝えたいなら「外来種が増加する千波湖の今」のようなタイトルは、どうでしょうか。読み手に何を伝えたいのかを考えながら、全体のレイアウトを見直すとよいと思います。
“テナガエビが多いと感じたけど、オオクチバスも見つかったのでおどろいた”と書いたところなどは、いい感想だと思いました。ただ、オオクチバスが外来種であることを知らない人も多いと思います。少し説明を加えてあげたりするのも工夫の一つですね。調査でとれた生きものの写真と併せて、種名も書いてくれると助かります。
全体をまとめると、“外来種が多くなってしまった”という結論でしょうか。これから、どのようにしたらよいか、みんなに訴えて、みんなで生きものに優しい環境をつくっていききたいですね。がんばりましょう!

逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:逆川こどもエコクラブ⑩

逆川こどもエコクラブ⑩の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

千波湖周辺で見つけた昆虫を示してくれました。水辺なので、やっぱりトンボが多いですね。オニヤンマやウチワヤンマなど大きなトンボが見られてよかったですね。
オニヤンマは森のはずれのすずしい場所で、ウチワヤンマは開けた池などでよく見られます。ちがう性質のトンボが見られたということは、ふたつの豊かな環境が残っているということです。千波湖には豊かな自然が残っているという証拠ですね。
クロアゲハは、名前を調べてから逃がしてあげました。優しい気持ちが伝わりました。
ヒカリモは、水戸市指定の天然記念物になっていますね。千波湖の周辺では、何カ所かの記録がありますが、いつ発生するかなど、そのしくみはよく分かっていません。これから、いろいろな調査が望めます。ヒカリモは、水のきれいな洞くつなどに生息する藻類で、その保全も課題です。どのように守るかを定めるためにも、その生き方を調べてみてください。
多くの昆虫とめずらしいヒカリモがいることで、改めて千波湖の豊かな自然を知ることができました。これからも、自然豊かな千波湖であるように、さまざまな取り組みを続けていって下さい。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
千波湖の昆虫とヒカリモについてまとめてくれました。自分が興味を持った内容なら、それをかべ新聞にまとめるとき、やる気が出ますよね。両方とも、興味や感心の高い生きものなので、いい題材を見つけたと思います。
題材を見つけたら、興味を持ったことについて、どのように相手に伝えたらよいかを考えます。昆虫とヒカリモは生きものの分類がちがって、それぞれ多くの話題がありますね。かべ新聞で内容を伝えようとするとき、両方を一度に記すのは、とてもむずかしいと思います。テーマをひとつにしぼるのは、解決策になると思います。
かべ新聞では、文字、図、写真などを使って説明します。図や写真を効果的につかうのも、かべ新聞をまとめるときのコツです。空の中に昆虫の写真をはって種類を説明してくれました。分かりやすくていいですね。この中に、“よく見られる”とか“めずらしい”というような言葉を加えるだけで、情報の量がグッと増えます。そんなコメントも加えてみましょう。
千波湖周辺の生きものを観察して、まとめておくことは、今の自然を知るためにも大切なことです。続けていって下さい。

逆川こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:逆川こどもエコクラブ⑪

逆川こどもエコクラブ⑪の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

こども IPCC&ESD プロジェクトの 4 つの作業部隊の様子がよく分かりました。
第 1 作業部隊は、温暖化防止の取り組みとして、ペットボトルの分別を行いました。J リーグの水戸ホーリーホックの試合でイベントを実施するなど、大勢の人が集まるところで活動を行うのは、効果的ですね。自分たちのイベントがエコにつながったことも、成果の一つです。
第 2 作業部隊は、地元の各種団体とゴミ拾いを行いました。多くの人たちを巻き込んだ作業が、なんといっても素晴らしいと思いました。“サケが産卵しやすい環境をつくるために川の中のゴミ拾いをする”と、目標をしっかりとて活動していることも大切ですね。
第 3 作業部隊は、ホテルが住みやすい環境をつくるために整備活動を行いました。ホテルの産卵時期を考えて、6 月に草刈りを行う点など、生きもののことを思いやって活動しています。また、活動の主体が保育園児から高校生と幅広く、次の世代に受け継いでいけることが素敵です。ホテルンジャー奨励賞おめでとうございます。
第 4 作業部隊は、ビオトープの造成を手がけました。活動の年数はまだ 3 年ですが、ワカサギの産卵が見られたり、メダカが住んだり着実に成果が出ています。これからも続けて、千波湖の周りにたくさんのビオトープができるといいですね。さらなる活動を応援します。
さまざまな活動が連携し合いながら、逆川や千波湖の環境を守っていく様子を見て、大変すばらしいと思いました。これからの活躍も期待します。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
いろいろな活動の報告が、わかりやすく簡けつにまとめられていたので、「師範から一言！」のコメントを記すのも楽しくできました。内容が豊富な新聞なので、かべ新聞として高いレベルのコメントを以下に記します。
このかべ新聞では、タイトルに“こども IPCC&ESD プロジェクト”とあり、続いて IPCC と ESD の説明と、諸活動を記してくれました。この、IPCC・ESD と諸活動の内容は分かるのですが、双方の関係が不明りょうです。また、新聞の大切な内容に 5W1H があります。それが記されているかどうか見ると、いつ行ったのか、誰が行ったのかという内容が、よく分かりません。「逆川こどもエコクラブ」全体の活動の報告という形式でまとめられたと思いますが、かべ新聞としては“読者に何とつたえたいのか”という視点を大切に、紙面を構成させるとよいでしょう。そうすると、自ずとタイトルから変わってくると思います。
辛口コメントになってしまいましたが、内容がすばらしいので、あえて記させて頂きました。次回も期待します。

かみおおのアースレンジャー③を書いたみなさんへ
師範から一言――

ダンゴムシが、左右交互に曲がる性質について、いろいろな実験で突きとめました。実験方法、結果、考察のまとめ方もわかりやすく、実験の様子がよくわかりました。実験の内容を見てよかった点は、同じ実験を何回も繰り返し行っている点です。“ダンゴムシが歩く向きを変えたのは、規則があるのか、それとも偶然なのか”を見分けるのは、1回の実験ではわかりませんね。偶然に起こったのかどうかを確かめるためには、実験の数を増やすことが必要です。高校や大学に進学すると、数学で「確率」という勉強をします。そうすると、どうすれば統計的な処理ができるかがわかってきて、この実験がもっと面白くなってきます。

実験結果を、見やすいグラフや表にまとめた点も評価できます。方法と結果を対に見ると、内容がすぐわかりました。

総合的に、よくまとまった実験だと思います。次のステップが楽しみになってきました。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

ダンゴムシの歩き方についての一連の実験は、シンプルな方法で行ったものですが、とてもきょうみ深い結果がえられました。今回はT字路での走行実験をくり返しましたが、角度を変えた通路、たとえば30度、60度、120度などで実験してみるのも面白そうですね。これからどのように発展するか、楽しみなテーマです。先行研究も多数ありますので、それらを参考にして実験をアレンジするのもよいでしょう。

とてもよくまとまった研究ですが、理科の自由研究の掲示物として(かべ新聞としても同様です)、工夫するとよい点があります。人に読んでもらうためには、「引きつける」ことが大切ですね。たとえば、タイトルを「ダンゴムシは通路を覚えているか？」というように、テーマにそくしたものにするのも一案です。掲示物全体が落ち着いた色合いですので、目立つ色使いにするのもよいでしょう。ダンゴムシのイラストや、荘司くんの実験の様子の写真も見たいような気がします。実験をくり返すと共に、見せる工夫もひとつ行ってみてください。

かみおおのアースレンジャー④を書いたみなさんへ
師範から一言――

茨城県環境カウンセラーの山口先生のご指導を受けての野鳥観察ですね。専門の先生に野鳥の話を聞くことで、とても勉強になりましたね。鳥の種類を見分けるのはなれないとむずかしいので、初心者とはときどき間ちがえてしまうことがあります。今回の報告は、専門家のご指導を受けていますので、信頼性の高い研究ができたと思います。鳥のことをたくさん勉強して、今度は教えることができるようになるといいですね。

さて、観察の内容をくわしく見てみましょう。年間を通して観察した結果を示してくれました。今回の結果を見れば、上大野小学校の周辺でどんな鳥が生息しているかがわかりますね。また、季節的な消長をみることもできるように、工夫がされていました。留鳥とそうでない鳥の区別もつけたので、鳥の生態もわかりますね。

観察を通して、改めて気づいたこともありますね。上大野小学校の周辺には、豊かな自然があるということです。この自然をこれからも大切に生かしていきましょう。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

正確なデータを残すことができました。まとめ方を工夫すると、より見やすくなるので考えてみましょう。

見た鳥の種類を、観察日ごとに○をつけて表にしました。丸をつけたところに、観察できた数を記入すると、表もスッキリするし日ごとの個体数も一度に見ることができそうですね。それから、1年間のトータルで見られる種数や、留鳥と夏・冬鳥の割合をグラフで表すこともおすすめします。

観察した野鳥のスケッチなどを掲載しました。鳥をよく知らない人にとっても便利ですね。さらに、それぞれの野鳥の生態を調べてみると、植物や昆虫などのこともわかってきて、自然を広く見ることもできるようになるでしょう。

観察を続けると、これまで記録がなかった野鳥を見ることができるようになります。定期的な観察を続け、上大野小学校周辺の自然を調べていきましょう。きっと、すばらしい自然を再発見することができますよ。

土浦第五中学校 科学部さんへ

師範から一言――

霞ヶ浦に流入する河川を 10 カ所も調べ、広い霞ヶ浦を総合的に調べたことがすばらしいと思いました。一つの河川の調査では見えない部分が、河川を比較することで見えてきますね。水質の違いを、さまざまな指標を用いて調べたことも感心しました。電気伝導度や COD などは、中学生では難しい内容だと思いました。しかし、近くにある霞ヶ浦環境科学センターの協力を得て調べることができたのも、成果の一つですね。

写真や図を有効に活用して点も、工夫の現れたところです。科学部員の皆さんの活動の様子がよくわかりました。水質を表やグラフに表すと、比較するときにより一目で分かるようになりますね。

水質の調査を行い、その値から何を読み取るかを考えるのはとても難しいのですが、今回、土地利用と関連づけて考察した点も、目の付け所がよかったと思います。さらに、データを積み重ねて下さい。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

霞ヶ浦の周囲をまんべんなく調査しました。しかし、霞ヶ浦には 50 を超える河川が流入するので、すべての場所で調査を行うことは無理です。今後追加の調査を行うことが可能ならば、焦点を絞った課題を見つけていく必要がありますね。壁新聞を見ると、土浦五中の周辺はレンコンの栽培が盛んであると記されていました。霞ヶ浦とレンコンの水田とを一体化して考え、そこに生息している動植物と水質の関係を深めていくのも一つの方向としてよいでしょう。霞ヶ浦のプランクトンの経月変化などを調べるのもよいかもしれません。水質のデータは、降雨条件、水量などで大きく変わると考えられますので、これも継続的な調査が望まれます。土浦五中の近くには、霞ヶ浦環境科学センターがありますね。理科の先生も常駐していますので、これからも共同して研究をすすめていってください。

新聞の体裁を見ると、理科の自由研究の書き方になっています。かべ新聞として紹介する場合には、読み手に何を紹介するかを決め、それを見出しにどう反映させるか考えて紙面を構成していくとよいでしょう。

土浦の各中学校の科学部は、様々な研究に取り組んで成果をあげていますね。切磋琢磨して、よい研究がすすむことを期待しています。

茨城県龍ヶ崎市 龍ヶ崎市環境楽習講座
壁新聞のタイトル:①環境楽習講座 ②環境楽習講座

08-23、08-24 (全 2 枚)

龍ヶ崎市環境楽習講座①を書いたみなさんへ

師範から一言――

太陽光発電や風力発電の方法を見た様子と、河川の生きものの様子の感想が大変よくかけました。

太陽光発電では、広さに驚いたり、発電量に驚いたりすることができました。風力発電では、風車の大きさに驚いたり、羽根の回る早さに驚いたりすることができました。発電をする場所で感じたことが素直に書かれていました。

龍ヶ崎の市内を流れる破竹川の水質の生きものについても調べました。普段は何気なく見ている川ですが、よく調べてみると、たくさんの生きものが生息していることが分かりましたね。

インターネットや本で調べて、知識が豊富な人はいっぱいいます。でも、実際に見たり触れたりした人の方が、何倍も身についていると思います。これからも、皆でいろいろな体験をしてください。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

発電所の見学や生きもの調査を通して感じたことが、生き生きと記されていました。「百聞は一見にしかず」というように、自分の目で確かめたことは忘れないと思います。それから、人の立場からではなく、生きものの立場からの目線も大切です。今回は、人が必要とする発電所だけではなく、川の生きものを見ることで、一段と視野が広がったのではないのでしょうか。いい体験ができました。

かべ新聞の構成を見ると、感想と写真がメインです。子ども達の活動をまとめる場、つまり、発電の場の様子をまとめたり、観察した魚の種類をまとめたりする時間を設けてみてはどうでしょうか？かべ新聞の作成の中に、まとめる時間を設けることによって振り返りができるので、より活動が深まると考えられます。まとめる活動の時間をとることができたら、行ってみてください。

龍ヶ崎市環境楽習講座
壁新聞のタイトル:①環境楽習講座 ②環境楽習講座

龍ヶ崎市環境楽習講座②を書いたみなさんへ
師範から一言――

破竹川の生きものを調査し、その多さに驚いたことや、楽しくエコ・クッキングをしたことが、大変よくわかりました。写真を見ると、皆さんが熱心に活動する様子がわかりました。破竹川の調査では、思っていた以上にきれいな川を知ることができましたね。たくさんの魚を見ることができたこと、それに加えてカメを観察できたことなど、とてもよい経験ができました。最初は、興味がなかったけど、調査を進めていくにしたがい、興味がわいてくる様子もうかがえました。環境の勉強では、生きものと触れ合うことが、とても大事です。この経験をもとに、さらに環境保全の勉強をすすめてください。豊かな自然を守る取り組みには、いろいろな事がありますね。の中で、自分ができていることを考えることは、とても大切です。エコ・クッキングを通して、材料を大切に扱ったり、ゴミを少なくしたりする取り組みも見られました。家庭でも行えることなので、ぜひ家の人とも実施してみましょ。また、ガスの仕組みをすることで省エネを意識することもできますね。今回の講座で、いろいろなことを体験しました。この体験を、日常生活にも生かしていってください。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
生きもの調査やエコ・クッキングの活動を通して感じたことが、生き生きと記されていました。ひとつの分野だけではなく、広い視野に立って環境を見ることができるよう、講座が組まれていることに感心しました。
同じ環境楽習講座の壁新聞のコメントにも記しましたが、新聞の構成は、感想と写真がメインです。子ども達の活動をまとめや、さらに活動を通して興味を持ったり疑問に思ったりすることを加えると、より充実した壁新聞になると思います。次のかべ新聞も期待します。

茨城県大子町 八溝自然たんけんたい
壁新聞のタイトル:サシバのすめる里山づくり 08-25

八溝自然たんけんたいさんへ
師範から一言――

サシバのすめる里山作りと言うことで、みんなが里山、久慈川と押川、滝川やたんぼの生き物を1年間通して調べたことをまとめてくれた力作のかべ新聞でした。
里山だよりをこんなにたくさん発行しているんですね。このかべ新聞には、181号から214号までの中からいくつかを報告してくれました。181号から214号までというと、少なくとも1年間に34号発行していることになり、ビックリです。
みんなが発見した川の生き物、たんぼの生き物や山、池、畑の生き物を、サポーターの方がていねいにまとめてくれたのですね。
それにしてもさらに驚いたのは、トンボやカエル、小魚、鳥、小動物、虫・こん虫の種類や植物の種類を見分けて、発見したみんなの目のすばらしさです。
サシバに限らず、生き物が住んで、生きていくためには、エサが無いとダメですね。それに住む家、場所が無いとダメですね。天敵がいるのもダメですね。と言うことでエサの生き物と住むたんぼや畑がどうなっているか、をていねいに調べました。
生き物が住むたんぼの役割についてもみんなで考えましたね、お米を作る所だけでなく、しぜんのダムとしての役割もあります。土砂がずれなどのさい害をふせぎます。そしてたんぼのまわりのあぜみちにも、たくさんの植物が生きています。植物だけでなく動物も生きていますと発見しましたね。いろいろな見方、役割があることを学びました。一方的な見方、考え方ではしぜんは理解できないことをみんなは、体験をとおして知りました。すばらしいやり方です。サポーターの人が上手にみちびいてくれたと思います。
冬になったら生き物はどうなるのかもていねいに調べましたね。これもサポーターの人がみんなに上手なアドバイスをしたようですね。冬になったらあたたかい所へ移動する生き物、土や葉っぱや石の下などに移り住む生き物、さなぎになる生き物、木の中に住む生き物などを知りましたね。
4年生のといたそらちゃん、2年生のかとうしおりちゃん、すばらしいうた、詩(し)を書いてくれました。これを歌にしてうたいたいですね。だれか曲をつけてくれると良いな一と思いました。
このかべ新聞に書いてあるサシバが安心して子育てができるたんぼや森の環境をつくることは、生き物たちと共存できる街である大子町になることだと思います。みんなが生き物調べをして、環境調べをして、どうしたらサシバのすめる自然になるのか、いっしょうけんめいに考えましたね。すばらしい活動をこれからも続けてください。



八溝自然たんけんたい
壁新聞のタイトル:サシバのすめる里山づくり

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

里山だよりをたくさん発行しています。字もいっぱい書いてあります。里山便りでは、こんなことを知ってもらいたい、こうしてほしいなどを字だけでなく、写真や絵も入れて作ると見る人はすぐわかってくれるのではないのでしょうか？

それとメンバーをもっと増やしたいとのことですから、クラブに入って活動するとこんなに面白いよ！楽しいよ！と言うのが分かるみんなの活動のようすの写真をいれるのも一つの工夫ではないのでしょうか？

8月7日のなかがわ水遊園や木曜日の夜の交流会・学習会、川での生き物さがしの写真は、みんなのようすがよく分かって良いですねー。このような写真もすでに里山だよりのにせているようですが...

それとこども達の声もぜひ、のせるといいと思います。サポーターの意気込みだけでなく、こども達の生の声、活動した生の声をぜひ、こどもの字で書いてのせてください。たとえば、「ぼくははじめてへびにさわりました。はじめはこわくてさわれなかったけれど、サポーターのおにいさんが手助けしてくれたのでさわれました。すべすべしていて気持ちよかったです」とか「私はムカシトンボをみつけました。最初の発見者になりました、うれしい！」などなど。かべ新聞にものせてほしいな！

こどもエコクラブは楽しいよ！見学もします。生き物もさがします。生き物にもさわれるよ。きれいな花のにおいもかげますよなどなどが伝わるようにみんなで考え、サポーターの方もアドバイスしてあげてください。

この次のかべ新聞には、サシバもトンボもすめる里山にするために、みんなが農家の草取りをしましたとか、みんなができること、小さなことでも良いですから、こんなことをしました、その結果トンボも増えて、サシバもたくさん見られるよ！との報告を楽しみにしています。

栃木県宇都宮市 チームミネ
壁新聞のタイトル:絶滅危惧種発見！！「川ガキ」

09-01

チームミネさんへ
師範から一言

絶滅危惧種の「川ガキ」ってどんな生き物？と思ったら、川で遊ぶ子どもたちのことなのですね。なるほど、かべ新聞を見るとみなさん立派な「川ガキ」のようです。色々な生き物も発見できて、とても楽しそうですね。写真そのものがよくとれてるものが多くて、活動の様子がよく伝わります。でも、「川ガキ」の説明はほしいですね。知らない人が読むと、まちがえるかもしれないので、ぜひ説明を入れてほしいと思います。みなさんは小学校の全校生徒で活動していて、保護者の方も積極的に活動に参加しているようです。応募用紙にも書いてありますが、子どもと保護者で共通の話題を持つことができるのもいいですね。エコクラブの活動から発展して、家や近所でも植物や動物を観察してみたいと思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
★

かべ新聞のまとめ方としては、ぜひ活動した日を書いてほしいと思います。また、活動日や場所ごとにまとめたり、色で区別すると読みやすくなりますよ。全ての活動について書くのは大変だと思いますが、いくつかは活動した内容、感想を書けるといいと思います。活動した後に、一言でもいいので感想をメモしておくといいですね。かべ新聞を作る時に、ふりかえりにもなると思いますよ。



東峰エコキッズ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言

幼稚園の年中組・年長組のみなで水生生物調査を行った時の様子をていねいにまとめてくれました。川や田んぼの生き物と親しむことでも十分楽しくいい活動だと思いますが、「調査」と意識を持って活動していて、とてもいいことだと思います。この調査は来年も行うのでしょうか。定期的に行っていくと、比較もできますね。地域の方と協力しながら、これからも楽しく活動してほしいと思います。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

かべ新聞にも、調査日や場所、水温など基本的な情報が書かれています。読む人がイメージを持ちやすくなるというか、読みやすくなるので、こういった基本情報を書くのはいいですね。また、生き物の数を数えるのは大変だったと思いますが、それもしっかり表にまとめてあってわかりやすいと思いました。水質判定で「きたない水」だったということですが、写真を見る限り、生活排水が流れている川ではなくて、農業関係の排水が流れている川なのかなと思います。川のまわりの状況にもよるので、参考程度に考えたらいいと思います。

東峰エコキッズ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言

東峰エコキッズの②のかべ新聞では、川での活動についてまとめています。アユやウグイの放流、川下りの体験を行ったのですね。みんなの似顔絵を感想が読みやすく書かれていると思います。アユを放流した時に、一列になっておおいでいったというのはおもしろいですね。よく観察しているなあと思いました。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

ウグイの放流の時にはサケが上がってきたのも、印象に残る出来事だったと思います。川の石がなぜ丸いのか、など体験から得られた気づきを大切にしているのもよく伝わります。かべ新聞に書くことで、気づきをみんなで共有することもできますね。自然の中で「なぜ？」と思うことをこれからも大切にしてほしいと思います。

うつのみや自然探検隊 ①を書いたみなさんへ
師範から一言

みなさんが春～秋にかけていろいろな場所で自然にふれ、楽しんできたことが、新聞に貼られたたくさんの写真から伝わってきます。自然というのは、たとえ同じ場所でも、季節によってまったくちがう顔を見せてくれます。昨日はさいていなかった花が、今日は花びらをいっぱいに広げている、というように1日で大きくちがったいろいろな表情を見せてくれます。初めて見たチェンソーはどうでしたか？ 形も音も大きかったことでしょう。びっくりしませんでしたか？ 2015年にもまたいろいろな場所に行って、たくさんの自然にふれてみてくださいね。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

写真のすぐ近くで花をたくさんつんだこと、葉っぱでつくったこと、などくわしく説明を書いていますね。では、作ってみて何どんなことを思いましたか？ タンポポをたくさんつんだとのことですが、それはその後どうしましたか。きれいなのでずっと持っていた？ それとも花かんむりをつくった？ そういった、その後の様子をまじえて感想を書くと、新聞を読んでいるお友だちに、みなさんの感じたことがもっと伝わると思います。次回はその点も工夫してみてくださいね。

うつのみや自然探検隊 ②を書いたみなさんへ
師範から一言

山から水辺まで、とても広い範囲の自然にふれてきたのですね。長岡植林地ではチェンソーや草刈り機を使うところを見たことですが、初めて見たのですか？ とても大きな音がして、刃を入れたところからたくさん飛びちっていたと感想を書いています。まさにその通りですね。私も初めて見た時は音の大きさにびっくりしました。トウキョウサンショウウオを守るためにザリガニをくじよしている取り組みでは、ザリガニがバケツに入った写真を貼ってくれていますね。これはすごい数です。皆さんがとったザリガニもいるのでしょうか？ 2015年にもまたいろんな場所に行ってたくさんの自然にふれてみてくださいね。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

鶴田沼、戸祭山、長岡植林地の3か所に行ったことについて書かれていますね。もっと地名が目立つように書くと、読んでいるお友だちにとって、どこに行ったかが分かりやすい新聞になると思います。それから、ザリガニとサンショウウオは食う、食われる関係ということですね。ところで「ヘビがカエルを食べる」からヘビをぜんぶつかまえて くじよ しようとはなりませんね。どうしてザリガニはここまでつかまえて くじよ されようとしているのでしょうか？ それにはちゃんとした理由があるはずです。次回は、ぜひそのことについて調べてみてくださいね。

エコけやき ①を書いてくれたみなさんへ

師範から一言

ペットボトルのリサイクルについて調べてくれたのですね。
とても身近にあるペットボトルだけど、なかなか調べてみたりまとめてみたりってできないもの。取り組んでくれてありがとう。調べたことで、環境のことを考えながらキチンとやらなければならないリサイクルの方法がわかったみたいですね。よかった。
ペットボトルが回収されてリサイクルされるとどのように活用されているのか、知っているようで知らなかったことが今回の調べ学習でよくわかったと思います。キャップをはずしたら、外についているラベルもはがすといいよね。中に汚れがないようにしっかり水洗いしてね。わかったことをさっそく実践してみてください。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

みなさんはジュースやお茶、お水など、どうしていますか？お店に行って、または自動販売機でペットボトルに入ったものを購入しているでしょうか。ペットボトルは軽くて手軽でとても便利ですね。でもちょっと考えてみてください。もし、ペットボトルを買わないで水筒を利用したらどうでしょう。ゴミは出ないですね。
リサイクルも大事ですが、その前に、ゴミを出さない工夫についても考えてみてもらえるとうれしいです。がんばって！

エコけやき ②を書いてくれたみなさんへ

師範から一言

紙ごみ、資源ごみと言うところもあるかもしれませんが。みなさんが調べてくれたように、紙は小さなものまでちゃんと資源になるようです。そんな小さな紙もたくさんの人たちが関わっていることを知ることができてよかった。
紙はいろんな情報を届けてくれる大切なもの。でも読まなくなったり、使ってしまったらそれは不要なもの。でもまた新しい紙に生まれかわることができれば、また大切な紙として、みんなの生活に欠かせないものとして手元に戻ってきます。皆さんの言う通り、「紙を大切に」したいですね。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

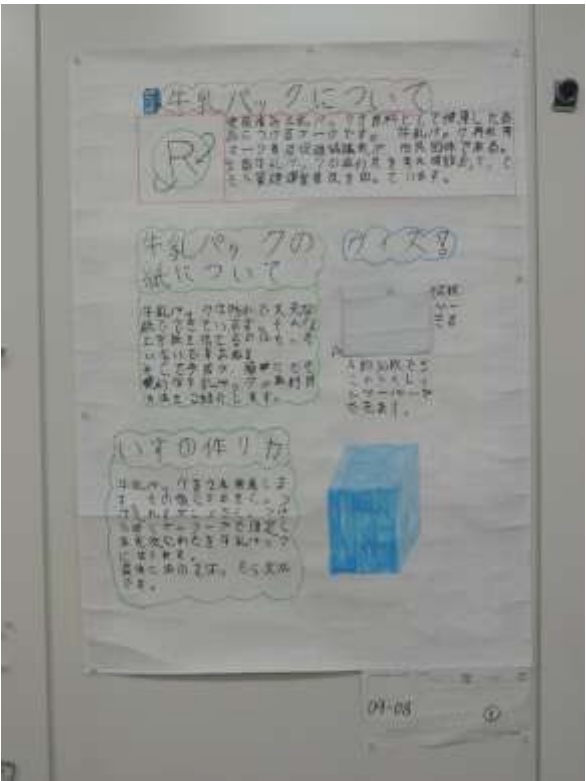
今回の調べ学習では新聞紙がリサイクルされてトイレットペーパーになることがわかりました。ほかの紙ごみは何になるんでしょう。雑誌、ダンボールなどどんなものに生まれかわっているのか、機会を見つけてぜひ調べてみてください。

エコけやき 5-1
壁新聞のタイトル:①ペットボトルリサイクル ②紙ごみについて ③牛乳パックについて

エコけやき ③を書いてくれたみなさんへ

師範から一言

みなさんのグループは牛乳パックのことを調べてくれたのですね。
牛乳パックも日常生活でよくお世話になっているもの。ここでは牛乳パックを使ったアイスを作ってみたのですね。おいしい牛乳をおいしいままに運ぶための牛乳パックはじょうぶにできているから、いすにもなるんだね。
みなさんは、この調べ学習で、「牛乳パック再利用マーク」を知りました。このマークはどこについていましたか？そんな調査も楽しいと思うので、今度お店に行ったら商品を見学してみてください。たくさんの発見があると思います。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....

★.....★

アイスはみんなで作ったのでしょうか。作ったアイスは使っているのかな？リサイクルはただ新しいものに生まれ変わるだけじゃなくて、ちゃんと使ってあげることが大事だと思います。どんな場面で使うことができたのか、そんな報告もあるといいですね。

宮っ子グリーンさんへ
師範から一言

地球の温暖化が進まないようにするための取り組みとして、ベルマーク活動に参加することで節約やものを大切に取る取り組みができてくれたのかな？

ベルマーク運動は、ベルマーク貯金でいろいろなものが購入できる仕組みですね。みなさんのクラスでもベルマーク活動をしているのでしょうか。どんなところにベルマークが付いていたでしょう。文房具や下着、食品などなど。たくさん集めて学校に必要なものが購入できたらいいですね。

とっておきのゴンドウ★.....★.....★.....★.....
★.....★

最近ではベルマークが商品についているもの以外にもインクカートリッジを返却するとベルマーク点数がもらえる、というものもあるようです。こちらは一般のベルマーク集めよりぐっと身近に環境のことを考えることができる活動ですね。そんな活動にもぜひ取り組んでみてください。



毛野南小エコクラブさんへ
師範から一言

毛野南小学校エコクラブのみなさん、こんにちは！

みなさんは、学校のクラブ活動(サイエンスクラブ)のなかまでですね。いろいろな活動を写真、イラスト、感想文でかべ新聞に示してくれました。どんな活動をするかみんなで話しあって決めたようですが、かべ新聞に書ききれなかった活動もたくさんあるのではないですか。

べっこうあめ作りは楽しめたそうですね。少し昔風なところもいいです。材料の組み合わせや分量でできばえがちがいますか。加熱するコツもあるのかな。でも、なぜべっこうあめを作ってみようと思ったのかな。

炭つくりの材料はなんなのでしょう？松ぼっくりのイラストがあるので、それを使ったのかなと想像しました。どこがむつかしかったですか？温度ですか？炭焼きの人も工夫したでしょうね。いまでは、炭は特別なところにしか使われなくなっちゃったけど、すいじ、暖房など家庭のだいじな燃料でした。電気やガス、灯油などが使われるようになって、炭は姿を消しました。

葉っぱの葉脈でできたしおりは、なかなかきれいですね。みんなちがう木の葉を使ったのですか。葉脈はなぜこんな形をしているのか、考えてみましたか？

「自分でできることは何か」「これからの生活に生かしたい」「家の人や友達に学んだ環境のことを伝えて、環を広げたい」と書かれています。すばらしい考えです。とても大事なことです。そういったことに気づく機会があったクラブの体験活動は良かったと思います。

いろいろみんなでアイディアを出し合って、また、新しい体験をつみ重ねてください。そのかべ新聞を待っています。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

東京でエコ発表しました。初めてで、ずいぶん緊張したようですがよい発表ができて、また、他のクラブの人たちとふれあえたり、他のクラブ活動のことも知る ことができてよかったですね。発表の内容について新聞には書いていないので、ちょっと残念です。でも、環境について考えるようになったので、良かったと思 います。
熱気球を空へ飛ばすのは、楽しそうですね。骨組みに使う軽い材料には、何を使いましたか？熱い空気をどうやって作りましたか？写真ではよく分かりませんでした。
ことしの活動で、「樹木の炭酸ガス吸収量を調べる」「EM活性液つくり・EM石鹸作り」も計画したようですが、結果はどうだったでしょうか？紙面は限られています、できればかべ新聞に少し書いてほしかったです。
一年間の活動の振り返りが書かれていました。自分たちの活動を振り返って、良かったこと、思い通りにならなかったこと、もっとうまくやれるようにはどうすればよいか考えることは、とても大事です。

☆☆サポーターの方へ☆☆

体験することを中心にしたクラブ活動をみなさん楽しんでいるようすが良く分かりました。こどもたちが興味を持つ実験がうまく選ばれていました。
すこし疑問に感じたのは、エコに関係の深い活動である「樹木の二酸化炭素吸収量調べ」やEM活性液つくりと利用」のテーマについて、壁新聞に書かれていないことでした。スペースがなかったのかもしれませんが、残念でした。こどもたちが環境について、学び、関心を高めた活動が何か、壁新聞で分かるように工夫して頂くと、壁新聞の目的にふさわしいものになると、考えます。熱気球やべっこうあめ作り、葉っぱのしおり作りとエコの関係が、よくわかりませんでした。エコ活動を狭い範囲に限定する必要はありませんが、地球温暖化などは、子供たちの行動につながる体験活動もあると思いますので、ご検討ください。

イオンとちぎチアーズクラブさんへ

師範から一言――

色使いがきれいで、折り紙などを飾りにうまく使い、目を引くかべ新聞になっています。1年間の活動報告が「ぎゅっ」と詰まっています。
活動のなかで、「いい経験ができたなあ」、とうらやましく思い、私もぜひ参加したかったのが、梅干しづくり。昔はそれぞれのお家で、お家の人が梅干しを作っていたけど、今は家では作らず買うお家も多いんじゃないかな。梅干し作りは、梅雨の時期とも重なるので、お天気を見ながらの作業だね。太陽を一番身近に感じた活動になったのではないかな。そして、自分たちで作ったお米と梅干しでのおにぎりはさぞ美味しかったことでしょう。
ただ、ちょっと残念なのは、それぞれの活動報告や感想などの本文が細いペンで書かれていて読みにくいこと！今年のテーマである「太陽と自然」とそれぞれの内容がどんな風に繋がっているのか、その点を少し書いて欲しかったな。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

活動の中のひとつに焦点を当ててかべ新聞に詳しく書いてみる、という新聞作りも試してみてもどうでしょう。
たとえば、環境活動として定着した廃食油ろうそくづくり。捨てるものを新しく使うものに生まれ変わらせることの大切さを学べていいですね。
廃食油利用のろうそく作りは、いろいろな環境問題について学ぶ教材ですので、私たちの使う食用油の産地の現状(私たちの使っている油の原料はどこからくるのか)や、私たちの食生活について(たとえば揚げ物が大好きになった日本人、そのために環境にとって悪いことはおこっていないか)、それから、料理などに使ったあとの油の利用方法(ろうそくだけでなく、石けんや飼料、燃料になること)などあわせて調べて新聞で報告してみるというスタイルもありですよ。また、作ったろうそくをいつどんな風に使ったのか、その報告もあると、もっといい記事になると思います。



真岡児童館やさしクラブさんへ
師範から一言――

まず目を見張るのが新聞のタイトルとそれぞれの小見出し。「命」をキーワードにそれぞれの活動を上手にまとめることができました。また活動についての子もたちの感想もしっかり書けています。
とりわけ、目の前で命があるものを殺していただく体験は、本当に貴重な体験です。命がある間は動いていたマスを捕まえ、さばくうちに動かなくなるその課程を体験することで、言葉ではなかなか実感しにくい「命をいただく」ことを子どもたちは直感的に理解できたことでしょう。
また、自分では動かない植物「さつまいも」や「どんぐり」についても命があることを気づき、そのありがたさを感じられる活動が展開されていることもとても重要なことです。とりわけ、「どんぐりプロジェクト」は、2年間にわたって苗木を育て、そのあとも岩手県のお友達にその苗木を渡すことで、ドングリの木の成長をずっと見つめていくことができる良い活動だと思います。ドングリの成長を遠くからもぜひ見守って下さい。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
来年もぜひ「テーマ」を決めて、みんなの活動をかべ新聞で紹介して下さい。テーマが変われば、同じ活動でも見え方が違ったり、新しい発見があったりすると思います。
今回「命をいただいた」マスが育ついそ山の自然について詳しく伝える、という方法もありますし、みんながどんな風にいそ山の自然を守っていききたいか、その想いをまとめてみるのもいいかもしれません。また、周りのどんな人たちと一緒に活動しているのか、「人」をテーマにして新聞を作るのもおもしろいかも。文字には書いてなくても、今回の新聞を読んでいると、たくさんの大人がみんなの活動を応援しているのだろうなあ、そんなことも読者に感じさせる新聞でした。

栃木県真岡市 真岡小学校5年エコ・こだまが丘
壁新聞のタイトル:①エコクッキングに挑戦 ②アクリルたわしで洗剤いらず ③5の2 真岡小エコクラブ大作戦 ④水エコしよう
09-13、09-14、09-15、09-16(全4枚)

真岡小学校5年エコ・こだまが丘①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

エコクッキングはとても良い題材ですね。料理はどの家庭にも関係がありますし、人は生きている限り食べ物を食べます。もし食べる事がエコとつながったら、多くの家庭で毎日続けていけるエコになりますよね！
また、エコクッキングの条件がきちんと決めてある所も大切ですね。「ごみの減量」「フードマイレージ」「省エネ」など、どれもいろいろなエコにつながる条件ばかりで、事前にしっかり調べてから取り組んだ事がわかります。
そして料理を作る人にとって「おいしい」「節約になる」という事は、どちらも重要なポイントです。世の中に求められているテーマと言っても良いエコクッキングを実際にやってみて、それが上手にかべ新聞にまとめられていて、とてもすばらしいと感じました！



とっておきのゴシドウ★.....★.....
今回のテーマや条件を事前に調べた中で、他にも様々なエコクッキングの候補があったと思います。次にチャレンジしてみたいものはありましたか？ ちなみに私は魚の骨を揚げたものや、種をいったものなどを食べた事がありますが、とっっってもおいしかったです！
ごみの減量や省エネは「一度実行したら終わり」というものではなく、それを続けていく事が環境問題の解決につながる方法です。でも、普段から家で毎日料理を手伝うのは難しいかもしれません。そのために、毎日料理を作ってくれるお家の人にもエコクッキングを伝えて、一緒に続けていけるようになると、さらに意味のある活動になりそうですね。
これからみなさんが成長して料理をする機会が増えた時に、もっと多くのレパートリーで、もっとおいしいエコクッキングが出来るようになっていく事を楽しみにしています！

真岡小学校5年エコ・こだまが丘

壁新聞のタイトル:①エコクッキングに挑戦 ②アクリルたわしで洗剤いらず ③5の2 真岡小エコクラブ大作戦 ④水エコしよう

真岡小学校5年エコ・こだまが丘②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言—————

私もアクリルたわしを毎日使っていますが、本当に洗剤を使わなくても汚れが落ちるんですね。初めて使った時は「これはすごいエコグッズだなあ！」とおどろきました。
そんなアクリルたわしの良い所や作り方がわかりやすくまとめているので、読んだ人もきっと使ってみたくなったんじゃないでしょうか。
そしてどの家庭でも食事が済んだら食器を洗うように、多くの人に毎日関係のある事に着目して取り組んだ点も、ナイスアイデアだと思いました。
飾り付けもはなやかで、とても女子らしいセンスを感じる、良いかべ新聞ですね！

とっておきのゴシンドウ★……★……

アクリルたわしをプレゼントしたのもすばらしいですね。多くの人が使ってくれば、その分、洗剤を使わない家庭が増える。さらに「プレゼントになる」という事がわかれば、他のみんなも作ってみたくなる。そうすれば、どんどんアクリルたわしを使う人が増える。これはとても良いエコの広め方ですね！

しかし、ただエコグッズを使うだけでなく、いつも環境のことを考えて行動する事も必要です。まとめにもあるように、みなさんは「未来の自分たちのためにも」という意識を持っていますが、環境問題を真剣に考えるにはそれがとても大切です。これからもいろいろなエコグッズを通して「エコな意識を持とう！」という気持ちも一緒に広めていってほしいと思います！大竹：



真岡小学校5年エコ・こだまが丘

壁新聞のタイトル:①エコクッキングに挑戦 ②アクリルたわしで洗剤いらず ③5の2 真岡小エコクラブ大作戦 ④水エコしよう

真岡小学校5年エコ・こだまが丘 ③を書いたみなさんへ
師範から一言—————

真岡小学校5年2組のみなさん、こんにちは！

今回、エコクラブ大作戦で「ごみ問題」に取り組んでくれました。生活していると、かならずごみが出ますね。ごみを考えることは、ものが生まれて、使われて、最後に捨てられる「ものの一生」を考えることになります。エコの大事な問題の一つです。

このような問題について、みなさんは＜対策＞を考えてくれました。3Rですね。これは、とても大事な考え方です。リデュース、リユース、リサイクルの具体的な例を、身の回りのことから考えてくれました。資源ごみ(びん、かん、ペットボトルなど)を分別して出すことは、進んできましたね。いらなくなったものをフリーマーケットに出して、リユースするというのは、いいアイデアですね。かんのリサイクルは90%を超えるところまで来ています。でも、まだ道路や公園に捨てられているかんを見かけます。みんなが回収ボックスに入れてくれるようになるといいですね。街の美化とリサイクルで一石二鳥です。もう一つアルミのリサイクルは、省エネ効果も大きいのです。ちょっとめんどろだけど、回収箱まで持っていく、回収箱がなければ持ち帰る行動がだいじですね。

資源の再利用を表したグラフは、何を示していますか？

ごみを焼却すると、灰のほかに二酸化炭素を発生します。地球温暖化の原因になりますね。焼却場では、出てくる熱を利用して「発電」「温水プール」などに使います。その分地下資源である石油や天然ガスの使用量を減らすことができます。

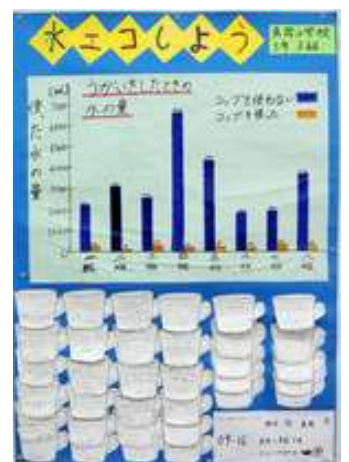
最後に、＜取り組み＞について、考えてくれました。

みかんの皮を使ってのよごれ落とし、新聞紙を使った窓やゆかの拭きそうじ、牛乳パックを使った小物入れ作りのアイデアができました。実際に試してみたところの写真をつけてくれましたので、よくわかりました。家でもやってみせると、おどろかれるかもしれませんね。

ごみを減らすために、国はいろんな法律を作っています。一般ごみの分別のほかに、使わなくなった家電製品(テレビ、洗濯機、冷蔵庫など)、自動車、最近では携帯電話やデジタルカメラ、ゲーム機のような小型家電のリサイクルの法律があります。みんなも法律を守って、資源にもどすことに協力したいですね。



壁新聞のタイトル:①エコクッキングに挑戦 ②アクリルたわしで洗剤いらず ③5の2 真岡小エコクラブ大作戦 ④水エコしよう



そんなことを考えながら、このかべ新聞を読みました。実験をする時やまとめる時は、どういうじょうけんで実験をして、どのようにまとめたかを書いておくと、後で実験結果を見たときにまちがえないと思います。あるいは、いろいろ実験のやり方を変えて結果を出す時にさんこうになると思います。それと実験のじょうけんを各班で同じにすると、例えば、水道から出る水のいきおいを同じにした時に使う水の量を調べると、歯ブラシの洗い方のちがいやうがいをする時のちがいがはっきりと出るとと思います。実験のやり方を少しアドバイスしましたが、今回の実験ではコップを使うか、使わないかのちがいがはっきりと出たよい実験になっていると思います。

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★

各班でコップを使った時の水の量は、それほどちがいはありませんが、コップを使わない時の水の量は、各班で大きなちがいがあります。どうしてそんな大きなちがいが出たかを調べてみると良いと思います。

歯ブラシの洗い方やうがいをする時のちがいでしょうか？あるいは水道から水を出す時のいきおいのちがいで しょうか？そんなことが分かると、コップを使っても、どうやったら節水できるかがわかると思います。

実験をやった時に予想外の結果が出たときは、どうして そうなったかを調べるのが大事です。その理由を調べるといういろいろなこと、たとえば、歯みがきをしている時間がちがう、水を出している時の水のいきおいが ちがう、歯ブラシを洗っている時間がちがう、うがいをする時に何回ぶくぶくをしてかのちがいなどが分かり、節水の仕方、水を大事にする仕方が分かると思います。歯みがきだけでなく、顔を洗う時はどうか？運動くつを洗う時はどうか？そうじのときのぞうきんを洗う時はどうか？など身近な所で水を使うことがいっぱいあるので、それらを班ごとに分かれて実験してみるのもおもしろいと思います。

ふだん、自分がやっているやり方を見直す意味で今回の実験をスタートとして、一人一人の実験結果にまとめると、自分はどうしたら良いかが分かるでしょう。

来年はどんなことにちょうせんして調べてくれるでしょうか？楽しみにしています。

栃木県大田原市 森の小人

壁新聞のタイトル:楽しく学んだエコ活動

09-173 位推薦

森の小人さんへ

師範から一言

このかべ新聞を見た時に、まずはじめにとってもびっくりしました。なぜなら、こんなにたくさんのエコな事にとりくんでいるみなさんの学年が、1年生から3年生だったからです。すごい！かんきょうやエコの事は、人からただ教えてもらっただけで良いというわけではありません。じっさいに自分でやってみて、それがどれくらいエコだったかを自分で考えて、次はもっとエコな方法にとりくんでみる、これを続ける事が大切です。みなさんは、この活動でそれが出来ているので、とてもすばらしいと感じました。これからも「水をむだづかいしない」「自然を大切にする」「ゴミをすてない」など、いろいろな活動を通して考えたエコな事を続けていってくださいね。

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★

みなさんはとてもたくさんの活動をしているので「これをやったら、エコではない」「これをやったら、エコになる」という、自分たちの行動とかんきょうのつながりがよくわかっていると思います。今の学年でそこまでわかっているのは、本当にすごい事です。

なので、みなさんはもっとエコな事が出来るんじゃないかなと期待して、ぜひチャレンジしてほしい事があります。それは、高学年になったら、かんきょうが悪くなってこまっている理由や原因についても考えてみてほしいという事です。むかしに何があって、なぜかんきょうが悪くなってしまったのか。その理由を知る事が出来れば、きっと同じ事にならずにすみますよね。

「なんで足尾には木や緑が少ないんだろう？」「なんで学校へ行ったり、あそぶ時間もなく、はたらいっている子どもがいるんだろう？」そういう理由に気付いた時、かんきょうが悪くてこまっているいろんな人たちへ、もっとエコをとどける事が出来ると思います。がんばってください！



ガールズさんへ
師範から一言

見た目の色づかいや可愛いイラスト、立体的な葉っぱの飾りなど、さすが4年生から6年生までの女の子たちだなと思いました。文章も上手に短くまとめられていて、とても見やすいデザインですね！

内容を読んでも「これからきれいな川でいてほしい」「また使われてうれしい」「みんなによろこばれるような物を提案したい」など、気持ちがこもった言葉が多い事に気が付きました。このかべ新聞を読んでくれた人たちも、みなさんと同じようにやさしい気持ちになったんじゃないかと思います。

私は、環境やエコを人に伝えるインタープリターという仕事をしていますが、人に物を伝える時に重要なのは、気持ちを込める事です。みなさんのようにいろいろな人や物に思いをこめながら活動する事は、他の人にもきっと伝わると思うので、これからもその気持ちを忘れずにがんばって下さい。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

キャンプ、生物調査、自然工作、リサイクル、植樹など、本当にたくさんエコな活動をしていますね。かべ新聞を読んで興味を持ったんですが、いろいろある中で、どの活動が一番やりがいや楽しさを感じましたか？ また、植樹で教わった「うけついでいきたい」こととは何ですか？ みなさんが、やりがいや大切だと感じた事も書いてあると、きっと読んだ人もやってみようという気持ちになってくれると思います。

このかべ新聞には、自然やそこに暮らす生きものたちを本当に大事に思う「愛」を感じました。きっと、みなさんが何年間も活動が続けている内に、愛着が湧いてきたんじゃないでしょうか？ 自然や生きものに愛着を持てる事は、エコな活動が長続きする最大のコツです。これからも、深く、楽しく、すばらしいエコな活動が続けてほしいと思います。



大田原中学校さんへ
師範から一言

「スト温」という、覚えやすく耳に残るフレーズを使っている点が良いですね。例えば、社会全体で取り組まれているエコアクションのひとつ「クールビズ」のように、相手の記憶に残りやすいフレーズを使う事は、広く認知されるために効果的な工夫です。学校でも徐々に浸透してきているのも、今までの成果が表れているのではないのでしょうか。学校や家庭での節電の取り組み状況などの数値化もしていますね。環境問題には目に見えない事がたくさんあるので、こうした客観的なデータを視覚化する工夫も大切です。

みなさんの「スト温」の取り組みへの真剣さが感じられる、良いかべ新聞だと思いました。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

学校でも家庭でも、常に環境の事を意識して生活するのは苦労もありますよね。しかし、大勢で取り組む事で達成感や充実感、そして「大きな省エネ効果」が得られます。大勢の人がいれば、中には「省エネって面倒だな」と思う人がいるかもしれませんが。省エネを始めたり継続するためには、続けたい気持ちを持ってもらう事が必要ですよ。そのために楽しい要素や家計に役立つ情報を盛り込んだものを打ち出していけると、さらに読み手の気持ちを動かせるかべ新聞になると思います。どこか環境問題をテーマに扱っている施設やイベントに足を運んでみたら、次に繋がる具体的なアイデアが見つかるかもしれません。

みなさんは「楽しみながらエコ活動が出来る企画を」という次のステップをしっかりと考えられているので、ぜひこれからもっと「スト温」活動の内容が充実するよう、応援しています！





という事は、今回みなさんが自分たちで物事を考えて自然体験を実行した事は、環境教育の目的そのものなのです。これからもどんどん環境について考えて実行し、立派な人に育ってほしいと期待しています！

にこにこクラブさんへ
師範から一言――

にこにこクラブのみんなが作ったかべ新聞「町のクリーン大作戦」は、とっても良くまとまっていて、分かりやすい、すばらしい新聞になっています。また、地域の人たちとれんけいして活動を進めるということで、世界でもすすめている「じぞく可能な社会を作る学習」になっていることが良く読み取れるすばらしい活動になっています。

実際にごみひろいをやったら、とてもたくさんのごみがありました。ごみをすててはいけないよ！というかんばんがあるのに、ごみがすてられている。住宅地では少ないが、森の中、川にはごみがたくさんあった。

このような現実を目にして、にこにこクラブのみんなは、どうしたら町がきれいになるか？ごみが少なくなるか？をみんなで考えました。そして、3つの活動をやろうということで企画書を作り、学校に提案しました。一つは、紙しばいを作って、学校のお友だちだけでなく、町の人にもポイ捨てをなくすことを知ってもらおうと思いました。二つめは、かんばんをつくって、ごみを捨てないように、町の人に知ってもらおうと考えました。三つ目は、ビラを作って、町会のかいらんばんで町の人たちにごみを捨てないように、少なくするようによびかけました。このような三つのグループに分かれて、みんなで活動しました。とってもすばらしい活動です。

壬生町にかぎらず、日本のどこの町でもポイ捨てがへらない、ごみが町のなかにたくさんあって困っています。三つのやり方で町の人たちによびかけたので、ごみが少なくなるといいな一と思います。

学級通信「にじいろ」にみんなの感想やぼくはこうやるよ！私はこうしたい！なぜなの？などのことがいっぱい書いてありました。みんなの考え、気持ちはよく分かります。町をきれいにするために、ごみを見つけたら拾ってごみ箱に入れます。これから進んでごみ拾いをします。みんなえらい！すばらしい！また、こんな感想もありました。なぜ、ごみを捨てるのだろうか？スプレーかんにあなをあけたのに、なぜ、ごみ箱に捨てないで、外にポイ捨てするのだろうか？とってもじゅんすいなぎもんです。ぼくはこうやるよ！私はこうしたい！というクリーン大作戦をしたにこにこクラブのみんなが、大人になった時は、ポイ捨てしないだろうと思います。

みんながごみを拾って町をきれいにする行動は、本当にすばらしいです。でも、ごみを捨てる人がいるかぎり、捨てる人と拾う人のきょうそうになって、なかなか町はきれいにならないかも知れません。だからこそ、みんなは町の人がごみをすてないようにするには、どうしたら良いかを考えたのですね。



にこにこクラブ 壁新聞のタイトル:町のクリーン大作戦

地球を真ん中にして、みんなが一人一人、こうしたい、こうしましょう、などのぼく、私のメッセージとかわいらしい自分の顔、すがたを切りぬいてはってくれました。これはみんなの気持ちと壬生町をきれいにしたいといういいよを示していると思います。いいですねー！ぼくたちが、私たちがが考えているよ！やろうとしているよ！ということが一目で分かります。

小さい小学4年生のぼくたち、私たちでもできることを一生けん命考え、実行したにこにこクラブのみんなに拍手をたくさんしたいです。パチパチパチパチ……

来年のかべ新聞で壬生町がきれいになりました、という報告があることを期待しています。すこしでもきれいになればバンザイ！ですね。

とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★

みんながごみ拾いをして気がついたことがありました。

その一つは、草むらの中にごみが多いということは、見えないところにごみを捨てるのですね。人は、きれいな所にはごみを捨てるのは勇気がいるようです。したがって、ごみが捨てられないように草ぼうぼうのところがないようにする、あるいは、ごみが多く捨てられるところを重点的にみんなで毎日、ごみ拾いをしていつもきれいにしておくのは、どうでしょうか？そして、そこにかんばんを立てて、「毎日、私たちがごみをひろっています」と書いて、みんながごみを拾っている写真をはって、がんばっているようすを見せると良いと思います。

二つめは、ごみを捨ててはいけませんというかんばんがあるのに、ごみが捨てられている。どうしてだろう？森の中にはごみが多い。どうしてだろう？その理由の一つは、自動車から投げ捨てられたごみのようです。自動車からごみを捨てないようにするにはどうしたら良いだろうか？みんなの力だけではむずかしいかな？道路に大きなかんばんやたれ幕を張って、「壬生町はごみゼロ運動をやっています。ごみを捨てないで持ち帰ってください」ということばをみなさんの字で書いて、道路のそばに出したらどうでしょうか？ここにも、みんながごみを拾っている写真を大きく出したらどうでしょうか？こうするにはけいさつしや町役場の協力がないとできないでしょう。

壬生町に入る所の道路にかんばんやたれ幕、写真を出したいですね！

すまいるクラブさんへ

師範から一言――

すまいるクラブのかべ新聞「SAVE THE FUTURE」は大変すばらしい力作です。5年生 35 人全員が活動に参加して、それぞれの役割をみごとに果たしました。読みごたえのある壁新聞でした。文章がたくさんありますが、それを表現する写真もていねいにのせてあり、自分たちがやったことを知ってもらいたいとの気持ちがあふれている新聞でした。

みなさんの活動、かべ新聞のすばらしさの一つは、3 年生、4 年生の時にやったことを生かして、5 年生では何をしたら良いかを、みんなで考え、大きなテーマのもとに 3 グループに分かれて実施したことです。

すばらしさの二つ目は、大きなテーマ＝地球の未来を救い隊＝地球温暖化を防ぎたい、をめざして、ゴミ減らし隊、緑増やし隊、エネルギー守り隊の 3 つに分かれて活動して、大きなテーマ一本にまとまる活動になっていることです。

すばらしさの三つ目は、3 つのグループの横のれんけいが取れていることです。例えば、エネルギーを作る炭作りでは、緑増やし隊の北っ子の森の間ばつ材を使う、あるいはゴミ減らし隊の草木染やえんぴつ作りでは、緑増やし隊の北っ子の森の材料や間ばつ材を使うなどなどです。

今回の活動を通して、5 年生のみんなが大きく育ったことがはっきりと読み取れます。どこから読み取れるかは、その一つ、知識としてたくさんを知ったことだけではダメだ。その二つ、森の苗木を作る、間伐をする、グリーンカーテンを作る、草木染をする、えんぴつを作る、リサイクルを広める、エネルギーを作る、紙しばいを

する、ソーラークッカーをするなどの体験をして楽しただけではダメだ。そうです！地球の未来のために、そして地球温暖化を防ぐために、自分が行動しなければいけないということに気が付いたこと。それに自分一人ではダメで、たくさんの人に広めて、一人の小さい力を大きくすることが必要であると気付いたことです。このことは活動報告書の中に書いてありました。エコポエムにも書いてありました。授業の感想の中にも書いてありました。



すまいるクラブ

壁新聞のタイトル:SAVE THE FUTURE ～地球の未来を救い隊～

活動を始めるに当たって、企画書を書き、校長先生始め学校の先生方のOKをもらって、実行する。企画書を書くことは、自分たちが何を目的に、どんな活動をするか、だれがやるのか、準備する物は何か、どこと協力してやるか、などをはっきりさせることであり、この企画書が書けた時点ですでにこの活動は、60～70 パーセントは成功したと言えます。みなさんが世の中に出て、会社やいろいろな組織で活動する、自分で仕事を始める場合などでは、企画書を書くことが必要になります。その練習ができましたネ、やりましたネ、すばらしいです。学校も全面的にみんなの活動を支援しているやり方もすばらしいです。みなさん達が大きく育ってほしいという気持ちが先生方の期待であり、結果として期待通りになったと思います。

仲間をふやそう！と言うことで 1, 2 年生に地球温暖化を紙しばいで 5 年生が教えたこともすばらしいと思います。1, 2 年生にどうやってむずかしいことをやさしく教えるかが実感できたと思います。自分がちゃんとわかっていないと、やさしく、分かりやすく教えることができないことを実感できましたね。1, 2 年生は、温暖化と言う言葉は知りません、気温が上がっていることも知りません、という 1, 2 年生にどうやって教えるか、工夫したようですね。

活動報告書を読んで、ここでも感動しました。特に企画・活動を通して身についた力は何ですか？一人一人の身についた力はどれもすばらしいです。目標に向かって行動する力、みんなと協力する力、みんなをまとめる力、自分の考えを相手に伝える力、企画をする力、あきらめない力、コミュニケーションを上手に取るためにパソコンの使い方やグラフの書き方、紙に分かりやすく書く力などなど。そして、それぞれの活動結果から自然を、物を、エネルギーを、大切に作る力も身につきました。とってもすばらしい、感動しました。来年のかべ新聞を読むのがとっても楽しみにになりました。

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★……★

5 年生のみんなが次にやることは、何だろうか？一つは来年の 5 年生にみんなの経験を伝えて、来年の 5 年生も大きく育つようにアドバイスすることでしょう。二つめは、みなさんももっともっと大きく育ち、みなさんが地球の未来を救うために、自分ができることをけいぞくして実行することともっと大きく目を広げて やれることを見つけ、実行することだと思います。がんばらなくて良いです。肩の力をぬいて自分ができることを少しずつで良いですから、続けて実行しましょう。

最後に一つだけ、これだけの内容を模造紙 1 枚、1 ページにまとめるには、どうすれば良いかも考えてください。内容が豊富ですからこの内容は、10 ページくらいの報告書として一度まとめておくことが良いでしょう。そして、大事なこと、みんなが伝えたいことを報告書からぬきだして 1 枚、1 ページの新聞 にまとめるように工夫してみてください。

注意点:二酸化炭素は、CO₂(シーオーツウ)と書いて、2はO(オー)の右上には書きません。下に小さく書くのが正解です。

なんきつ子どもエコクラブ①の新聞を書いたみなさんへ

池田師範から一言――

テーマ「赤城白川で生き物調査」から新聞の内容がパツと分かり、記事もテーマに沿って書かれているので分かりやすい新聞になっています。調査している写真がはってあるので、活動のようすも分かっていいと思います。

新聞の中に調査した場所(「赤城水辺の広場」や「細井新橋下」)を書いているので、その場所を知っている人はイメージがわきますし、知らない人もどんな場所か調べるきっかけになるのでいいことです。

赤城白川の水質を、上流と下流の2か所で調べたのは、比べることができるのでおもしろいことですし、生き物のくらしを考える上でもよいことです。上流と下流では住んでいる生き物のちがい以外にどんなところがちがっていましたか？川の流れの速さ、石の大きさや形、生えている植物など生き物がくらしている環境にも注目するとおもしろいですよ。今回の調査では水質階級が上流と下流で、「きれいな水」と「少し汚い水」に分かれましたが、もしどちらも同じ「きれいな水」だとしたら、住んでいる生き物は同じかな？！

他にも、2か所調べるアイデアとしては、赤城白川の上流と他の川の上流を比較したり、赤城白川の上流だけでも草がたくさん生えている場所と生えていない場所で比較したり色々な調査ができると思います。

突然変異の黄色のナマズがいたとは、すごい生き物に出会うことができましたね！自然の中で、しかも自分たちで見つけると、感動もすごく大きかったことでしょう。水質調査では、トビケラ、カゲロウやトンボなど昆虫の幼虫に出会うことが多く、初めて出会う種類も多かったと思います。水中に暮らす生き物を調査することで、ナマズや昆虫の幼虫たちと出会えた貴重な自然体験になったと思います。

さらに、水質調査をつうじて、ゴミのないきれいな川にしようと感じたのは、大切な気持ちなので、ぜひその気持ちを行動につなげていってください。

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★……★

アメリカザリガニがたくさん見つかったのは、つかまえるのは楽しかったかもしれませんが、実は残念なことです。アメリカザリガニは名前からも分かるように、もともと日本にいなかったのですが、ウシガエルのエサとして人間がつれてきたものが逃げ出してしまい今では日本中に住みついています。何でも食べてしまうので、アメリカザリガニが増えると植物も生き物もどんどん減ってしまいます。数年前の調査と比べて、下流の生き物の種類が少なかったとしたら、アメリカザリガニが原因かもしれません。どうしたらいいでしょうね？みんなで考えてみてください。

なんきつ子どもエコクラブ

壁新聞のタイトル:なんきつエコ新聞

なんきつ子どもエコクラブ②を書いたみなさんへ

中山師範から一言――

全体をひと通り見たとき、とてもカラフルでかわいらしい印象をうけました。見出しが色紙で強調されていたり、文字も大きかったり、と読みやすいですね。また、※播種機(はしゆき)をむずかしいと思った人もいれば、思っていたよりかんたんだったという人もいて、自分自身が思ったこと、感じたことがまっすぐにこちらに伝わってきます。いろいろな意見が出るのも、実際にやってみたからこそ。自分でやってみる、これが大切ですね。菜の花プロジェクトのようすもとてもわかりやすく上手にまとめられていて、はじめてよむ人にもわかりやすい新聞になっていると思います。

※タネをまくきかいのこと

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★……★

アメリカザリガニがたくさん見つかったのは、つかまえるのは楽しかったかもしれませんが、実はざんねんなことです。アメリカザリガニは名前からも分かるように、もともと日本にいなかったのですが、ウシガエルのエサとして人間がつれてきたものが逃げ出してしまい今では日本中にすみついています。何でもたべてしまうので、アメリカザリガニがふえると植物も生き物もどんどんへってしまいます。

数年前の調査とくらべて、下流の生き物の種類が少なかったとしたら、アメリカザリガニが原因かもしれません。どうしたらいいでしょうね？みんなで考えてみてください。



スター☆クラブさんへ師範から一言

ひとつひとつの活動ごとにちがう色紙を使っていて、見た目もきれいでもみやすい新聞に仕上がっています。
それぞれにしっかりと活動内容や作り方などもかかれていて、クラブの活動を知らない人にもやっていることが理解できるようにはいりよされていて、とてもよくできている新聞だと思います。クラフトだけでなく、料理や山のぼりにも取りくんでいるようです。とても活動範囲のひろいクラブなのですね。活動の範囲がひろければ、それだけ多くの発見があるのではないのでしょうか。これからいろいろな方面で「エコ」が見つかったら、また新聞で教えてくださいね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....
★.....★

エコな活動をしていることを新聞で伝えてくれているので、それぞれの活動の記事でも「どういところがエコなのか」ということを、もっと大きく取り上げて書いてみてはどうでしょうか。たとえば「餃子」。餃子はどうしてゴミを少なく抑えることができたのですか？そこにはいろいろな工夫があったはずですね。そういう皆さんが工夫した点を、新聞を読んでいるお友だちにたくさん伝えてあげてくださいね。



群馬県沼田市 しらさわエコキッズクラブ
壁新聞のタイトル: 白エコニュース・しらエコの春夏秋冬・しらエコ尾瀬特集

10-04(県推薦1位)、10-05、10-06(3枚)

しらさわエコキッズクラブ①を書いてくれたみなさんへ

池田師範から一言

新聞全体のデザインが春夏秋冬のフルーツで粹ぐみされていて、おもしろいですね！タイトルに貼ってある「春」「夏」「秋」「冬」の色紙の色もフルーツの色に合わせてあって、よく考えているなあ、と感心します。ところで、この新聞にデザインされているフルーツは群馬県の名産ですか？ポイステかんぱんを立てることによって、白沢町がきれいになっていて良かったですね。ゴミが捨ててある場所には、次々とゴミを捨てていく人がいて、ゴミが増えてしまうことがよくあります。これ自体困ったことですが、かんぱんを立てることによって、“きれいにしよう”という意識が高まっているのでしょう。かんぱんは見てパッと分かるものがあるので、山の川の絵やゴミ箱にペットボトルを捨てている人の絵を大きく描いたのは、大成功だと思います。かんぱん作りが大変だった分、そのかんぱんを見てポイステをする人がいなくなるはずですよ。かんぱん作りの活動はもう13年も続いているようですが、これからも地域のお手本となるように、ポイステがなくなるような活動をぜひ続けてください。

はいゆを使っろうそくは、はいゆを利用することでエコでもあり、竹を使っているところがいちだんとステキです。想像しただけでも夕涼みにピッタリのろうそくですね！また作ったらイラストでどんなものができたか教えてください。

エコ活動を全国大会や県大会に限らず、発表するということはすばらしいことで、必要なことです。新聞でも“伝える”ことはできますが、直接伝えた方が相手の反応も分かりますし、エコ活動に取り組んでいる仲間と知り合うこともできます。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

1つの新聞記事の文字に何種類もの色を使っていますが、近くに描いてある絵が目立たなくなってしまいます。アピールしたいことや、大切なことを書くときに、ペンの色を変えらるともっと見やすい新聞になると思います。

はじめての文化祭では、ぼ金やそれに向けたロウソク作り、はつでんじてんしゃ等、いろいろな体験をしましたね。このような文化祭も、みんなの活動をアピールしたり、エコな活動をする仲間を増やしたりすることができます。みんなの生活で、でんきがなかったらどうしますか？きっと困る人が多いでしょう。でんきをどのような方法で作ったらいいかは、日本だけでなく世界中でいろいろな考え方があります。大切なのは、はつでんじてんしゃで体験したように、でんきを作るのは大変なので節約して使おう、という気持ちを持ち続けることだと思います。

壁新聞のタイトル: 白エコニュース・しらエコの春夏秋冬・しらエコ尾瀬特集

池田師範から一言――

ヤマナメクジは見たときにびっくりしませんでしたか？木道などの足元にいることが多く、思わず足をひっこめてしまう大きさだと思いますが、「ぬめぬめしている」と書いてあるってことは触ってみたのかな？五感をつかったよい経験です。

尾瀬だけではなく、動物や植物を持って帰らないようにという注意はよく聞きますが、尾瀬のような場所では特に「動物・植物は持ちこまない」気配りも大切になります。全国各地からたくさんの人がおとずれるようになると、その地域にもともとなかった植物がいつのまにか入りこんでしまう危険が増えます。ミズバショウやニッコウキスゲは長い年月をかけて、尾瀬に定着してきたので、それらの植物を守るためにはその植物が暮らす自然環境も守ることが大切です。



地図を描いてくれたので、尾瀬の広さが伝わってきます。その下にみんなが通った尾瀬の順路が書いてあるので、地図の中に通った道を矢印で書くともっと分かりやすくなると思います。弥四郎清水の湧水は冷たくて、とてもおいしそうですね！地図のどこの場所にあるのかな？！地図のどこにあるか分かるように書き方を工夫すると、地図がとても効果的になると思います。ミズバショウまでもがシカの被害にあっているようです。シカはアメリカザリガニやウシガエルのような外来生物ではありませんが、尾瀬にはもともといなかったようなので、長い年月をかけてできあがった尾瀬沼と尾瀬ヶ原の自然を、こわしてしまう危険があります。シカによる被害は全国的に広がっているので、いろいろな対策が考えられていますが、みなさんもうしたらいいか考えてみましょう。

壁新聞のタイトル: 白エコニュース・しらエコの春夏秋冬・しらエコ尾瀬特集

中山師範から一言――

100 枚もの看板を作るのは、たとえ手分けをして作ったとしても、とても大変だったことでしょう。まずはみなさんの努力にはくしゅをおくりたいと思います。この看板が白沢の町中にはられることで、ポイ捨て禁止の呼びかけの他にも、「しらさわエコキッズクラブ」の活動を、そこに住んでいる人に十分伝えることができたのではないのでしょうか。

クラブ内の活動もちろん重要ですが、このように外の人たちにとって目に見えるような活動をするのも大切なことですね。人々にクラブで行っていることを知ってもらうことで、他の活動ももっとしやすくなっているのではないかなと思いました。

水質調査を行うことによって、白沢川にどのような生き物がいたかがわかったと思います。その中にはどんな生き物が見つかりましたか？「きれいな川にしかない生き物」「汚れた川でも生きていける生き物」とさまざまな生き物がいたのではないのでしょうか。どんな生き物が発見できたかによって、その川の水質を知ることが出来ます。白沢川はどうでしたか？みなさんがアピールしている「写真を使わない」新聞なら、どのようにすれば、よりお友だちにつたわりやすい新聞ができるでしょうか。ぜひ考えてみてくださいね。



竹の子エコクラブさんへ
師範から一言

非常に見やすい、素晴らしいかべ新聞です！！
それぞれの活動に最初に大きい見出しを書いて、それぞれの活動の内容を書いて、最後にそれぞれの「感想」が書かれていることが一番大切ですね。この「感想」によって皆さんの思いがこのかべ新聞を読んだお友だちにじゅうぶんにつたわると思います。
こぶしの里で森のビンゴゲームや樹木ウッチング、ビオトープとやなせ川での生きもの観察で、いろいろな自然のなかまたちと会うことができ、なかよくなり、みじかなところでも今まで気づかなかった多くの発見、不思議、わくわく感や感動があったようですね。「竹の子エコクラブ」のみごとなチームワークで作られたこのかべ新聞を読んで、私もこぶしの里ややなせ川などに行きたくなりました。次回のかべ新聞を楽しみにしています。

とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★……★
こぶしの里、やなせ川とビオトープには樹木、草花、キノコ、昆虫、野鳥などのみじかな自然のなかまがたくさんいますね。
この自然のなかまが、さまざまな「ことば」で皆さんにかたりかけてきます。それは、色、におい、音、あじ、触感(さわごこち)です。
みじかな自然のなかまことを知れば知るほど、そのなかまとなかよくなることができ、いっしょにそこで生きていることを感じるができると思います。いつまでも自然のなかまを大切にしていって欲しいと思います。



MIYASHIRO エコ☆スターズさんへ
師範から一言

輝け！！エコの星 エコスタ新聞は、読みやすいなーと感じました。
なぜかな？ともう一度新聞を見て、気が付きました。黒紙をベースにイベントを張り付けてあるためです。区切りがはっきりしているの、一つ一つのイベントが引き立っています。
MIYASHIRO エコ☆スターズのみなさんの知恵にも感心しました。wood！！morning とは、倉庫で眠っている廃材を目覚めさせよう！という思いで、good morning からつけたネーミングですと言うことで、おもしろい！と昨年、私も気が付きました。今回は、地産地消の消を show に変えて地産地 show とネーミングを付けました。なかなかやるなー！このネーミングの show には、どんな意味を込めているのかな？地産地消のすばらしさを見てもらいたい、地産地消のすばらしさを show として演じてみよう、とかかな？来年はどんな工夫のネーミングが発表されるか、楽しみになりました。
エコ☆スタ新聞の3つ目のすばらしさは、メンバーの顔が輝いていることです。みんなほほえんでいて、活動を楽しんでいる。メンバーの代表の顔からは、ぜひ、MIYASHIRO エコ☆スターズに入って一緒に楽しみましょうというメッセージも読み取れますよ！そうだ！ごみ拾いをしよう！の顔は抜群にいいですねー。ごみ拾い 実施中ののぼりを持っている人の顔も、ちょっと恥ずかしめに笑っているのもいいですねー。wood！！morning の誇らしげなチーフの顔、エコポスターコンクールのやさしそうなチーフの顔、エコペインティングの「君もどう？」と語りかけているようなチーフの笑顔、みないい顔をしていますね。
エコ☆スタ Let's地産地 show cooking では、地元の野菜の良さが分かった、地元産のものを買おうと思ったなど、地産地消の良さに気付いてもらうという大目標が達成できたようで大成功ですね。説明を良く聞いて、参加者が協力して、楽しく調理ができたことは、写真からも読み取れますよ。すばらしいことです。

壁新聞のタイトル: 輝けエコの星 エコスタ新聞

次回以降のかべ新聞がさらに待ち遠しくなりました。



壁新聞のタイトル: 輝けエコの星 エコスタ新聞

宮 代町は周りには海がありませんね。海、海岸がある所では、海岸に打ち上げられたごみや貝殻を、接着剤を貼り合わせて顔や動物などを作るアートに挑戦してい るところもあります。MIYASHIRO エコ☆スターズのみなさんも、ごみ拾いをして、拾ったごみでアートを作ることに挑戦してみたらどうでしょう。作 品をそのごみが落ちていたところの看板などに展示したらおもしろいかな？

かいさんずさんへ
師範から一言

自分たちで育てた野菜や果物を、大切に残さず食べきるための工夫が「エコクッキング」としてたくさん書いてある新聞ですね。かいさんずは、この新聞にわざと写真を貼らなかつたのかなあ。それぞれの食材が、どんな料理になったのかなあ、とその様子がとても気になります。それから、ふきは冷凍してどんな料理に使ったのですか。私自身あまりふき料理を作らないので、ぜひ教えて欲しいなあ、と思いました。その他の食材についても、作り方が紹介されていると他の人もまねしてみると思いますよ。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
梅の食べきりの項目のように、保存して1年間で食べきる食材と、収穫してある程度短期間で食べきる食材(たとえばみかん?)があると思うのですが、家族で1年間どのくらいの野菜と果物を収穫して、どのくらいの期間で「食べきった」のだろうというきょうみがわいてきました。「かいさんず」のお野菜や果物の自給率はどのくらいですか? それから、この新聞にのせた食材の採れた時期(旬)と食べ終えた時期を知りたかったなあ。自給率やとれた野菜や果物の季節など調べて、「かいさんず」オリジナルのデータやカレンダーにまとめてぜひ新聞で公開してくださいね。



めく森 エコクラブさんへ
師範から一言

「ヘチマのグリーンカーテン」の研究レポートは、へちまの種を植えてから育て、たわしにするまでの様子を詳しく報告できています。4コマ漫画は、読んで思わず「そうそう」とうなずいてしまいました。とりわけ、毎週日を決めて記録写真や成長記録をこつこつと残し、最後にグラフにまとめることができました。以前私も琉球朝顔(りゅうきゅうあさがお)の成長を調べた時に、成長期には1日で5cm以上つるのびることがあり、少しびっくりしたことをこの研究レポートを見て思い出しました。また、観察記録を残すと、活動の振り返りをすることもできますから、来年同じグリーンカーテン活動を行うときの目安としても記録が活かされると思います。たわしの写真から推測すると10本位のたわしができたのでしょうか? たわしにした様子や実際に食器洗いなどで使った感想も知りたかったなあ。年間の活動の中で、研究テーマをひとつ決めて報告を新聞に書いてくれる方法は、クラブ全体の活動内容も分かるし、ひとつの活動についての考察が深まるので良い手法だと思います。次年度の研究テーマは何にしたのかなあ。とっても気になります。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
有機栽培で野菜を育てている活動について、ぜひ詳しく知りたいですね。めく森クラブ農園は、敷地内にあるのでしょうか。栽培にはどのようなこだわりがあるのでしょうか。そして一番気になるのは、サトウキビの栽培について。私の住んでいる京都でも育ててみるのができるのかなあ。収穫したサトウキビはどのように楽しみましたか。有機栽培についての「めく森クラブ」のとっておきの工夫を次回はぜひ報告してください。



中央エコキッズさんへ

師範からサポーターさんへ一言――

中央エコキッズのみなさん、こんにちは。

日本に、どんぐりが 22 しゅるいもあるなんて知らなかったです。マテバシイ、コナラなど、色々などんぐりがありますが、中央区には、一体何という名前のどんぐりがあるのでしょうか？それをしらべてみるのも、たのしそうですね。

それぞれ書いてくれた「環境のために私たちができること」をよむと、かんたんにできることだけど、とても大切なことばかり。お友だちやお父さん、お母さんに聞いてみても、もっと色々ないけんがでそうですね。

また、みなさんのかべ新聞をたのしみにしています。

サポーターさんへのとおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....

かべ新聞お疲れ様でした。

「どんぐり」という誰でも知っているにも関わらず、あまりくわしく知られていないテーマですね。読んでいてとても楽しく、勉強になりました。どんぐりについてもっと知りたい！と思ったので、どんぐりとは何かについて記載する、どんぐりの種類や写真を一覧にする、等、読んでいて「へえ～！」となる情報も取り入れてみてはいかがでしょうか？

どんぐりについて知るだけでなく、環境と合わせて考えている所も素晴らしいと思います。環境のために出来る事を子ども達が一生懸命考えている姿が目に見えます。各々が環境について学び、感じ、考える。ぜひ、そんな時間をこれからも大切にしていってください。



こどもエコ広場新宿さんへ

師範からサポーターさんへ一言――

こどもエコ広場新宿のみなさん、こんにちは。

いろいろなエコな活動が1枚の新聞になっていて、読んでいてわくわくしました。たくさんのことが書いてあるので、全部読めるかな…と少し不安にもなりましたが、イラストや写真を使っているので、あっという間に読み終わりました。かべ新聞の作り方がとても上手ですね。

1年間に、こんなにたくさんの活動をしているこどもエコ広場のみなさんが うらやましいです。

ぜひまた、どんな活動をしたのか、かべ新聞にまとめて教えてくださいね！

サポーターさんへのとおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....

かべ新聞お疲れ様でした。

田舎とは違い、たくさん建物に囲まれている新宿に住む子ども達が環境のことを考えられる良い活動が多くありますね。地球温暖化などの環境問題が深刻となってきている現在、とても大切な働きですね。

こどもエコ広場のみなさんのかべ新聞は、とても見やすく工夫されていてとても良いと思いました。より良くするために、次回は、第三者の「かべ新聞をみる人」が得をするような情報や、すぐに取り組めるような手順を加えてみてはいかがでしょうか。



赤羽北児童館さんへ
師範からサポーターさんへ一言――
赤羽北児童館のみなさん、こんにちは。
ペットボトルだけで、こんなに何通りものリサイクルが出来ることに驚きました。ペットボトルも絞染めも、楽しく工作してしかもエコ！一石二鳥ですね。さらに、工作をして終わりではなく、実際にお祭りで使用したり、植木鉢としてアサガオを育てたり…きちんと実用していてエコが徹底されていますね。（すてずに使うことも、大切なエコ活動ですよ！）色ペンや写真を使うことで、読みやすく、見やすいかべ新聞になっていますね。また、おもしろい活動をかべ新聞で見られるのを楽しみにしています！

サポーターさんへのとっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....
かべ新聞お疲れ様でした。
日常生活の中で出来るエコについてまとめられており、私も是非やってみようと思えるかべ新聞でした。そのため、作り方や材料が簡単に記載されているとより良くなると思いました。
さらに、児童館を利用している親子が対象との事ですので、保護者の方向けに工作時のアドバイスや豆知識なども記載してみたいかがでしょうか。



おうめこどもエコクラブさんへ
師範からサポーターさんへ一言――
青梅産の大豆、とってもおいしそうですね！しかもそれは「地産地消」なので、省エネルギー！非常に環境にいい活動をする事が出来ましたね。
機会があったら、ぜひ食べてみたいなあと思いました。
私は、大好きな枝豆や納豆が、大豆と同じ豆だったと初めて知った時は、とてもおどろきました。
それだけでなく、しょうゆやみそにも加工されている事を考えると、私たちは毎日のように大豆由来のもの口にいっているような気がします。
私たちの生活が大豆に支えられている、という食べ物へのありがたみにも気が付ける点も良いですね！
このような身近な事をテーマにするのは実感が得やすいので、読んだ人にもメッセージが伝わるものだと思います。
読んだ人がどんな気持ちになるかを考えながら、今後もよい活動をして、いかべ新聞を作ってください。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....
大豆を育てた以外にも、環境に関するさまざまな活動を体験していますね。
これらひとつひとつを読むと、どれもとても意味のある内容だと感じますが、大豆の記事に比べると少し目を引きにくいような印象を受けます。
それだけに、この意味のある体験の事も、もっともっと多くの人に見てもらい、知ってもらえる工夫がしてあると、さらに充実した内容のかべ新聞になったのかなと感じました。
畑作を一年間続けている中で、多くの発見だけでなく、一緒に力を合わせて大豆を育てた仲間や、育て方を教えてくれる人など、多くの人とのつながりも生まれた事と思います。
そうやってたくさんの人を巻き込んでいくと、エコな取り組みや意識がどんどん広がっていきますよね。
ぜひこれからも、家族や友だちなど、まわりをまき込んで活動を続けていってほしいと思います！

リトル・キャッツ・アイさんへ

師範からサポーターさんへ一言――

いろいろなジャンルの記事がのっていて、とても楽しい内容ですね。

特に、家の中にハクセキレイが飛び込んできたとは！すごく貴重な体験でしたね！一人で完成させたという事です、レイアウトや文字も丁寧に作られていて、読みやすくて良いかべ新聞だなという印象を受けました。

一人でもこれだけ深い内容に仕上がっているのは、昨年まで取り組んできた分の力が、しっかり身に付いているんですね。

来年の活動の参考に少しでもなれば嬉しいのですが、私は荒川の稚アユの遡上を見に行った事があります。

小さな体で流れに逆らいながら力強く泳ぐ、たくさんのアユの姿に感動しました。そしてその小さなアユのために魚道を作ってから、遡上するアユの数がとても増えたそうです。

多摩川を調べた時は、その辺りもぜひ調べてみてください。

今後も様々なトピックスの面白さを、かべ新聞で多くの人に伝えてくれる事を期待しています！



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....

自然環境や環境問題など、身の回りの環境という物は日々変化しています。

今後も一人か、新しいメンバーが増えるかはわかりませんが、その時々に合わせて形で、これからも環境に関する活動を継続していきましょう。

年数を重ねたからこそ気付いた変化などがあれば、それを追究する価値がきっとあります。

積極的にイベントに参加したり、自宅で出来る事も行っているようなので、年齢的にもまだまだ多くの事を吸収してゆくと思います。

これからも、内容の濃いかべ新聞の新刊を楽しみにしています。

神奈川県横浜市 港南台自然観察クラブ・クロロ

壁新聞のタイトル:団地の生きものさがし ことし一番 2014

14-01

港南台自然観察クラブ クロロさんへ

師範から一言――

クロロたんじょう 20 年目おめでとう！クロロはずいぶん長いあいだ自然観察をやってきたんだね。すばらしいことですね。

今までの自然観察会でみなさんのお兄さんやお姉さんたちはどのような発見やふしぎをたいけんしたか知りたくなりました。でも、みなさんのかべ新聞での「今年一番」のいろいろな発見やふしぎがあったので、とてもわくわくしました。

くつつき虫のはりがまがっているわけは、動物の毛や人間の服にくっいたらおちないようにして、はりといっしょのたねを遠くに運んでもらい、そこでくつつき虫のたねの子どもたちがそだつようにしているのです。

くわの葉がなぜいろいろなかたちがあるかは、りゆうはわかっていないので、ふしぎだね。プロペラのたねがとぶりゆうは、風にプロペラがうまくのってこれれば、くつつき虫と同じように、そのたねがとぶりとび、その子どもたちがいろいろなところでそだつようにしているのです。

ドングリの中にドングリゾウムシがいます。いろいろなドングリがあり、スダジイやマテバシイのドングリはなまでも食べられるけど、コナラやクヌギのドングリはとてにがいの味だと思うよ。つぎのかべ新聞でどのような発見やふしぎがあったか楽しみにしています。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....

20 年間の自然観察のきろくがとてあれば、そのはっぴょうかいをきかくしてはどうでしょうか。

20 年間の木、草花、こん虫、鳥たちどのようにかわったか知ることができて、いなくなったいきものや少なくなったいきものが、そのりゆうをしらべて、これからどのようにこれらのいきものといっしょにつきあっていかなければならないかみなさんで考えてほしいと思います。

また、こん虫や鳥がいるところにはかならずいみがあることを、つぎのかべ新聞にくわしくせつめいしてくれれば、ほかのお友だちにとってもものすごく勉強になると思います。

のじま自然観察探見隊さんへ
師範から一言――

のじま自然観察探見隊のみなさん、いろいろな探検報告ありがとう！どの探検もわくわくして楽しかったようすがかべ新聞で読めました。
野島海岸のアマモ場はたくさんの海のいきものにとって、とてもたいせつなところなので、これからもずーっとまわりの人たちといっしょにアマモをまもってって、たくさんの魚がいきていけるようにがんばってほしいと思います。
沖縄の久米島のきれいな海でいろいろな魚を見ながらおよげてよかったね。また戸隠には緑ゆたかな自然があるから、そばをしょうかくできて、おいしいおそばを食べることができたんだね。みなさんがこのようにすばらしい探検を楽しめたことで自然をたいせつにしなければならないことがわかってくれたと思います。
こどもエコクラブ交流会でいろいろなお友だちに会って、どのような活動をしているかを知ることができたことは、とてもいいいけんをしたと思います。きっとほかのお友だちも、みなさんの活動を知って勉強になったと思うよ。これからも「身近な自然を探検！」をつづけてほしいと思います。楽しみにしているよ。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
いろいろな探検の写真があると、みなさんの活動をもっとせんできて、ほかのお友だちもよりわかりやすかったかなと思います。
つぎのかべ新聞では、みなさんの活動の写真を見たいな。また、野島のアマモ場の活動のことをもっとくわしくほうこくしてほしいと思います。

神奈川県藤沢市 大鰐児童館こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル: ①エコハート新聞 ②大鰐児童館エコクラブしんぶん ③藤沢エコクラブ新聞
05 推薦

14-03 推薦、14-04、14-

大鰐児童館こどもエコクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

エコの気持ちをもって活動していこうという思いをこめたエコハート新聞を楽しく読ませてもらいました。この新聞には5月から11月までのエコに関する活動きろくが書かれているので、十分にみなさんのエコの気持ちが出ていると思いますよ。
メダカは絶滅危惧種(ぜつめつきぐしゅ)なので、大切にしなければなりませんね。
みなさんが住んでいる藤沢市内では、メダカが絶滅(ぜつめつ)したと言われていましたが、ある所でメダカが発見されて、それをふじさわメダカとなづけられたそうですね。グリーンウォーターのことを教えてくれた古武さんはそのふじさわメダカをふやすための活動をしている人でしょうか。
和紙や紙すきの見本をかべ新聞にはりつけたことは、それらがどのようなものか読者にわかりやすいすばらしいアイデアだと思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
川の水と池の水をくらべて、川の水がなぜきれいだったのかというりゆうを調査して書いてほしかったなと思います。
水道局またはせんもんの人にそうだといいかも知れませんね。これからどちらがきれいだったかというりゆうを記録すれば、しょうらい川や池の水をきれいにする方法が見つかると思うよ。
次のエコハート新聞では、ふじさわメダカをふやしたり、育てたりする活動の報告をきたいしていますよ。



大鋸児童館こどもエコクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

いろいろなエコにかんする活動のすばらしいかべ新聞ありがとう。これだけのたくさんのエコ活動をりっぱにできたことは、お友だちとのおたがいの強いチームワークがあったからでたんだね。身近な川や池の水についてこまかくしらべたんだね。どのようなところがむずかしかったのかな。どのようなところがくろうしたのかな。ますます知りたくなりました。でもみんな楽しくやれたことが一番いいことです。みなさんが住んでいる近くで絶滅危惧種(ぜつめつきぐしゅ)の藤沢メダカが発見されたことは大きなニュースですね。「藤沢めだかの学校をつくる会」で藤沢メダカを大切にしようとしてほしいです。牛乳パックからはがきができるなんておどろきです。エコ活動のめんから、大切なしげんを「さいりよう」することはこれからもずっと続けていってほしいと思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
みなさんが生活している中で水は一番大切なもののひとつです。その水をせっかくみなさんがいろいろな方法でくろうして水をしらべてくれたので、次のエコクラブしんぶんでは、ていきてきにしらべたけつかと、もしよごれていたならば、どのようにしたらその水がきれいになるかななどのほうこくしてほしいと思います。また、ふじさわメダカをふやしたり、育てたりする活動の報告をきたいしていますよ。たいへんだと思うけど、おうえんしているよ。



大鋸児童館こどもエコクラブ③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

「おんべ公園の水質調査」と「藤沢メダカを救え」のすばらしい記事を読んで感動しました。
このエコクラブ新聞を読んでくれたお友だちにとって、4年間もかけた川と水の水質調査表が見やすく、わかりやすく、とても貴重なすばらしいデータです！！そして「これを改善する方法を考えてみてください。」と、絶滅危惧種である藤沢メダカを見本にして、「メダカや絶滅危惧種の動物を救うのは僕たちなのです。どのようにしたら助けられるかを考えてみてください。」とエコクラブ新聞の読者に問いかけることはとてもすばらしいアイデアだと思います。読者と一緒になって、とても大切な水資源ことや絶滅危惧種の保護のことをしんけんに考えていこうとする「思い」が十分に伝わってくる新聞です。
また、エコの面から、昔の暮らし工作でうちわや紙すきのことを勉強できたことは、現代の便利な暮らしとくらべることができて、とても大切な体験をしたと思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
水資源や絶滅危惧種に関するエコクラブ新聞の読者への問いかけが、どのような結果になったかとても気になります。
読者の意見などをどのようにしたら見られて、みなさんがそれらをどのように回答して、どのような行動をとったのか知りたくなりました。次回のエコクラブ新聞で見れることを楽しみにしています。



引地川水とみどりの会こどもエコクラブさんへ

師範から一言――

引地川水とみどりの会こどもエコクラブの「ポスター形式」のかべ新聞は、みんながいろいろとぎろんして、来場者に分かりやすいようにしたようですが、その通りに一目で見て、何をやっているか？どんな成果＝ごみがあったか？などなど、とても分かりやすいポスター＝かべ新聞になっていますよ。

このポスター形式のかべ新聞をみていると、うれしいこともたくさん見つけました。クラブのみんなが一斉けんめいにごみひろいをやっています。自分がすてたごみではないのに、まじめに冷たい水にも負けずに、ごみを拾っていました。すばらしいです。また、みんなのごみ拾いを手伝ってくれる人もたくさんいました。ライオンズクラブの人たちが、中高生の人たちも、栃木県まじこ町の人たちも手伝ってくれ、みんなをはげましてくれたようです。

生き物もいましたね。かにがいたようですが、もっとほかの生き物もいたと思います。生き物がいる川、たくさんいる川は生きている川ですね。

ビーチクリーンのごみの種類は、川のごみとちよつとちがっているように思いますね。タバコのすいげらや発泡スチロールが多かったとのこと。ビニール袋や電気のコードもあったとのこと。軽いごみばかりですね。川から流れてきたのでしょうか。そうです、川のごみを少なくすれば、海のごみは少なくなるはずですね。道路の軽いごみが風に飛ばされて川に落ちて、流れて海にまで来たのかな？そんなことを考えると、みんながやっている道路のごみ拾いがとても大事なことであることが分かりますね。

でも海のごみには、外国から流れてきたごみも多いようです。ごみに書いてある文字などを調べると日本語ではない字が見つかると思います。海をきれいにするには、世界の国がみんな協力することがとても大事です。どこの国の文字が多いかを調べると、ごみの発生源である国が分かるでしょう。川のごみもそうですが、海のごみで海の生き物がとても困っています。ビニール袋は海に浮いていると、カメがえさのクラゲとまちがえて、ビニール袋を食べようとするようです。ビニール袋がのどにつまってしまいます。にもつをしばるプラスチックのひもも軽いので、陸上で捨てられたのが、海に流れて来て、オットセイなどの口にはまってしまい、やっぱりエサを食べられなくなってしまうようです。つりをした時にすてられた釣り糸は、海鳥の足やはねにからみついて、飛べなくなったりして、困っています。

川でつりをした時も同じようなことが起こると思います。

ごみがたくさんあると川や道路や海がきたなくなるだけでなく、水がきたなくなり、水の生き物が住めなくなったり、ごみがからみついてエサを食べられなくなって死んでしまう、など大きなえいきょうがあります。みなさんの活動はとても大事なことです。

最後になりましたが、あらためてみんながやっているごみ拾いの写真を見ると、本当に頭が下がる思いです。とても大切なことをしっかりとまじめにやっている！！拍手！拍手！です。



引地川水とみどりの会こどもエコクラブ 壁新聞のタイトル: 引地川Clean戦隊ゴーレンジャー 2014

とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★……★

みなさんのクラブのりっぱなところは、環境活動の中で“ごみ”にまとをしぼって、川、道路、海のごみひろいを1年間に10回～12回もやっていることです。活動しているみんなも“ごみ”に注目しているので、分かりやすい活動になっているのではないかと思います。

と言うのは、ごみの種類や量(数)を良く見ることで、なぜ、こんなごみが落ちているのだろうか？どこから来たのだろうか？を考えながら、そして、ごみを通して、川と道路と海のつながりも考えるきっかけになると思います。たった一つのごみでも、なぜここにあるのか？どこから来たのか？どうしてこのごみがあるのか？などいろいろと考えることができます。

みなさんのクラブがやっていることはたんじゅんなことかも知れませんが、大和市の、神奈川県、そして日本、外国のごみを考えるとっても良いテーマになっていると思います。ぜひ、そのような話し合いまで進めていって、いつかそんなことをまとめたかべ新聞も作ってくれれば大変うれしいと思います。

大和川の水の中はとてもきれいです。電気のケーブルやバイクの部品のようなもの、自転車もありました。iPhoneもカーナビもあったのは、ビックリですね。空き缶がたくさんありました。今の家庭の中、世の中を見ると、電気製品がいっぱい、街中にはのみものの自動はんばいきがどこにでもあります。一人一人がiPhoneを持っている世の中です。自動車も増えているので自転車はいらないのかな？なんて考えてしまいます。ごみは世の中のようにそのまま反映していますね。でもとても高価なものも捨ててあるのは、どうしてだろうか？まちがって落としたのかな？今の世の中は、物があふれて、大事にする気持ちが少なくなったのかな？みんなはどんなことを考えましたか？

これからもぜひ、続けてください。さらに生き物の調査をしたり、ごみから見た道路と川と海の間隔を調べるのも大変おもしろいと思います。たとえば、道路のごみが川を流れて、どのくらいいったら海に流れ着くのでしょうか？

ビーチクリーンで拾ったごみや貝殻を接着剤でくっつけて、人の顔を作ったり、動物や置物などのアート作りをしているところもあります。みんなもごみを調べたり、拾ったりしたごみなどを上手に使う活動もしたら、楽しいのではないのでしょうか？

高岡保育園エコクラブさんへ
師範からサポーターさんへ一言――
グリーンカーテンと聞くと、アサガオやキュウリといった印象が強かったの
で、ゴーヤというのがちょっと意外でした。そういえばゴーヤといえば健康に
いい食物として知られていますが、「ニガウリ」と言われるようにちょっと苦い
ですね。収穫した後、園児のみなさんは食べられましたか？
園児の皆さんが一生懸命水やりをして、育てたゴーヤを楽しそうに収穫して
いる様子がとてもほほえましい写真がのっていますね。思わずこちらも笑顔
になってしまいました。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
エコカーテンが涼しいという声や、ゴーヤがたくさんできたといった感想が貼
ってありますね。実際にゴーヤづくりを行った人たちの感想をもっと新聞にの
せてみてください。たとえば、ゴーヤの世話はどうだったか、食べてみてどう
だったか、今度はどうしたいか、などなど。そういった作った人のありのまま
の声をのせることで、もっといきいきとした気持ちの伝わる新聞ができと思
います。



エコぱとクラブさんへ
師範からサポーターさんへ一言――
エコカーテンがとてもりっぱに育った 8 月の気温表を見ると、日によっては 2
度も差が出ているのですね。かなり効果があることがわかります。暑い中、み
なさんがあきらめずに世話をし続けた結果、りっぱなカーテンができあがった
のですね。
カーテンができあがって、ゴーヤがなったとき、みなさんもきっと感動したことで
しょう。その気持ちを忘れないでくださいね。集合写真のみなさんの顔はとても
輝いています。そのことで、とてもすてきな新聞になっていますね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
園児のみなさんの笑顔の写真、水やりをしている活動の様子写真、などたく
さんの写真が貼られていて、とても楽しい新聞にしあがっています。
グリーンカーテンを作ってみてどうだったか等、園児のみなさんの感想が書か
れていると、みなさんの声が聞こえるよりいきいきとした新聞になると思いま
す。次回はその点を考えてみてくださいね。次も期待して待っています。



ちくばエコキッズさんへ
師範からサポーターさんへ一言――
ゴーヤだけでなく、アサガオも一緒に植えたのですね。園舎の屋根まで伸びたグリーンカーテンは、下から見上げるととても大きく見えたことでしょう。グリーンカーテンの他にも、田植え体験をしたり、梅干しづくりをしたりと、1年間を通してたくさんの活動をしましたね。どれもみなさんにとっていい思い出になったのではないのでしょうか。緑いっぱいの保育園の様子もよく伝わってきます。暑い夏もすずしく過ごすことができたのではないかと思います。とても涼やかな印象を受けました。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....
温度表では、グリーンカーテンがあるかないかで気温の差がかなりあったことが表されています。ところで、実際にグリーンカーテンの活動を行った園児のみなさんはどう感じたのでしょうか？ また、ゴーヤを食べてみてどうでしたか？ そういった、実際にやってみたら「どうだった」「どう思った」「どう感じた」という一人ひとりの感想をのせることで、より園児のみなさんの声が届く新聞になると思います。次回の新聞ではその点、期待したいと思います。



よっさエコクラブさんへ
師範から一言――
みなさん、こんにちは！ みんな、とってもいいえがおですね。
そして、そのみんなのかおよりもおおきなゴーヤが、そだちましたね。
はっぱもたくさんはえていて、これはグリーンカーテンとしても、かなりりっぱです！
りっぱにそだったのは、きっとみんなでいっしょに、おみずをあげたり、ちゃんとお世話をしたからだとおもいます。
このように、ほかのおともだちとちからをあわせること、やりはじめたことをちゃんとつづけることは、とてもたいせつなことですね！
とてもよくできた、かべしんぶんをみせてくれて、どうもありがとう！

サポーターへのとっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....
本当に、立派なゴーヤのグリーンカーテンが出来ていて、園児のみなさんや先生方の努力を感じます。
今回の活動を通して、多くの学びと経験があったと思います。
そして可能であれば、リサイクルに関する活動にも取り組まれているようですので、次回はそれに関する写真や報告が見てみたいなと思いました。



だいいちエコクラブさんへ
師範から一言

みんなでがんばって、たくさんゴーヤをそだてることができましたね。
それは、とても素晴らしいことです！
わらったり、おどろいたりしているゴーヤたちのいろんなひょうじょうが、すてきですね！
もしかしたら、ゴーヤをそだてているときのみんなも、こんなふうにならったりおどろいたりしたことがあったんじゃないかな？
そのときのきもちをわすれずに、これからもいろんなことにきょうみをもってください。
そして、たのしみながらエコについてかんがえてみてくださいね！

サポーターさんへのおきゴシドウ★……★……★……★……
子どもたちの写真や、ゴーヤたちの表情がとてにぎやかで楽しいかべ新聞ですね！
幼稚園やご家庭で食べたというゴーヤの味やその有り難みを、子どもたちはきっとこれからもたびたび思い出してくれる事でしょう。
そして苗を植えるところから収穫までやりとげた事は、子どもたちだけでなく、周りのサポートしていた方々も大きな達成感があったのではないのでしょうか。
室温を記録するなど、ゴーヤのグリーンカーテンとしての働きにも注目されていますが、グリーンカーテン無しの室温の方が低い結果も見受けられます。
グリーンカーテンの位置や密度など、本来と逆の結果になった要因が何かあるのかもしれない。
次回は子どもたちにもグリーンカーテンの効果をさらに感じさせられるように、より効果が見込めそうな条件下で育ててみて下さい。



伏木スマイル♥エコクラブさんへ
師範から一言

ゴーヤがおおきくそだってよかったですね！
みんなでそだてたゴーヤは、おいしかったですか？
じぶんたちでそだてたたべものは、いつもよりおいしかったり、いつもよりたいせつなきもちになりますよね！
ゴーヤがつくってくれてひかげであそんだら、きもちよさそうですね。
これからは、ゴーヤをそだてたみなさんがせんせいになって、たくさんのおとにたのしさや、エコなことをおしえてあげてください！

サポーターさんへのおきゴシドウ★……★……★……★……
★……
ゴーヤが大きく育った写真が見事です！
目の前にあったらかなり迫力がありそうで、子どもたちやみなさんの努力を感じます。
グリーンカーテンの効果も顕著に表れていますね！
ただ窓辺に作るだけでは効果があまり得られない場合もあるので、この結果は本当に素晴らしい事だと思います。
全国には、富山県より暑い地域も多くあります。
みなさんの有意義な活動とその結果を全国に広める意味でも、また新しいかべ新聞を見させて頂ける事を期待しています。



エコじょうず！かクラブさんへ

師範からサポーターさんへ一言――

集合写真の下に絵は切り張りで作ったのでしょうか？随分力が入っていますね。緑色から黄色までいろいろなゴーヤがあって、よく観察していますね。特に絵の中にある子供たちの表情がすばらしいと思います。

このタイトルもごろ合わせで楽しく作っている姿が見えるようです。

集合写真のまんなかにはゴーヤの大きなグリーンカーテンがのっています。みんなの背の高さの倍以上あるのは、よほど育て方がうまいのでしょうね。18人のみんなが力を合せて水やりをしてくれたのかな、いろいろなことを思い出してくれるグリーンカーテンになりましたね。是非、この保育園の伝統にして下さいね。8月の気温を棒グラフでまとめることも簡単にやり遂げていますね。それで部屋の中の温度が少しだけ下がった(涼しくなった)ことをみつめています。これでみんな気温をさげることにきがつきましたので、さあ、来年もグリーンカーテンで涼しく過ごしましょう。

サポーターへのおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....

応募用紙にはみんなで水やりをしてゴーヤを育てたことやゴーヤをおうちへもってかえて食べたり、ゴーヤチップスをみんなで食べたことなどがかかれています。保育園児でもここまで科学の姿を崩さずに、室内の気温の変化を記録したり、植物を大切にすることを学ぶことができるのだと感動して拝見しました。

今後はおうちの人たちとの連絡帳を使って、毎日の観察の中から自分が感動したことや気付いたことを書いて、おうちの人にも伝えてほしいと思いました。



ふたがみグリーンキッズさんへ

師範からサポーターさんへ一言――

タイトルは「グリーンカーテンで夏をすずしく！！」と長いタイトルがついていますが、上の段の写真には「グリーンカーテン成長の記録」を見ると、ずいぶん大きなゴーヤのカーテンが写真からはみ出そうになっています。ツクリモンのコメントが全部自筆で書かれてあり、25人の園児にとってはきっと大変な作業だったのではと想像しています。

とてもよくできたコラージュで、よくまとまっていると思いました。また、グリーンカーテンを作ったところとつくっていないところで気温がどのくらいさがったか、調べてグラフにしています。また、応募用紙にはこうしてとれたゴーヤを使って佃煮、ゴーヤチップス、ゴーヤ茶を作り、みんなで味わったということで、たねまきから収穫まで連続したゴーヤの観察をしています。サポーターからのメッセージにも、毎日の成長をみるのは子どもにとっても、職員にとってもうれしいことで、楽しい雰囲気につつまれたと書かれています。とても価値のある体験をされたと思い、心の中があたたかくなりましたよ。

サポーターさんへのおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....

こどもたちの表情がとても楽しそうですね。この写真だけでもすばらしいと思います。でも、みんなでできたゴーヤを味わったのですから、その感想も忘れずに書いておきたいですね。

もうすこし大きくなったら、身近な自然の中にどんな変化があったか、日記を書くように記録することにとりくんでみましょう。たとえば、ゴーヤのたねまきをした日、初めて芽が出た日、その日の気温など記録しておくことはたくさんありますね。科学はこんなささやかな記録からはじまるのです。さあ、みんなで挑戦してみましょう。



中央なかよしグリーンクラブさんへ

師範からサポーターさんへ一言――

5月と6月の写真でゴーヤの大きさを比べると、あまりにも大きさがちがうのでゴーヤの成長のはやさにびっくりしますね！5月と6月の写真は何日間たっているのか知りたくりますので、写真をとった日付まで分かるともつといいと思います。写真の吹き出しからは、子供たちがゴーヤと触れ合いながら育てて、どんなことを感じていたのかが伝わってくるのでいいアイデアです。8月の写真にも吹き出しがあった方が、写真だけよりも子供たちの生き生きとした様子が伝わるでしょう。

集合写真の子供たちはゴーヤをもって、みんなとてもいい表情をしています。ゴーヤを大切にそうにもち、顔をすりよせている様子を見ると、自分たちが育てたゴーヤに愛着をもっていることが分かります。

新聞の左下の写真とコメントの構図は、ネットにからまって成長したゴーヤのブツブツの実と葉っぱで構成されていて見事です！子供たちの感想を子供たちの字で書いてあると、もっと生の声としてアピールできると思います。グリーンカーテンはぜひ、今年も続けてください。万葉線の車窓から見えるグリーンカーテンの写真も機会があればぜひ見たいです。

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★……★

新聞の中にも、応募用紙のこどもたちからのメッセージにある「ブツブツしていきゅうりみたい」「長ーいゴーヤ、丸いゴーヤ」といったゴーヤの形に関する“声”も書いてあると、子供たちが触れたり、見たりして五感でどんなことを感じとったかが分かりやすくなります。新聞の左下にある写真はゴーヤの形に切り取られています、長くてブツブツだったり、丸くてブツブツになったりしているの、その形は子供たちが感じとったこととつながると思います。

「おんどのきろくひょう」をみると、グリーンカーテンのあるのとないの、平均1℃くらいちがうようですが、日によってはちがいがなかったり、グリーンカーテンのある場所の方が温度が高い日があったりするようですね。お日さまがゴーヤにあたる向きや、温度をはかっている場所にもよると思うので、「なぜかな？」って考えてみるのも楽しいと思います。



国吉光徳保育園エコレンジャーさんへ

師範からサポーターさんへ一言――

左下に描いてある色々な形のゴーヤが、とても印象的な新聞です。表面がボコボコしているようすや、そのボコボコは同じ大きさではなく色々あることをよく観察していますね。ゴーヤを描くときに何種類もの緑を使って色を塗り分けていることも、じっくり観察しているからこそだと思います。絵からもゴーヤを大切に育てた気持ちが伝わってきます。

ゴーヤの成長とお世話している子供たちのようすが、毎月(5月、6月、7月、8月)の写真からよく分かります。6月でもう子供たちの背をこえているので、ゴーヤの成長は早いですね！写真をとった日付まで書いてあるともつといいと思います。そして、写真の吹き出しがあると、子供たちがゴーヤと触れ合ってどんなことを言っていたのか、感じていたのかが伝わってくるので、7月、8月の写真でも子供たちはどんなことを感じたのか知りたくります。

グリーンカーテンを通して、エコに対する意識が高まり、地域のゴミ拾い活動をされたようですね。気付きからアクションにつながった素晴らしい活動です。まずはゴーヤといった食べることができる野菜に興味をもったことがよいきっかけになったのだと思います。これからもそのアクションが継続的に実施されることを期待しています。

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★……★

「おんどのきろくひょう」を見ると、グリーンカーテンのあるのとないのでは温度が大きく異なることが分かります。でも、ほとんどの日で“グリーンカーテンあり”の方が温度が高くなってしまっているの、シールが赤と青で逆ということはありませんか？

ゴーヤの感想を見ると、①水やりをがんばったこと、②グリーンカーテンで涼しかったこと、③食べておいしかったこと、が分かります。

グリーンカーテンで涼しくなったのは、大きく成長したゴーヤが日差しをさえぎってくれたことだけでなく、毎日がんばったあげた水をゴーヤが吸い上げて葉っぱから出しているからです。今度ゴーヤが成長してきたら、葉っぱにビニールをかぶせて30分くらいおいて見て下さい。ビニールの中には何がつかでしょう？

おいしい野菜や果物を育てるというのは、エコ活動を続ける“やる気”につながりますね。是非今年も続けてください。





ゴーヤのみがいくつくらいできたかのかんさつや、どんなところがたいへんだったかのほうくがあればもっとよかったとおもいます。らいねんは、としたのおともだちにもぜひグリーンカーテンのことをおしえてほしいとおもいます(^-^)

といでエコレンジャーさんへ
師範から一言――

といでエコレンジャーズのみなさん、グリーンカーテンのほうこくありがとう(●^o^●)
5がつから8がつまでみなさんががんばったようすがしゃしんからよくわかりましたよ。
8がつにほほまいにち、グリーンカーテンでどのくらいすずしくなったかのおんどをきろくしてくれてありがとう。このすずしくなったことがみなさんのからだでかんじることができたかな。グリーンカーテンのおかげで、エアコンのでんきをすくなくつかったことになるね \(\^o\^)(\^o\^)/
また、「ゴーヤといっしょにおおきくなったよ」では、たくさんのしゃしんから、ゴーヤのりょうり、ゴーヤがみなさんよりせがたかくなったこと、ゴーヤのおおきさなどがたいへんよくわかりました (*´▽`*)
つぎはどんなエコにちょうせんしたかのかべしんぶんをわくわくしてまっているよ (^。^)v.。●○

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★……
グリーンカーテンのどんなところがたいへんだったかのほうこくがあればもっとよかったとおもいます。
らいねんは、としたのおともだちにもぜひグリーカーテンのことをおしえてほしいとおもいます(^ー^)



おおたはまっこクラブさんへ
師範から一言――

おおたはまっこクラブのみなさん、グリーンカーテンのほうこくありがとう(●^o^●)
5がつから8がつまでみなさんががんばったようすがしゃしんからよくわかりましたよ。
8がつにほほまいにち、グリーンカーテン でどのくらい すずしく なったかの おんどをきろくしてくれて
ありがとう \(\^o\^)(\^o\^)/
グリーンカーテンがあるところのおんどが、ないところのおんどがたかいひがあることにきがつきました。ゴーヤのはっぱがすくなかったのがげんいんかもしれないね。ゴーヤのみずやりはたいへんだったかな。グリーンカーテンでへやがすずしくなったことがわかってよかったね。ゴーヤはなつにつかれたからだをげんきにしてくれて、えいようたっぷりなので、いっぱいたべられたらいいね。
(*´▽`*) つぎはどんなエコにちょうせんしたかのかべしんぶんをわくわくしてまっているよ (^。^)v.。●○

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★……
らいねんは、8がつのまいにちがグリーンカーテンがあるところのおんどが、ないところよりひくくなるように、らいねんはおともだちといっしょにべんきょうして、くふうしましょう。そうすれば、エアコンのでんきをすくなくつかい、エコになるよね。
また、らいねんは、としたのおともだちにもぜひグリーカーテンのことをおしえてほしいとおもいます(^ー^)



グリーンエコキッズ by 戸出西部さんへ

師範からサポーターさんへ言――

ゴーヤでグリーンカーテンをつくるようすが、とってもわかりやすく、まとめられました。しゃしんをみると、ゴーヤがおおきくなって、おともだちよりたかくなったことがわかりました。それから、ゴーヤがまどをおおってくれたので、へやがすずしくなりましたね。1ばん かんしんしたのは、グリーンカーテンがあるへやと、グリーンカーテンがないへやの、おんどを、しらべたことです。二つのへやをくらべたので、ちがいがよくわかりました。それから、まいにち、わすれずにおんどをしらべることもできました。ゴーヤのえをかいいたり、そだてたゴーヤをたべたりしたことも、たのしいおもいでですね。ゴーヤをたべてみると、ちょっとにがかったかもしれませんが、すばらしいけいけんができたとおもいます。ゴーヤをそだてながら、“エコ”ということが、わかりましたね。これからも、いろいろなことに、とりくんでみてください。

サポーターへのおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....

年間を通して“エコ”を意識しながら、様々な活動に取り組む様子が見て取れました。グリーンカーテンのある部屋とない部屋の温度を、子ども達と毎日調べた保育士の皆さんも、緑の葉の威力を感じ取ったのではないのでしょうか。ゴーヤのスケッチをすること、そしてゴーヤを食べてしまうことなども、子ども達にとっては貴重な体験だと感じました。運動会などの行事も、“エコ”をテーマに取り組みました。ちょっとした工夫で、エコを意識させることができ、“目から鱗”と感じました。保育園の年間を通した全体取り組みに共感です。壁新聞のまとめ方は、高岡市の保育園で統一されているようですね。それぞれの見出しにひと工夫あると、よりアピール度がアップすると思われます。例えば、「グリーンカーテン成長の記録」を、「園児より大きくなったグリーンカーテン」のように内容を示すと、子ども達とゴーヤの関係をよりリアルの表現できます。今回は、各園での創意工夫を期待しています。



富山県高岡市 たてほクラブ ECOーズ

壁新聞のタイトル: 16-16 幼児

たてほクラブ ECOーズさんへ

師範からサポーターさんへ言――

ゴーヤのなえをうえたり、ゴーヤがだんだん大きくなったりするようすが、とてもよくわかりました。おともだちのしんちょうより、ゴーヤはおおきくなるのですね。ゴーヤがおおきくなって、カーテンのようになると、へやがすずしくなりましたね。それから、ゴーヤのみをたくさんとることもできましたね。いったん、きいろになりかけたゴーヤに、ひりょうをたくさんあげて、げんきにさせたことも、すばらしいとおもいました。たくさんとれたゴーヤのみは、いろいろなりようりになりました。チャンプルをたべたことはありませんが、てんぶらやおちゃんにしてたべたことはありません。とてもおいしそうで、たべてみたくなりました。おともだちは、ゴーヤをらべてみると、ちょっとにがかったようですね。でも、みんなでそだてたゴーヤなので、とてもおいしかったとおもいます。ゴーヤが、カーテンとおなじようなはたらきをすることが、わかりましたね。これからも、いろいろなことにとりくんでください。

サポーターさんへのおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....

グリーン・カーテンづくりに挑戦した夏でした。子供たちと共にゴーヤを育てる様子が、手に取るように分かりました。グリーン・カーテンのある部屋とない部屋の温度を、子ども達と毎日調べました。毎日の気温を測り続けるのは、意外に大変ですね。ご苦労を察します。室温の様子を見ると、時にグリーン・カーテンのある部屋のほうが、気温が高い場合があります。ゴーヤの繁茂の状況なのか、気温を測定した条件なのか、その原因を特定することは難しいと思われますが、次回チャレンジする課題が見つかったと思います。ゴーヤでいろいろな料理をつくりました。子どもたちも、さぞかし喜んだと思います。苦いと感じた子が大半だったと思われますが、自分で作った食べ物を自分で食べるのは、大人でも楽しいことですね。ゴーヤの天ぷらを食してみたくなりました。子どもたちの感想をたくさん記述している箇所があり、活動の様子が分かりました。壁新聞のまとめ方は、高岡市の保育園で統一されているようですが、見出しなどひと工夫ほしいものです。子ども達の生き生きとした活動を表すような、キャッチコピーが掲載できるといいですね。



つばたグリーンクラブさんへ

師範からサポーターさんへ一言

いろいろなエコのかつどうが、まとめられていますね！みなさんで力を合わせてし
らべたという事が感じられます。

野菜をそだてるのはたいへんな時もあるけど、その分、食べた時はおいしかったでしょうね。

ちかくの場所で行われているエコな活動をしらべた事も、良い学びになったのではないのでしょうか。

分別やエコマーク、グリーンカーテンなど、ふだんの生活でも出来そうなものを取り上げている点も良いですね。たくさんしらべたエコの中で、楽しいと思ったものを、ぜひうちでもやってみてください。

そして、やってみてどう思ったかをかべ新聞にして、他のみなさんにまた教えてあげてください。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★

本当に、いろいろなエコのかつどうをしらべる事が出来ましたね。

その中で1つ、次はもっとしらべてみてほしいと思った事がありました。

それは、エコマーク！

たくさんの方が知っている、有名なエコマークがいっぱいしらべてありましたね。実は世の中には、もっともっとおもしろいエコマークが、まだまだたくさんあります。みなさんは一度エコマークの事をしらべたので、きっと他のマークにも気付けると思います。

他の人たちにあまり知られていないようなエコマークをしらべて、またかべ新聞で伝えてほしいです。



石川県津幡町 刈安小さくらチーム

壁新聞のタイトル: 野菜カルタ新聞

17-02

刈安小さくらチームさんへ

師範からサポーターさんへ一言

とっっってもおもしろい新聞ですね！

カルタにすれば、みんなで楽しみながら野菜のことを学べるので、そのアイデアもすばらしい！また、季節と色で野菜を分ける工夫もしてあって、読みやすくまとめられている良い新聞ですね。

野菜の大きさ、色、形、特ちょうなどがカルタの一つ一つに書かれている事から、よくかんさつをしていた事が伝わってきます。きっと、だいぶ野菜にくわしくなれた事でしょう。

この他にも、かべ新聞にはのせきれないほど、多くの発見があったのではないのでしょうか。

自分たちで野菜を育てて、野菜を好きになって、野菜とお友だちになったみなさん。これからも、どんどん多くの野菜と仲良くなっていてくださいね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

今回の活動では、育てる、観察する、記録する、料理する、など様々な体験をしましたね。

終わってみて、他の野菜も育ててみたいと思いましたか？もしそう思ったなら、次はちがう野菜にもチャレンジしてほしいです。またたくさんの新しい発見があるんじゃないでしょうか！

みなさんで野菜カルタをやっている写真がありますが、やってみてどうでしたか？

よくできたカルタなので、やった人の感想も書いてあると、もっとカルタのおもしろさが伝わるとと思いますよ！

次のかべ新聞も期待しています！



坂口エコメイトさんへ

師範から一言一

坂口地区にはコウノトリが飛んでくるのですか。東京に住んでいる僕からすると、とてもうらやましいものです。でも、そこにすむようになるには、とてもたくさんのエサとなる生き物が必要なですね。

動物がすめるようになるにはまず食物が必要になります。食物がなければずっとすむのは難しいと考え、そのことに気づいて実際に調べてみた「行動力」、これがなんといってもすばらしく思えました。

調べてみたら、まだコウノトリがすむにはエサのドジョウの数が少ないようです。どうしたらドジョウがもっと増えるでしょうか？ 次はその方法を考えて教えてください。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

コウノトリがすむためには食物が必要だとわかりました。エサとなるドジョウはどうすれば増えるでしょうか？

たとえばドジョウをスーパー等で買ってきて放すという方法も考えられますが、最近では外国産のカラドジョウがドジョウという名前で売られていることもあります。コウノトリを保護するためとはいえ、外来種を放してしまうのは坂口地区の生態系を考えてもよろしくありませんね。やはり、今いるドジョウを増やす方向で考えるのが一番だと思われます。

では、ドジョウはどのような環境を好み、そしてどのように繁殖して増えるのか？ たとえ増えてもコウノトリに全部食べられてしまったら、次の年にはいなくなってしまいますね。ドジョウは、どれだけいれば、コウノトリに食べられても数を減らさないで次の年も食物となるでしょうか？ それだけの数にドジョウを増やすにはどのような場所を作ればいいのでしょうか？ いろいろ考えてぜひコウノトリのすむ坂口地区を目指してください。



山梨県甲府市 和泉エコクラブ

壁新聞のタイトル: 富士山のふもとでちょこっとエコ

19-01

和泉エコクラブさんへ

師範から一言一

和泉エコクラブのみなさん、こんにちは！

みんなのたくさんの活動のようすがギッシリつまったかべ新聞をありがとう。
ずいぶんいろいろな活動をしているのですね。感心しました。ちぎった紙で作った
富士山のまわりに活動を写真やイラスト、文章を組み合わせてしめしていて、
わかりやすくできています。ひまわりや蝶やお城を貼りつけたり、活動を書いた
丸い色紙が新聞をかこんでいます。みんなが協力して作り上げた感じがよく伝
わってきました。

みんなのまわりには、ゆたかな自然がたくさんありますね。国蝶のオオムラサキ観察や真夏のひまわり畑、昇仙峡へのウォーキング、松本城見学などずいぶん屋外活動を熱心に行っています。体もじょうぶになることでしょう。松本城でポストカードを書くのもいいですね。だんだん手紙を書く習かんが少なくなっているの、よい体験になりますね。

みんなの活動場所である保育園の草取りや学校の帰り道のゴミ拾いで自分の身の回りをきれいにすることは、きっと周りの人たちから感謝されていると思いますよ。ゴミが落ちているとどんな気持ちになりますか。みんながゴミを捨てないようにするといいですね。老人ホームではどんなお手伝いをしましたか。お年寄りの笑顔を見るとうれしくなりますね。きっと、みんなが来てくれるのを楽しみに待っていますよ。

手作りおやつは、夏野菜のトマト、ピーマン、なす、きゅうりがとれるときは、“やさいのおやつ”を食べますね。冷やしたトマトは最高でしょう。野菜がとれない冬は、みんなの料理のうでくらべですね。たこ焼き、ホットケーキ、クレープ・・・作るときと食べる時とどっちが楽しいですか。写真には男の子が見えないけど、たり袋や包そう紙がごみになってしまいますからね。



壁新聞のタイトル:富士山のふもとでちょっとエコ

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

☆☆サポーターの方へ☆☆

和泉エコクラブが、今後も地域の方々から受け入れられ、子どもたちの活動がますます発展していくことを希望します。子どもたちのためにも、持続可能な社会を目指して、がんばりましょう。

壁新聞のタイトル: 高富中学校生物部 (Gyobu)

こどもエコクラブ大賞 21-01

師範から一言一

一つ一つの記事の内容が簡潔に書いてあるので、写真や図でみなさんが何を言いたいのかもよく分かります。鳥羽川の調査で発見した生き物を全部写真に撮り、一つの記事の中に魚は？貝は？微生物は？花は？虫は？をまとめて紹介しています。一生懸命に写真を撮り、一つの記事の中に入れたので、一つ一つは小さくて見難いですが、こんなにたくさんの生き物がいますよ。種類も見分けています。数も調べています。そして簡潔な説明文で読者に気がついて欲しいことが書いてあります。とってもすばらしいです。







清水イオンチアーズクラブ

壁新聞のタイトル:①皮むき間伐の効果 ②冬の森と太陽の関係 ③自然のめぐみいっぱいの西伊豆・松崎

イオン清水チアーズクラブ②の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

この新聞は、素晴らしい内容の記事があふれていますが、特に静岡の問題として、竹が増えすぎることが書かれているところがいいと思います。それが書かれていることによって他の記事とのつながりをきょうみぶかく読むことができます。

写真を見ると、竹林がとても暗いことが分かります。竹に限らず地面に日光がとどかなくなった森からは植物や生き物がへってしまいます。竹をくだいた粉でたい肥を作るのは初めて聞きましたが、「なるほど」と思いました。粉さいきで竹をくだくことができますが、竹はかたいのでくだくのはかなり大変なさぎょうです。ところで、竹を切って山から運ぶのと木を切って山から運ぶのはどちらが大変だと思いますか？竹は軽くて運ぶのが楽に感じますが、中が空っぽな竹はかさばって一度にたくさん運べないので、車で運ぶ場合はガソリンをたくさん使ってしまうことになります。「まとめ」にも、静岡での竹についての感想が書いてありますね。全国的に竹は問題になっているので、このような新聞でお互いを知り、いい利用方法を参考にしながら日本中で取り組めるといいと思います。竹の利用は全国的にこころみられているので調べてみるとおもしろいですよ。

バームクーヘンづくりは楽しいし、美味しい私も大好きです。スギの葉を使って火をつけたのですね。記事にはあたりまえのように書いてありますが、スギの葉は油分を多く含んでいるので火おこしするのにあるととても助かります。ふだんの生活ではマッチで火をつけることもないので、マッチを使ったのもいい経験だと思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

「なぜ緑に見えるの？」という記事は、セロファンを使うと分かりやすいです。葉っぱには初めから緑色(これが葉緑体です)と黄色が重なっているのので、2色のセロファンを重ねてみてください。そして秋や冬になると緑色が消えるので、緑色のセロファンをとります。その黄色の状態が秋の「黄葉」です。そして葉っぱが落ちそうになると葉っぱで作られたえいようの行くところがなくなり、赤色に変化して「紅葉」になります。黄色と赤色のセロファンを重ねるとオレンジ色になるので、なぜオレンジ色に見える葉っぱがあるのかも分かりやすいと思います。

「めぐる森の力」は、日本の森(特に人が植えた木)をこれからどうするかという大事な内容です。今の日本は世界的にも森林の割合が多い国ですが、日本の森にある木をあまり使わないできてしまいました。すぐに利用できる成長した木が今はたくさんあるので、成長した木を使って、苗を植えるというサイクルをつづけていきたいものです。



清水イオンチアーズクラブ

壁新聞のタイトル:①皮むき間伐の効果 ②冬の森と太陽の関係 ③自然のめぐみいっぱいの西伊豆・松崎

イオン清水チアーズクラブ③の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

カヤックをこぎながら、きれいな海とその海で泳ぐエイを見たなんて、とてもきょうなたいけんをしましたね！「まとめ」をみても伊豆のキレイな海とそこにいる魚のこと、そして山と海のつながりが心に残ったことが分かります。山と海がつながっていることを感じてくれたことは、大切な気づきだと思います。海にゴミをすてないだけでなく、森も大切にしないと生き物がたくさんいるキレイな海にはならないということです。気付いてくれたように、森と海は水でつながっているので、森の土じょうにしみこんで川から流れてきた水はミネラルをたくさんふくんでいます。山の天然水とかミネラルウォーターをお店でも売っているのを見たことがあると思います。そのミネラルで海のプランクトンが育ち、プランクトンを食べる貝や魚たちで海がにぎわいます。じびきあみではたくさんの魚がとれて良かったですね！海のめぐみに感じながら、おいしく魚をいただくことも大切です。しょくたくに並ぶ食べものは、はじめからお店にあるわけではないので、自然の中で見たり食べたり聞いたりするけいけんを通して、生き物や自然に感じやすさを持つてくると思います。

かつおぶしをけずるたいけんも楽しそうですね。けずりたてのかつおぶしの香りを新聞でかげないのが残念です。かつおぶしをけずっているときに、きっと香ばしい匂いがただよっていたのではないかと思います。五感をつかった体験をどんどんしてください。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

地図があるので、西伊豆のどの辺りかが分かってよいアイデアです。カヤックやかつおぶしをけずるたいけんをしている写真もあるので、新聞をみていてその様子がよく伝わってきます。

いくつかの写真にはそのまわりに何をしているところか説明がありますが、説明がない写真もあるので、その写真で何を伝えたいのかを一言でいいので書いてくれると、もっと分かりやすい新聞になると思います。例えば、左上すみにある風景はどこの写真か地図にしるしをつけたり、カネサ商店さんの新聞記事の写真で何をしているところか書いたりといった工夫です。

三島本町チアーズクラブ ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

日本とドイツ、フランス、ブラジルの4つの国々にぐにの電気エネルギーの比較ひかくを取り上げ、自然しぜん再生さいせいエネルギーの利用りようを勧すすめています。とくにドイツやフランスの対照的たいしようにてきなエネルギー政策さいさくを取り上げてみようとした意識いしきは優すぐれています。
難むずかしい問題ですが、正面から取り組み、円えんグラフなどを使って理解りかいを深める工夫くふうがみられたのも素晴すばらしい方法ほうほうだと思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....
応募おうぼ用紙ようしのクラブ紹介しょうかいに「三島梅花藻(ミシマバイカモ)」の保護ほご育成いくせいをおこなっていると書かかれていて、初はじめてかべ新聞にこれがとり上げられた意味みを理解りかいしました。
エネルギー問題もんだい、バイカモ、地球ちきゅうにやさしい料理りょうりの三つの柱はしら「資源しげんの大切たいせつさを考えよう」につながっていることに気がつかされました。多少たしょう組くみ合わせがちがっていても、環境かんきょうという受け皿で論議ろんぎをすると、いろいろな側面そくめんから物事ものごとを理解りかいすることが大切だということに気がつくと思います。このような考え方もあるということをも身近みぢかな人にも教えてあげましょう。



三島本町チアーズクラブ
壁新聞のタイトル:発電エネルギー新聞～資源の大切さを考えよう～

三島本町チアーズクラブ ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

タイトルは「資源しげんの大切さを考えよう 未来のために 地球ちきゅうにやさしいクッキング」と長いタイトルがついているが、上の段だんには①ガスを大切にしよう、②水を大切にすくってよごさないようにしよう、③生なまごみをださないようにしよう、の3の目標もくひょうが書かかれてあり、これ単独たんどくでもすてきなキャッチフレーズだと思います。さらに、ドライカレー、さくらえびのスープ、しらたまだんごを実際じっさいに作って、どのような工夫が効果的こうかてきだったか、それをまとめた主張しゅちょうとして「地球ちきゅうのことを考えて買かい物もの・料理りょうり・片かたづけをすることなんだ」と書しょかれていています。直接的ちよくせつてきですが、とてもわかりやすい主張しゅちょうと思いました。
下段げだんでは地域ちいきに根ねざした溶岩ようがん染ぞめ、茶ちゃんかけが紹介しょうかいされています。地域ちいき性せいのあるテーマでまとめているのは、その地域ちいきを深く理解りかいするためには重要じゅうようなことで素晴すばらしいことです。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....
上段じょうだんのクッキングにおける3つの大切さはよく理解りかいできるのですが、やはり下段げだんの2つ、溶岩ようがん染ぞめと茶ちゃんかけだけは唐突とうとつな感かんじがしました。おそらく「資源しげんの大切たいせつさをかんがえるため」の例題れいだいとして、子どもたちが取り組とくんでいるバイカモの保全ほぜん活動かつどうなどから広ひろがって、地下水ちかすいをたくわえる三島みしまジオサイトと絶滅ぜつめつて危惧きぐ種しゅのミシマバイカモが紹介しょうかいされているということですね。地球ちきゅうにやさしいクッキングでは、なにがポイントとなるか説明せつめいがありますが、この後段こうだんの二つの重要性じゅうようせいについては、もっといねいな説明せつめいがほしいと思いました。

三島市 環境探偵団 ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言—————

シカのつのは見つけたのは運がいいですね！感想をみるとおどろいた子もいたようですが、シカのつのは毎年ぬけて生えかわります。ぬけてから生えはじめは、“つ”というよりふくろをかぶっていて先もとがいていません。それが秋にむけてのびていくと、ふくろがやぶれて、とがったつのはになっていきます。毎年ぬけてしまうものののに、何のために役に立っているのか考えてみてください。

いろいろな種類キノコに出会ったのですね。キノコはどこに生えていましたか？土の上ですか、それとも木についていましたか？キノコは植物や動物を分解して土にもどすということでも大切なやくわりをしています。かれた木に多くついているのは、それを分解するためです。歩きにくいほど木がたおれていたようなので、きのこもたくさん生えていたのかもしれない。昆虫から生えているキノコもあるのですよ。キノコを見つけたら、どこに生えているかを、ぜひかんさつしてみてください。たくさん生えていた花はともてくさかったようですが、きゅう覚を使ったよい体験ができたと思います。図かんをみても、においまでは体験できません。キイチゴの甘ずっぱさは自然のめぐみです。この味覚を使った体験も自然の中でしかできないことです。自然の中ではぜひ五感(きゅう覚、味覚、し覚、ちょう覚、しよ覚)を使って楽しんでください。

源兵衛川の水はとうめいでとてもきれいですね！赤い石が水をきれいにしてくれるとはおもしろいです。おそらく小さなあながたくさんあいている石なのかな？！ミシマバイカモがたくさんあるようなところにも、その赤い石はあるのでしょうか？絶めつきぐ種になってしまっているミシマバイカモを守るには、そのかんきょうも守ることが大切です。ぜひこの川がきれいであり続けるように活動をつづけてください。

とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★……★

富士山のパンフレットのようなものと、登山に必要な装備、源兵衛川の説明の切りぬきがはってありますが、パンフレットや切り抜きは他の人の写真や記事になってしまいますので、みんなの字で書いてくれると、もっとよい新聞になると思います。

サワガニはきれいな川のめじるしになる生きものの1つです。夏にはおなかに卵や子ガニをかかえたメスが見つかるかもしれませんよ。

生きものをつかまえたら、ぜひじっくりかんさつしてみてください。ハサミもふくめると、あしの数は何本でしたか？エビやザリガニも見つけたらあしの数をかぞえてみましょう。



三島市環境探偵団 壁新聞のタイトル:環境探偵団 活動報告

三島市 環境探偵団 ②の新聞を書いたみなさんへ
岡本師範から一言—————

環境探偵団2班のみなさんは、三島の自然に触れよう、自然エネルギーを体験しよう、と言う2つの大きな活動の結果をかべ新聞にまとめてくれました。

三島の自然に触れようでは、げんべい川に入って水生生物のかんさつをしました。夏休みにやったのでしょう。気持ちよさそうに、あみでとったり、とった生き物を何だろう？と一生けんめいに見ています。せせらぎルートを歩きました。バイカモを見て、雷井戸を見て、楽寿園のボコボコのような岩の道を気をつけながら歩きました。

自然エネルギー体験では、電気自動車にのったり、自転車発電を体験したり、ソーラークッキングでおいしいものを作りました。水素と酸素の燃料電池で車を動かしたり、木炭とアルミで電池を作り、豆電球を光らせました。地球にやさしいエネルギーたいけんをしたのですね。

自然エネルギーの体験ということで、電気自動車にのったのですね。今、街の中を走っているガソリンエンジン自動車とくらべると、とっても静かだったと思えます。電気自動車だけが走っている将来の街を想像してみるとおもしろいと思います。タイヤの音は、するでしょうが、街はとっても静かになります。そうするとふだん気がつかない音が気になるのではないのでしょうか？街の中で音がたくさん出ているのは、どこだろう？パチンコ屋さん、そして学校みんなの声も聞こえるかな？そんなことも考えてみるとおもしろいと思います。ただし、電気自動車の音がしないので、後ろから自動車が近づいても気がつかないので、かえってあぶないとのことで、何か音楽や音を出すようにするとの話もあります。

自転車発電の体験もしたようですね。ふだん、家庭で使っている電気を自分で作ってみようとする意外に大変だと分かりましたか？今の自転車はLEDランプを使い、乾電池などで明るくなり、じゅみょうも長いので、今回のようにペダルをこいで、発電する機会は少なくなったかな？くるくるまわすと電気が作れることが分かりましたか？火力発電、風力発電、水力発電、原子力発電、地熱発電などみんな、この原理、ちょっとむずかしいですが、コイル(電線をぐるぐるまいたもの)の中でじしゃくをまわすと電気が発生します、発電ができるのです。

この原理ではない発電方式として、みんなが体験したのが、水素と酸素で発電する燃料電池、木炭とアルミで発電する電池です。太陽のエネルギーで発電することもできます。街の中に屋根に太陽パネルを置いている家があると思います。これで電気を作ることができます。みんなは、太陽の熱でクッキングすることを体験しましたね。さいがいで電気が止まった時などとても力強い味方ですね。今回は何を作ったのですか？ほかほかでおいしかったとのことですが、焼いもかな？焼きじゃがいもかな？クッキーを作ったのかな？



三島市環境探偵団

燃料電池の車も売られています。みなさんが大きくなった時には、電気自動車や燃料電池車など、空気をよごさない、音が出ない自動車が走り回っていると思います。すみ(木炭)とアルミで電気を起こせる実験もしたのですね。豆 電球だと木炭とアルミの電池を3つくらいつなげると明るくなります。LEDランプやオルゴールを鳴らす場合は、木炭とアルミの電池が1ケでもだいじょうぶですよ。ごみの分別もエネルギーを少なく使い、地球温暖化を少なくするために、大切なことです。

みんなが一人一人、自分ができることを少しで良いですから、続けるようにするとすばらしいと思います。

地球にはいろいろな生き物がたくさんいます。生き物と人間がいっしょにすめる自然がある地球にしていきたいですね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

げんべい川はとてもきれいなようですが、水生生物はどんな種類の生物がいたのですか？あみでとって観察したのでしょうか。水生生物の種類で水のきれいさ、きたなさが分かると、写真で生物の種類がはってありますが、げんべい川には何がいたのだろうか？見つけた生物の種類と数で水のきれいさ、きたなさが分かります。観察した結果をまとめることもだいじですよ。とてもきれいということなので、魚はヤマメがいたのかな？虫ではカワゲラ、トンボやカゲロウの幼虫がいたのかな？サワガニやヘビトンボもいたのかな？名前が分からないときは、写真にとって後で調べると良いと思います。

せせらぎルートを歩き、雷井戸も見ましたが、写真で見てもどうなっている井戸か、ちょっと分かりません。説明を書いてくれるとうれしいです。楽寿園のよう岩は、富士山のばくはつ時のよう岩なのだろうか？縄状溶岩と書いてあるので、とてもきちょうなよう岩なのだと思います。どこの山のよう岩か？いつばくはつしたのか？などを書いてくれると良かったと思います。

今回のかべ新聞に出ているエネルギーでは、太陽の熱でクッキングしたのが、自然エネルギーです。電気自動車、燃料電池車、木炭とアルミの電池は自然エネルギーではありませんが、新聞には出ていないが、みなさんは風力発電所を見学したようで、風力発電は自然エネルギーですね。みなさんが大きくなった時に地球温暖化を少しでも弱めるためには、石炭や石油、天然ガスで発電する割合をへらして、自然エネルギーで発電する割合をふやすことが大事だと思います。みなさんがエネルギーの勉強をしたのは、とても大事なことです。もっともっと勉強してエネルギーをどうやって作ったらよいか？エネルギーをむだに使わない工夫やエネルギーを少なくしてくらす方法はしたら良いか？などを考え、みんなで話し合ってみると良いと思います。

三島市環境探偵団
壁新聞のタイトル:環境探偵団 活動報告

三島市 環境探偵団 ③の新聞を書いたみなさんへ
 師範から一言――

環境探偵団 3 班のみなさんは、富士山の森をたんけんして、木、森、鳥、虫、キノコ、溶岩などいろいろな発見や気づきをしました。自然エネルギーをテーマに自転車発電の体験、竹炭電池の実験、グリーンカーテンのかんさつをしました。その結果を一人一人が書きました。まわりには写真もはって自分たちの見た物、発見したものをを見せてくれました。

富士山の森のたんけんでは、みんなが一人一人、気になったことがあったかどうかがおもしろいですね。もちろん、同じものに気がついたと思いますが、同じことは書かないで、他の人が気がつかなかったことを書くようにしたのかな？ 空が見えたかどうか分かりませんが、上を見て気がついたこと、前を見て気がついたこと、下を見て気がついたこと、目だけでなく耳で聞こえたこともありました。山の空気はおいしくてつめたかったというこで、はなで感じたこと、皮ふで感じたことなど、みなさんの五感（目、はな、耳、口、皮ふ）で感じたことがいっぱいありました。自然かんさつで一番たいせつなことは、五感をはたらかせて、自然を感じることです。みなさんの富士山の森のたんけん、かんさつは、その通りに五感を、はたらかせたすばらしい自然かんさつができています。

[illegible]

周りにってある写真もいいですねー。ちょっとした説明文がある とさらによく分かり、みんなが体験したことがもっと目に焼きつくようになると思います。写真でみんなが言いたいこと、知ってもらいたいことを書くとうれしい と思います。何も書いてないと、こうだろうとかってに想像しますが、みんなの気持ち、考えなどが知りたいと思います。

富士山と自然エネルギー新聞は、みんなで作った新聞です。さらに、読む人が分かりやすいようにまとめることも大事です。来年の新聞は、どんなことを書いて送ってくれるか楽しみです。待ってます。



三島市環境探偵団
壁新聞のタイトル:環境探偵団 活動報告

三島市 環境探偵団 ④の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

三島市環境探偵団クラブのみなさんは、源兵衛川の生き物調査、エコセンターへ行き電気自動車を見て、乗って、自転車発電を体験し、ソーラークッカーで料理をして、緑のカーテンを体験して、ごみの分別を勉強したのですね。たくさんの環境の勉強をしたのですね。ビックリすることやつかれることもやり、おいしい味や冷たいけれど気持ちの良い経験などもいろいろとやって、楽しい1年間でしたね。つかまえた生物は、観察が終わった後、にがしたのかな？あるいはすいそうに入れてみんなでめんどろを見てみるのかな？



エコセンターで電気自動車を見て、動くところも見たのでしょう。乗ってみることもやったのですか？電気自動車はとてもしずかで、そしてにさんかたんそも出さないの、地球温だん化ぼうしには、たいへん良い車だと分かりましたね。みなさんが大きくなった時には、電気自動車がまちの中を走っていると思います。たくさん走っていても、今とくらべるととてもしずかだと思いません。後ろから電気自動車が近づいて来ても気がつかないかと思いません。かえってあぶないかなということ、音を出すようにしようとしているようです。たとえば、小さい音で音楽を鳴らしたりすることも考えているようです。三島市では、ごみを集める自動車は音楽を鳴らしていませんか？私が住んでいる川崎市では、ごみを集める車は、音楽を鳴らして、“ごみを集めていますよ”と知らせています。この音は大きいので、電気自動車用には使えないかなと思いますが…。今、自動車の会社では、電気自動車以外に燃料電池自動車や水素自動車など、にさんかたんそを少なくする、あるいは出さない車を一生けんめいに開発し、みんなが買える値段にしようがんばっています。でも、電気自動車を買えば、車が動くわけではありません。どういうことだと思いませんか？電気自動車の場合は、今のガソリンスタンドのように電気を入れるスタンドがないとダメですね。ということで、環境に良い車を開発して作るだけでは、世の中に広がりません。電気を入れるスタンドがたくさんひつようです。自転車発電に乗ってじっさいにこいで発電したのですね。まっくらな中では、きょうな明かりです。家で使うだけの電気を作ろうとすると、自転車ではムリだと気がついたでしょう。

たくさんの電気を作るのは、とても大きな機械とまわすためのエネルギーがたくさんひつようだと分かりましたね。みんなができることは、何だろうか？むだな電気をつかわないことかな？自分の行動の中でむだな電気を使っているのは、どこか見つけてください。みんなができることを少しずつで良いですから、毎日続けるようにしましょう。ソーラークッカーでじゃがいもとさつまいもを食べたようですが、焼いたのかな？太陽の熱で料理ができることを体験したのですね。おいしかったですか？電気がなくても料理ができることを知りましたね。太陽は光で電気を作れるし、熱でだんぼうや料理ができる。とっても大切なものだと、あらためて気がつきましたね。

緑のカーテンは意外にエコですと書いてありますが、どうしてエコなのだろうか？温度をはかってみましたか？カーテンでひざしをさえぎると、日かげは温度が下がりますね。温度をはかって、どのくらい温度が下がるか、教えてください。ごみの分別は、みんなは毎日、ちゃんとやっているかな？チラシをはって、どういうふうにごみを分別するか、調べましたが、みんなは何を分別しているか？を報告してくれるとうれしいです。一人一人がごみを分別して、捨てたり、燃やしたりするごみを少なくし、もう一度使えるように工夫することがだいじですね。来年もみんなががんばった活動の結果を、報告してください。楽しみにしています。

静岡県富士市 愛鷹アースレンジャー
壁新聞のタイトル:活動報告

22-06

愛鷹アースレンジャーさんへ
師範から一言――

川の源流まで行くのは、それだけでとても大変だったのではないのでしょうか。写真から、水の冷たさもいっしょに伝わってくるようです。サンショウウオをたくさん捕まえたようですね。さわってみてどうでしたか？「やわらかかった」「冷たかった」「小さかった」「かわいかった」というように、たくさんの感想、感情がこの小さな生物にふれたときにわいてきたと思います。写真だけでは伝わらない情報も多かったのではないのでしょうか。次回のかべ新聞ではそこらへんも書いてくれるともっと読む人に伝わりやすくなりますよ。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
皆さんが新聞に書いているように、ハコネサンショウウオは水温の低い澄んだ川にしか生息することが出来ません。限られた地域でしか生きることが出来ないハコネサンショウウオをこれからも守っていくためには、どうしたらよいのでしょうか？皆さんが思ったこと、考えたこと、大切だと思うこと、そして今回わかったこと…などを書いたコーナーがあると、活動の意味がさらに読んだ人に伝わる新聞になると思います。

原田湧水クラブさんへ

師範から一言――

こどもエコクラブ「原田湧水クラブ」のみなさん、こんにちは！自然のあふれた新聞をありがとう。きれいな、冷たい湧水に生きる水生生物や植物について勉強になりました。富士山のふもとにあり、ゆたかな湧水の原田の自然をまもっていきたいですね。新聞の左上に富士山があり、きれいな水が右下に流れる構図は動きが感じられて、いいと思います。原田になぜ湧水がわいてくるのか、富士山の構造を分かりやすく説明してあります。水が地面の表面ではなく、地中を流れるのですね。富士山は、大きな水がめですね。すでに、10年以上クラブの活動を続けているそうですが、こしは「バイカモ」に注目して活動しました。新聞のまんなかのバイカモの大きなイラストがとても印象的です。いぼとりふどうの水をいぼにかけるといぼが取れるという言い伝えがあるあるそうですが、みんなが水を大切に使うようにさせる、昔の人の知恵だと思います。川にいる水生生物の絵がとてもうまくかけていると思います。川に生えているいろいろな草を食べてみたようですが、どの食べ方がおいしいかな？水がきれいだから、サラダが良さそう。水温が、13℃とか15℃は冷たいですね。長く水の中に入っていてだいじょうぶでしたか。でも、サワガニの赤ちゃんを見ることができて、楽しく活動しましたね。活動のようすをとった写真も効果的に使われています。説明文に使われている漢字には、ふりがながふってあり、親切です。クイズもあり、新聞を読んでもらおうという工夫が見られました。まとめのところに、地域の人にも「バイカモ」が自生していることがあまり知られていないこと、みんなに知ってもらいバイカモが咲き続けるように、ゴミを拾い続けることで湧水をまもりたいと書いてあります。地域のひとに、きょうなバイカモをもっと知ってもらうには、どんな活動をすればいいかな？このかべ新聞を読んでもらえば、分かってもらえると思いますよ。バイカモがいつまでも咲き続けるように、がんばってください。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

こし10年以上続けている滝川の水質調査をしました。

「カワゲラ」などきれいな水にしかいない生物が多くてよかった！うれしかったですね。安心しまし たか？それもみんなが川のごみを拾ったりしているからでしょう。写真でそのようすがよくわかりました。水辺の活動も、PTAのみなさんと協力しながら行え ば、安心ですね。でも、川にごみを捨てる人がいなくなれば、ごみ拾いはしなくてすみますね。みんながゴミを正しく出して、川に捨てなくなるいいですね。みんなは、ゴミ拾いをしなくても良い川にするにはどうすればよいと思いますか？一度、みんなで話しあってみてはどうですか？

原田湧水クラブ

壁新聞のタイトル:きれいな湧き水は富士山からのおくりもの

☆☆サポーターの方へ☆☆

自然の大切さや水と生き物のつながりがよく分かる新聞になっています。図や絵もじょうずに描かれていますし、説明文の文字もきれいに書かれていて、読む人への配慮が感じられます。

「今年度はバイカモに注目してきました」とありますが、ゴミ拾いや川の生き物調査に加えてバイカモに関する活動にはどのようなことがありましたか？できれ ば、そのことも新聞に書いていただければよかったと思いました。また、子どもたちも熱心に活動していることは新聞からよくわかりました。活動を通じて、こ どもたちが、気づいたこと、感じたことが生の声をもう少し新聞に載せると良いと思います。

PTAの方々から、活動へのご協力をいただけるのはいいですね。

たんぼぼなどの外来種についても調査しているようですが、外来種をどう考えるか示していただけると、良かったと思います。

静岡県富士市 伝法エコ丸隊

壁新聞のタイトル:木を大切にしよう！木で楽しもう！

22-09、22-10

師範から一言――

伝法エコ丸隊のみなさんは学校の樹木調べに取り組んでいます。今回のこの活動は、学校の樹木を調べてほしいと、学校からお願いされたことがきっかけになっているとのこと。これはやらないわけにはいきませんね。学校は、みなさんがいつも通っていてお世話になっているとても身近な場所ですから。そこにある樹木を調べる活動はとっても楽しかったと思います。たとえば、サザンカには赤と白の花があることがわかったこと。いつも見ていて、気付いているつもりでも、よくよく観察してみるとびっくりするような発見がありますね。この発見が楽しい！

年を取った大きなイチヨウの木の気根を見つけたり、樹木調査をやっていたら思わずツユムシを発見したとか。ほんとうに楽しそうです。

この、気根ですが、私は見たことがありません。皆さんの学校にあるイチヨウのような巨木に出会ったことがないからかもしれませんが、巨木でも、気根は出るものと出ないものがあるそうですよ。「おっぱい」ですか。そんなふうに呼ぶこともあるようです。古い木のある素敵な学校なのだな、と思いました。ただ調査するだけでなく、樹木で遊んでいますね。これはいいですね。クロマツの葉で引き合い勝負をしたり、ケヤキの葉を笛にしたり。私がこどものころは普通にやっていた遊びですが、この頃はこういったことができにくくなっています。クロマツの葉で首飾りを作ったりもしましたよ。学校の庭は本当に楽しい遊び場です。すてきな学校、万歳！

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

学校の樹木たち。名前がわかったことで、それらの木々とお友達になった気がしませんか？

「これからしたいこと」に校庭の木の看板作りがあります。これは大切な使命ですね。ぜひ完成させてください。

学校の樹木を増やしたいことや、木を傷つけないことを学校のみなさんにも知らせていくことなど、これからの活動の方向も決まってきました。方向を見失わず楽しみながらこれからも、学校の樹木を大切に、樹木たちと仲良くしていきましょう。



青葉台児童クラブさんへ

師範から一言一

タイトル「東芝キャリア工場見学したよ」「水質実験をしたよ」がパツと目につき、見やすいデザインになっています。タイトルの文字は折り紙の切り抜きで作ったのかな？！文字をはりつけてある“まる”や“しかく”の折り紙も文字が目立つような工夫がされていて、折り紙をうまく使ったいいアイデアだと思います。モノづくりをしている会社の中には、感想にもあるように環境のことを考えた活動をしている会社がふえてきています。環境にやさしいモノをつくったり、モノづくりに必要なエネルギーを少なくしたり、動物や植物がくらす自然を守ったりとさまざまです。しき地の中の自然でカエルを見つけたということは、カエルがくらす自然があるということです。カエルがくらす自然はどんな場所でしょうか？エサがあることと、卵を産んだりオタマジャクシが暮らしたりするための水辺が必要ですね。カエルの種類によっては山でくらすものもあるのでどんなカエルだったかしらべてみるのもおもしろいでしょう。



環境のかつどうは、体験することがとても大事ですが、それをふり返るということも同じく大事です。みんなが絵日記づくりをして発表会をしたのはいいことだと思います。自分の気付いたことを思い起こして、他の友達の考えもきちんと聞くことをくり返していきましょう。

その他の活動はごみに関する活動が多いですが、それだけ大切なことということです。日本の江戸時代はモノを大切に、多くのものをリサイクルして利用していた生活といわれていますが、今はたくさん作ってたくさんすてるという生活に変わってしまっています。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

太陽光発電システムの写真がはってありますが、これをみてどんな感想をもったかぜひ知りたいなあ。家の屋根に太陽光パネルをつけているのを見たことがあれば、それと比べてどうだったでしょう？自然のエネルギーをどのようにどれだけ利用していくかは、大人たちもいろいろ考えていますが、ぜひみんなもエネルギーにも目をむけていってほしいと思います。

PH 試験紙や COD パックテストなどはむずかしく感じたかもしれませんが、水がどんな状態か調べるときによく使う方法です。水がにごっていると汚れているように見えますが、透明でもきれいとは限らないということが分かったと思います。汚れている水に、薬品をいれたり、ちんでんさせたりして、ろかすることで水がきれいになることを実験で学べたのはよい経験をしましたね。工場排水はいろいろな方法できれいにされて、さらに本当にきれいになったかを調べて川などに流されています。

静岡県富士市 吉小わんぱくエコクラブ
壁新聞のタイトル: 吉小わんぱくエコクラブ

22-08

吉小わんぱくエコクラブさんへ

師範から一言一

「エコクラブ発足式」があったんですね。こういった始まりの会があると、いよいよ今年もエコクラブに取り組むぞ！って、元気に始められますよね、いいですね。そんなこともあってか、思った通りかべ新聞にある写真は、みんなが笑顔で楽しそうです。楽しく取り組むことは、こどもエコクラブでは何より大切にしていることです。いいですね。

大きく4つに分かれての活動でした。～エコ 昔の生活～では、昔の道具を作ったり、緑のエコグループで野菜を作り、そのための土作にも力を入れています。みみずを入れたと書かれていますね。ミミズはどうやって集めたのかな？そのあたりも興味があります。ミミズのたくさんいる土から、おいしい野菜が収穫できたのだらうなと想像しています。



エコクッキングでもたくさんの工夫がありました。野菜を捨てることなく全部使い切るための工夫として、すべて食べられるように、しんを細かくして使うようにしたり、水やガスも無駄なく上手に使うように工夫しています。何よりいいな、と思ったのは、「エコはクッキングでもできるんだ」ということに気付いたこと、そして「エコは楽しいんだ」って思ったこと。これはすごいことだと思います。やっぱり、エコに「心がけて」いるからこそ気づいたことだと思います。心がけて大事ですね。

チラシで作ったゴミ箱、私も使っていますよ。水もよく吸ってくれるし、そのまま捨てることもできていいですよ。

「エコ宣伝」、4つの活動の中で一番気になりました。エコはいいんだ、ということはどうやって知ってもらうのか、広めていくか、そこを考える時、この宣伝するということが大切なんですよ。エコ活動は一人でもできるけど、やっぱりたくさんの人に取り組んでほしい。絵本を作ったり、かみしばいやかるたを作ったり、広めるための工夫がいっぱいあっていいですね。項目として取り上げて、ちゃんと取り組んでいるということも本当に素晴らしかったです。

これからもエコのことをどんどん広めていってくださいね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

感想の中に、植物の大切さを知ったのでみんなにも育ててほしいということが書かれています。ところで、エコッキングで使った野菜はこの緑のエコグループが作った野菜を使ったのでしょうか？作った野菜を使ってクッキングができるといいですね。残った野菜くずは堆肥にして、また次の野菜作りの材料にする。そんな循環でおいしい野菜が作り続けられたらいいですね。

エコ宣伝で作ったかみしばいやかるたは使ってみましたか？ 宣伝の効果はどうだったでしょう。そんなことも報告されていると、もっと充実した内容の新聞になると思います。報告よろしく！

広見こどもパークレンジャーさんへ
師範から一言――

新聞のタイトルや見出しの文字が大きく書かれていて、何についての記事なのか
がひと目でわかりました。とても見やすく書かれていると思います。また、写真は
参加していた皆さんの写っているものだけではなく、タンポポやヒグラシの羽化の
様子など、新聞で取り上げている内容のものを使っていて、皆さんが伝えたいこ
と、見てほしいことがしっかりとよむ人に伝わる新聞になっています。
これからも広見公園の自然にたくさんふれて、そのみりよくを全国のお友だちに伝
えていってください。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
タンポポの調査をしたのですね。かぶり物をかぶったユニークな写真がはられて
いて、遊び心もあって楽しい新聞になっています。このタンポポの調査をしてみ
て、どんな発見がありましたか？ 調査が終わった後、タンポポを見つけたときに
何を思いますか？
他の記事でも、体験をしてどうだったか、何が分かったか、皆さんの声を聞かせて
くれると、より味のある、よい新聞になるとと思いますよ。



裾野チアーズクラブのみなさんへ
師範から一言――

裾野チアーズクラブのみなさんは、富士山のことについて調べてまとめてくれています。富士山が四層構造になっていること、
笠雲のこと、溶岩のことなど、イラストがあり、とてもわかりやすいですね。昔の溶岩流のあとが今もあちこち残っているようすか
ら、火山・溶岩のエネルギーのすごさを感じることができますね。
それから、富士山に降った雨がおいしい湧き水になることも調べてくれています。また、
その湧き水からできる八か所の池「忍野八海」についても紹介してくれています。富士
山は高い山というだけでなく、水資源も豊かにあるのですね。世界遺産になって、これ
からも観光客をはじめ多くの人に注目されている中、こういった富士山の豊かな資源に
ついて、多くの人に知ってもらいたいですね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
溶岩で染物ができるなんて、ビックリしました。みなさんで作ってみて、どうでしたか？
どんな色になりましたか？ 詳しく知りたいなあと思いました。
また、みなさんは実際に現場に行き見学したりしながら学習されたのだと思うので
すが、いつ、どこに行ったのか、などの活動の報告も書いてあるといいですね。他にも、
知ってビックリしたことや、面白かったことなど、みなさんの感想もそえてあると、かべ新
聞を読む人に強い印象が残りやすいと思います。
それから、富士山や湧き水という豊かな資源を大切にするために、子どもは何ができる
のか、大人は何ができるのかについて、みなさんで話し合ってみてくださいね。もし話し
合いをしたなら、こんな意見が出たよということを、かべ新聞でも紹介してほしいと思
います。
これからも、みなさんで楽しく活動を続けてくださいね！



イオン長岡チアーズクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

自分たちが住んでいる地域にあるダムに見学に行き、ダムの役割について学んだことをしっかり新聞にまとめることができました。地域の過去の水害についてや水害から身を守るために地域の人が行った行動を学び、水力発電についても学ぶことができたことが新聞記事から伝わってきます。

ダムをキーワードに、私たちの生活とダムがつながっていることをあらためて子どもたちは実感したにちがいありません。ただ、この記事からは、どこのダムに、いつ見学に行ったのか分かりません。読者のみんなにも分かるように、ぜひ、地域の情報も書き込むようにしてくださいね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

ダムに見学に行ったことを活かして、子どもたちみんなが、飲み水についてやエネルギーについてどう感じ、どのような行動をこれからとろうと思ったのか、みんなの感想や意見も一緒に書いてくれると、現地に見学に行く大切さを読者も知ることができます。

自分たちの地域にしかないものを見て、生活と自然のつながりを考えられる活動は、なかなか学校だけではできないものです。地域のお店でいつも一緒にいるお友だち以外のひとと活動が続けることはとても大切なことだと思います。これからもテーマを決めて、地域での新しい発見を見つけていって下さい。



伊豆長岡イオンチアーズクラブ
壁新聞のタイトル:ダムの役割、水車について

イオン長岡チアーズクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

この新聞は、湧き水の豊富な富士山近くの地域でだからできる活動報告がたくさんあります。自分たちでペットボトル水車の工作をして実際に川で回してみる。そして、その構造を知ったうえで実際に水車利用をしている場所に見学に出かけることができると理解が深まりますから、子どもたちは良い経験をさせてもらっていることがよく分かります。

忍野八海で見学した水車の記事は、写真から様子がよくわかり、現地に行ったことのない人にも、こんなところがあるんだと知ってもらうための良い記事ですね。写真から見ると今も現役で仕事をしているようですが、何のために水車が利用されているのかももう少し詳しく知りたかったです。

それから溶岩染めって、初めて聞きました。どんな色に染まったのか写真でははっきり見えなかったのがざんねんです。

どの活動も、参加したエコクラブのみんながどう感じたか、そのコメントも書いて他のお友達に伝えるようにしてください。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

最近では地球温暖化防止の行動として、水力エネルギー(自然エネルギー)の利用が見直されており、いろいろなところで新しい活動が生まれています。

忍野八海の水車以外にも、みんなが住んでいる地域では、地域の大人のグループなどで、水をエネルギーに変えている活動をしているところはありませんか。もしあれば、その情報もぜひかべ新聞で報告してね。

半田こどもエコクラブさんへ

師範から一言一

半田こどもエコクラブのみなさんは、春夏秋冬の季節ごとに、どんな活動をしたのかをまとめてくれています。春のタケノコほり、梅ジュース作り、生きもの観察。夏のごみ拾い、トビハゼ放流、間伐体験、流しそうめん、びわコミ会議への参加。秋のカヌー、こどもエコクラブ交流会。冬のみかん狩り、春の七草。本当にたくさんの活動をされていますね！ 豊かな自然の中で、楽しくのびのびと活動されている様子が、かべ新聞から伝わってきます。

この中で一番のニュースは「半田の干潟にトビハゼが戻ってきたこと」ですね！半田の干潟からいちど絶滅してしまったトビハゼが、また戻ってきたなんて、本当にステキです！ トビハゼの姿や巣穴を発見されたときは、みなさん本当にうれしかったですでしょう！ 毎年、干潟の清掃やトビハゼの放流の活動を続けてきた成果ですね。トビハゼが増えていくといいですね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

活動が分かりやすいたくさんの写真と一緒に、感想や意見、活動をしてどんな気持ちになったのかが書かれているので、みなさんの活動が生き生きと伝わってくる、ステキなかべ新聞です。

活動の日にちを書くと、見る人にもわかりやすく、みなさんも思い出しやすくていいと思います。

それから、もしかしたらもうすでにされているかもしれませんが、トビハゼが戻ってきたことについては、ぜひみなさんの周りの人にもぜひアピールしてほしいと思います。お知らせペーパーを作る、掲示板に貼るなど、みなさんがやりやすい方法です。

これからも、ステキな活動がんばってくださいね！



愛知県春日井市 上条小こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:いきものマップ 2014

23-02

上条小 こどもエコクラブさんへ

師範から一言一

上条小学校6年生 こどもエコクラブのみなさん、こんにちは！
みんなの作ったエコクラブ新聞を見てびっくりしました。みんなの街、春日井市のビルや住宅と植物公園の写真でしょうか、その上に、たくさんのいきもののイラストがはられている“いきものマップ”は、とてもきれいで迫力があり、アイデアに感心しました。

自然観察活動で192種類ものいきものを見つけたのですね。ひとつひとつのイラストが、そのいきものの特ちょうをよくとらえて描かれていると思いました。チョウやトンボなどの昆虫やエビや魚などの水生生物をととてもよく観察していることがわかるイラストです。また、いきもののグループごとに紙の色を変えて、新聞を見る人がわかりやすいように工夫されています。やはり黄色い紙に描かれた昆虫の数がいちばん多いですね。この活動を始めたころ、虫やは虫類類をこわいと感じる人もいたのではないかな？いまは、もう好きになりましたか？へいきでさわれますか？

庄内川と地蔵川で見つけた生き物には、番号にアンダーラインをつけて区分しています。とても親切な方法と思います。色分けは、最初に見てピンクは「鳥」だとわかりました。でもよく見ると、コウモリが混じっていました。では、空を飛ぶものがピンクかなと、考えを変えました。でも、チョウやトンボも空を飛ぶし…。でも、水にすむいきものが水色の紙に描いてあるようですし、住む場所で分けていると考えておきます。



上条小こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:いきものマップ 2014

『自然を守る 五ヶ条』には、流行語を取り入れたメッセージになっていて、みんなで楽しみながら考えたんだろうと推測しました。

いきものの名前もよく調べましたね。自然の中では、いろんないきものが競争しながら生きているわけですが、最近は絶滅してしまうものも多いのです。そういった動植物を「絶滅危惧種(ぜつめつきぐしゅ)」に指定して、絶滅しないように保護したりしていることは、みんなもよく知っていることでしょう。いろんないきものがつながって、この地球が続いていくといいですね。このことを「生物多様性の問題」といいます。地球温暖化やゴミの問題とともに、重要な環境問題です。みんなの庄内川クリーン作戦という清掃活動も、動植物の保護にとっても役立っていると思います。絶滅する理由は、気候の変動や自然災害、人間による環境汚染や開発活動などのほかに、外来種という、もともと日本にいなかった動植物がはびこってしまい、日本固有の動植物が減ったり、なくなってしまうことがあります。

庄内川には、ゴミが多かったようですね。さぞ、がっかりしたことでしょう。いままで気づかなかったそういう問題に自分で気づくことは、とても大事です。みんなの清掃活動は、立派な行動です。ゴミを川に捨てる人がいなければ、川は汚れないし、ゴミもなくなりますね。庄内川は海につながっています。川が汚れれば、海も汚れてしまいます。海に流れ込んだプラスチックをえさとまちがえて海の生きものが食べてしまうことが、実際に起きているそうです。

みんなの活動がきっかけになって、川を汚さない活動をする仲間がふえるといいですね。

みんなは自然を観察することを始めて、庄内川などの自然の中にたくさんの生きものがいることを知りました。そして、その生きものを大切にすることが生まれてきたことでしょう。それで、生きものの環境、わたしたちの環境を大切にすることを学びましたね。

もう、みんなは環境を大切にするために、毎日の生活でどんな行動をすればよいのかも理解したことでしょう。身のまわりの人、おうちの人にもみんなの活動を伝えて、エコの仲間になってもらいましょう。中学生になると、また、新しい友だちもできますね。上条小でやってきたことを、その人たちにも伝えて、活動を広げてください。

上条小こどもエコクラブ
壁新聞のタイトル:いきものマップ 2014

サポーターの方へのとおきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....

いきものマップ、すばらしいですね。イラストやいきもののリストと分類、読む人にわかりやすいような色分けなど、細かい配慮が随所に見られます。この新聞を作るには、なかなかご苦労もあったと推察します。こどもたちも楽しみながら新聞にまとめたと思います。

4年生からの積み重ねでこどもたちも成長したことでしょう。

自然観察だけではなく、緑のカーテン作り、ネイチャーゲームなどいろいろなプログラムを工夫されていることも感心いたしました。こどもたちが気づき、考 え、行動に移るようになったことも、よいご指導と思います。こどもたちのそのような変化が見えることは、サポーターにとってうれしいことではないですか。「子どもエコ検定」にも合格するなど、環境全般に関心が広がっているように思います。素晴らしいです。

こどもたちの心にも、「環境」がしっかり根付いたのではないのでしょうか。中学生になっても、続けよう、広げよう、自然をたいせつにする気持ちを、とこどもたちに伝えたいと思いました。

ゴーウイングスさんへ

師範から一言――

かべ新聞“ピカピカエコハーモニー”をありがとう。

いろんな活動をやった1年でしたね。66件も活動したんだ。すごいね！お父さん、お母さんといつも一緒に活動しているのですか？つぎに何の活動をするか、どうやって決めるのかな。お父さんが、いろいろな活動のプランを教えてくれるのでしょうか。きみたちは、自分がやってみたいことを伝えたいかな？

水質パトロール隊に入って3年目、小学校の近くを流れる扇川の水質調査、報告したら賞をとりました。がんばってよかったね。名古屋市市民モニターにも参加しました。住んでいる？緑区の水が悪くないこともわかりました。よかった！水は、生きものにとってとても大切なもの、水質調査は、川の健康診断ですね。水質パトロールで活動したことをくわしく書いてくれました。暑さの中ごくろうさまでした。水質は、あゆがすめるくらいきれいでした。河口が汚れているのであゆが登ってこないのは残念ですね。扇川は、直接、海へ流れ込むのではなくて、別の川と合流して海へ出るのではないですか。となると、河口の汚れは、合流した川が汚れているのかもしれないですね。はんいが広がるし、汚れの原因をしらべるのがたいへんです。他のパトロール隊の人たちの結果が出ると、もっといろんなことが分かるでしょう。アユが登る(そじょう:遡上 といいます)日を楽しみに活動を続けましょう。

扇川に住んでいるシラサギやカメも、みつけました。動物のためにも、きれいな扇川であってほしいですね。

名古屋市の市民モニターとしても活動してますね。6年間。みんなが小さかったときから、お父さん、お母さんが続けてきたわけですね。もう、水の取り方、検査の仕方を覚えましたが。市民が水について関心を持ってくれるようになるといいですね。写真はみんなで何をしているところかな？ちょっと、説明を書いてくれるとよかったです。



ゴーウイングス

壁新聞のタイトル:ピカピカエコハーモニー

ますの手づかみ体験は、初めてですか？食べ物を感謝して食べることはとてもいいことです。世の中が進歩しても、食べ物を作ることにはできません。お米も、野菜や果物も、肉や魚もすべて自然のめぐみです。自然を大事にしなければいけないですね。ヒメボタルを守る活動もしました。ヒメボタルは、名古屋城の外堀にいて、小さいこと、陸生であることを新聞で知りました。夜遅くですが、光るときいいでしょうね。ヒメボタルの歌もある。もっと外堀にヒメボタルがいることをPRして、外堀にごみを捨てないようにしてくれるといいね。

ESDこどもフォトコミュニケーションの全国大会にも中部ブロックを代表して参加しました。夕焼けの空に写ってしまう電線はちょっと残念ですね。空気の汚れが夕焼けの色を変えてしまうことから、排気ガスや、ゴミを燃やすことに結び付けられるのは、日頃の活動のおかげですね。たくさんの人の前で発表するのは、きんちょうしたようだけどきちょうな体験ですね。ふり返ると、ESD年は実りの多い年でしたね。ESDのゴロ合わせも、うまくできました。これからも、じぶんたちの問題として環境をとらえた活動を楽しみながら続けてください。

サポーターの方へのとおきゴンドウ★.....★.....★.....★.....

家族みんなで環境学習とエコ活動、素晴らしいですね。しかも、名古屋市水質市民モニターも愛知県水質パトロール隊への参加も長く続けていることに感心いたしました。

2014年度の活動66件を挙げておられますが、活動内容が「環境学習」「体験学習」「実践活動」「交流活動」を通じて、幅広く環境に関わっているという印象を持ちました。お子さんも一緒に活動されるのですか？

中には難しいテーマも見られますが、「エコって難しいことじゃない」「知ると楽しくなる」というお子さんのメッセージがありますから、理解が進んでいるのでしょう。

みなさんが活動されている周辺の愛知県は、環境が良い状況にあるように思います。一方、まだまだ、負の環境面が多く残っています。お子さんもゴミや排ガスについて、気づいています。その辺りから、今までと違った環境保全活動へも関心を深めさせていくことも良いのではないかと考えます。

豊明エコキッズさんへ
師範から一言――

1年間楽しく活動したことが、模造紙をめいっぱい使って表現できていると思います。「どんな内容かな」と読むのが楽しみになるかべ新聞ですね。それぞれの活動に、タイトルが目立つように書かれていて、とても良いと思います。シンプルなことですが、読む人に親切です。
水質パトロールは、7年間ずっと続けている活動のようですね。7年分の結果をグラフにしてあるのもよい工夫だと思います。ここ3年ほど数字が上がっていますね。何か理由があるのかな？ぜひ考えてみてほしいと思います。見つかった生き物をイラストで紹介していて、わかりやすいと思います。
エコクッキングや廃油作りでは、作り方がていねいに書かれているのが良いと思います。自分たちが活動するのも大事ですが、それを他の人にも広げていくのも大切なことです。みなさんのかべ新聞を読めば、他の人もすぐにエコな取り組みをすることができますね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
また、一つの活動が他の活動にもつながっているのもいいですね。野菜栽培で作ったさつまいもと、廃油石けんを使ってエコクッキングをする、というように活動の流れがあると思います。別々の日に活動していても、前の活動を思い出す機会にもなりますね。
色々な活動をしているので、ぜひ全体のまとめがあるのもっとよいと思います。活動の流れという点では、エコクッキングの水をなるべく汚さないことと、水質パトロールの活動もつなげられるかなと思うので、そういう視点でまとめを書いてみると、自分自身のふりかえりにもなると思います。



きだエコクラブさんへ
師範から一言――

きだエコクラブの皆さんは、「環境について出来ることはすべて実験する」を活動テーマにしています。今年は緑のカーテンについて実験したようですね。「みどりのカーテンなくてもすずしくなりました」は興味をひくタイトルだなと思いました。実際に部屋の温度はすだれを使った方が低くなっています(※温度を表す度は°ではなくて℃ですね)。
たしかに、緑のカーテンは世話をするのが大変かもしれませんね。秋になって枯れた後の片づけもあります。最近エコな取り組みについての情報がたくさんありますが、それについて「本当にそうかな」とか「もっと別な方法はないかな」と考えることは、とても重要なことです。皆さんの視点はとても大切だと思うので、これからも色々の実験して、考えてほしいと思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
その中で、ぜひ良い点と悪い点を両方考えて、書けるとさらに良いと思います。例えば緑のカーテンはゴーヤがとれたり、朝顔がきれいに咲いたりする楽しみもありますね。一人ひとりに合った方法を考えられるように、提案できるといいですね。
また、実験してみて、みなさん自身はどう思いましたか？応募用紙の方にはメンバーの感想が書いてありますね。たとえ一言でも、体験から得た言葉には力があります。それをみんなで書けるともっと想いが伝わるかべ新聞になると思います。



イオン四日市尾平チアーズクラブさんへ

師範から一言――

チアーズクラブのみなさんは、春、夏、秋に三滝川に入って、魚や虫などの生き物を網などでとって、生き物調査をしたのですね。とっても気持ちよかったのではないのでしょうか？

すべて転んだり、石につまづいて転んだりした人はいませんでしたか？夏の暑い時は、もっと川に入っていたいと思うこともあったでしょう。

自分たちがつかまえた魚や虫の絵を書いてくれました。自分の目で見た通りを書いてくれたね。オイカワの絵が5月、7月、10月でちがうことは、同じ人が書いたのではなくて、それぞれちがう人が書いたのでしょう。良いことですね。みんなが参加して活動していることが分かります。

魚の絵とくらべると虫やその他の生き物の絵を書くのは、むずかしかったですか？ふだん見るチャンスが少ないから、すぐに書くのはむずかしいかも知れませんが、それぞれの虫や生き物のとくちょうはよくとらえて書いてありますね。魚や虫をとっている写真を見るとみんなが真剣に、一生けんめい活動していることも分かります。サポーターの人がこの魚は〇〇だよとか何がとれたかな？と教えてくれましたね。黄色いシャツはチアーズクラブのユニフォームかな？チアーズクラブはメンバーが60人もいますので、たとえば3つのグループに分けて、三滝川の上流、中流、下流に分けて生き物調べをすると、三滝川がややきれいな川のように、とてもきれいな川あるいはとてもきたない川とくらべて生き物調べをすると三滝川の良さがよく分かんと思います。

生きものの説明をサポーターの人が書いてくれました。いくつかの生きものについて、チアーズクラブのみなさんが調べたことをみなさんが書いてくれると、いいなと思います。自分で調べて、自分が分かったことを書くことは、とても良くみんなの頭に入ると思います。

ぜひ、生き物をとるだけでなく、調べるけいけんもこどもたちがすると良いと思います。

今回のかべ新聞では「太陽と自然」を発見しようとしたと思います。太陽の光をたっぷりあびて成長したケイソウをエサにしていることで、太陽のありがたさが分かりますね。もっとほかにも太陽のありがたさを発見したことはありませんでしたか？太陽の光で水草がたくさん生えて魚たちの住み家ができていないだろうか？太陽で水が少しあたたかくなり、魚や虫たちが元気に動いていないだろうか？などなど



四日市尾平イオンチアーズクラブ

壁新聞のタイトル:三滝川生物調査 太陽と自然

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

5月(春)、7月(夏)そして10月(秋)に見つけた魚や虫の絵を書いてくれましたが、春、夏、秋でどんなちがいがあつたのだろうか？生き物の種類にとく ちょうてきなちがいがあつたのだろうか？あるいはとれる数、量にちがいがあつたのだろうか？魚や虫は川のどんな所で見つけたのかな？ガサガサやっている水 草の中かな？水の流れのゆるやかな所で見つけたのかな？石の下で見つけたのかな？あるいは、川の水の色やにおいにちがいはなかったですか？そんなことも書いてくれると三滝川のきれいさ、きたなさが分かりますよ。三滝川の水質は、ややきれいと書いてありますが、どんなことからややきれいと分かったのかな？

環境省水・大気環境局と国土交通省水管理・国土保全局が編集した「川の生きものを調べよう」という本があります。この本にも書いてありますが、水が きれいか、きたないかを判定するためには、見つけた生き物の数を調べるのが大事です。それと水のきれいさ、きたなさを判定するための生きものがどの位、いるかを調べるのがひつようです。たとえば、ややきれいな水にいる魚や虫は、アユ、カワムツ、ゲンジボタル、ヒラタドロムシ、スジエビ、コオニヤンマ、コガタシマトビゲラ、オオシマトビゲラ、カワニナ、ヤマトシジミなどです。オイカワはきたない水に、アメリカザリガニはとてもきたない水に住んでいます。水のきれいさ、きたなさを決める生き物がどのくらいいるかを表にしてまとめると良いと思います。

★☆☆サポーターの方へ☆☆★

一番下にきれいな海にしよう！！ごみの調査もしました。CO2を少なくしよう。と書いてあります。三滝川の生きもの調査から、とつぜん、海の話、ごみの話、CO2の話が書いてあるので、つながりが分かりません。チアーズクラブのこどもたちとは、よく話し合ったことだと思いたいますが、ぜひ、つながりが分かるようにして下さい。

壁新聞の中にこどもたちの生の声がなかったのがさびしいです。ぜひ、次の壁新聞には、こどもたちの活動をもっと前面に出して新聞作りをすると良いと思います。

[illegible]

大変中! テクニカルボランティア

活動

本書は、ボランティア活動の重要性を伝えるための教材として、様々な分野の専門家が協力して作成された。内容は、ボランティアの役割、活動の場、そして具体的な活動方法について詳しく解説されている。また、多くの写真やイラストが用いられ、視覚的に理解しやすい構成となっている。

本書は、ボランティア活動に興味のある方、あるいは実際に活動している方にとって、非常に役立つ情報源となる。ぜひ読んでいただき、ボランティア活動の魅力を体験してほしい。

24-06

「まとめ」の文章をもう少しだけ簡単にまとめて、かべ新聞の読者にもっとアピールできるよう工夫したら最高ですね。

大津市立瀬田北中学校科学部さんへ

師範から一言――

ワープロの字がとてもきれいに書かれています。①長沢川、②中学校の位置付け、③エコスクールの主な活動、④長沢川の清掃、⑤ゴーヤのグリーンカーテン、⑥中学校、⑦エコスクール、⑧滋賀県科学研究発表と順に説明がされていて、サポーターのはたらきが目に見えるようです。先生方がアドバイスをしたことが応募用紙にあります。それよりも1年と2年の中学生の力が大きく効果を表したと思います。どのコラムも記事がまとまっています。この新聞が学校の掲示板だけでなく、地域や県の施設にも掲示してもらい、瀬田北中学校のエコ活動の周知になるといいですね。そのためにはこのエコ活動が町中の人たちに知らされて理解され、さらに町内会や教育委員会などに働きかけて、住民みんなが参加できるイベントになっていくことを期待していますよ。

市や県の科学研究発表会に出場して説明をしていますので、きっと来年もおもしろい研究成果を見せて下さい。特に水質の変化を毎年追いかけていますので、ぜひともこれは継続してみてください。昔の調査結果と比べてみると新しいことが判るかも知れませんよ。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

応募用紙ではかべ新聞のタイトルは「活動報告 2014」ですが、かべ新聞をみると「S. J.H.科学部通信出張版」となっていて、不整合がみられました。言葉がちがうと理解する力が弱まってしまい、その深さが浅くなってしまう。もしかするとこの新聞は、滋賀県科学研究発表会などに使われたものでしょうか。少なくともかべ新聞のタイトルくらいはきちんと整合して下さい。

もう一つは、活動テーマ「地域自然のすばらしさを伝えよう」がかべ新聞上に記載されていないことです。せっかくステキなテーマを作ったのに、記載しなかったのはとてもざんねんです。どの課題も科学として十分研究に値するものと思いますので、証拠⇒仮説・理論⇒明確な結論という流れで説明をするとまとまりが出てくると思います。



滋賀県大津市 大津こども環境探偵団

壁新聞のタイトル:葛川新聞

25-02

大津市こども環境探偵団さんへ

師範から一言――

身近な環境問題をいろいろな側面から話題にしてくれたのは、とても大切なことです。遠くの見たこともない自然よりも、実物を手にして考えることのできる身近な自然の方が価値があります。59人の環境探偵団が協力して6つのテーマを掘り下げているのは面白いと思いました。また、平成2年から昨年で25年目とお聞きしましたが、息の長い活動を続けていることに感銘を受けました。親から子へ、兄姉から弟妹へ、「こども環境リーダー」の育成事業として継続した活動を続けているとお聞きして感動しました。また目的には、地域の「こども環境リーダー」から「環境人」へと成長することを目指していると応募用紙にはありますが、このことも新聞のタイトルの下の余白に書いておくことが大切です。どんな目標をもって探偵団は活動しているか、最初に読者に伝えたいことですね。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

かべ新聞のタイトルと応募用紙の不整合がありますね。「葛川新聞」と「葛川自然新聞」とでは、記事のをのせるはんいも大きくこととなるのではないのでしょうか。その上、かべ新聞の6班以外のかべ新聞を見たいものです。それと「宿泊体験」～「これ見て！私が見つけた自然の姿」という活動のテーマがかべ新聞に記載されていないことや、あまりこだわりませんが着眼点やまとめ方に不ぞろいの印象があります。書き直せばいいだけのことです。参加者が多数いるので、着眼点とまとめ方の字体や大きさがそろわないときは、思い切って書き直しをするととてもきれいになると思います。

改善点としては、写真が一枚掲示されているので、その内容をもっと掘り下げて作文してはいかがでしょうか。現在とはどこがちがうのか。何に気が付いたのか、書きとめる力が問われている。文字の大きさを整える、小見出しをもっといねいに書くことで、内容にも注目してもらえるのではないのでしょうか？ぜひ来年もちょうせんして下さい。

[illegible]

草津市立渋川小学校生き物学習実行委員会さんへ
師範から一言――

渋川小学校での「生き物さがし」の活動が、とても良くわかる素敵なかべ新聞ですね。1年生から6年生まで全員で取り組み、地元の人などとも協力しながらの活動です。かべ新聞を見て、特にすばらしいなと思ったことが2つあります。

一つめは、生き物さがしをするだけでなく、調べた結果を「渋川生き物絵図」や「いきものがたり紙芝居」にまとめ、展示したり、紙芝居公演をしているところです。調べて終わりではなく、地域の人々をはじめ色々な人への情報発信をして、交流をして、たくさんの人に渋川の生き物のことを知ってもらったり考えてもらうことができたというのは、すてきですね。

二つめは、小学校の子ども達と先生だけでなく、地域の方、行政の方、研究機関の方や地元企業の方など、多くの方々を巻き込んで活動していることです(渋川いきものがたり作成支援委員会)。立場のちがう人たちと活動することは、知らないことがあったりやる気を上げさせられたり、お互いによいことが多いですね。協力してくれた大人の方々も、渋川小学校のみなさんの活動からパワーをもらったと思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

デザインも読みやすく、黒地に白い文字で目を引きます。最初に見たときは、中学校のかべ新聞かと思ったぐらい、上手に作ってあり、特に付け加えることは思いつかないぐらいです。強いて言うなら、いつの活動か(年月など)がわかると、あとから見たときにわかりやすく良いですね。以下について、もしかしたら生き物絵図や紙芝居などにまとめられているのかもしれませんが、今後の活動の参考にしてください。

- ・生き物さがしで106種類を見つけたとのことですが、「多かった生き物」「少なかった生き物」はどんな種類でしたか？まとめてみると面白いことがわかるかもしれません。
- ・小学校のみなさんが好きな「人気の生き物」などを調べてみるのも楽しそうですね。地元の方に好きな生き物や困った生き物について聞いてみるのも面白そうです。
- ・今と昔の生き物くらべをしたとのことですが、今と未来の生き物くらべをしたらどんな風になりそうか、みなさんで予想して話し合ってみるのも面白いかもしれませんね。

これからもみなさんで楽しく活動してくださいね。次はどんな活動をされるのか、楽しみです。



たまた林の会さんへ
師範から一言――

すてきな写真がたくさんのかべ新聞で、みなさんがいきいきと楽しく活動されている様子が良く伝わってきます。たまた林の会のみなさんは、なんと「小屋作り」の活動をされたとのこと。

木材にカンナをかけたり、リヤカーを押したり、雨水タンクを運んだり…。自然豊かなフィールドでの活動、きっとすてきな小屋ができあがったのでしょうね。

たけのこほり、スイカ割り、おみこしづくり、野外ライブなど、子どもも大人もとても楽しそうですね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

活動の説明をもう少し追加しても良いかもしれません。どれが小屋作りをしているところなのか、どんな順番で小屋を作ったのかなどが書かれていたら、壁新聞を見ている人にもわかりやすいと思います。

それから、活動の感想を添えるのもいいですね。子どもの感想と大人の感想が両方書かれていたら面白いと思います。

自然の中での体験活動は色々ありますが、小屋を作ったりすることはなかなかない活動ですね。ゆったりした楽しい活動をされていることが伝わってきます。これからも、のびのび楽しく活動してくださいね。



油日小学校エコ委員会さんへ

師範から一言一

油日小学校のエコ活動についてまとめられたかべ新聞です。

甲賀町がくすりの町というところから地元企業の方と一緒に薬草園を作ったことや、エコパーク(ビオトープ)を中心としたエコ委員会の取り組みや、各学年での活動の様子がとてもわかりやすいですね。

生き物好きのみなさんが、色々な生き物を世話しながら楽しく活動されているのが伝わってきます。エコジヤの劇やミニ水族館など、どれも楽しそうで私も見てみたいです！

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

ビオトープの池や薬草園をモチーフにしたすてきなデザインで、読みやすく工夫がされているかべ新聞ですね。写真にコメントが付いていて、楽しくわかりやすくなっていると思います。

環境フェスティバルの日になや、3年生がアイの生薬染めをした日にななど、ところどころ日にちが書かれています、グリーンカーテンの写真はいつごろのものなのかなどもあるとすてきですね。生き物にとって、いつの季節なのかで様子がかわってきますので、植物だったらいつ植えていつ収穫したのか、昆虫だったらいつ頃生息が確認できたのかなどを意識してまとめるのも良いと思います。

エコパーク(ビオトープ)があるということは、身近に生き物がいるすてきな小学校ですね。地域固有の水草を守る活動も、とても素敵活動です。これからもみなさんと協力しながら、楽しく活動を続けてくださいね！



滋賀県多賀町 多賀町アストロクラブ

壁新聞のタイトル: 星空を見上げて環境を考えよう

25-08

多賀町アストロクラブさんへ

師範から一言一

多賀町アストロクラブのみなさんは、毎月1回の天体観測の他、自然観察やごみ回収パレードなどの活動をされています。

かべ新聞には、天究館の望遠鏡のことや、好きな星や星座、地元多賀町のことが書かれており、どれもとてもわかりやすい記事ですね。

かべ新聞の中に「太陽系の惑星の中でゴミが落ちている星は地球だけ」という文章があり、とても心にひびきました。宇宙を見上げる一方で、地域の自然や人間のごみについての活動にも取り組んでいるみなさんの「宇宙の視点」を感じます。

私も星を見るのがとても好きなので、機会があれば、ぜひ一度みなさんと一緒に星空を見てみたいなあ！

それから、東日本大震災で被害を受けた富岡町のみなさんとの交流は、本当にステキな活動ですね。七夕飾りや巨大年賀状から元気をもらえたと思います。小惑星「富岡町」に込められた願いが、いつかかないますように★

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

多賀町は自然豊かな場所で、夜の光害も少なく、きれいな星空が見えるでしょうね。うらやましいです。大人も子どもも協力しながら、これからも多賀の豊かな自然環境を大切にしていけるといいですね。

もしかしたらもう知っているかもしれませんが、「光害マップ」というものがあります。地域によっては夜も明るく、あまりたくさんの星を見ることができません。多賀町はどれぐらいなのか、また、みなさんが知っている他の地域はどれぐらいなのかを比べてみるのも面白いかもしれませんね。

また、もし機会があったら、ぜひごみ問題以外の環境問題についても調べたり話し合ったりしてみてください。聞いたことのある話や気になることはありませんか？環境問題の多くは、人間の活動が原因だったりします。みなさんの「宇宙の視点」で見ると、面白い発見があるかもしれません。

富岡町のみなさんとの交流もぜひ続けてください。これからも楽しくステキな活動、がんばってくださいね。



西京極児童館自然探検隊 2004 さんへ
師範から一言――

自分たちのまわりにめいわくな動物たちがいるのは困ったものです。
ここであげられている動物たちのほとんどが外国からやってきた外来生物です。4コママンガにもあるように、動物たちが自分から好きでやってきたのではなく、人間の都合でつれてこられた種が多いようです。これは人間にも大いに責任がありそうですね。特にペットとして輸入された動物は捨てる人間がいたのが原因の場合も多いのです。捨てられた動物も不幸ですし、その動物(外来種)に追いやられたもともとそこに棲んでいた動物(在来種)も不幸になります。
最後にある「一番悪いのは人間です」という言葉がとても切なく感じられます。この言葉を忘れないようにして、楽しくくらししていきたいものですね。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
人間のめいわくになる動物も、もとはと言えば人間が原因であることがわかりました。この外来生物をはじめとする問題は日本全国で起こっています。もっともっと日本中考えないといけない問題です。とても大事なことが書かれた新聞ですので、これを発展させてほしいと思います。最後に書かれたまとめと動物ごとの対策を日本中の人々に守ってもらうにはどうしたら効果的でしょうか？ ぜひ次回の新聞でもこのことを取り上げてもらいたいと思いました。



笠置中学校エコクラブさんへ
師範から一言――

僕の住んでいる東京都ではタガメやゲンゴロウはもういないのです。タガメもゲンゴロウも「絶滅」と判定されてしまったのです。絶滅した種が二度とよみがえることはありません。タガメやゲンゴロウがすめる自然がいつまでも残るといいなと新聞を読んで深く感じ入りました。
京都府といえば今は絶滅してしまった淡水魚・ミナミトミヨが最後まで生息していた場所ですね。豊かな自然が残っている地域でも、それがいつまでも残るとは限りません。開発などの影響で数を減らしつつある動物たちは今も多いのが現状です。損そのような中で、タガメやゲンゴロウが棲める南山城村の自然は「日本の財産」とさえ言えるかもしれませんね。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
肉食性の水生昆虫は餌を食べることにより、残り物等により水質を悪化させるので世話が大変ですね。
におい等もきつく水かえ作業はけて楽なものではありませんが、そのような生物を飼うことで本を読むだけでは得られない、いろいろな発見があることと思います。僕も子どもの頃からいろいろな水生生物を飼育してきたことが、動物関連のプロとなった現在も仕事の中でかなり活かされています。みなさんも将来どんな道に進んだとしてもきっと経験は生きてくるはずです。絶滅危惧種を飼育できるのも、南山城村の自然があるからこそ。意義のある活動ですのでがんばってください。



せいわエコクラブさんへ

師範から一言――

せいわエコクラブのみなさん、こんにちは！

みんなの1年間の活動がびっしり詰まったすばらしい新聞をありがとう！

かべ新聞の真ん中に、びわ湖と大阪湾、それを結んでいる淀川、みんなの学校、有機栽培見学や大阪湾の生き物調査の場所も描かれていて、みんなの活動の広がりや位置がよくわかりました。その周りをみんなの活動を示す写真や解説が取り囲んでいます。みんなでだいに守っている感じが現れていますよ。大阪の水は琵琶湖から来るのですね。そこでみんなが水を守る活動を続けているわけがわかりました。

琵琶湖の水を守るために、まわりの森を守ることを15年も前から続けているそうですが、みんなはまだ生まれていない頃からですね。森を育て、守ることは時間がかかります。だから、いま、間伐つをして元気になった森はみんなが大人になったころ、みんなの子どもが琵琶湖に来る所にきれいな水を琵琶湖に流していると思います。水は冷たかったそうですが、アユも見られてよかったね。みんなのかんぱつ活動を、全国子供フォトコミュニケーションで発表しました。他の代表の発表を見て「すごい！」と感じたのですね。よそでも、同じような仲間が活動していることを知る機会があって、はげみになったことでしょう。

自然観察も楽しみですね。大阪湾の生き物一斉調査は、何か決めて(今回は巻貝)調べるのですか？それにしても、海の生き物の図はうまくかけています。2月の野鳥観察園では、どんな鳥が見られましたか？大阪南港野鳥園が閉鎖されるので復活して、と書かれています。大阪市はお金がなくて、やめてしまうのかな。続けられるといいですけど。

ソラダスによる二酸化ちっ素の測定結果にとってもきょうみを感じました。みんなの学校のまわりは自動車の通行が少ないですか？環境基準を超えた「天王寺区上本町」は、にぎやかで車も多い場所でしょう。二酸化ちっ素は自動車の排ガスから出るので、なるべく車にたよらないで自転車で移動するという考えは、立派です。運動にもなるし、一石二鳥といえるかな。



せいわエコクラブ

壁新聞のタイトル: せかいのために いまこれから わたし達のできる事！

その他のみんなの活動でも、感心したことがたくさんあります。ごみひろい、区民まつりでごみの分別をてつだい、廃油からキャンドルを作るなどなど。ゴミの分別結果を“資源化率”で評価しています。こうすれば、来年もくらべられますね。キャンドルづくりも、楽しんでやれていることがいいです。他にも、有機栽培見学、みそ造り体験、フードマイレージの勉強をしました。どれもみじかな生活に結びついています。フードマイレージの金がかく比較で1970年代が540円、現代が1380円となっていますが、どのように数字の計算をしたか、分かりませんでした。食べ物の産地から消費者までの輸送に使われるエネルギーを比べるので、数値で表すのはむずかしいかもしれません。

この新聞は6年生のみんなが作ってくれたようですが、活動は幼稚園生から高校生まではば広いメンバーで行っているのですね。先輩に教えてもらったり、後輩を指導したり、お父さん・お母さんも参加するすてきなグループです。中学生になっても続けてくれますね。

みんなの後輩たちが、かべ新聞を引き継いでくれることを期待しています。

サポーターの方へのとおきゴシドウ★.....★.....★.....★.....

いろんな活動を年間計画に織り込んで活動されています。活動の内容もバラエティに富んでおり、環境問題を子どもたちが理解できるようになっていると思いました。20年の活動歴があり、子どもたちの世代間のつながりも感じられ、素晴らしいと思います。

間伐活動、野鳥や海の生物の観察などを通じて、自然の大切さを体感しているようすがわかります。活動に際しての安全への配慮もなされています。重要な点と考えます。南港の野鳥観察園の廃止は残念ですね。別の方法で存続されるといいですね。みそづくり、クリスマスリースづくり、廃油キャンドルの手作りのプログラムも、体験が後まで記憶されるので、効果が大きいと思います。

この新聞では、温暖化に直接ふれた部分はありませんでした。フードマイレージで環境負荷としてCO2排出が空気の汚れと生物への影響が書かれています。温室効果ガスと気候変動について、何かプログラムを加えていただくと良いと思います。(たぶん、やっていらつしゃんと推測していますが)フードマイレージの金額計算の根拠が分かりませんでした。

そのほか、ゴミ拾い、ゴミの分別を通じて社会への奉仕、問題点を考える機会になっていると思います。

卒業した子どもたちが、活動に参加してくれるという事は、活動が楽しかったからにちがいありません。せいわエコクラブの活動がますます盛んになって、琵琶湖の水だけではなく、私たちの環境が守られることにつながることを期待します。

なにわ こどもエコクラブさんへ
 師範から一言――――

「長浜自然海岸2014. 6. 1第7回大阪湾生き物一斉調査」というタイトルでかべ新聞をまとめてくれました。9年いじょうも海辺の自然観察を続けてきた団体が、「大阪市立環境学習センター生き生き地球館」の閉館のために、活動の継承をめざしてあらたに募集をかけてエコクラブのバトンをつなぎました。これだけ書いても、その感動の大きさは伝わってくると思います。

とくに海辺の生き物にはたくさんの種類があり、その生態も複雑なものがあります。普段の生活とはなじみの少ない生き物がいるため、専門のサポーターに同定(属や種をきめること)をまかせ、きちんとした出現種一覧をまとめていることに科学としての特ちょうがみられます。63名のメンバーが大阪府のいろいろな場所で、このプログラムを広めてはいかがでしょうか。海好きな子供たちが増えることを歓迎します。小学生は10年経つと大学生になり、次の世代の小学生の指導ができるようになります。ですから現在の小学生は、将来のボランティアになる金の卵なのです。しっかり実力をつけて下さいね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

全体の写真と文字の配置がリズムカルで、その中に生き物のスケッチが組み合わされているという面白い構成になっています。

特に写真では細かな手先をみせようとしているようです。いろいろな生き物をスケッチで紹介しようというのは、他には見られない工夫を感じました。たくさんの野外活動の写真は、組み合わせに変化を持たせたり、参加者の集合写真のようにまとめていたり、とても面白く拝見しました。全体的にみると色文字がリスト掲載種の種名として使われているために、使われている色数が少ないように感じました。こんなときは注目しにスケッチしたりすると目を引き付けることができると思います。工夫してみてください。



大阪府高槻市 柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャー

壁新聞のタイトル:つきぐみ え〜こ・レンジャー新聞

27-03(県推薦・つきぐみ)、27-04(ほしぐみ)、27-05(ゆきぐみ)(全3枚) 幼児

はしらもとほいくえん え〜こ・レンジャー つきぐみさんへ

師範から一言-

太陽や風で作った電気を使い、園内で野菜や果物を育て、水やりには雨水を利用する。毎日通う保育園の建物の電気などが太陽や風の力(自然エネルギー)でつくられているのがすごいですね。

小さいときから自然のエネルギーを感じる生活を送れるなんて、とてもステキな体験です。私たちの生活が自然からもらうおくり物であることが、園児たちも毎日実感として感じる事ができ、自然エネルギーで暮らす毎日が特別なことでなく、当たり前になっていくのだらうなあ、と感じ取れる新聞です。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....

園内で作った野菜や果物は、どんな風に使われているのか、実際みんなで食べたのかなあ、その辺のことが分からないのが残念です。ブドウの実の写真がとても大きく写真に写っていますが、食べた感想はどうだったのかな。甘かったのでしょうか。

お世話をしているのは保育士の先生だけなのでしょうか。お父さんお母さんも手伝っているのでしょうか。もしくは、地域の大人も協力しているのでしょうか。まだまだ知りたいことがたくさん出てくる新聞ですね。

はしらもとほいくえん え〜こ・レンジャー ほしぐみさんへ

師範から一言

それぞれの活動について小さい見出しがあり、全体の活動について分かりやすく読み取ることができていいですね。その中でも、「おおきなかぶ」のお話をげき遊びにすると、かぶの収穫を実際に経験すると、かぶを抜く時にどんな気持ちなのか、演じる人にとって想像しやすいですね。実体験があると、表現力が豊かになると思います。さぞがし白熱した演技だったのでは？

また、お花や野菜を育てるのに雨水を利用しているとのことですが、最初から収穫まで、もしくはお花が咲くまで、雨だけで十分水やりができたのかな。その辺も書いてくれるとおもしろかったかな。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....

最近では、落ち葉で焼き芋をすることもなかなかお家ではできないですね。保育園でみんなとサツマイモを収穫して焼き芋で食べた経験など、きっと大きくなっても忘れない体験になったと思います。

その他の体験についても園児のみんなはこれらの活動についてどう感じているのかな。園児の声などもぜひ新聞を通じて知ることができると、活動の楽しさがもっと伝わる新聞になったと思います。



柱本保育園こども未来学舎 え〜こ・レンジャー
壁新聞のタイトル:つきぐみ え〜こ・レンジャー新聞

はしらもとほいくえん え〜こ・レンジャー ゆきぐみさんへ
師範から一言

とてもカラフルで、写真だけで楽しさやワクワク感が伝わる新聞になっています。写真の並べ方からも、ゆきぐみレンジャーの元気な姿が浮かんでくるのが不思議です。そして、1年を通じて野菜など栽培に力を入れていることも感じられます。本当にたくさんの種類の野菜を育て食べることができました。
私は小学校の授業や地域でお話をする時に、地球を救うためにも地元でとれたものを地元で食べることがいいよ、とお話します。「ゆきぐみレンジャー」のみなさんは、小さい頃から自分が育てた野菜を食べる体験ができていてすごいことだと思います。ぜひ毎年続けて下さいね。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....
写真で見てもセミの抜け殻調査で集めた数のすごさが分かります。まさか1日で集めた量ではないですね。毎年の調査結果も分かりやすくまとめられています。毎年ものすごい量のセミの抜け殻を見つけています。何人くらいの人で、どの位の期間、どこで(保育園内だけでしょうか)集めたのか、そんなことも一緒に教えてもらえると、調べたところがどんな環境なのか壁新聞を読む人にも分かるのになあと感じました。クマゼミの数がとても多い結果からみると、都市の真ん中にある公園みたいなのかなあ、と感じたりもしますが、どうなのでしょう。でもアブラゼミもまだたくさんいるみたいだし、もっと自然が残っているところなのかな。これからの調査結果も楽しみです、このように毎年調べることで、自分たちの住む地域の環境を考えるよい材料になります。ぜひ、これからも調査続けて下さいね。

大阪府高槻市 ひじりがおかレインボーズ
壁新聞のタイトル:ひじりがおかほいくえん レインボーズ新聞

エコまる賞 27-06 幼児

ひじりがおかほいくえん レインボーズ さんへ
師範から一言

年が小さいのにもかかわらず、みんなでがんばって新聞作ってくれたことが感じとれます。
タイトルからもたのしさが伝わってきます。
テーマはセミのぬけがら調査報告ですが、たくさんのセミの抜け殻を見つけることができました。とりわけ、アブラゼミとミンミンゼミを見分けるのは大変だったと思いますが、図鑑や見分け方の表で分類したのですね。細かい所までしっかり見ることができたと思います。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....
セミのぬけがらちょうさはたのしかったかな。ちょうさ はどんなところでしたのかな。ほいくえんのなかでかな。
どんなきのところに、それぞれくまぜみ、あぶらぜみ、みんみんぜみのぬけがらをみつけたのかな。
どのくらいのじかんをかけてあつめて、しゅるいやオス・メスにわけることができたのかな。
いろいろなことが、この新聞を見ていると聞いてみたいくなります。次に新聞を作るときは、ぬけがらの数だけでなく、見つけた場所の様子もぜひ教えて下さい。そして、一番大事なのは毎年続けること。そうすることで、じぶんたちが住む所の環境についてよく知ることができるし、「あれ、去年と違うな」という変化にも気づくことができるようになると思います。

アンブレラさんへ
師範から一言――

わずか4人だけで「身近にあるエコさがし」をして、全部で6つの事例を説明してくれました。考え方を整理するだけでもたいそう努力したようすを見て取ることができます。たとえばごみの量を毎日測ってみるのは重要なことです。誰が一番ごみを出しているかがよくわかりますね。その中身をみると、紙などは資源にすることができますので、すこし目配りをすると、ごみの量を大きくへらすことができます。緑のカーテンでは、7種類のつる植物を栽培して、どのような結果になったか、きちんと書きとめています。大切なことは成功した4つの事例ではなく、失敗した3つの事例では何が原因であったのか、調べて考えることです。原因がわかれば来年は同じ失敗をしないように対策を講じることができます。チョコレート工場やビール工場の見学のレポートも資源リサイクルという観点から書かれており、ビールではリサイクル率がなんと！100%になっています。ビール工場などの食品製造業でもここまで再資源化が達成できていることをもっとみんなに知らせておきたいですね。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
応募用紙をみるとかべ新聞のタイトルは「アンブレラ」で、活動のテーマには「短かにあるエコ探し」となっていますが、「短かにある」は「身近にある」の間違いだと気が付きました。「じ」と「ぢ」、打ち方を間違えるとこのようなことがおこりますので、注意してください。このような不注意による間違いは早めに退治しましょう。さて、身近にあるエコさがしでは、6つの事例を調べてくれましたが、一つ一つの記事の紙面における領域がはっきりしない部分があり、記事を読みにくくしています。これを改善するには、たとえば奇数は黄色、偶数はみどり色の色紙に書くことで、記事の範囲がわかりやすくなると思います。もう一つは文字の大きさと、記事を書く文字の大きさをそろえて書くことです。大きな文字と小さな文字が混ざっていると読みにくいものです。これができるとすっきりしたかべ新聞になると思います。ぜひ工夫してみてください。

兵庫県神戸市 細田児童館エコキッズ
壁新聞のタイトル:わたしたちの木

28-02、28-03(全2枚)

細田児童館エコキッズ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

いつも訪れる公園だと、花は見ても木にはなかなか注目しない人も多いのではないのでしょうか。見なれたものを人は意外とよく見ないものですね。そんな中で、木に名前を付けて観察をしたという活動は、みなさんにとっても初めてのことであったのではないのでしょうか。ソメイヨシノは春になると満開の花を咲かせて、その姿がとても印象に残っている人は多いことでしょう。でも、夏になるとたんに意識しなくなりますよね。シラカシの木も、この活動で初めて名前を知ったという人もいたのではないですか？ このふたつの木だけでも葉の形、樹皮の様子など、ちがうところをたくさん見つけられたのではないですか？ また別の木の葉も観察してみると面白いかもしれませんね。とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
手描きのイラストや図鑑の写真を使っているからか、カラフルでとても目をひく新聞になっていると思います。ちょっとしたアドバイスですが、写真を使うときは、図鑑よりも実際に自分たちで観察している「自分たちの木」の写真をはったほうが、みなさんがどんな木をみているのかが、もっと新聞を読んでくれる全国のお友だちに伝わるのではないかと思います。次回の新聞では、その点をちょっと考えてみてくださいね。より親しみやすい新聞ができると思いますよ。



細田児童館エコキッズ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

イロハモミジは秋になると真っ赤に色づいて、とても目立つようになりますね。思わずじっと見てしまうものです。夏のモミジはどうでしたか？ イチョウやモミジは葉の形が他の葉っぱとちがっていて春や夏でもかんたんに見分けることができますね。メタセコイアの木はとても大きく成長するので有名ですが、みなさんの観察した木はどうだったでしょう？ 大きかったですか？ おそらく、他のグループの人たちが観察した木よりもずっと大きく立派なものだったのではないのでしょうか。イラストも三角形をしたメタセコイアの木の特徴をよくとらえていると思います。とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
それぞれの木の特徴を伝えるために、たくさんの絵や写真をはってくれています。そのため、とてもにぎやかな新聞になっていますね。新聞を読んでいる全国のお友だちに木のことを知ってもらいたいという気持ちがよく伝わってきます。その気持ちはそのまま、次回は、文章を自分の字で書いた新聞を作ってみてください。それだけで、もっとあたたかみのある、より気持ちの伝わる新聞ができあがると思いますよ。



兵庫県神戸市 魚崎児童館エコクラブ
壁新聞のタイトル:エコチャレンジ新聞

28-04

魚崎アースレスキュー隊さんへ

師範から一言――

魚崎アースレスキュー隊のみなさん、こんにちは。

カラフルで見やすく、わくわくするかべ新聞でした！リサイクルランドはとても楽しそうですね。私も工作が好きなのでどんな材料を使って、どんなものが出来たのか見てみたかったです。

エコチャレンジ新聞とだけあって、本当に様々な活動にチャレンジしていますね。これからも生き物のため、地球のため、私たち人間のために、そのすてきな活動を続けてくれたらうれしいな、と思いました。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

かべ新聞お疲れ様でした。

私は、普段は子供たちに環境や自然のことを教える仕事をしています。環境問題がテーマのものは、むずかしかったりつまらないイメージを持たれがちですが、これだけ楽しく、子供たちがうれしそうなのはすばらしく、とても学びのあることだと思います。そんな良い活動であるからこそ『その活動の何がエコであるか』を全員で確認し、かべ新聞に反映できたらより良いものになるのではないのでしょうか？



兵庫県神戸市 ゆきのごしょエコクラブ
壁新聞のタイトル:ゆきのごしょエコ新聞

28-05

ゆきのごしょエコクラブさんへ

師範から一言――

ゆきのごしょエコクラブのみなさん、こんにちは。

クリーン作戦は、地道な作業ながらも、とても大切な活動だと思います。私も近くにあるビオトープの管理を仲間と一緒に管理していますが、やはりたくさんのおみが毎日のように見つかります。自分たちがポイ捨てをしないことはもちろん、かべ新聞を通して近所に住む方々の意識も変えていけたらいいな、と思いました。

そして、エコ三木チャレンジはおもしろそうな実験ですね！どんな作品が出来たのか気になります。たしかに、絵の具はまぜると黒になるのに、光は白になるなんて不思議ですね！

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

かべ新聞お疲れ様でした。

きれいにまとめられており、とても読みやすかったです。さらに読みやすく分かりやすくするためのアイディアとして、紹介する活動を少数に絞り、それをより詳細まで書いてみてはいかがでしょうか？子供達の学びも、より深まるのではないかと思います。ぜひ、次回は取り入れてみてください！かべ新聞楽しみにしております。



兵庫県神戸市 あさひクラブ
壁新聞のタイトル:あさひどんぐり新聞、あさひ Vegetable しんぶん

28-06、07

あさひクラブさんへ

師範から一言――

あさひクラブのみなさん、こんにちは。

エコキャンドルは、見た目もかわいくて作ってみたいくなりました！私もイベントでミツバチの巣などから取れる「みつろう」という素材を使ったキャンドルを作ったことがあります。

実用的でエコな工作は、作っていてなんだか気分が良いですね♪あさひクラブの活動は、写真を見ていてとても楽しそうなものばかり。でも、どれも環境のためにはとても大切で、広めていきたい活動ですね。身近ですぐに取り組める地産地消など、積極的に取り組んでいきたいと思いました！

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

かべ新聞お疲れ様でした。

たくさん活動を体験されている子供達が羨ましくなるようなかべ新聞でした。

これだけ多くの体験をしているので、子供がそれぞれの活動でどのような感想・意見を持ったのか、エコとその活動のつながりにどのような考えを持ったのかを引き出せたらいいな、と思いました。その時に感じたことを言葉や文字にすると、活動やエコ、環境への愛着を持てたり、効果的な振り返りになるとと思いますので、ぜひ次回のかべ新聞では参考にさせていただけたらと思います。



しのっちょ・バレエヌさんへ
師範から一言――

左右開きの新聞になっているのですね。とてもおどろきました！
「エコプリン」というものをこの新聞で初めて見ましたが、みなさんのアイデアなの
でしょうか？ 写真からもとてもおいしそうな様子が伝わってきます。食べてみた感
想はいかがですか？
ニコ丸ちゃんを開くと、CO2 の問題と森林についてわかりやすくまとめられていま
す。みなさんが書いてくれているように、古紙を回収すること、紙を大事に使うこと
は、今からでもすぐに始められる身近な対策ですね。これをずっと続けて、ぜひ新聞
を読んでくれている全国のお友だちにも教えてあげてくださいね。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
CO2 が増えた理由と森林の話をそれぞれ書いてくれています、この2つのできご
との間にはいろいろな関係があります。
例えば CO2 が増えた理由としての「山の木を切ったから」と、森の大切な役割とし
ての「くうきをきれいにする(CO2 をすう)」ことはとても関係があるできごとです。
そのことについてちょっと新聞に書いてみるのはいかがでしょう？
また、見開きに書いてくれた情報を、次回は1枚の模造紙の中に収めて、新しい新
聞を作ってみてください。見やすくかわいらしい新聞が、皆さんにならきっと作れる
と思いますよ

おおつかさんへ
師範からサポーターさんへ一言――

魚をつかまえてきて、家でかってみたとのこと。これは東水かんきょうセンターでかわれ
ている魚ですか？ それとも池でふえてしまったものですか？ プラティのような卵でなく
子どもをうむ魚(これを卵胎生魚(らんたいせいぎょ)といいます)は、なかなか日本にい
ないので、じっさいにかってみると、本を読んだだけではわからない、たくさんことがわ
かりますね。人間だと、子どもは大切に育てると思いますが、これらの仲間の魚は子ど
もを食べってしまうので、生まれた後は親子をわけてかわなくてはならないこともわかりま
したね。親魚はまだかっているのとことですが、何度も子どもをうむので、次の機会には
ぜひ親子をわけてかって、子どもの魚を大きく育ててみてください。そして、その結果を
全国のお友だちにまた新聞を通して教えてくださいね。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
水そうの写真ものせていますね。まだ中身が水草(の置物)くらいですが、人間と同じよ
うに魚も住みやすい「環境」と言うのがあります。プラティはふるさとであるメキシコな
どの中南米の国のどのような場所にすんでいるのでしょうか？ そこでは何を食べているの
のでしょうか？ そこでは生まれた子魚はどうしているのでしょうか？ 親に食べられない
ようにするには？しらべてみると、さらにいろいろなことがわかると思います。
水そうの中に、プラティのふるさとの様子を再現して、いろいろ観察してみてください。そ
うしたらどうなったか、何が分かったか、それをまた聞かせてくれると、さらによい新聞に
なると思います。

りんごキッズさんへ

師範から一言一

りんごキッズのみなさんのやさいづくりは、昨年よりもたくさんの種類が育ったようですね。写真にあるのは、トマトにトウモロコシ、この花はオクラでしょうか。そしてネットにはいつているのは、もしかしてスイカでしょうか？スイカを地面にはわずかに支柱に沿わせて作るとは！小玉スイカなのかな？このあとスイカがどうなったのか気になるところです。本当にたくさんの種類の野菜ができました。すごい！夏の暑いときにも欠かさず野菜にお水をやってくれたからこそ、こんなに大きくたくさん育ったのですね。がんばりました。拍手！ゴーヤのカーテンも、とっても立派なカーテンに育ったようですね。大きく育ったかいあってカーテンの後ろ側はひんやりと～。気持ちいい！っていう体験もできました。せんぶうきやクーラーとはちがい電気を使わないエコなクーラー。心地よい自然のすずしさを感じることができたと思います。よかった！

保育園のビオトープには、今年もつばめが来てくれたんですね。つばめにとってもみなさんのビオトープは大切な場所。家をつくり、子育てをするのに欠かせない場所になっているようです。ほかの生き物にとっても大事な場所になりつつあるようですから、これからも大切にお世話していきましょう。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

いつもの活動に加えて、今年はエコキャップ集め活動にも取り組んでくれましたね。世界中のお友達とつながっている様子が、地球を取り囲むみんなの笑顔のイラストから感じました。

ペットボトルのキャップ集めではおうちのみなさんにも協力していただいているんですね。自分たちだけではできないことも、おうちの人をはじめとした周りの皆さんに協力してもらうことで、できることがあります。りんごキッズのみなさんのやっていることをいろんな人にお話して活動を知ってもらってください。そうやってたくさんのひとに関心を持ってもらいかかわってもらうことで、エコ活動の輪が広がっていくと思います。もっともっと広がるといいですね。

兵庫県神戸市 玉ーアクアリウム

壁新聞のタイトル: 明石川、魚類オリジナル図鑑 第一部

28-10、28-11、28-12、28-13

玉ーアクアリウムさんへ

師範からサポーターさんへ一言

明石川の上流から汽水域までに生息する魚類をよく調べました。僕も環境調査員としてよく調査に出かけます。それだけにこれだけ調べるのはかなりの労力が必要だったことがよくわかります。関東では見ることのない魚も記録されていて見ていて、とても興味深いものがあります。僕もいつか明石川まで網を持って採集に行ってみたくて新聞を見て思いました。

残念ながら多くの外来種も記録されています。特に、特定外来生物(※)に指定されているオオクチバス、ブルーギル、カダヤシなどが記録されているのは困ったものです。彼らももともとは鑑賞、食用、蚊の駆除などが目的で日本に連れてこられて、今や悪者扱いです。在来種の保護のために駆除はやむをえないことですが、何か考えさせられるものがありますね。みなさんの感想も聞きたいところです。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

駆除のため捕まえたアメリカザリガニを食べたそうですね。ただ駆除だけでなく食用として利用するのもいい案です。実はオオクチバスも食べられます(在来種の中にも美味しい魚はいますが)。

以前、外来魚を食べる会があり、そこで調理されたものは白身でかなりの美味でした。皮にくせがあるので、調理法がなかなか難しかったので、ぜひみなさんでオオクチバスの美味しい食べ方も研究してもらって、また新聞で発表してください。有効な利用法があることで、積極的に駆除も進めていくことができると思います。また、「要注意外来生物」のコイやナマズなども美味なのに最近あまり食べられなくなったために増えてしまったということもありそうですね。なぜそうなったのか、再びみんなが食べるようになるにはどうしたらよいか、などみなさんの考えを聞かせてください。

※オオクチバス等、特定外来生物は飼養・運搬・放流・輸出入等は法律で禁止されています。玉津第一小学校では環境省の許可の上、飼養しています。

ひめじアースエンジェルさんへ

師範から一言――

ひめじアースエンジェルのみなさんは2枚のかべ新聞を出品してくれています。一緒にクラブさんということなので、2枚一緒にコメントさせていただきます。
2つの新聞、どちらも自然を守るための活動として「エコクッキング」の取り組みを中心にしてまとめてくれています。「エコクッキング新聞」には、どうしてエコクッキングをするのか、という目的がしっかり書かれていていいですね。目的があるというのはとても大切なことです。自分たちの活動はなんのためにやるのか、どうしたいのか、ということをしかりと示すことで、新聞を読んでもくれるみなさんに、活動のことをよく知ってもらうことができます。また、自分たちも、どうしてやっているのか、いつも見直ししながら取り組むことができます。目標がみえているというのはとても大切なことです。いいですね。エコクッキングのポイントもあってうれしい！これを読めば、今日からさっそくエコクッキングに取り組みそうです。簡単であることも重要なポイントですよ。
まとめにあるように新聞に書いたことを使ってエコ生活していきましょう。
「川をきれいにしよう」新聞では、エコクッキングの大切なことがまとめられています。星(★)で表してくれている取り組みは、だれでもすぐにできて、とても有効で、大事な取り組みです。各家庭でみんながやってくれたら、川はきれいになり、環境はよくなっていくと思います。
新聞の中央に大きな川がながれていますね。新聞を見たときに、真っ先に目に飛び込んできて、そうか、川の環境のことを考えているんだな、ということが一目でわかります。この川をきれいにしたいんだ、という思いが伝わってきます。新聞の川には、元気に活動するメンバーの様子がわかる写真があったり、魚たちも泳いでいます。サワガニもいますね。そんなきれいな川が守れるように、これからもエコクッキングに取り組めるといいですね。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

「エコクッキング新聞」に、自分たちでできることを書いてくれてあります。その中で、たとえば、大根のはっぱを料理するとどんなエコになるのでしょうか。旬のものをたべるとどうしてエコになるのかな？そんなことも一言があると、ああ、そういうことなんだ、じゃあやってみよう！って思ってもらいやすいし、取り組んでもらいやすいと思います。もちろん、みなさんがちゃんと環境について考えていることが新聞を読んでもくれるみんなに伝わりやすくなると思います。
「川をきれいにしよう」では、魚がすめる水にするのに必要は水量について書いてくれています。このもとの量はどのくらいでしょう。みそ汁だったらおわん1杯(200ml)を魚がすめる水にする、とか、おしょうゆなら大さじ一杯(15CC)とか。そういった基準になる数字もきちんと書かれているといい新聞になると思います。がんばって！

ECO プロクラブ！さんへ

師範からサポーターさんへ一言――

姫路市では夏休みに「子ども環境塾」が開かれているのですね。ECO プログラムのメンバーがこの環境塾に参加したことが、修了書が貼ってあるのでわかりますが、実際どんなお話を聞いたのか、そのお話を聞いて自分はどう思ったのか、など新聞に書いて欲しかったなあ。熊谷先生の情報については、なぜか詳しく書いてあって、どんな先生なのかなあ、と気になりました。とても印象に残った先生だったのでしょ。地域の先生にお話を聞くことも、大切な活動のひとつですね。
それから、紙すき体験をしたようだけれど、その体験についてももう少し詳しく報告を書いてほしかったです。作ったはがきは、誰かにメッセージを書いて送ったりしたのかな？ もっといろいろ伝えて欲しかったですね。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

姫路市で行われている環境活動について、切り抜きで上手に伝えていきますね。
切り抜きで一番気になったのは、くつの再利用・リサイクルについて知らせているもの。これは、どんなお店で見つけたのかな？ 実際どのくらいの人々が、古いくつをお店に持って行ったのかな？ どのくらいのかくつが再利用され、リサイクルされているのかな？ 今度はぜひそのリポートを新聞で教えて欲しいな？
同じリサイクルの活動として、エコキャップ運動についても報告がありますが、たくさん数を集めることが目的になっていませんか？ 集められたエコキャップが、その先どのように活用されているのか、調べて報告してね。
また、エコキャップ活動を通して、私たちの生活についてもぜひ考えてほしいな。たとえば、私たち日本人はペットボトルの飲み物をどのくらい飲んでいるのか？ その数は減っているのか、増えているのか？ 増えているとしたら、減らす方法はないのか？ ぜひ、そのことも一緒に考えて、次の新聞で報告して下さいね。

水田家さんへ

師範からサポーターさんへ一言

タイトルの「水田家エコ新聞 2014 夏」にふさわしく、夏野菜の栽培写真が目飛び込んで、迫力満点の新聞ですね。家庭菜園でたくさんの野菜を作ることができました。また、2人のメンバーが楽しそうに、そしてうれしそうに活動している様子がとてもよく伝わってきます。自分で育てた野菜の味は、おいしかったのだろうなあ。また、ゴーヤはつる性植物の特性を利用して、グリーンカーテンにしているところもステキです。

ところで、野菜を育てる途中で、困ったこととかあったみたいだけど、どんな野菜にどんな虫がやってきて、食べられてしまったのかな？ その他にも、野菜を育てることの大変な部分も書いてあったらもっといいのになあ。そんな情報もあると、野菜を作ろうと思う他の全国のエコクラブメンバーにも参考になると思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

水田家エコ新聞の記事の中で、「一番おもしろいなあ」と感じたのは、できたトマトの種をとって、そこからトマトができるかどうかの実験。最後は、見事にトマトができました。でも、「トマトができなかった」という結果が出たとしても、これはこれでも良い経験になるよね。

何でも疑問に思ったことを試して自分で確認してみるって大切です。ぜひ、あたらしい「疑問」が出てきたら、また実験をして、全国のエコクラブメンバーにその結果を知らせて下さい。



兵庫県姫路市 なお&なみクラブ

壁新聞のタイトル:自分たちが出来るエコ

28-22、28-23、28-24、28-25

(全4枚)

なお&なみクラブさんへ ①②の新聞への

師範から一言

なお&なみクラブのみなさん、こんにちは。

緑のカーテンは、前から涼しくする工夫として推奨され、最近はベランダや窓辺にゴーヤやアサガオの花が咲いている家庭も増えてきましたね。私の住む東日本(東京)は今年も暑く、緑のカーテンを「やろう、やろう」と言うばかりで、なかなか実践できていません…。

なお&なみクラブさんでは、様々な野菜を植えたので、きっと花や実で華やかだったのですね。食べる時もカラフルで楽しそうだな ♪ と思いました。さらに、例として1つトマトを使ったレシピがのっているところも取り組みたくなるポイントとなっていると思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

かべ新聞お疲れ様でした。緑のカーテンは、聞いた事はあっても「何のために」「実践するとどうなるか」の正しい知識を持っている人は少ないのではないのでしょうか。せっかくたくさんの種類を育てていたのに、この野菜は一番手入れが簡単、この野菜は成長が遅い、など、実際に育ててみたことで分かったこともあるのではないのでしょうか？それを写真に撮ったり、まとめてみるのも面白いかもしれませんね。この壁新聞は、自分たちが出来るエコがテーマだったので、このかべ新聞を見た人が何を知りたいか、どんな事が書いてあるとやってみたいと思うか等を考えながら作成すると、きっとより良いものが出来ると思います。次回もぜひ色々なエコを教えてください。

なお&なみクラブさんへ ③④の新聞への

師範からサポーターさんへ一言

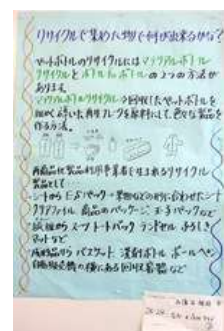
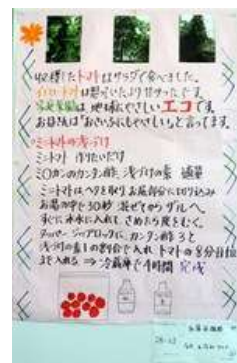
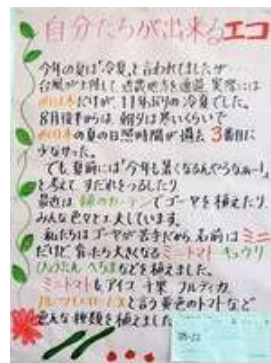
なお&なみクラブのみなさん、こんにちは。

今回のかべ新聞は、姫路城グランドオープンに向けたみなさんの熱い気持ちが伝わってくるようでした。私は、熱い気持ちが人の心を一番動かすと思っています。ゴミ0の姫路城になるよう、なお&なみクラブのみなさんがリサイクルやゴミ問題についてたくさん勉強し、多くの人に発信していけるよう頑張ってくださいね、と思いました。応援しています！

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

かべ新聞お疲れ様でした。今はリサイクルでなんでも作れる時代ですね。こんなに色々なものが作れるんだ！とおどろきました。いつか「なんでも作れるなんて当たり前でしょ」と言える日が来たら、ステキだな～と思いました。

ただ、少し文字が多く、専門用語(ケミカルリサイクルなど)が多々出てくるため、読む人がむずかしいと感じてしまう可能性があると感じました。読めばとても勉強になるかべ新聞のため、多くの人に読んでもらえるよう、写真や実物を使ってみるのはいかがでしょうか？



NYAXA(ニャクサ)さんへ

師範から一言

大きく描いてあるタガメはよくかんさつしてて特ちょうがはっきり出ています。カメムシの仲間はストローのような口をもっていて、肉食のばあいはいしよつかえきでとかして昆虫の体液をすいます。セミもカメムシの仲間で、ストローのような口で木のしるをすっています。

とったえものをにがさない太いうでは何といってもタガメのみりよくてきな特ちょうですね。肉食の昆虫は水中でないとくさんいて、カマキリ、トンボ、キリギリスなどがそうです。つかまえた昆虫をにがさないように、前あしにトゲがたくさんついています。タガメはどうでしたか？同じく水中にいるミズカマキリもカマのような前あしをもっているの、どちらも今度みつけたら前あしをじっくりかんさつしてみてください。呼吸かんがデリケートであることを、飼育をとおして気付いたことはすばらしいです。水中にいても魚のようにエラ呼吸をしているわけではなく、くだを使って空気をとりこんでいることが分かります。人が水中でシュノーケルを使って呼吸をする感じに似ていますね。生きもののことを知るには、じつづつを手にとってかんさつするのがいちばんです。

じつづつだいのタガメの脱皮がらは、飼育してみないと見たり触ったりできないものですから、よいけいけんをしたと思います。昆虫は脱皮しないと大きくなれません。なぜでしょう？人は体の中にある骨で体をささえています、昆虫は体のいちばん外側のかたい皮で体をささえているので、大きくなるときにその皮をひとまわり大きいものにこうかんしないといけないのです。

8/31 にほうりゅうできて良かったですね。タガメとの別れがかなしいほど、タガメを大切に育ててくれたことが伝わってきます。また、ぜひつづけてください。きっとまた新しい発見があるはずです。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

タガメギャラリーは新聞のコーナーとしておもしろいアイデアです。せっかくなので、一言ずつでいいのでコメントをつけてくれると初めてこの写真を見る人にも分かりやすくなると思います。

発見したことをふきだして書いてくれたのはいいですね。ただ、そのふきだしが赤い線で消されたようにぬりつぶされてしまっているので、せっかく発見したことを伝えるためには、文字が目立つような工夫をするといいと思います。

7/21～8/31 までのかんさつきろくは、データがとれない日があっても続けたことが大切なことです。生きものを育てるのもエコ活動をするのも、続けることが大切です。「データ不足」がどういう意味か、A、B、C、D は飼育していたタガメの数なのかどうかなど説明があると分かりやすくなりますよ。

兵庫県姫路市 自然探検クラブ

壁新聞のタイトル: 水の生き物調査

28-19

自然探検クラブさんへ

師範から一言

川の水質の調査にはいくつかの方法がありますが、自然探検クラブのみなさんは、生き物をしらべることで水質を調査する水生生物による水質判定をしてくれています。水の汚れ具合によって住むことができる生物がちがうことがわかっています。それは指標生物(しひょうせいぶつ)と言っています。

みなさんが調査した川には、とてもきたない水に住む生き物の代表であるアメリカザリガニや、ややきれいな水に住むカワニナ類がいたのですね。たくさんの水生生物の写真をありがとう。いろいろな生物がいたのだということがよくわかりました。いいですね。「ドンコ」は、みなさんの地域にはたくさんいるのでしょうか。私はあったことがないのですが、ハゼの仲間かしら？(食用)って書いてあるところがおもしろい、って思いました。パックテストによる水質調査も合わせて行っていることで、よりはっきりと水のきれいさがわかりますね。いろいろな方法により、より確かな調査ができます。これから継続して調査していけるといいですね。

今年は、水質調査に加えて、ソーラークッカーをつかったエコクッキングにも挑戦していますね。かさを使ったクッカーを手作りしたのですね。いっしょうけんめい取り組んでいる様子がわかります。でもとっても楽しそう。みんなの笑顔の写真、いいですね。活動を長く続ける秘訣のひとつは、楽しく取り組むこと。そういう意味では、みなさんの活動はとってよい活動になっていると思います。これからもいろんなことに挑戦してってください。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

川の名称、まわりの環境など、生き物調べをした川の情報がもう少しわかりやすくしめされているといいな、と思います。そうすることで、みなさんの活動がもっと具体的で伝わりやすい新聞になると思います。

クッカーを手作りするのにどんなところに注意しましたか？大変だったところはありましたか？カレーやゆで卵は上手にできましたか？食べてみましたか？どうだった？そんな感想もあるとまとめにもなっているいいなと思います。もう一工夫、挑戦してみてください。

南大津ecoキッズさんへ
師範から一言――

「タガメを育ててみよう!」「タガメって何だろう」というフレーズは、読む人がきょうみをもつような分かりやすい小見出しですね。編集後記もあり、レイアウトが分かりやすく構成されています。編集後記に書いてある「水のこと」「タガメのお世話の大変さ」については記事から伝わってきますが、「なぜ絶滅の危機にあるのか」についてどういうことに気付いたのかな?!記事に書かなかったことでも、ぜひ記録に残しておくといいですよ。

タガメが食べたあとのエサの写真、ありがとうございます。飼育してみないと分からない貴重なものですね!写真のコメントにある「こんな姿になるとは予想していませんでした」というのが、大切な発見だと思います。タガメの口をよくかんさつしてみましょう。カメムシ目に分類されているように、とがったストローのようになっています。みんながストローを加えて食べ物につきさすことを想像してみてください。どうなるかな?!

7/21~8/31 までのかんさつ記録があるので、飼育のようすがよく分かります。10匹が1匹になってしまったのは残念だと思いますが、1匹成虫になったことも立派なことです。自然の中では成虫にたどりつくのはもっと少ない確りつです。脱皮の途中で死んでしまった幼虫がいたように、昆虫にとって脱皮は命がけです。脱皮中に敵におそわれたら、どうすることもできません。今回かんさつしたように、脱皮に失敗するものもたくさんいます。脱皮が終わってからもしばらくは体がやわらかいので、すぐにきずついてしまいます。自然は広いので脱皮のときにかくれる場所も多いのですが、飼育するときにはなるべく広いケースでかくれる場所をたくさんつくってあげるといいです。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

タガメの飼育はエサと水かえが大変だったようですね。自然の中ではタガメはエサと水かえに困ると思いますか?他の生きものをエサとして食べるので、エサとなる生きものがくらせる環境が必要になります。自然の中でもエサを食べれば水が汚れるはずですが、水かえしなくていいのはなぜか考えてみましょう。

「オスが卵の世話をする」「メスが卵をこわすことがある」とありますが、昆虫としてはめずらしいことです。今回は幼虫をもらってきて成虫にするまでのお世話なので、成虫の産卵行動はかんさつできなかったと思いますが、機会があればチャレンジしてみてください。

兵庫県姫路市 しらさぎチアーズ
壁新聞のタイトル:地産地消 エネルギー

エコマーク賞 28-14(縦)、28-15(横)(全2枚)

しらさぎチアーズ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

竹をモチーフにした新聞のデザインがとても目をひきます。竹の節を上手に使って、記事を分けているアイデアもよいと思います。

竹が1日で1mも伸びることができるのは、節と節の間が全て成長して伸びるからです。タケノコをたてに割った切り口をそうぞうしてみてください。タケノコのときは節と節がくっついたようになっていますが、節と節の間がぐんぐんのびるので、新聞にデザインしてくれた絵のように節と節の間が広がります。

竹の伐採は、体力の消耗も考えて涼しい時期がいいということが分かりやすく説明してあると思います。竹を機械でチップにする様子を見学しましたか?木も種類によって固さが異なり、たとえばキリはやわらかく軽いですが、カシは固くて重いです。竹は固いのでチップにするのも大変です。

淡路島の山には竹が60%、木が4%という数字におどろきました。竹が身近な存在ともいえますね。竹のエネルギーの利用はいろいろところで試みられていますが、竹は中が空どうでかさばるので、たくさん運ぶのが大変です。その点でも地産地消できると、遠くに運ばなくていいので運ぶエネルギー(車のガソリンなど)が節約できます。「自走式ウッドチップパー」はその場でチップにすることができるので、はんしゅつできない場所以外でもうまく活用できると思います。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

竹は根でつながっているの、地上に見えないところに広がっていたりして、放っておくとあつという間に暗い林になってしまいます。暗い林になると地面に太陽の日差しが届かなくなるので草が育たず、生きものも少ない林になってしまいます。そのため竹の管理は大切です。

さて、竹は木でしょうか?草でしょうか?草はせんたんがどんどん成長するのに対して、木はせんたんだけでなく半径方向にも成長して太くなります。日本の場合は、木の年りんを思い浮かべてください。草には年りんはありませんよね。竹はどちらに近いと考えてみるとおもしろいでしょう。

竹の花を見たことがありますか?60年に一度咲くといわれていますが、竹林はたくさんあるので、毎年どこかで見られます。地下の根で広がっていた竹が、その土地にもう広がるためのえいようがなくなると、花を咲かせて全部枯れてしまいます。ササも同じでこの間近所のササやぶの花がいつせいに咲き、全て枯れてしまいました。今度竹の花も見つけたら観察してみてください。

しらさぎチアーズ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

たくさんのエコにつながる活動をしましたね！
募金活動ではみんなの気持ちがまわりの人に届いて、たくさんの募金が集まったのだと思います。エコ活動は一人ひとりができることをすることが大切ですが、みんなに知ってもらうためにアピールすることも必要です。このかべ新聞も、みんなの活動を全国にアピールするよい手段になっています。
エコクッキングでは、「買いもの」「料理」「かたづけ」の中で、エコを考えたことによって一番大変だったのはどれでしょうか？きっと人によってちがうでしょう。買いものでは地元の野菜や肉を選んだかな？！地元の食材を使うとなぜ環境やエネルギーを大切にできるのでしょうか。難しいかもしれませんが、他の地域のもを車で運んでくると、その分ガソリンなどのエネルギーを使ってしまうことになります。食事は毎日のことなので、これからエコクッキングでおいしく食事をしてください。
トレーは食品売り場ではいたるところで利用されていますが、トレーに戻すためのリサイクルはこれから始まったのです。トレーを作るためにたくさんの原油を使っているの、リサイクルが進んで原油という限られた地球の資源を大切にできるといいですね！



竹も木と同じようにバイオマスエネルギーの1つです。竹林を伐採することが環境はかいいにならないということに気付いたことがすばらしいです。また、竹を燃やすと地球温暖化の原因とされる二酸化炭素がでますが、それはもともと空気中にあった二酸化炭素を使って竹の栄養として取り入れたものなので、空気中に戻っただけと考えることができます。これは竹だけでなく植物全体にいえることです。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
植樹活動の手順は、この新聞をみて植樹をしようと考えている人の参考になると思います。「わらをひく」「なわをかける」はなぜそのようなことをするかについて、説明してくれるととても分かりやすい記事になります。植えることはまず大切ですが、元気に大きく成長することが目的なので、植えた木がどうなったか、これからの関心をもって見守ってください。

姫路城のそうじでは、落ち葉がたくさんあったということは木がたくさんあるのでしょうね。写真にも大きな木が写っています。落ち葉は自然のものであり、ゴミではありませんが、お城のような場所では土の上に落ちるとはかぎりません。土の上に落ちた葉はいつのまにかボロボロになって土の一部になってしまいます。落ち葉を分解してくれる小さなそうじやさんがいるのは知っていますか？小さな虫や菌(きん)の仲間たちです。落ち葉の下をそっととってルーペやけんぴきょうでのぞいてみてください。

グリーンキッズさんへ
師範から一言――

グリーンキッズは、平成 12 年から活動している地域のクラブです。メンバーは変わっていても、サポーターさんや地域の方の協力があって、長く続いていくのはすばらしいことだと思います。かべ新聞の下の方に、活動内容が書いてありますが、毎週定例会を開いて、継続的に活動していることがわかります。
6 月の活動発表会は、クラブ内で一人ひとりが発表をしたのかな。クラブ内での発表会というのも楽しそうですね。プログラムを見ると、どんな内容だったのかなと気になります。感想にはきんちょうしたというコメントが多いですが、ぜひ内容もかんたんに書くといいですね。メンバーの考えていることがわかって、新しい発見もあったと思います。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
ダンゴムシ広場が戻ってきたことは、みなさんにとってうれしい出来事だったのしょうね。
みんなで意見を出し合って、過ごしやすい場所に変えていったというのは、貴重な体験だったと思います。
さがりが大変だったとのことですが、どれくらい時間がかかったのかな？また話し合いではどんな意見が出たのかな？ダンゴムシ広場を整備するという一つのプロジェクト(?)ですから、その過程をくわしく書いて みるとおもしろいと思いますよ。

今年は伊丹ならではの活動ということで、地元のお米や野菜を使ったエコ料理や、そば打ち体験を行ったのですね。自分たちの住んでいる地域の良さを発見するのは、とてもいい体験だったと思います。これからもサポーターや地域の皆さんと仲良く活動をしてほしいと思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

みなさんが住んでいる伊丹市は「ことば文化都市」なんですね。初めて知りましたが、どのキャプションもうまく俳句形式にまとめている、感心しました。約 17 文字ではあるけれど、伝えたいことが凝縮されていて、とてもいい工夫だと思います。また、一人ずつ手形を取って、感想を書いているのもいいですね。自分自身のふりかえりにもなるし、体験からえた言葉は読む人の心にもものこります。他のメンバーの感想から、発見したり思い出したりすることもありますね。これからぜひみなさん自身の感想は書いてほしいと思います。



師範から一言

斑鳩小学校での 2 つのリサイクル活動について、そのしくみ、集め方、集められた後に、アルミ缶は車いす寄付に、エコキャップはポリオワクチンの提供などに役立てられていることなど、よく調べて書けました。アルミ缶は何個(何キロ)集まると車いす一台分の寄付ができるのかなあ。エコキャップ集めで詳しく調べているので、アルミ缶の情報も気になります。

さらにもっと気になるのは、みんなが協力してたくさんのアルミ缶やエコキャップが集まったようですが、実際にどの位の量がどの位の時間で集まったのでしょうか。具体的な数字を聞いてもらうことで、活動がさらに読んでる人にも実感がわく記事になると思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

ごみを減らす方法としてリサイクル活動のことだけ書いていますが、斑鳩小学校では、ごみを作らない活動もしているのでしょうか。たとえば、アルミ缶やペットボトルに入った飲み物を、水筒やリユースびんなど、何度も洗って使える入れ物で飲むことで、容器ごみを出す量を減らす方法もありますよ。出てきたごみをリサイクルで減らすことと同じように、「ごみを作らない」活動も大切です。もし、その活動もしているのなら、ぜひそのことも新聞で書いて欲しいです。



整美・ボランティア委員会さんへ
師範から一言

斑鳩西小学校の活動を紹介する「エコ新聞」。大きな字で読みやすい反面、せっかく作ったかべ新聞なのに、こまかな活動について分からないのがざんねんです。プルタブ集めは、どの位の期間でどのように集めたのかな。10月に行った校外クリーン作戦も文章と写真で、何となく活動の様子は分かるけど、実際にこどもや大人で何人の人が参加したのかな。また、みんなが活動を通じて、どんなことを感じたのかなあと、疑問がたくさん出てきます。紙面にまだ余裕がありそうなので、次回はもう少し詳しい内容についても書いて下さい。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
環境活動はたくさんありますが、どうしてクリーン作戦やプルタブ集めをすることになったのか、その理由とか知りたいです。クラブメンバーでどんな活動をするか、決めているのかな。また、みんなはどんな気持ちでこれらの活動をしているのかな。もっともっとかべ新聞をうまく利用して、みんなの日頃行っている環境活動について、斑鳩西小学校のことが分かるようにアピールしていきましょう。
ごみ問題以外に、何か環境活動をしているのでしょうか？ 環境活動は、自然を守ったり、自然のめぐみをいただいたり、資源を大切に使うために省エネ・創エネをしたり、自分たちの住んでいる環境を知ったり、いろいろな活動があります。その他の活動にもぜひひょうせんして、かべ新聞で報告してください。



鳥取県鳥取市 エコ隊わかばーズ
壁新聞のタイトル:わくわく わかば エコしんぶん

幼児 31-01

わかば保育園さんへ
師範から一言

わかば はいくえんの みなさんは、たくさんの エコかつどうを しているのですね。かべしんぶんを みて、わたしが おもしろいなど おもったのは、「ごみ ぶんべつ さかなつり」ゲームです。ごみで さかなつりゲーム するなんて、びっくりです！ でも、とても たのしそうですね。みなさんは じょうずに ぶんべつ できましたか？ それから、「リサイクルおんど」も とても たのしそうですね！ 3びきの カエルが とうじょうするのでしょうか。みなさん じょうずに おどれましたか？ みどりのカーテンでは、いろんな しゅるいの しょくぶつを そだてたのですね。しゃしんを見ると、はっぱの かたちや おおきさが いろいろあって おもしろい ですね。そだてながら、いろんなことを はっけん してくださいね！ これからも みなさんで たのしい エコかつどうを つづけてください！

サポーターへのとっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
エコ活動は今年で3年目とのことですが、楽しい活動となるように工夫をされていらっしゃる様子が伝わってきます。壁新聞は、活動内容ごとにすっきりとまとめられていて、たくさんの写真から活動の様子がとても良くわかります。壁新聞自体にも、チラシなどを利用した飾り付けをされていたりと、エコの視点が日常の保育所生活の中にしっかり根付いていらっしゃるのですね。
今回は、緑のカーテン作りなど、新しい活動へも挑戦されています。他にも、施設訪問や学生さんの訪問など、地域の色々な人たちと関わりを持ちながら活動されていることも、本当にステキだと思います。子どもたちにとっても、いい体験になるのでしょうか。
ところで、この活動の中で子ども達に特に人気の活動というのはありますか？ どんなところが子どもにとって楽しいポイントになっているのでしょうか。子どもたちの感想など、もっと知りたいなあと思いました。もし機会があれば、そういうポイントについてもぜひ紹介していただければと思います。
これからも、子ども達とエコ活動を楽しんでください！



彦名地区チビッ子環境パトロール隊さんへ
師範から一言――

こどもエコクラブ「チビパト隊」のみなさん、こんにちは！
みんなの作ったチビパト新聞を見てとても感激しました。むつかしいエコを通じて、国際交流をやっている！すばらしい。
チビパト隊のみなさんは、大山や中海の自然にかこまれたところに住んでいるんですね。そういった大切な自然をまもる活動を、ふだんから続けていることと思います。
今回の新聞には三つのことが書かれていました。一つは、ロシア沿海地方青少年環境交流団の人たちとの交流のこと、二つ目は中国地方こどもエコクラブの交流会に参加したこと、三つ目は、自然エネルギー体験教室へ参加したこと、ですね。
まず、ロシアの人たちとの大山のホテルで1泊2日の交流したこと。新聞を読むと、交流行事はことしが初めてではないようですが、みんなは初めてだったようですね。ロシア語は、ふだんあまり聞きませんね。どのようにしてコミュニケーションをとったのかな？身振り手振りですか？でも、エコ活動のことから交流が進んだと書かれています。おたがいにエコ活動をしている者同士、理解が早かったのでしょう。ロシアのエコ活動を知って自分もやってみたいことはありましたか？タイトルのように、エコ活動が世界中に広がるといいですね。
活動をしている写真がうまく使われています。



廃食油を使ったキャンドルづくりや牛乳パックを利用した紙すき(はがきづくり)は、ロシアのともだちもやったことがなかったの
で、興味とおどろきの印象を持ったことが感想文からわかりました。キャンドルに火をともして遊んだキャンドルナイトは、楽しか
ったでしょう。おたがいの国の歌やおどりで楽しんで交流が進んだことはすばらしいです。ロシアのひとも、日本のうた「ふるさ
と」を前もって練習していたので、みんなで合唱できてよかった。準備はたいせつですね。みんなもおもてなしの準備をしたこと
でしょう。みんなの書いた感想文からも、エコが大切なこと、楽しかったこと、ロシアとの交流を続けたいこと、などが伝わってき
ました。これからも、ずっと続けられるといいですね。
鳥取自然環境館の体験教室では、太陽光クッキングでゆで卵をつくりました。太陽光がすごいエネルギーをもっていることがわ
かりましたね。石炭や石油、天然ガス(これらをまとめて、“化石燃料“といいます)を使わないで生活できるようになるといいで
すね。

彦名地区チビッ子環境パトロール隊
壁新聞のタイトル:世界へ広がれエコ活動～ロシア編～

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

中国地方こどもエコクラブ交流大会は、5年前から続いているそうですが、鳥取県内全市町村にこどもエコクラブができた記念
の大会だったのですね。いろんなことをやったと思いますが、何が一番楽しかったですか？ネイチャーゲーム？それとも、あんど
んかな？

他のエコクラブでやっている活動は、チビパト隊とどうちがっていましたか？そんなことも読んでみたかったな。

☆☆サポーターの方へ☆☆

言葉の壁がある外国からの子どもたちを受け入れての活動、いろいろとご苦労があったことと思います。エコを通じて、ロシアと
の交流が続くことを期待しています。

使用済みの材料を利用したキャンドルづくり、牛乳パックから和紙をつくるなど、じょうずにプログラムが作られていると思いま
す。

子 どもたちは、ネイチャーゲーム、エコ活動のポスターセッション、あんどんづくりなどたくさんの行事を体験したと思いますが、
チビパト隊の感想などが新聞に ありません。「環境の悪化に気づき、環境問題の解決に向けて自ら考え、行動する人が育って
いく」を目指されていると思いますので、こともたちが何にきづ き、どう思ったかを書いてもらえるととってもよかったと思いました。

メダカみ～つけ探検さんへ

師範から一言――

とても情報量が多い新聞です。メダカを中心に1年間でとてもたくさんの活動をおこなってきたことが一目でわかります。

昔から身近な生物として有名なメダカですが、最近では生息できる場所がだんだんへってきています。

水草の生えた用水路にメダカがいたというのは新しい発見ですね。ただ、用水路は水位に差がないので天敵におそわれたときに逃げ場がありません。たくましく生きているメダカですが、そこが本来生きていく場所ではないということもみなさんの力で周りの人に伝えていってください。

とっておきのゴシドウ★・・・・★・・・・★・・・・★・・・・★・・・・★

みなさんはメダカについてたくさん学んだので、もう何を聞いてもすぐに答えられるほどの知識があることでしょう。

よんでいる人の中にはメダカのことをあまりよく知らない人もいるかもしれません。みなさんも学んでいるときに初めて知ったことやおどろいたことがあったのではないのでしょうか？

まず、新聞の目立つところにメダカという生き物の紹介を書いてみましょう。何を食べているのか、生きていくのに何が必要か、だからこういうところにすんでいる、というような情報があるだけで、「まとめ」に書かれた「用水路に生息するメダカ」という言葉の意味がよみ手にもしっかりと伝わることを思います。



YONAGO ジャングルエコ探検さんへ

師範から一言――

1年間でとてもたくさんの活動をしたのですね。模造紙に収まりきれない情報の量が活動の多様さを表しています。よく頑張りましたね。

ホテルとりにチャレンジしたり、クルマを食べたりしたそうですが、「あたたかかった」「かたかった」「力強かった」など感想はさまざまあると思います。写真ではそういったことがらは、よんでいる人に伝わりません。ですから、「蛍はとてもはやかかった」「クルマは油っぽかった」というように、実際にふれたみなさんがどう感じたかを新聞に書くことはとても大切なことだと思います。

とっておきのゴシドウ★・・・・★・・・・★・・・・★・・・・★・・・・★

たくさんの情報をのせるために色紙を折って「めくり」を使うなどの工夫をして新聞を作成してくれました。「めくり」は新聞を立体的に見せたり目隠しの効果があったり、はば広い用で使うことが出来る便利な方法です。ただ、今回の新聞では「めくり」を多用しすぎている部分も見うけられます。ひとつのコーナーで用いる「めくり」は一度までのぞましいです。1枚の新聞でどう表現するか、考えてみてくださいね。



これからも、どんどん活動をして、たくさんの体験・発見をしてくださいね！



31-07

これからも楽しく活動を続けて、色々なことを発見してくださいね！



イオン岡山チアーズクラブさんへ
師範から一言

標題の色文字がきれいですね。それと中央の大きな木の幹と葉っぱのように切り抜いた写真が特ちょう的で目を引きます。細かいところを見ると、養蜂場では試食はなかったのでしょうか？匂いや味も五感です。五感を使って観察すると、目で見たよりも強い印象があって、忘れなくなります。ぜひとも試してみてください。それと「私たちのエコ宣言」として一人で一枚の宣言を書いています。中には「植物を大切にします」から「節電」など誰でも、どこからでもできそうな宣言が書かれています。他の人の宣言を見ながら、みんなも新しいテーマに取り組んでみよう。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
エコ農業体験は、都会ではなかなかできないぜいたくな体験です。でも内容を見ると報告のまとめ方が悪いせいか、ばらばらになっているように見えます。こんなときは畑から食卓までの流れで表現するとはっきりしてくると思います。
それから自然保護センターに出かけていますが、そこには自然観察指導員のガイドがいまませんでしたか？ガイドはその季節に合った解説をていねいしてくれると思いますので、日記を書くのと同じように、ちゃんと自然観察ノートにメモしたり、スケッチにしておくとか来年出かける子どもたちにはとても役立つことと思います。

岡山ハッケンジャーさんへ
師範から一言

かべ新聞の上に「岡山ハッケン新聞」と名前を書いているところが気に入りましたよ。これはあいさつのようなものです。はっきり大きく、きちんとできなくてはいけません。さて、全体を見渡してみると、中央にちぎり絵の山と川が描かれていて、他の写真が小さそうに見えました。今回は身近な用水路で自然観察をしているのはとても良いことです。身近な自然は、いつでも友達や家族といっしょに観察に行くことができるからです。植物も動物も2週間ほど見ないでいると変わってきます。僕たちは変わったことにきがつきます。よく観察することで変化を見つけることができるのです。自然を学ぶためには遠くに行かなくても、身近なところで出来るのです。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
右上のESDは少し難しかったかな。その上にはドングリを食べたと書いてありますね。公園で観察したドングリをクッキーなどにして食べましたとありますね。実は僕もドングリが大好きなんです。マテバシイやスダジイを使ってせんべいを作ったりしています。このドングリの仲間だけを観察してもかべ新聞が作れます。
手書きの文字が多数並んでいるのに、どうしてこのかべ新聞は読みやすいのでしょうか？それは写真の下に必ず解説を入れているからです。スタイルを整えることで読みやすくなっているのです。
次回は田んぼの生き物がそこに育っている稲(イネ)とどのようにして助け合っているのか、ぜひとも取り上げて下さい。

わくわくエコクラブさんへ
師範から一言

これは黒地の紙に作ったすごろく盤ですね。子どもたちは身近な材料で思いがけないような、すばらしいことを思いつきます。余白にサイコロも描いてくれると楽しくなりますね。ここに取り上げた写真は、生き物の好きなサポーターがもも畑、自然教室、生き物調べなどで見つけたものでできています。卒業前に東京で発表する機会が欲しかったとクラブ紹介に書いていますが、東京より津山の方が自然は濃厚ですよ。将来、都会に生活するようになって、津山で見つけた自然はみんなを楽しませてくれたことを思い出して下さい。これだけでも十分価値がありますよ。沢山の生き物の姿を見つけて来たので、絵が小さくなってしまいましたが、そんな時には小さいサイコロで遊んで下さい。それとナマズを食べたんですね。僕もフライで食べたことがありますよ。とてもおいしいんです。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
かべ新聞の流れを写真で見るとわかりやすくなりますが、沢山乗せようとするとしても写真が小さくなります。文字だけでもわかりにくいときは、スケッチや模式図を見せる工夫をするといいと思います。大胆に黒を背景に選んだセンスがあれば、そんな工夫は朝飯前と思いますが、実際に取り入れてみると楽しくなります。
僕は毎年いろいろな花や昆虫に出会うことができますが、どれも一期一会(いちごいちえ:一生に一回しか会う機会がないような不思議な縁)と思っています。この昆虫は今年初めて見つけたけれど秋には産卵して死んでしまうとか、あの鳥は冬になると南の島へ渡っていくとか、二度と会わないことの方が多いと思います。だからこそめぐり合いをよろこびをもってむかえてあげたいと思っています。これが一期一会です。人と花、人と昆虫、勿論人と人もめぐり合うのです。

さとしょうエコクラブさんへ
師範から一言

緑色の線に囲まれたタイトルと、黄色い「宝」の文字、一度見ると忘れない配色ですね。大きな文字で見やすく、写真も内容が見て取れる大きさになっているので理解が早いですね。でも、駐車場の料金箱の落書きの写真のように、写真に説明がないのでわかりにくいものがありますね。
落書きがない町にするにはどんな活動が適しているか、これも考えてみたいものです。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
山に捨てる、ポイ捨てる、いろんな捨て方があるのがわかったけれど、どのようにして止めさせるか、エコクラブで考えてみて下さいね。それからきれいな町づくりには、エコクラブで出来ることは他にないでしょうか？これもみなさんで考えてみて下さい。
町が汚いのは、ごみが捨ててあることによって、ごみを捨てる人を呼んでいるともいえるのです。ですからきれいにするなら町中の人々がきれい好きでなければきれいになりません。手洗いをする事でほとんどの感染症の予防に役立ちます。同様に汚れた町を汚れたままにしておけばもっと汚れていきます。きれいにしようとする理解と行動が町をきれいにしようとする事につながります。
以前、瀬戸内海にある大三島に出向いたことがあります。この島には大きな神社があります。人々は神様と一緒に住んでいるために、朝早くから島のいたるところで掃除をしている人の姿を見かけました。これは昔々からの伝統だとお聞きしました。日本中がそうなるように願っています。

フジこどもエコクラブ広島①を書いたみなさんへ

師範から一言――

ひろったごみをグラフを使って表していたり、シリブカガシについて丁寧に説明がされていたりと、読み手を意識した新聞がつくられていると感じました。とくにシリブカガシは一般的にはあまり知られていない種類のどんぐりなので、どういった特ちょうをもったどんぐりなのかを説明することは大切なことですね。学んだことを読み手にわかりやすく伝えるために皆さんが気を配ったことがわかる新聞となっていました。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

海岸で拾ったごみの数は 5,440 個とのこと、数えるのは大変だったことでしょう。そのなかでもカキの養殖用パイプが長いものと短いものを合わせて 70%を超えているようですが、それはなぜなのでしょう？自然に流れ着いてしまうものなのか、それとも人が捨てていくのか。海岸にこんなにたくさんのごみが集まってしまう理由も、調べたり相談してみてください。



フジこどもエコクラブ広島②を書いたみなさんへ

師範から一言――

見出しが大きくカラフルで、何について書かれているのかがわかりやすく、何枚も写真をはってあるので活動の様子も伝わってきますね。ほとんどの人が陶芸を初めて体験したとのことですが、みなさんどんな反応でしたか？たとえば粘土のかたさは想像していたものとちがいはありましたか？きっとたくさん感想や発見があったことと思います。ふだんではなかなかできない体験を「フジこどもエコクラブ広島」の活動でできたことは良い思い出となったことでしょう。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

シリブカガシについて書かれている記事に「なかなか大きくならない」とありますが、その理由はなんですか？おおきくならにくい種類なのか、それとも芽が食べられてしまったりなどなにか理由があるのか、その説明があるとよりよい新聞になると思います。クイズ形式で扱っても良いかもしれませんね。



フジこどもエコクラブ広島

壁新聞のタイトル:①みんなで楽しくエコ新聞 ②エコクラブin広島 ③エコクラブ新聞 2014

フジこどもエコクラブ広島③を書いたみなさんへ

師範から一言――

干潟に入って生き物観察をしたんですね。室内で勉強をした生き物は実際に見ることが出来ましたか？図鑑やテレビを見て想像した大きさより意外と大きかったりして、小さいころ私はよくびっくりしました。そして死んだ魚を置いておくとだんだんと骨になっていったとのことですが、干潟の生き物が何を食べ、何に食べられているのか、死んだあとはどうなるのかということを目で見ることは貴重な経験だと思います。

「フジこどもエコクラブ広島」での活動に今後も積極的に参加してください。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

1 年間で様々な活動をしてきたんですね。干潟へ行ったり、陶芸やピザづくりなど普段そう体験しないような活動をおこなっているのですから、同じ活動で来年度新たにチャレンジしてみたいことや目標、改善点なども書いてみてはどうでしょうか。

海岸のごみ拾いもどうしてパイプがワースト1なのか、どうしたらごみは減っていくのかなど、みなさんの考えが書かれているととてもよい新聞となると思います。



めだかの学校さんへ
師範から一言――

最初に目にしたとき、その膨大な情報量におどろきました。9地点での活動の様子をそれぞれ表や写真でわかりやすく説明をされていますし、それぞれの記事で背景色が色分けされているためゴチャゴチャした印象は受けず、バランスのとれた新聞になっています。めくりを一切使わずにこれだけの情報を一枚の模造紙に収めたことがすごいですね。調査結果も図鑑の写真を貼り付けていて、生き物の姿が分かりやすくなっていると思います。これからも続けていってください。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

調査地点をあらわした絵を、新聞の真ん中に持ってきて番号を振っているので各地点の位置関係がわかりやすくなっています。写真もたくさんあって現場の様子も分かりやすいのですが、一言二言でよいので、文章としても調査地点がどのような環境にあるのか記載してほしいと思います。たとえば付近には住宅が多いのか、それとも山の中なのか。流れが速いのか、川の深さはどうか。そうすることで調査で見つかった生き物がどのような場所にいるのかが、誰が見てもわかるようになると思います。



緑丘こどもエコクラブさんへ
師範から一言――

生き物観察の記事では、季節によって姿の変わる植物をくらべているのがわかりやすくて良いと思います。とくにエノコログサは緑色から茶色になりますし、小さいころから目にしたり遊んだこともあり、よく知った植物ですね。また、「文化祭」の記事では卵のカラーを使ったエコキャンドルがとてもおもしろいと思いました。見た目も可愛らしく、サイズも小ぶりで女性に人気がありそうです。実際どうでしたか？ 次回の新聞では皆さんの活動、作品に対するまわりの情報も教えてください！

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

生き物調査を3日間したようですが、すべて同じ場所ですか？ もしそうであれば、前の月(季節)と比べて観察場所の様子はどうでしたか？ たとえば前回見つけた花がなかった、生き物が違っていった(バッタについては書いてくれていますね)、など教えてください。また、ソーラークッカーとはどういったものなのかも、説明があるとよいかと思います。



ホタルと共に暮らし隊さんへ

師範から一言――

こどもエコクラブ「ホタルと共に暮らし隊」のみなさん、こんにちは！かべ新聞ありがとうございます。

みんなの作ったホタル新聞を見て、とてももりだくさんの内容がぎっしり詰まっています、いろいろな環境活動を実行しているようすがよく分かるすばらしい新聞になっていて、感心しました。

部活動としてこの一年間に行った、「エネルギー」「水」「自然」というテーマの活動をじょうずに配分して新聞に示してくれました。書きたいことがたくさんあって、重ねたり、折りたたんだり工夫をしていますね。みんなの熱意が伝わってきます。使われている写真も、説明文と合っていて分かりやすいです。

エネルギーの活動にいちばん力をいれたのか、新聞の半分以上を占めていますね。特に節電をテーマに、学校で消費する電力を過去にさかのぼって調べ、節電のアイデアを考えて実行しています。その成果がさっそく出ましたね。2014年の使用量は、過去5年間の平均値をずいぶん下回りました。お見事です！学校の活動を家庭にも広げようとして環境家計簿への参加を考えたことは、とてもよいことです。なるべく多くの人が節電に関心を持ってくれることが大切です。参加してくれたお友達の感想を読んで、エネルギーへの関心深まり、活動の広がりがわかりました。

節電の方法を自分たちで考えるだけではなく、専門家(四電)の講座を開いて勉強しています。日よけにしたよしず作戦についても、気温を計って効果を調べています。ウォームビズでも違いがわかりましたね。トレパンの効果が3℃もあるのは驚きです。全体的に、みんなはちゃんとデータを基に比較して、考えています。とても大事なことです。これからも、こういう習慣を持ち続けてください。



ホタルと共に暮らし隊

壁新聞のタイトル:ホタル新聞

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

水力発電所や風力発電所を見学して、自然エネルギーについても勉強しました。どんな感想を持ちましたか？CO₂を出さない電力が増えるといいですね。ソーラークッキングで太陽光のエネルギーを実感しましたか？

「水」の活動では、全国水生生物調査に参加しているようすを書いてくれました。調べた川の名前(鮎苔谷川なんて読むのかなあ?)からアユが登ってくるきれいな水の川を連想しています。水と食物、とくにバーチャルウォーターまで考えて、よその国の水を利用していること、食物にたくさんの水を使っていることもわかりました。地球上の使える水は多くありません(真水は2.5%)。日本は見ずに恵まれています(34L/日)、その1/10しか使えない国もあります。水と森のつながりも体感したと思いますが、自然を守っていくことの大切なことをクラブ活動を通じて理解されたと思います。

クラブ活動に参加したみんなが、活動を振り返って気づいたこと、おどろいたことを感想に書いてくれました。これからの決意もいいですね！みんなのクラブ活動の経験がこれからの生活にもきっと生かされるにちがいないと、感じました。

最後に、「ホタルと共に暮らし隊」の名前の由来についても、少し書いてくれると良かったな、と思いました。すばらしい新聞をありがとうございます！

☆☆サポーターの方へ☆☆

素晴らしい活動内容が書かれている壁新聞をありがとうございます。

豊かな自然環境にめぐまれた池中の生徒さんが、楽しく、協力しながら、アイデア探しに頭をしぼって、結果もチェックする活動しているようすがよく分かる新聞です。地域の環境活動の核となって、活動している良い事例だと思います。

生徒が、自分たちで年間の活動計画を立てて実行したのでしょうか？それとも、サポーターと一緒に考えてのでしょうか？いずれにせよ、ホタル隊の活動がまわりの生徒に広がり、さらに家庭や社会に輪を広げることの大切さが分かり、良い取り組みと思いました。

特に感心したのは、「何をしたかの報告だけでなく、自分たちが考えたことや学んだことを伝えることを重視して作りました。」という方向付けです。生徒たちが、自主性をもち、自分たちで考えて実行し、その結果を振り返るという形ができていると思います。そういった子供たちが増えてくれることを、期待しています。

良いサポートありがとうございました。

シオン・エコサイエンスクラブ①の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言

今年もメダカの生息調査と水質調査のかべ新聞ありがとう。何年もメダカの生息調査を続けることは本当に素晴らしい！！とてもきょうな生息調査だね！！増え続けているカダヤシは特定外来生物(とくていがいらいせいぶつ)にしていされているので、このまま放置しておく、カタヤシのために完全にメダカがいなくなってしまう可能性がある、とても心配だね！！

メダカのためにみんなで水路の水質調査やごみの回収もやってくれたんだね。メダカのためにみんなで協力しながらどんなに小さなことでも出来ることは何でもやって欲しいな。また早明浦ダムボランティア清掃を13回やってくれたことで不法投棄の産廃ゴミがなくなり、きれいになってきたことは、本当にみんなの努力のおかげだね。おめでとう！！

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

メダカを大切にするために、生息調査は今後も続けて欲しいな。メダカが減っている理由がカダヤシのせいかどうか、または他に原因があるのかどうかを市役所のせんもんの人に相談してほしいと思います。その相談した結果を次回のかべ新聞で発表できるといいね。楽しみにまっているよ！！



シオン・エコサイエンスクラブ②の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言

いろいろなエコ工作にチャレンジしたね。珍しいものばかりで、オドロキです。

ハイビスカスの花びらから太陽電池が作れるとはまったく知りませんでした。牛乳パックでブーメランが作れるとはリサイクルの遊びのアイデア賞を差し上げたいと思います。廃油キャンドルはいろいろな色があつてきれいだね。

特にサザエのキャンドルは部屋の中の飾りにも使えてかわいい。廃油の再利用なので環境にもやくにたっている！！ステレンでのコースターや立体絵もかわいいね。みんなで楽しく作ったようすがかべ新聞からよくわかりますよ。こんどはどんなエコ工作ができあがるか次回のかべ新聞をわくわくしてまっているよ。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

これだけユニークな面白いエコ工作なので、読者のお友だちはもっとくわしく知りたくなると思うよ。たとえば、電流はどのくらいの強さの電流になったのかな。ブーメランはどのくらい飛んだだろう。廃油キャンドルはどのようなところがむずかしかったか。読者になった気分のかべ新聞を作ってみると、みんなのかべ新聞がもっとおもしろく、みりよくてきになると思うよ。がんばってね。



さぬきこどもエコクラブさんへ

師範から一言

米づくりの最初から最後まで活動のきろくがすべてよくわかるすばらしいかべ新聞です！！

米づくりはかなりの時間や日にちがかかり、くろうして、がまんして、みんな一人一人が米づくりのそれぞれの活動を楽しみながらチームワークでよくまとまり、いっしょうけんめいがんばったようすがかべ新聞の写真からとてもよく分かります。本当にお疲れ様でした！！このように大変てまのかかる作業だったので、無農薬のお米の味もとてもおいしかったと思います。次回のかべ新聞ではどのようにお米を食べたかの報告を待っています。

360 キログラムのお米が収かくできた理由は、太陽の光や温度、きれいでゆたかな水、水はけのよい、びせいぶつのたくさんいる土などだと思いますので、自然へのかんしゃの気持ちを忘れてはならないと思います。家族でのいもほりのようすやヤギとなかよくなれたことも報告してくれてありがとう。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

田んぼの中には、自然のなかまたちがたくさんいるので、その自然のなかまである生き物や植物のことをしらべて、どのような仲間をどこで発見して、どのくらいあったか・いたかなどのほうこくしてくれたら、もっと楽しいかべ新聞になると思うよ。いっしょに太陽、水、土などの自然のことも勉強すればもっと米づくりが楽しくなると思うよ。次のかべ新聞をわくわくして楽しみにまっているよ！！

善通寺こどもエコクラブさんへ
師範から一言

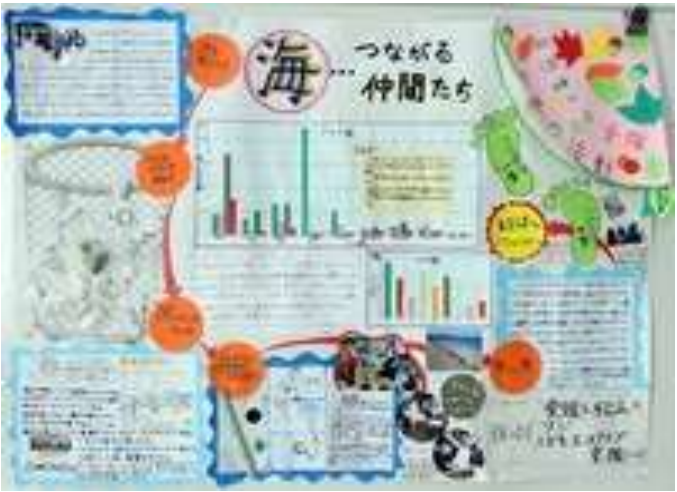
森のふんいきがいっぱい感じ取れるすばらしいかべ新聞です！！「こども樹木医になろう」というかべ新聞のタイトルが非常にユニークなので、どのような記事が書いてあるかべ新聞なのか読者のお友だちの目をひきつけますね。
「樹木の不思議」と「土の不思議」の大きな二つのテーマ、そして「これからのとりくみ」という活動のテーマでめくられていて、全体的な新聞の作り方がとてもみりよく的に出来上がっているね。幹の空洞、街路樹とイチョウの説明はせんもん的に観察されていて、まるでプロの樹木医ようですね。また、どじょうについても、とてもうまくまとめられていて、森の中では、生き物どうしの関係の一つに「食う、食われる関係」があり、植物は葉や実を昆虫・野鳥・小さな動物に食べられ、その昆虫や小さな動物は肉食の大きな動物に食べられ、土の中のびせいぶつは死んだ動物や植物をくさらせて土にかえして養分を作る関係を食物連鎖(しょくもつれんさ)と言い、このことがくわしく書かれていますね。このように自然と生き物の関係が説明されているかべ新聞に感動しました！！ありがとう！！



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
次回のかべ新聞では、「こども樹木医」として何をやっているのか簡単な説明があればうれしいな。
森や樹木のやくわりに関して、降った雨をため、こうずいを防ぐ、水をきれいにしたりする働きなどあり、みんなの生活とどのようなかわりがあるか勉強して、かべ新聞の記事になればいいね。読者のお友だちはわくわくしてみんなのかべ新聞をまっているよ。また、みんなが住んでいる近くにも豊かな自然や森があると思うけど、みんなで協力してその自然や森のかんきょうをこれからも守っていかねばなりません。そのために森の定期的なほぜん活動である、植樹(しょくじゅ)、間伐(かんぱつ)、下草刈り(したくさがり)等も大切なとりくみの一つだと思います。

フジこどもエコクラブ愛媛さんへ
師範から一言

フジこどもエコクラブのみなさん、こんにちは。
悲しいことに、海にごみを捨ててしまう人はなかなかへりませんね。それでも、みなさんのような活動をする人が1人でも増えれば、少しずつ少しずつごみは確実にへることが活動を通して実感できたのではないのでしょうか。
私も、海や海の生き物が大好きなので、ごみがいつかゼロになればいいな、と思っています。このステキな活動を応援しています！



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
★.....★
かべ新聞おつかれ様でした。
読みやすさ、内容ともにすばらしいと思いました。また、ごみ箱やめくってみようなど、読みたくなるような工夫もあり、とても興味を持って読ませてもらいました。それぞれの活動をきちんと意味のある働きとしてフジこどもエコクラブのみなさんが受け止めている様子も伝わりました。
今後は、このすばらしい活動をクラブ内だけでなく、家族、友達、地域の方...と広めていけたらいいですね。

エコサイエンスクラブさんへ 師範から一言

エコサイエンスクラブのみなさん、こんにちは。

約半年で、こんなにも様々な活動をしていて、すごいなと思いました。しかも、どれもとても楽しそうですね。夏には屋上緑化、冬には LED のクリスマスツリーと季節感もある活動ですばらしいですね。私はペットボトルのけんぴきょうに、とてもおどろきました。まさか、身近なペットボトルを使って小さな生き物を見られるなんて、大発見ですね！

エコなことはもちろんですが、続けて行くためには“楽しい”ことも大切な要素の 1 つです。これからたくさんの活動を通して発見した事や感じた事をぜひかべ新聞で教えてください。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
かべ新聞おつかれ様でした。月に1度の活動との事ですが、とても内容のこい活動をされていますね。
エコレンジャーのクイズが入っているのも読んでいてあきない工夫がされていて、とても良いと思います。ただ、どの月になんの活動をしたのかが少し見づらい印象だったため、カレンダー風にまとめたり、タイトルをペンで色分けする、同じ月を線で囲む、背景を付けるなど、ちょっとしたことでもっとよいかべ新聞になると思います。また、この実験や工作がどのように環境のためになるのか、どこがエコなのかもかんたんにポイントをのせてみてはいかがでしょうか？
次回のかべ新聞も楽しみにしています！



愛媛県新居浜市 イオン新居浜チアーズクラブ
壁新聞のタイトル: 田んぼの学校 38-03

イオン新居浜チアーズクラブさんへ
師範から一言

イオン新居浜チアーズクラブのみなさん、こんにちは。
 どれもおもしろそうな活動で、みなさんの楽しさが伝わってくるようでした。たくさんの活動をしているので、色んなぎもんや発見、感想が出てくると思いますが、すっきりきれいにまとめられていますね。さらに、ペンや写真、画用紙などを使ってとても見やすかったです。
 私も、今お仕事で小さな田んぼで稲を育てています。お茶わん 1 ぱいに、どのくらいのお米があるのか、とても きょうみを持ったので、今度私が育てている稲も、しゅうかくしたら数えてみようかな ♪と思いました。
 私の住んでいる東京では、なかなかできない自然体験が多く書かれていたので、わくわくしながら読めました。ぜひまた、愛媛ではどんな自然があるのか、どんな活動をしたのか、教えてくださいね。

とおきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
 かべ新聞おつかれ様でした。
 小1～中3という幅広い年齢層での活動は、大変だと思いますが、それぞれの学年の子たちがそれぞれの考え方を持っていて楽しそうだな、と感じました。
 たくさんの自然とふれ合うと、おもしろい発見や不思議な事、ちょっと怖い事、色々な感情が生まれると思います。でも、それってすごく楽しい事ですよね。そんな様々な事を教えてくれる自然に、今度はぜひみなさんが恩返しをしてあげてください。
 例えば、日常生活のなにげない行動が、知らず知らずのうちに自然をこわすことにつながる行動もあります。そんな事に気付いたら、お友達や家族の人に教えてあげてください。まずは、「知る」ことが自然を守る第一歩になるのではないのでしょうか。もちろん、ぜひかべ新聞にもまとめて教えてくださいね♪



レインボーキッズさんへ
師範から一言

レインボーキッズのみなさん、こんにちは。

まず、カラフルで読みやすく、わくわくしながら読めるかべ新聞でした。活動から各々が色々な事を感じていて、それを限られたスペースにとっても上手にまとめられていると思いました。

私はとくに、ダンボールコンポストに興味を持ちました。家でできて、生ごみがたいひになる、そしてエコ。さらに、そのたいひを使っておいしい野菜を育てられるなんて一石四鳥！ととてもお得ですね。きっとこのかべ新聞を読んだ人もマネしてみたいくなるのではないのでしょうか。(私もさっそく作ってマネしてみようと思います！)
全体を通して愛媛の自然のいいところ、おもしろいところをたくさん知ることが出来ました。でも、まだまだ愛媛の自然はもっとたくさんあるはずですよ！それらの紹介を楽しみにしています♪



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

かべ新聞おつかれ様でした。

大人でもむずかしい ESD をテーマに様々な活動をされており、すばらしいと思いました。そんな大切な活動だからこそ、その活動がどう環境やエコにつながっていくのか、私たち(読み手)はどんなことをすれば良いのかが記載されているとより良いかべ新聞になるのではないのでしょうか。(せっかくタイトルに ESD とあるので、深く掘り下げてみてもおもしろいかもしれません。)

最近、自然の減少やそれに伴う温暖化などの環境問題が問題視されていますね。そんな中で、このように自然とふれ合う活動はとても大切だと思います。これからも、自然はすごい！おもしろい！不思議！という事をかべ新聞を通して私たちに伝えてもらえたらうれしいな、と思いました。

高知県高知市 フジこどもエコクラブ高知
壁新聞のタイトル:フジこどもエコクラブ高知新聞

39-10

フジこどもエコクラブ高知さんへ
師範から一言

フジこどもエコクラブ高知のみなさんのかべ新聞は、たくさんの写真と絵に感想が書いてあって、どんな活動をしたのか、とても分かりやすくまとめてくれています。

ぱっと写真や絵をみるだけでも、豊かな自然の中で、のびのびと楽しい活動をされていることが良くわかります。

田植えは、ドロドロのヌルヌルで大変だったこと、泥だらけになった人もいたとのこと。でも、植える活動をみなさんが楽しみながらされたことが伝わってきます。

いねかりの記事も、最初にいねがしげっていた様子や、かり取ったあとにどういうふうに干したのかなどが分かりやすいですね。

どんなふうにお米が作られているのかを実際に体験すると、ご飯を食べるときのおいしさが少し違ってくることはないですか？ お米以外のものも、大切に食べて無駄にしないようにしたいですね。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

それぞれの活動について「何回目の活動なのか」「何月何日にしたのか」「場所はどこでしたのか」ということがしっかり書かれていて、分かりやすく良いですね。写真に説明があって、さらに活動の内容が良く分かりやすくなっています。

みなさんは、田んぼでの活動、合宿での森の探検、カヤック、川でのアユ捕り、エコクッキングと、豊かな自然の中での活動をたくさんされています。いろいろな活動をする中で、発見したこと、大変だったこと、うまくいったこと、いかなかったことなど、一緒に体験したエコクラブの仲間と話しあったり、感想を言ったりすることはありますか？ 話し合う中で、次はこうしたいなという工夫や新しいアイデアが出てきたらステキですね。良かったことや、次にやりたいことなどは、かべ新聞だけでなく、周りの人たちにもどんどん伝えていって、楽しい活動の輪を広げていってくださいね。

これからも、豊かな自然の中での活動、楽しんでくださいね！

高知県香美市 香美市こどもエコクラブ ハッピーコロリン

壁新聞のタイトル:地球が笑顔になるように

39-01、39-02、39-03(全3枚)

香美市こどもエコクラブ ハッピーコロリン①の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

ハッピーコロリンのみんなが作ったかべ新聞「地球が笑顔になるように」は、とってもすばらしい！とってもすばらしい！新聞です。何がすばらしいと言って、みんなが住んでいる近くのみやびの丘をブナの木でいっぱいにして、さおりが原をマネギグサが咲きほこる所にしようということ、みんなが一生けんめい活動をしているのが、手に取るようにわかるのがすばらしいです。

活動報告だけでなく、実際に活動してみるととても大変なことがいっぱいありました。土止めネットは、山の斜面がきつく、足をずっとふんばっていたので、体中がいたくなった、7月6日のみやびの丘ブナの森づくりは、あいにく小雨がふっていたので、寒いし、手や足がどろだらけになったし、ぼうを打ちこむのは、岩に当たってなかなかできなかった、などみんなの大変さが良く表現できていて、読む私も大変だなーと実感できました。みんなの活動の写真も大変さがよく分かります。トントン打ちつけるようすや雨でかみの毛がぬれていて、がんばっているようすが分かります。「ぜったいブナの森を作ってみせる！！」みんなのがんばる気持ちが、実を結ぶだろうと思いました。

さおりが原でマネギグサを咲かせる活動は、ようやくみんなの顔に笑顔が出てきましたね。毎年、マネギグサが大きく成長するのが実感できた。うれしいねー。保護柵を作った効果もちゃんと確認できました。自分たちのやったことで成果が出たのも、本当にうれしいですね！種を取って、もっともっと増やそうと考えましたね。種はとっても小さいのですね。

風で飛ばないように注意して、たくさん取れましたか？

来年はスリランカへ行きます！いいなー。インドのとなりのスリランカは環境にやさしい、美しい国だそうです。楽しみです。私はまだ行ったことがありません。楽しい思い出と感動する体験をしてきてください。報告を楽しみにしています。

エコプロダクツ 2014 でこどもエコクラブ全国事務局のおにいさん、おねえさんと会ったのですね。お話ができて良かったね。事務局のおにいさん、おねえさん達もみんなに会ってとってもうれしかったようです。エコプロダクツ 2014 にはいろいろな展示があり、体験もでき、みんなの活動に役に立つことがいっぱいあったと思います。これからの活動にさんこうになることもあったでしょう。でも高知県から来るのは遠くて大変ですね。

香美市こどもエコクラブは、サポーターさんがたくさんいて、みんなも元気が出るね。ぼくのばあばとお母さん、村上先生、高知大学の依光先生、福富校長先生がいつも来てくれるようですね。そして、エコクラブの先ばいも来てくれるので、サポーターだらけになるようですね。みんなのかんしゃの気持ちがすばらしいです。活動の始めには、「おはようございます！」活動が終わった時には、「ありがとうございます！」とみんなで大きな声であいさつをしているようすが目に浮かびます。

(よみがえれ！物部の森新聞 PART2の発行日が 2014、1,5(月)となっていますが、2015,1,5(月)のまちがいでないでしょうか？)



香美市こどもエコクラブ ハッピーコロリン

壁新聞のタイトル:地球が笑顔になるように

とっておきのゴシドウ★・・・★

B&Gこどもクラブでヨットに乗ったり、旗を作ったりの活動や「塩の道」で学んだ！の活動ですばらしいなと思ったのは、みんなは楽しんだり、くたくたにつかれたとの感想だけでなく、環境をつねにいきして、しっかりと観察していることが、とってもすばらしいです。

旗を作ってきれいな色に染めました。下絵ののりを洗う時にきれいな水、きれいな川があって、初めて染物がきれいに仕上がることに気がしました。ベリーグッドです。

塩の道を歩きました。坂が多くてくたくたにつかれた。その道を歩きながら、とても大切なことに気が付きましたね！人が住んでいて森をちゃんとせいいびしている と木の下にまで日がさして、下草がたくさん成長する。こうすることで森に水がたくさんたくわえることができる。また、大雨がふっても土砂くずれがおきない のですね。シカやイノシシ、クマが出てこないの山は荒れていません。こういう目で身近な自然を見て、自然を観察するみなさんはすばらしいと思います。今回は 5.6kmを歩いたのですが、昔の人は重たい塩をかついで、30km位歩いていたのですね。えらいなーとつくづくと感じたでしょう。

さおりが原でマネギグサ咲きほこる！！の下にこっそりと、そしてほこらしげに環境壁新聞コンテストで特別賞の早稲田大学賞を受賞しました、という新聞記事をはってくださいました。みんなの活動を見てみると特別賞をもらうのは、とうぜんのことに思います。

活動の内容をわかりやすく、ていねいに書いてあります。そして、みんなの気持ちがあふれている新聞です。そして、あきらめずに前を向いて森をかいふくさせるぞ！という意気込みが伝わってくる新聞です。バンザイ！バンザイ！ですね。

2015 年もがんばるぞ！たくさん、やりたいこと、やろうとすることが書いてありました。地球が笑顔になるようにを、つねに考えながら活動することがみんなのきぼうであり、願いですね。

来年はどんな新聞がとどくのか、とても楽しみです。

香美市こどもエコクラブ ハッピーコロリン

壁新聞のタイトル:地球が笑顔になるように

師範から一言――

ハッピーコロリン②の壁新聞は、物部の森をふっかつさせるということで、みやびの丘にブナの森をつくるよ！さおりが原をマネギグサでいっぱいになりたい！の活動を中心にしています。ハッピーコロリン①の活動と同じですが、エコまるをまん中にして大きな口をあけて、森をまもる活動、続けるよ！ だって、森を守れば川も海も守れるから、とさけんでいるところがちがいます。それとエコ丸のまわりに 1 年間にやったことを書いてくれました。4 月 26 日に結成式をおこないました。そして、すぐにみやびの丘でブナの森づくりをして、土佐のお茶づくりにちようせんし、依光先生のお話を聞いて勉強し、B&G こどもクラブの結成式をおこない、香美市の特産品を使ったアイデア料理でおいしい(?)、めずらしい(?)料理をつくり、草ぶえ教室でふえを作って、ピーピー鳴らしたのでしょう。さおりが原でマネギグサの手入れをして、アメゴつり大会に参加して、その後、そめもの体けんをし、塩の道ウォーキングをして、かべ新聞づくりをスタート、エコプロダクト展を見学し、物部川を考えるシンポジウムに参加して、3 月 23 日こどもエコクラブ全国フェスティバルに参加して 1 年間の活動をしゅうりょうしました。毎月 3 回から 5 回の活動をしました。1 年間をふりかえると、こんなにたくさんの活動をやったのか！とびっくりしました。



ハッピーコロリンのかべ新聞のすばらしさは、たくさんの活動をていねいに、そしてこまかく書いてくれたことと共に、じっさいに活動してみてこまったことや考えたこと、感じたことを自分たちのことばで書いてくれたことです。ネットはりてへとへとになったけれど、これでブナの木が助かるので、よかったと思います。でも、やっぱり帰りのバスではみんなグーグーと寝てしまいました。去年まいた種から小さい芽が出ていたので「ヤッター！！」と思った。7月6日は小雨がふっていたので、「寒い！寒い！」と言いながら植えた。シカがとどかない高さになる19さいの時までみやびの丘に来て、見守ってあげるとちかいました。とうがんのランブに灯をともしときれい。お茶も作りました、のむとおいしいよ！さおりが原の水はさむい！さむい！でもやっぱり海はいいなー！ぼくたちは水が大好き！！など、みんなの生の声がとてもよかったです。それと、みんなが言いたい、うたえたい活動のようすが写真にちゃんとうつっていて、文章とよくいっしょしていました。さおりが原のマネキグサも、ほごさくを作ったので1年、2年、3年と年ごとに大きくなり、うっそうとしていて、みんなの活動が生きることが実感できたようですね。物部の森でシカの食害で木の根元の草がなくなると、雨で山くずれがおこるだけでなく、川がよごれ、海もよごれて、魚もこまります。そこまでみんなは気がついて森のかいふくを進めているようで大変すばらしいと思います。

とっておきのゴシドウ★……★

年間の活動の中から、みんなが気に入った活動もしょうかいしてくれました。アメゴつりでつったアメゴのさしみをつくりました。大人の人がつくったのではなく、ぎょきょうのおじさんに教えてもらい、みんなが作ったようですね。私はアメゴのさしみは食べたことはありませんが、どんな味なのだろう？白身 の魚なのでタイのようなさっぱりした味かな？

香美市の特産品をつかったアイデア料理では、丸こんにやくのとんかつを作ったのです ね。こんにやくに肉をうすくまいて、油であげるとかんせいかな？おいしそうですね。丸こんにやくが香美市の特産品ですか？写真には、いろいろなアイデア料理が写っています。アイデア料理コンテストでは、大人も子どもも作った料理がならんだのですか？私も見て、食べてみたかったなー。みんなはほかの料理も食べてみたのですか？丸こんにやくのとんかつ以外においしかった料理はありましたか？

エコまるの口の中にも大事なことがたくさん書いてあります。芽を出すくふうがあるようですね。大きなプランターにつめてまくと育ちやすいようですね。東北のひさい地にとどけるなえも育てているのです ね？ぶじに東北で育つと良いですね。君とお兄ちゃんだけがうまく育ったようで、なんとなく名みたいだね。ここには書いてないひけつがあるのです ね？

高 知大学の依光先生は、いろんなことを分かりやすく教えてくれます。エコクラブの先ばいの Happiness のまこちゃんが来るとみんなも元気になります。ぎょきょうのおじさんたちがつりやさしみの作り方を教えてくれました。パリュノアの店長さんとお友だちになりました。スリランカの人たちともお友だちになりました。その他にもたくさんの人たちがみんなの活動を手伝ってくれたのだと思います。そういう人たちの気持ちにもこたえるためにもみんなは活動を続けて、物部の森をふっかつさせてください。

10年後にエコまるといっしょに守る森がりっぱになっていることをきたいしていますよ！

香美市こどもエコクラブ ハッピーコロリン
壁新聞のタイトル:地球が笑顔になるように

香美市こどもエコクラブ ハッピーコロリン③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言—————

「エコクラブ一年生！」というかべ新聞のタイトルが、とってもステキですね！
新しい活動がはじまるときのワクワクしたきもち、楽しい活動をがんばろうというきもちが伝わってくるようです。そんなピカピカ一年生のハッピーコロリンのみなさんは、たくさんの活動を報告してくれています。
毎月どんな活動をしてきたのかについて、4月に一年生になったところから、まるですごろくのように楽しいデザインで報告してくれています。畑に川にお店にと、色々な場所でたくさんの活動をしたのですね。スーパーのエコたんけんで店長さんに教えてもらったことや、茶畑で風車を見つけたことなど、みなさんが発見したことがわかって、とてもおもしろいです。
エコクッキングも、写真がとてもたくさんで、楽しい様子が良くわかります。



とっておきのゴシドウ……★……★

「山をまもう！」の記事では、シカが葉っぱを食べて山がこまっていることをまとめてくれています。ブナの赤ちゃんがシカに食べられないようにネットで囲ったことや、シカのくじょのときのルールなど、なるほど～！と思いました。
みなさんが活動されている山や場所の名前も書いてあると、もっとわかりやすくなると思います(7月に活動された「みやびのおか」でしょうか？)
それから、もしチャンスがあれば、どうしてシカが葉っぱを食べてしまうのかや、昔から同じようにこまっているのかなどについても、しらべてみてください。
「タネってすごい！」の記事も、とてもおもしろくステキな内容ですね。どうして調べようとおもったのかや、花・やさい・くだものなど色々なタネを調べたことが、とてもわかりやすいですね。
ハッピーコロリンのみなさんのかべしんぶんは、発見したことやかんそうなどがしっかり書いてあるので、そこがとっても良いと思います。チャレンジしたいことのひまわりのタネもがんばってください！
みなさんの活動は、地球が笑顔になる活動、そして、メンバーの皆さんも笑顔、お家の人や周りの人も笑顔になるステキな活動ですね。これからも、活動したりしらべたりしたことを、ぜひかべしんぶんにとまとめて、色々な人に伝えてくださいね。

香美市こどもエコクラブ みどれんじゃーさんへ
師範から一言――

みどれんじゃーのみなさんは、3年生、1年生、幼児の3人兄弟エコクラブで、今回で3年目と
のことです。とってもステキなデザインで、楽しい工夫がたくさんしてあります。とってもがんばっ
て作ってくれたんですね。
大きな木の葉っぱには、いっぱい活動の報告やエコ情報をまとめてくれています。活動の種
類も多く、色々なことに取り組んでいるんですね。木の幹の扉を開くと、これからチャレンジした
いことが書いてあったり、そばを流れている川のところには新改川の生き物調べについてまとめ
てあったりと、工夫がいっぱいで、見ていてとても楽しいかべ新聞ですね！
みやびの丘の活動は、ブナの森を守るためにしたことだけでなく、イラストでも土しゃくずれの説
明があり、わかりやすいです。
ジャコウアゲハを100匹以上助けたことや、地元でとれた野菜はなぜエコなのかということ、ま
きストーブがお家にあることなど、内容もいろいろ読み応えがありました。
自転車でちいきのゴミがないか調べたことなど、実行力を感じます。
本当にすてきな活動をたくさんしているんですね。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
どの記事も内容がしっかりしていて、とても良いですね。具体的にいうと、「何をしたのか」だけでなく、「何がきっかけだったの
か」「どういうところがエコなのか」「活動をした感想」などが書いてあって、わかりやすいです。
ナウマンカルストの記事に「きれいな山はたくさんあります。だから地球はまだだいじょうぶです」と書いてくれています。環境の
ことを調べると、簡単に解決しない問題もたくさんありますが、これからの未来を作っていくのはみどれんじゃーのみなさんや、
私たち大人なので、楽しくステキな地球・社会をイメージしながら一緒にがんばりたいなと思います。
それから、かべ新聞に紹介してくれている記事の中には「いつもしている活動」もあれば、「〇月頃の活動」というもの、「〇月〇
日にした活動」などがあると思います。それぞれの活動が、いつしたものかについてもぜひ書いてみてください。そうすると、例
えばジャコウアゲハはいつ頃の時期に多いのかということが、壁新聞を読む人にもわかります。活動の記録としても良いものに
まりますよ。楽しい活動というのは、どんどん広がっていくと思います。これからもステキな活動をしてくださいね！

高知県香美市 香美市こどもエコクラブ 自然となかよし
壁新聞のタイトル: ちきゅうしんぶん わたしがちきゅうを守る!!

早稲田大学賞 39-05、39-06、39-07、39-08(推薦)(全4枚)

※幼児クラブとして申請あったが、小学生もいるクラブのため除外します。

香美市こどもエコクラブ なかよしエコクラブ①の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

それぞれどんなことが書かれているのか、記事の内容を一言で表した見出しでとてもわ
かりやすくなっていました。
活動中の写真も大きく貼られていて、当日の様子がよくわかりますね。また、プールの
記事ではライフジャケットの「効果」や「意味」といった、体験して学んだことがしっかりと
書かれていて、読んだ人のためにもなる新聞づくりができていると思います。
川や海であそぶとき、ライフジャケットはかならずつけなければいけないということを、み
なさんの口からも広めていってくださいね。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
はじめての「おちゃつみ」はどうでしたか？たくさん感想を書いていますね。
その中に「いっしんさんよう」という言葉があります。私はみなさんの新聞を読んで はじめ
て聞いた言葉だったので調べてみました。漢字では「一心三葉」と書くそうです。みなさ
んはおちゃつみを体験したので言葉の意味もわかるかと思いますが、でも、はじめてこの
新聞を読む人には伝わらないかもしれません。「いっしんさんよう」とはどういった意味な
のか、一言説明があるとよかったかと思いますが。

香美市こどもエコクラブ 自然となかよし
壁新聞のタイトル:ちきゅうしんぶん わたしがちきゅうを守る!!

香美市こどもエコクラブ なかよしエコクラブ②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言

写真もたくさん使っていて、どんな場所でどのように活動をしたのかが新聞を読む人にもよく伝わる写真が選ばれていると思いました。また、「バリューノア店・エコ」や「川のことをよく知って守ろう!!」の記事のように、はじめにかんたんな説明文があるところがとてもいい感じでした。
写真だけでは伝わらない情報をふき出しでつけ加えている部分は、読み手に対してしっかりと配りよがされていると思います。これからも読む人のことを意識した新聞づくりをこころがけてくださいね。
とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
「川を守ることでしたらよいことは」の記事で3つあげてくれています。それぞれどうしてそうしたら川が守れるのか、という理由を一言書いたらよいかなと思います。
「2. とってはいけない魚はまた川にかえしてあげること」とありますが、「とってはいけない魚」とはどういう魚のことでしょうか。あいまいな言葉だと読んだ人がかんちがいをしてしまう可能性もありますね。見やすい・わかりやすい新聞が作れているので、このちょっとした気配りでさらに良い新聞になると思います。



香美市こどもエコクラブ なかよしエコクラブ④の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言

見た目のインパクトがとても強い新聞でした。2014 年のエコクラブのはじまりから、2015 年の目標を立てるまでの出来事が、道すじとして目でわかるよう斬新なデザインとなっています。また、記事にかかれていることも活動したことから学んだことまでがかんけつにまとめられていて、とても読みやすい新聞となっていました。
情報量も大切ですが、やはり伝えたいことが読む人に理解されなければ新聞としての機能を果たしているとは言えません。おとなもこどもも楽しい新聞となっていました。
とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
1 年間で様々な活動をしたようですね。どの記事でも、それぞれの活動内容、感想をていねいに記じゅつしていてみなさんの感じたことが伝わってくる新聞となっています。
今度は、次回の目標やうまくいくために自分で考えたポイント(改善点)などを書いてみてください。たとえばアイディア料理では、調理をしているときに気を付けることやこだわりなどはありませんでしたか? みなさんの工夫したところも教えてもらえると、さらに親しみ深い新聞になることと思います。



香美市こどもエコクラブ 自然となかよし
壁新聞のタイトル:ちきゅうしんぶん わたしがちきゅうを守る!!

香美市こどもエコクラブ なかよしエコクラブ③の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言

香美市こどもエコクラブ(なかよしエコクラブ)のみなさん、こんにちは!
おもしろいアイディアとたくさんの活動のようすが盛り込まれたかべ新聞をありがとう。
「みどりの小道」環境日記2週間分を読んで、とても感心しました。みんなが書いたそうですが、2~3か月の間に書かれた日記から、14 日分を選んだのでしょうか? 書かれている題材が毎日変わり、節電(電気のエコ)、ソーラーパネル、から生物多様性、タンポポ、茶つみなど幅広く、細かなことをよく観察して書かれていると思いました。自分の見たことから、扇風機やテレビのつけっぱなしのむだ、トイレの紙タオルのむだをやめるエコな行動に結び付ける考えが書かれていて立派です。
なかよしのなかまにも伝えてみんなで行うと、エコはもっとと広がり効果が大きくなると思います。このようなひとつひとつが小さなことですが、まとまると大きなエコにつながるのですね。そのことに気づいたことはすばらしいですね。新聞にのらなかった日記の中にも、みんなに知ってもらいたいいろんなことが書かれていたと思います。今も日記は続いていますか?
「ショッピングセンター」へでかけて、そこのエコ活動を見学して、勉強しましたね。会社が取り組むエコ活動がどんなものか、よくわかったことでしょう。ショッピングセンターのエコ活動には、来店するお客さまに協力をおねがいするもの(ごみの分別や新聞雑誌のリサイクル)と会社で行うこと(節電・節水)がありますね。みんなができることは協力してあげたいですね。
「みやびの丘」を守る活動もしました。たいせつな「ぶな」が鹿に食べられているのですね。鹿はかわいらしい動物ですが、ぶなにとっては「害じゅう」です。いま日本中で鹿が増えすぎているのです。こなままでは、たいせつな森がやられてしまうかもしれません。みんなが取り付けた防護柵でぶなが鹿から守られるといいですね。ぶなの森が守られて、みやびの丘の空気がいつまでも透き通る感じが続いていくことを祈ります。
これからも、みんなの活動をかべ新聞に書いて、送ってください。



香美市こどもエコクラブ 自然となかよし
壁新聞のタイトル:ちきゅうしんぶん わたしがちきゅうを守る!!

とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★……★

「私のふるさとの味」では、香美の特産物でひとりひとりが考えたアイディア料理 11 点を作りました。写真が貼りつけてありますが、特産物がなにで、どんな 料理になったのか書いてもらうと分かりやすいし、もっと興味がわいたのではないのでしょうか。「りゅうきゅうゼリー」は、どんな味が食べてみたいです。みんなも食べてみて期待した味になっていましたか？お母さんの料理に負けないくらいおいしかったかな。その土地で採れたものを、その土地で使うことを「地産地 消」といいます。ものを運ぶためのエネルギーが少なくて済みますし、冷凍・冷蔵がいらないのでエコになります。新鮮な食べものは、体にもよいと思います。

☆☆サポーターの方へ☆☆

壁新聞に書かれた内容を見ますと、いま私たちが取り組まなければならない重要な環境問題が、たくさん含まれていることに気が付きました。

日常生活の中でできる小さなエコが大きなエコにつながることで、地産地消の重要性と食育、鹿の食害からぶな(森)を守る活動、日々の生活に関係のあるショッピングセンターでもエコ活動が行われていること知ること、などなどをこどもたちが活動を通じて気づくことは、子どもたちにとっても、これからの社会にとってもとても有益な事と思います。

これらの活動に関連して、「環境日記」を書くことによって、自ら気づき、自ら考える、視野の広い人に成長して行くのではないかと思います。環境日記を書く習慣は、環境以外にもいろんな効果が期待できますね。自主性を重んじつつ、ミーティングで意見を出して活動内容を決めていることは、良いご指導と思いました。

こどもエコクラブの活動の輪がますます広がってゆくことを、願っています。

高知県香美市 香美市こどもエコクラブ 舟入環境クラブ
壁新聞のタイトル:うちらが香美市の自然を守るき

39-09

香美市こどもエコクラブ 舟入環境クラブさんへ

師範から一言――

タイトルを見ただけで、香美市の自然を守るぞ！というみなさんの気持ちが心に飛び込んできました。

山の森を守る活動があって、川のきれいな水が野菜や染物に使われたり水力発電を動かして、そしてきれいな海につながっています。みなさんの活動全体が、かべ新聞のデザインにもあらわれていますね。

みやびの丘ブナの森づくりプロジェクトについて。エコクラブメンバーが考えついたことから始まった活動だなんてすごいですね！ ブナやミズナラの苗を植えたり土止めネットを設置したりするために、靴も服も泥だらけになってがんばったんですね。これから木が生長して、また 10 年前みたいに緑豊かな森になるといいですね。水力発電ができる「くるりん号」のイルミネーション、とてもきれいですね。すてきな宝物だと思います。ふだん電気を作るために使われている石油・石炭・天然ガスは将来なくなってしまうかもしれないと勉強したとのことですが、それだけでなく、燃やしたときに出る二酸化炭素が地球温暖化の原因にもなっています。それに対して、再生可能エネルギー(自然エネルギー)というものがあります。くるりん号のような水力発電もそうですし、太陽光発電や風力発電などがあります。これから日本でも、もっと再生可能エネルギーを上手に利用できるような社会にしていきたいですね。

地元の特産品のお料理、どれもおいしそう。地元の食材を地元で食べると、地産地消で食材を運ぶエネルギー(フード・マイレージといいます)も少なくすみ、地元の農業なども活発になりますね。それから、お家でニラを作っていっぱやるとのこと。おいしい水がニラを甘くおいしくするんですね！(記事を読んで、私もニラが食べたくなりました。)

きれいな水の物部川が、ニラなどおいしい野菜作りに使われ、伝統産業のフラフづくりにも使われていて、香美市のみなさんの生活を豊かにしてくれていることが良くわかります。





福岡県北九州市 たぶのきエコキッズ
壁新聞のタイトル:たぶのき新聞

3 位 推薦 40-02

たぶのきエコキッズさんへ
師範から一言――

たぶのきエコキッズさんは結成 2009 年、一昨年度に全国フェスティバルに参加しているクラブだそうです。
かべ新聞も、これまでの経験や他のクラブのものを参考にしうまく作っているなあと思いました。封筒の裏紙を使ったり、ちぎり絵は包装紙を使ったりして、かべ新聞そのものがエコを伝えているのも素敵な工夫だと思います。
応募用紙にある「活動のテーマ」では「知ろう！楽しもう！続けよう！広げよう！」と書かれていますが、これはとてもいいテーマですね。近所のお友達同士で、兄弟姉妹のように活動しているそうですが、今後もぜひ続けてほしいと思います。
また、活動をクラブ以外の人に「広げる」という意味で、誰でもすぐにできる取り組みが書いてあるのもいいですね。
皮の再利用や歯磨き粉を最後まで使うことなど、かべ新聞を読んだ人の参考になると思います。じゃがいもとみかんの皮の再利用は知っていましたが、バナナの皮は知らなかったので今度やってみようと思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
活動ごとにポイントになる言葉に下線が引いてありますが、もっと目立つようにしてほしいと思います。「外国のエコ事情」の部分のように、別で書くと全体的にメリハリがついていいのではと思います。



福岡県筑紫野市 エコまめクラブ
壁新聞のタイトル:見てさわってまなんで楽しんだいきものたちとのふれあい

1 位 推薦 40-03

エコまめクラブさんへ
師範から一言――

一年間の活動でたくさんの生き物にふれあうことができましたね。家族で楽しく活動している様子がよくわかります。応募用紙のサポーターさんからのメッセージに「ただ見て面白かった、で終わらせるのではなく、考えてもらう工夫をした」と書いてありますが、とても素晴らしいと思います。
活動したことをふりかえったり、疑問点を見つけたりすることで、活動から得るものがもっと大きくなると思います。なかなか難しいことですが、これからもぜひ続けてほしいと思います。かべ新聞では、生き物を観察した場所ごとに分けて書いているのも面白い工夫だなと思います。家、近所、自然、施設など色々なところで色々な生き物とふれあえることがわかりますね。近所の人にインタビューしたり、交流会や勉強会に参加したり、地域の人と交流しながら活動しているのもいいですね。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
メンバーの皆さんはまだ低学年ということで、文章を書いたりするのは難しいと思うので、どれか一つの活動で一言感想が書けるといいですね。「〇〇のイチオシ」のように、一番印象に残った活動と簡単な理由を、吹き出しのようにしてつけてみてほしいと思いますよ。



下里エコクラブさんへ

師範から一言一

きちんとクラブ名の下に活動のテーマが書かれていてホッとします。なぜホッとしたかという、タイトルも活動のテーマも何も書かれていない新聞を3つも続けて見ていたからです。やはりタイトルやテーマを書いてあれば、初めてこの記事を見る方々に、どんな環境活動をしているのか、どんな工夫が見て取れるか、タイトルだけでも内容を想像してもらうことができると思います。基本的なことですが、このかべ新聞は成功しています。すばらしいと思いました。

拝見すると、これほど多様な活動をしているのであれば、ぜひ地域の人たちや保護者の皆さんも仲間に加えて、地域の環境活動として運営してくれるともっと仲間がふえておもしろくなりますね。そうすれば活動のテーマ「自然とのふれあい 人とのふれあい」にもっと寄りそった活動になってくると思います。来年はがんばって知事賞をとれるようになりたいですね。期待していますよ。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

手書きの文字が多数並んでいるのに、どうしてこのかべ新聞は読みやすいのでしょうか？それは写真に写し込んでいるはんいど写真の大きさ、それと文字のバランスがとても良くとれているからです。

もう一ついえばたて長に二段に仕切って記事のをせているからです。これらの工夫によってどの記事もほぼ同じ大きさの記事になり、読みやすくなりました。もちろん、小見出しを緑色の文字で書いたり、大切な言葉や数値は赤くしたりで、おもしろい工夫もあります。とても構成がしっかりした新聞になったと思います。来年は3年生の追出会の報告を見せて下さいね。先輩から後輩へこの活動が伝えられるというのは、なんとすばらしいことでしょう。「継続は力なり。力は文化なり」です。がんばって下さいね。



熊本県熊本市 桜木小5-2
壁新聞のタイトル:エコと私たち

43-01

桜木小 5-2 さんへ

師範から一言一

桜木小学校5年2組のみなさん、こんにちは！

みんなが取り組んだことを分かりやすく、じょうずにまとめていますね。真ん中に満開の桜の絵がどっしりと描かれていて、枝にみんなが活動した結果が張り付けられています。学校の名前とつながっていて、楽しいかべ新聞になりました。ありがとう。活動のテーマを決めたのは、地球温だん化が自分たちにどんな関係があるか、ぎ問を持ったことがきっかけですね。実は、地球を将来に持続させるために関係のある3つの重要なことがらの一つが地球温だん化です。本を読んだり、パソコンで調べたり、県の環境センターで学んだわけですね。ぎ問について自分で調べることはたいへんよいことです。ぎ問が解けたときは、うれしかったでしょう？自分の知識をひろげる楽しみを持つことはいいことです。

CO₂が増えること(のう度が高くなる)が温暖化の主な原因だと分かったみんなは次にCO₂を出すものは何かを調べましたね。ストーブ、ガスコンロ、自動車など8種類をイラストにしました。でも、なぜ“ろうそく”が入っているのかな? CO₂はものを燃やした後に出てくるとよく気が付きました。その通りです。CO₂を減らすためには、出すほうを押されること(燃料電池車)のほかにCO₂を食べてくれる(きゅうしゅう)植物を増やすとよいことがわかりました。気づいていると思うけど、電気も石炭や石油、天然ガスを燃やして発電しているので、使うときにはCO₂は出ないけど節約が大切です。

さて、地球温暖化を勉強したあとで、みんなは「エコになること」として、植物をたくさん植えるなど3項目を書きました。みんなひとりひとりいろんな答えがあるかもしれません。取り組みやすい、お金のかからないことを考えたわけですね。

まとめに書いてあることはとても重要です。地球の危機＝人類の危機にたくさんの人が気付いて何か自分でできることを実行することは求められていると思います。世の中の人がみなさんのように考えてくれることを願っています。

「五感をつかって調べよう！」は、よいところに気づきました。むかしはクーラーもせんぷう機もなかったよね。うちわ、せんすですね。自作の「マイうちわ」で夏をすずしくすごせましたか？ペットボトルのふうりんはどんな音がしましたか？古新聞のエコバッグやキャップ分別のようにするものを利用する考えは、物を大事に使うことにつながります。

昔から日本人が心がけてきたことだと思います。

「4. 水についての活動」はどんな活動をしましたか？少しでも書いてもらいたかったですね。

この活動は、地球を将来に持続させる3つの要素の一つです。日ごろの生活に取り入れられるものは、実行したいですね。

調べた結果について、「地球温暖化が進み、身近な自然の変化」として10項目にまとめてくれました。どれも地球温暖化が原因で発生することです。“身近な”となっていますが、遠いところの北極の氷がとけるとかフィリピンのスーパー台風30号は新聞やテレビで身近に感じられたのでしょうか。桜の満開の日となっていますが、開花日ではありませんか？熊本の平年の開花日は3月23日なので、2014年は3日早かったのですね？身近な自然を観察して地球温暖化のえいきょうに気づくのはなかなかむづかしいのです。自然はすこしずつ変化しますし、年によって気象のバラツキもありますから。おじいさん、おばあさんに昔と今でどう違うか聞いてみるのもいいですよ。雪の量やしも柱、田植えの始まるの時期などなど。長い間に変化が見えるようになっているかもしれません。

わかりやすく、話の展開もきちっとできていて大変良い新聞です。イラストや写真もうまく配置されて、理解を助けています。

身 近な現象をひとりひとり感じてもらうために、10項目の変化の内容を掘り下げてみることをお勧めします。人の健康への害はどんな形で現れるか、食糧不足はどのように起こるか、また、それらに対応するためにどんなことが考えらるか等々、こども達に調べ、考えさせるとさらに意欲が増すでしょう。气象台訪問 もよいかもしれません。

このかべ新聞を、大人に読んでもらうことで、危機感を共有してもらい、エコな行動をする仲間になってくれるとうれしいです。何かの機会に展示してみたいかがでしよう。



壁新聞のタイトル: 鏡小エコ新聞

43-02

師範から一言一

学校版環境 ISO の取り組むみなさんだから当然なのかもしれませんが、きちんとした目標が立てられていることは、とてもすばらしいことです。学校全体で向かう目標、目指す姿としての大きな３つの目標がかかげられています。新聞にも書かれています、それぞれの活動はこの目標を達成するために取り組まれていることがわかります。委員会の皆さんが呼びかける３つの目標に向けて、クラスごとにはっきりとした目標を立てていますよね。みんなで集まった集会で発表している様子も写真を見るとわかります。みなさんの真剣な様子も伝わってきました。

いくつかの活動に取り組んでいますが、みなさんの活動の中で特に私が気に入っているのが、『ピカピカ太作戦』です。

「卒業する六年生に気持ちよく卒業してもらうために」みんなで学校をピカピカにする活動ですね。この活動には愛がありますよね。「学校をきれいにします」という目標に向けた活動ではあっても、この活動は、単なる環境活動というだけでない、卒業生のためのみんなの活動になっています。そんな意味のある活動になっているところが本当にすばらしいと思います。卒業していく六年生にとっても、きれいな学校で卒業式を迎えられたことはすてきな思い出になり本当にうれしかったと思います。これからも、単なる環境活動にとどまらない愛ある活動に取り組んでいってください。

各クラスで環境宣言をしています。それらの活動はどのように取り組まれ、どのような成果が上げられたのでしょうか。

学校全体の点検はできていますから鏡エコファイターズの皆みなさんと、それぞれのクラスの様子を聞いてみるなどして、目標(宣言)に対するチェックができるといいですね。



日奈久 環境エコキッズさんへ

師範から一言――

みなさんの作ってくれた新聞は、ぱっと目を引きまします。周囲をオレンジ色で縁取りされているからでしょう。なかなかの工夫です。たくさん新聞がある中で、あの新聞見たい！って思わせてくれる工夫です。いいですね。

H・K・E・K新聞は、今年で4年目になるのですね。委員会活動で作っているようですから毎年メンバーが変わっているのかもしれませんが、それでも、毎年引き継がれてISOの活動ができていることはとても素晴らしいと思います。

委員会のみなさんの活動にはたくさんの工夫があつて素晴らしいです。私のお気にいりは、なんといっても「リサイクルマン参上！」です。劇のシナリオもみなさんで作ったのでしょうか。きっと苦労して作ったのだらうな、と想像しています。笑いがあるということはどうしても大切なことです。ただぼんやり見ても内容はなかなか心の中に入ってきてみません。でも、笑いながら見ることができた劇は、きっとみんなの心の届いたと思います。伝えたいこと、伝えるべきことをきちんと伝えられたいい劇だったのだらうな、と思います。見てみたい、って思わせてくれました。

お花を育てる活動も毎日のみずやりや草取りなど大変でした。でも、育てた花を配ってもらった地域のみなさんはとてもうれしかったと思います。楽しくてすてきな活動ができました。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

みなさんはISO宣言をしています。その宣言に取り組んだ様子や結果はどうだったでしょう。新聞には書かれていなくてわかりませんが、ひとつひとついいに見直しができているといいなと思いました。

また、最後に活動を通して思ったことを書いてくれています。やってみてどうだったのか、周りのみなさんの反応はどうだったのか、そして、これからどうしていこうと思っているのか、そんなことが書かれているととってもいい新聞になると思います。がんばって！

熊本県八代市 日奈久小学校 5年生
壁新聞のタイトル: 日奈久っ子 未来新聞

43-04 3位推薦

日奈久小学校5年キッズエコクラブさんへ

師範から一言――

日奈久小学校5年生のみなさん、とってもいい新聞が出来上がりました！どうして活動をしたと思ったのか、思ったからどう取り組んだのか、やってみてどうだったのか、どう思ったのか、そしてこれからどうしていきたいのか。そんな活動の流れがしっかりわかる新聞です。

新聞自体も、目を引く配色で、しっかり書き込まれていて、ググッと近づいて読みたくなる、そんな新聞になっています。素晴らしい！

まず、環境が大変なことになっていることに「気づく」。気づきをもらった調べ学習の内容、環境センターに行ったり、語り部の方の話をきいたり、今どうなっているのかキチンと調査がされています。写真を見るとみなさんの熱心に取り組んでいるようすがわかります。これじゃいけないから何とかしなきゃ、と立ち上がって「行動する」。実際にグリーン作戦でゴミ拾い活動をしていますよね。まずは自分たちができることから取り組んでいく。大事なことです。そして、このことをみんなに伝える取り組みをしていますね。みんなに伝えていく活動は本当に大切なことでなんです。自分たちがわかっているだけでは環境は守れません。自分たちが率先して取り組みながら、まわりのみなさんにも伝えて一緒に頑張って取り組んでもらう活動はとても重要です。発表会も大事です。ポスターもいいですね。そしてなによりやっている姿をまわりの人に見てもらおうということも「伝える」ためには大切なことです。

これからも地域のか方々とも一緒に取り組んでいってくださいね。



とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

なぜゴミをすてるのだらうと不思議に思うと書かれています。この答えは環境センターに行ったときにお聞きした浅野先生のお話の中にヒントがかくれているような気がします。

「みんなで守ろうみんなのふるさと」を合言葉に、これからも元気に真剣に、楽しく取り組んでいってください。6年生になった時の新聞も楽しみに待っています。

水俣第二中学校 環境 ISO 委員会さんへ

師範から一言一

水俣第二中学校環境 ISO 委員会のみなさん、今年もすばらしいかべ新聞をありがとう！みなさんの活動は 18 年目になるのですね。実は、かつてみなさんの学校を訪問させていただいたことがあります。地域のゴミ分別作業に同行させていただきました。みなさん、あいさつができていてとても礼儀正しく、大変な作業だろうと思うのですが、地域のみなさんととても楽しそうに活動されていたことを思い出しました。

その後もその活動が続いているんですね。本当にすばらしいことです。この 24 分別というのも、きっと他の自治体にはない、種類の多さだと思います。これを覚えるだけでも大変です。自分自身が分別作業に取り組むのはもちろん、できない人や忘れてしまう人のことも注意しながら続けられていることは本当にすばらしいと思います。

新聞は、しっかり書き込まれていて重みがあります。環境検定をみんなががんばっている様子をマンガ仕立てで表していたり、それぞれの活動の様子は写真を使って伝えていたり、使用料の推移はグラフを使っていたり、様々な工夫で活動の内容を伝えてくれていて、新聞を読んでもくれるみなさんにもその思いは十分の伝わっていると思います。いい新聞になりました。

他校との交流も今年で3年目になるでしょうか。自分たちの活動が自分たちだけのものにならない

いようたくさんの人に知ってもらうために、また、新しい発見をしたり、次の方策を考えたりするきっかけを見つけるためにも、たくさんの人と話をしてみるということは本当に重要です。そういう意味でも、この交流会がこれからの活動を発展させるにはなくてはならない取り組みの一つとなっていると思います。

環境二中の誇りをもち、これまでの活動を同じ地域の学校にも広めていきながら、ますます地域を引っ張っていく活動ができた
らいいですね。応援しています。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

一中との交流会で、新しい発見や、一步踏み込んだ活動の方法など、知ることができたそうですね。

交流会を通して知ることができたこと、そのことを生かして、これまでと比べてどのように活動が変わったのか、やってみてその成果はどうだったのか、そんな活動が進化していく様子を伝えることができれば今まで以上に良いものになるのではないかと思います。交流会で協議した内容が次の活動に生かされていることが伝わるといいですね。



熊本県水俣市 水俣第一小学校

壁新聞のタイトル:①水俣第一小学校 学校版環境 ISO ②上手に使って!ぼくたち自然活かし隊 ③3R 自分たちにできること

④親子で仲良く作りました。マスクづくりに挑戦！ ⑤5の2秋さが新聞 ⑥みんなのエコ新聞

43-06~11 (全 6 枚)

水俣第一小学校こどもエコクラブ④の新聞を書してくれたみなさんへ

師範から一言一

水俣第一小学校5年2組のちくちくさいほう隊のみなさん、こんにちは！

クラス全員で取り組んだ「マスク作り」のようすが写真とひとりひとりの感想文で分かりやすくまとめています。ありがとう！

マスク作りにみんなが取り組んで針でぬっているところ、出来上がったマスクをつけてピースサインの笑顔、お父さんやお母さんにてつだってもらっている真剣な顔など、いろんな写真がありました。数えてみると、26枚ありました。写真をとったのは、先生ですか？

たくさんの写真の中からかべ新聞用を選んだのは、みんなで相談しながらですか？ 楽しそうようすがよくわかりました。

感想文を読んでも、いろんな感想があって面白かったです。でも、写真に現れているように、「楽しかった、うれしかった」という感想が20名で70%以上でよかったと思います。はり仕事は女の仕事といわれていましたが、男子も家庭科の時間に針を使って布をぬうようになったと思います。最初、むづかしそうと思っていたけど、やってみると意外にかん単というひが多かったですね。指先も器用になるのではないですか。「くわずぎらい」にならず、なにごともしてみるこうき心もつことは、よいことだと思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

完成できたのでよかったと感じているようで、使ってみたい、家で作ってみたいなどの感想は、この挑戦の成果ですね。再使用できる、使い捨てでないの で環境に良いという感想もありました。みんなが環境のことをよく考えていることがわかりました。身のまわりの物を大切に使うことを、ぜひ心がけたいです ね。自分で作ったものは、大事に使いますよね。

マスクは、使う目的によっていろんな材料が使われているようです。給食のように食べ物扱うときに使う、風邪やインフルエンザなどの病気が流行しているとき、病気にかかったとき、花粉を吸いこまないようにするとき、などなど。今回は、どんな材料を使いましたか？チェックがらはきれいで、とても目立ちますね。これからもマスクだけではなく、ものを大切に使い、環境にやさしい人になってください。

★☆☆サポーターの方へ☆☆★

ご家庭からの提案を活用して、こどもたちにマスクを作らせることを全員で行ったことはよかったと思います。単に、マスク作りそのものだけでなく、ものを大切に扱うことは環境にもよいこと、洗って再使用するときも洗剤の使い方にも配慮が必要なことへと展開されています。こどもたちに、身近なことから環境にやさしい暮らしができることを伝えられているは、よいご指導と思いました。



水俣第一小学校

壁新聞のタイトル:①水俣第一小学校 学校版環境 ISO ②上手に使って！ぼくたち自然活かし隊 ③3R 自分たちにできること
④親子で仲良く作りました。マスクづくりに挑戦！ ⑤5の2秋さが新聞 ⑥みんなのエコ新聞

水俣第一小学校こどもエコクラブ⑤の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

水俣第一小学校5年2組の「ゆかいな仲間たち」のみなさん、こんにちは！
秋を表現するたくさんの写真を並べた楽しい新聞ですね。紅葉、どんぐり、まつかさ、の写真に、イチヨウの葉やきのこ、さんま(秋刀魚)？のイラストがちりばめられています。
マンホールふたも二つの違った顔になりました。いろいろな顔は、とても創造性豊かだなあと感じました。アンパンマンもかんたんに出来ちゃいました。写真に写ったみんなの顔は、楽しそうですね。それにしても、学校の中に自然がいっぱいありますね。ふだんあまり気にしていないけど、「秋さがし」で注意してみると秋を表すいろんな自然があることに気が付きましたね。これからは、季節の移り変わりにも、関心を持つようになりそうですね。

四季のある日本に育った幸せを感じてください。ゆたかな自然が日本人の感性を育ててくれたと思います。自然に親しんでもらい、自然の美しさ、不思議さ、大切さに気付いてくれるとうれしいです。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

秋は、食欲の秋、収穫の秋・木の実や穀物が実りますね。役目を終えた木の葉は緑いろから赤・黄・茶いろに変わり、やがて地上に落ちて土にかえって いきます。植物も冬を迎える準備をしています。やがて、冬が過ぎて春が来ると新しい芽が出てきます。このように自然はじゅんかんしています。こんどは、「春さがし」をしてみてもどうでしょうか？秋とはまた違った自然が見えることでしょう。

出来上がった顔の品評会はしませんでしたか？なぜ顔なのかと思いましたが、「図工の時間」に行ったのですね。楽しい思い出ができたことでしょう。

★☆☆サポーターの方へ☆☆★

自然の変化や楽しさに子供たちは気づいたようですね。たくさんの材料があるよい時期になさいました。そして、こどもたちは自然を守り続けなければならないことを理解しましたでしょうか。自主性を持たせたことは、よい指導と思いました。写真は、どなたが撮りましたか？自然に親しむ→自然の大切さを理解する→自然を守っていく→自分たちの日ごろの行動に生かすように、展開する方法もあると思います。もし、後段の部分についても実施されていच्छゃれば、その点も壁新聞でふれていただくとよかったと思います。



水俣第一小学校

壁新聞のタイトル:①水俣第一小学校 学校版環境 ISO ②上手に使って！ぼくたち自然活かし隊 ③3R 自分たちにできること
④親子で仲良く作りました。マスクづくりに挑戦！ ⑤5の2秋さが新聞 ⑥みんなのエコ新聞

水俣第一小学校こどもエコクラブ⑥の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

水俣第一小学校5年3組のみなさん、こんにちは！
今回、いらなくなった紙(カレンダーや紙コップなど)を使った遊びの体験をかべ新聞にまとめてくれました。いろんなアイデアが出てきましたね。ありがとう！
カレンダーは、とてもよい紙が使われているので、捨てるのがちょっともったいない気がしますね。そこで、どんな遊びができるか考えたわけですね？3人ずつ9グループ別にやってみたことが、図、写真をまじえてわかりやすく書かれていました。
絵を書いたグループは、どんな絵を書きましたか？りんご？イラスト？絵を書くそのことが楽しかったわけですね。
遊び道具を作るときと作った道具で遊ぶときと、二回楽しめましたね。
カレンダーの表を使って、ジグソーパズルのように遊ぶこともできますよ。カレンダーのうらに印刷しためいしを区役所の方からいただいたことがあります。紙コップは、糸電話も作れますよ。いろいろとくふうして楽しみましょう。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

紙ヒコーキを作って飛ばして遊んだ3グループのみんなは、別々に飛ばしましたか？折り方も違うようですね。折り方を書いてくれたグループもありました。長い時間飛ぶとうれしいよね。どの形がよく飛びましたか。そのことも書いてくれるとよかったかな。

遊び方をくふうしたグループが4グループありました。けんだま、とんすもう、たまころがし、たま入れですね。どれも昔からある遊びですが、材料が違いました。飲み終えた紙コップの玉入れととんすもうは面白そうですね。玉入れはどうやって入れるのですか。1mくらい離れたかな？いろいろと想像してみました。とんすもうでは、紙コップが倒れるのですか。土俵をまるく円をかいて押し出せば勝ちと思いましたけど。ゼリーカップころがしは、図が少しわかりにくかったので、写真を使えば、わかりやすかったかも知れない。
紙以外で、みんなの身の回りに捨ててしまうもったいないものはありますか？ペットボトルとか缶などいろいろありそうですね。この次はそういうものを利用して、遊び道具や役に立つ品物を作ってみませんか？次のかべ新聞に報告してくれると、とてもうれしいです。
それぞれのグループのまとめが、かべ新聞にはりつけてあります。ほかのグループのまとめを読んで、どんな感想をもちましたか。みんなで話し合いましたか？意見を交換し合うこと、疑問があれば質問してみることが大事です。



水俣第一小学校

壁新聞のタイトル:①水俣第一小学校 学校版環境 ISO ②上手に使って！ぼくたち自然活かし隊 ③3R 自分たちにできること
④親子で仲良く作りました。マスクつくり挑戦！ ⑤5の2秋さが新聞 ⑥みんなのエコ新聞

☆☆サポーターの方へ☆☆

ゆたかな時代に生まれた今の児童に、「もったいない」というきもちをもってもらうにはどうすればよいか、考えさせられます。今回、不要になったカレンダーや紙コップなど、主に紙を使った遊びを考える取り組みが壁新聞で紹介されました。その結果、みんなが「作る過程」と「遊ぶ過程」の両方で楽しんだのはとても良かったですね。さらに、「また新しい遊び道具を作ってみたい」「他のエコなことをまたいっぱいやってみたい」「せいかつにいかしていきたい」のような感想がでてきたことは、環境を守っていこうという意識が出てきていることがわかり、うれしいですね。

ご承知のように、紙の原料は植物繊維です。管理の仕方でも再生が可能で、永続する資源になります。地下資源などの将来枯渇しそうな資源由来のものにも対象を広げていただけるとよろしいと思います。(3R)

このような体験からこどもたちが、日ごろから地球の持続性につながる行動をとるようになれば、素晴らしいことです。期待しています。

水俣第一小学校こどもエコクラブ①の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言

まずは、「くまもと環境教育賞」の受賞、おめでとうございます。みなさんの先輩たちの代から続けてきた活動がこうして表彰されると、今後の活動の意欲もぐんとわいてくることでしょう。これをきっかけに、水俣市、熊本県に住む人がエコ活動に興味を持って、少しずつでもエコ活動が広まっていこううれしいですね。また、中学校の「環境委員会交流会」に参加して、新しい情報や中学生の活動を小学校で取り入れるみなさんの行動力の高さにおどろきました。ISO 委員会としての意識の高さも合わせ、今回の受賞につながったのでしょうか。これからがんばってください。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

一枚の模造紙にたくさんの情報を書くの記事のバランスが取れずに読みにくになりがちですが、みなさんの新聞は記事が整理されて、とても見やすい新聞となっています。ただ、紙に収めるために説明がはぶかれ、読者としてはもう少し説明がほしい部分がありました。例えば「電気やガスなどの使用量は節約のレベルを保っている」という文。使用量をおさえるために、みなさんはどういった取り組みをしてきたのですか？一文だけでも加えられていると、さらにわかりやすい新聞になると思います。



水俣第一小学校

壁新聞のタイトル:①水俣第一小学校 学校版環境 ISO ②上手に使って！ぼくたち自然活かし隊 ③3R 自分たちにできること
④親子で仲良く作りました。マスクつくり挑戦！ ⑤5の2秋さが新聞 ⑥みんなのエコ新聞

水俣第一小学校こどもエコクラブ②の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言

新聞から、昆虫採集や廃油石けん、グリーンカーテンと様々な方面のエコ活動や自然とふれあう体験をしたことが伝わります。とくにグリーンカーテンは、皆さんが毎日水やりをして育てたことで愛着がわくだけでなく、先生方にも好評だったとのことやりがいも感じられたのではないのでしょうか。

エコ活動を長く続けていくためには、自分たちが無理のない範囲で楽しく取り組むことと、周りの人たちの応援や支えが大きな要素であると思います。河原のごみ拾いも、定期的の実施していくうちに地域の人たちを巻き込んだ活動に発展する可能性が十分あると思います。今後の活躍を楽しみにしています。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

どの記事でも、それぞれの活動内容、感想をていねいに記述してみなさんの感じたことが伝わってくる新聞となっています。今度は、次回の目標やうまくいくために自分で考えたポイント(改善点)などを書いてみてください。他にやってみたい活動なども考えてみると、部としての活動の幅も広がっていくと思います。



水俣第一小学校こどもエコクラブ③の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言

4年3組のみなさんの考えるたくさんの「リユース」「リデュース」「リサイクル」がよくわかる、シンプルでよい新聞です。新聞の見出しにもあるように「ひとりひとりができることから始めていく」ことが、エコ活動への第一歩であると思います。お下がりやを捨てずに弟、妹にあげることや、マイバッグを持って買い物に行くことなどはとても現実的です。

ぎゃくに詰め替え用の洗剤をつかうことは、おうちのひとにも協力してもらわないとむずかしいことです。こうやってみなさんが考えたエコ活動をおうちの人にも伝えて、家族ぐるみで取り組むことが出来たら、ごみの少ないすてきな地域になることでしょう。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★

この新聞では、皆さんが考える3Rについてまとめてもらいました。では、それを実践した人はどのくらいいるのでしょうか？実際にやってみてどう感じたか、おうちの人の協力が必要なエコ活動では、おうちのひとは何と言っていたか。そういったことも記事にすると、もっと多くの人が取り組みやすくなりやすい3Rの紹介新聞になると思います。



[illegible]

This image is a collage of various Japanese newspaper clippings, likely from the 1980s or 1990s. The clippings are arranged in a grid-like fashion, featuring a mix of text, photographs, and small illustrations. The text is in Japanese, and the overall layout suggests a collection of news items or a scrapbook page. The clippings include headlines, sub-headlines, and body text, with some accompanied by small black and white photographs. There are also some colorful illustrations, such as a large orange flower-like shape at the bottom left and a small blue cartoon character at the bottom center. The background of the collage is a light, textured surface.

これからもこのまま活動を続け、そしてかべ新聞で毎年の活動をぜひ報告してください。続けてやっていくことはとても大変だとは思いますが。毎日続けることで資源やエネルギーを少なく使う生活が広西地球環境クラブのみんなにとって小学校を卒業した後も「あたりまえ」になって行くことを願います。

大分県立大分東高等学校リポベジ研究会さんへ
師範から一言――

リポベジ研究会のみなさん、こんにちは。
多くの食品ロスが問題視されている日本で、どんどん取り入れていき
たい、とても良い活動に注目されていますね！
リポベジを知らない方にも分かりやすく、そして、見やすく書かれており、こ
の活動を PR する大きな第一歩になったのでは無いでしょうか。そして、た
だリポベジの周知だけでなく、家庭で誰でも出来ることを紹介されているの
で私も取り組んでみようと思いました。きっとこれを読んだ方もそう思うでし
ょうね。
ぜひ、今度は違う野菜にもチャレンジしてみてください！

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
かべ新聞の作成お疲れ様でした。
レシピに書かれている料理とても美味しそうですね。なので、レシピに書か
れている料理を実際につけて食べた感想や、切れはしの重量は減ったの
か等の結果も、どこかに一言あるとより良いかべ新聞になるのでは、と思
いました。
植物という「生き物」が相手の活動のため、たくさんの発見があると思いま
す。その中で、研究会の方々が感じたおどろきや疑問も、ぜひかべ新聞を
通して教えてもらえたらうれしいです。
これからもすてきな活動を応援しています。



五十市中学校生徒会さんへ
師範から一言――

YOU&I と書いて「結い」と読ませるとは、なかなか考えましたね。あなたと私でつな
がっていく STORY、力を合わせたら何かできそう！そんな思いがいっぱい伝わってき
ます。すてきなタイトルです。活動もたくさん取り組んでいますね。いろいろ取り組んで
くれましたが、その中で、グリーンカーテンについて、「全校生徒で」植物を育てる活
動に取り組んでいる、というのはとても素晴らしいです。だれかひとりがやるという
のではなく、みんなで関わってやるというのは、本当に大変なことです。みずやりも毎日
のことですから、たいへんだったと思います。でもそうすることで、みんなが植物のこ
とを知ることができて、大変さや、すばらしさを知ることができただろうと思います。第
一章の最後のところにとっても大事なことが書かれていました。「地区の小学校 3
校、公民館、幼稚園、高齢者施設と協力してひまわりも育てました」と。
ここでも、この新聞のタイトルどおり「あなたと私が一緒に」になって取り組むんだということを見せてくれています。学校内だけで
なく、地域の皆さんにも働きかけて一緒になって活動している、この行動力が本当に素晴らしい！と思いました。協力してくださ
ったということは、活動を理解してくださったことだと思います。いい活動になりました。
ゴーヤは育てるだけでなく、やっぱり食べておいしいですよ。第 2 章にはおいしそうな料理が紹介されています。白ゴーヤの
サラダですか。食べてみたい、と思いました。今度作ってみますね。そして、つるを使ってリース作りもしていますね。ゴーヤ
の報告の中に、リースを作った報告ってこれまであったな？このかべ新聞を読んだ皆さんの中で同じようにやってみてくれる人
がいたらいいな、と思います。それこそがかべ新聞の力、広がれ、エコ活動！です。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
結いの活動は 3 年目になるのですね。続けてきてくれてありがとう。活動が継続されてきたということは、きつたのしみながら
活動ができていたのだらうな、と想像しています。
そのまとめの一つとしての壁新聞、それぞれの活動を章にまとめたのはとてもいいアイデアです。ここでもう工夫して、各章
に結ってある部分もできれば一目でみられるような表し方ができたらもっといいな、と思いました。結ってあることにも、もしかし
たら思いがあるのかもしれない。かべ新聞としてみたときに、一目で全体が見えることも大切です。伝えるための新聞づくりにも挑戦してみてください。

イオン鹿児島店チアーズクラブさんへ
師範から一言――

2013年度のかべ新聞も印象的でしたが、今年も一目を引くかべ新聞ですね。絵、写真、文字のバランスがとてもいいと思います。
桜島についてくわしく書かれていて、私も勉強になりました。「桜島」というのだから、元々は島だったのかと思っていたのですが、やはりそうなのですね。大正時代に陸とつながったということで、割と最近のことなんだなと思いました。また鹿児島湾には最初、穴(カルデラ)があいていたというのは知りませんでした。一年間に1000回近くも噴火する、ということは一日に何回も噴火することがあるのですね。最近では日本の各地で火山活動が活発になっています。みなさんのかべ新聞に興味を持つ人も多いのではないのでしょうか。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
火山灰で野菜を育てていますが、灰は作物がよく育つのに役立つということかな?「まとめ」で「灰は地球にとって大切なもの」とありますが、それも含めてももう少し詳しく書いてもらえるといいと思います。私のような他の地域にすむ人だと、灰で洗濯物や車が汚れて大変だろうなあというイメージが強くあります。どんな風に灰が役に立つのか書くと、みなさんの桜島や地元の自然を守ろうという気持ちがもっと伝わるといいですよ。



縄文エコファミリーさんへ
師範から一言――

クラブ名やかべ新聞のタイトルから、どんな内容なんだろう、とわくわくした気持ちで読むことができました。他のクラブにはないユニークなテーマで活動していて、興味深く思いました。
活動12年目というのもすごいですね。家族で活動するのは楽しいと思いますが、その中でもテーマを持って色々学べるというのは、本当に素晴らしいことだと思います。それぞれの活動もどれも楽しそうですね。私が一番興味を持ったのは、竪穴住居の宿泊体験です。「意外と過ごしやすい」とのこと、私も泊まってみたいです。また縄文料理はおいしかったそうですが、どんなものを作ったのかな。ぜひそれも教えてほしいと思います。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★
それぞれの活動について、文と写真でとてもわかりやすく表現できているので、全体のまとめがあると、もっといいと思います。
一人ずつ一年間の感想を書くのもいいですね。またタイトルにある「自然環境と共生していた縄文人の生活」とはどんなものでしたか?皆さんの体験と結び付けて現代とのちがひ、良い点、不便な点など考えてみるといいですね。



西伊敷小学校4・5・6年生の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

タイトルは三つに分かれていて、みなさんが何をを目指しているのか、よくわかる文章です。これを考えた人に「絶賛」をおくります。7月の県環境レターへの取り組みが高く評価されて、県環境こどもサミットに参加し、異学年ながら堂々と活動発表をしてきたことはとても素晴らしいことです。このような事例は師範も聞いたことがありません。普通は子どもたちは人前で発表するのは苦手です。でもそれを打ちやぶって発表できたのですから素晴らしいです。
清掃ボランティアでは、こんな地味で見えないボランティアを続けている学校には素晴らしい子どもたちばかりです。師範も感動して涙ぐんでしまいました。環境日記も大層好ましい取組です。どんなことを見つけたのか、どんなことにおどろかされたのか、常に日記などにメモをするくせをつけておきたいですね。それができたらわすれることもなくなりますよ。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
大きなタイトルや小見出しなどがよくできているのに、小さな文字の吹き出しが良く見えませんね。
字数が多すぎたためひとつ一つの文字が小さくなってしまったというのが本音ではありませんか？
しっかりと黒い文字が出るようなサインペンなどを使って書くとメリハリのある文字が並ぶと思いますよ。例えば筆ペンのような字体を使うのははっきり見せる工夫になります。ぜひとも試してみてください。
身近な取り組みがやがて鹿児島市へ、さらには鹿児島県から全国へ、そして世界へと発信する第1歩になることに気付いたのは何よりも価値のあることと思います。これからもがんばって世界中に普及させて下さい。



鹿児島県鹿児島市 西伊敷小学校5年生
壁新聞のタイトル:eco&環境新聞

46-07、46-08、46-09、46-10(県推薦)、46-11、46-12(全6枚)

西伊敷小学校 5 年生①の新聞を書いたみなさんへ
田中師範から一言――

全体的に地球の自然や環境のことがとても可愛くまとまった eco&環境新聞です！！
地球温暖化の意味がわかりやすく説明されて、このまま地球温暖化が進むと90年後には人が住めなくなってしまうので、緑をふやして日本を自然豊か国にしようとする皆さんの心強い思いを感じることができました。ありがとう！！ゴーヤ、ヘチマなどの緑のカーテンで、暑さがしのげて、すずしく過ごせたという皆さんの体験談は素晴らしいことです。また、プールの生き物調査で、プールの中でいろいろな生き物がお互いに助け合いながらくらして、その一匹一匹の「命」の大切さを学んだことがとても重要なことです。これからみなさんがずっと身近なところでいろいろと体験したり、学んだりすることによって、自然や地球を大切にすることがさらに大きく育つことを期待しています！！
とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
地球を守るために、緑をふやす活動は、緑のカーテン以外にどんなことをしたのかな。
プールの中のいろいろな生き物が、どのような種類の虫がどのくらいふえたか、へったか、その原因は何であったかという調査もおススメだね。
大切な地球環境のために、そのよう調査の記録があれば、今後どのようなことをしなければならないかというみなさんの計画ができると思います。
次のかべ新聞をわくわくして楽しみにまっているよ！！



西伊敷小学校 5 年生②の新聞を書いたみなさんへ
師範から一言――

環境と自然を大切にしたいという皆さんの思いが十分に伝わる素晴らしい壁新聞です！！このかべ新聞を読んだ読者のお友だちも、みなさんの思いに賛成したと思うよ。また、かべ新聞の最後の「まとめ」に書いてある「環境や自然のつながり」、「生き物とのふれあい」、「環境にやさしい地球」の言葉が深く師範の心に残りました。これらの言葉をこれからずっと忘れないで大切に、行動して欲しいと思います。このかべ新聞に書かれている体験を、一つ一つを興味深く読みましたが、とくに「トラック協会との環境学習」と「緑の小道環境日記」はとてもユニークで、読者の目にとまりやすく、すぐにも読みたくなるひじょうに魅力的な記事だと思います。アイデア賞をあげたくなりました！！
とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
プールの生き物調査で絶滅危惧種のゲンゴロウなど約1万匹の「命」を救ったことは、とても素晴らしい結果だと思います。その1万匹の生き物が現在どのように管理されているか、どのような問題があるかなど読者のお友だちはもっとくわしく知りたいと思うよ。また3ヶ月間の「緑の小道環境日記」にどのようなできごとがあり、どのようになり、どのようにしたいかなどをくわしく書いた日記を読みたいお友だちもたくさんいると思うよ。
次のかべ新聞を楽しみして読みたくなりました！！



西伊敷小学校5年生

西伊敷小学校 5 年生③の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

エコっちチームメンバーの一人一人が一年間仲よく助け合いながら完成した「チームワークかべ新聞」だね！！また五人のチームメンバーそれぞれの思いがこもった「いろいろがんばったよ！コーナー」、「プールの生き物調査をしてみて」「エコについて学んだこと」などのコメントがそれぞれのメンバーの個性が出て大変すばらしいと思います。このことは、メンバー全員が一年間、病気もしないで健康でいろいろな環境学習をすることができたということなので、これもすばらしい結果だと思うよ。「ゴミひろいをしているか？」の調査は大変興味深くユニークで、その結果が男子も女子も高いので、引き続きがんばってさらに高い割合が出ることを期待しているよ。とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

一人一人のチームメンバーのエコ活動に対する思いは十分に理解できましたが、今後いろいろな所でチームとしてまとめを発表するきかひも出て来ますので、最後にエコ活動に関して、チームとしての全体のまとめを書くようにすれば、みなさんのかべ新聞が、読者のお友だちにとってさらにみりよく的になると思います。これからもがんばってね。応援しているよ。



西伊敷小学校 5 年生④の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

春、夏、秋、冬の一年間にどのような活動をしたか一目で見て良くわかるかべ新聞です！！このように身近な自然や環境を意識しながら、さまざまな楽しい体験をしたので、じゅうじつした一年間が過ごせたことがみなさんのかべ新聞から読みとれますよ。お疲れさまでした。

このような一つ一つの活動にはいろいろな思い出があると思いますが、この一年で終わらなかったこと、もっと調査しなければならないこと、さらに改善しなければならないことなどたくさんやるがあると思いますが、このような環境学習は続けることが大切ですので、引き続きがんばってくださいね。次のかべ新聞をおうえんしながら楽しみまっています。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

「6月から9月にかけて緑の小道をしました。」と書いてあるけど、もっとこの「緑の小道」の活動のことにとっても興味があるので、もっと知りたかったな。最後の「感想」のところに、「一年間環境のことに意識して、これからも意識しながら生活をしていきたい。」とすばらしい感想が書かれています。もう一言、二言で特にどのようなところを意識したいかを書いてもらえれば、みなさんの環境学習についてもっとかべ新聞の読者のお友だちにアピールできると思います。



西伊敷小学校5年生

西伊敷小学校 5 年生⑤の新聞を書いたみなさんへ

師範から一言――

全体を見渡すと4つの活動とその感想で構成されています。特にかべ新聞の上に「緑いっぱい私の町」とかべ新聞の名前を書いているのが気に入りましたよ。これはあいさつのようなものです。小見出しの2番目が少し読みにくいようですが、欠点とは言えないでしょう。ところどころに写真がはってありますが、小さすぎて何をしているのか、わかりにくくなっています。特に白いウジャクは師範も見つけられませんでした。

でも、感想のところではトラック協会の人の話から、未来のことを心配して「エコを大事に」していこうという考えにたどり着いたのはすばらしいことです。最後の文章にも書いていますが、これを日本全体に広めて、協力していくことが大切です。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★

大きなタイトルの上に書かれた活動のテーマが、応募用紙に書かれたものと少し変えてありますね。テーマが変わるのは後出しじゃんけんのようでいけません。元の「学校や地域での環境について」でもいいのですが、少しぼんやりしていますね。もちろん、かべ新聞に書いた活動のテーマの方がイメージがはっきりしていると思います。

4つの活動記録では、小見出しの文字を色文字にしたために2つ目のプールの生き物調査の小見出しが弱々しく見えました。隣の2組環境レンジャー5の作った壁新聞でもプールの生き物調査をしたことが書かれています。カエルやヤゴまでは小学生でも判別できますので、どんな生き物がいくつ見つかったか、これも記録を取っておくといいですね。

都会の小学校ではトンボのヤゴをたくさんとるために、水泳教室が終わったプールに竹の枝を束ねたものをいれてヤゴの住みやすい環境を作っています。このヤゴは学校のビオトープに移し、成虫になるまで観察した例があります。こんなところまで観察すると面白いと思います。



鳥インフルエンザに一羽でも感染してしまうと、その対策が大変な様子が記事や写真を通して伝わってきました。すでに感染が見つかった場合は、ウィルス拡大をおさえるのが優先でしょうが、大きな視点でみた場合の県外への分散化の取り組みはいいことだと思います。

ツル以外の鳥でも数が激減していた種で、生息地の移動に向けた取り組みが行われているので、いろいろな情報を収集してみて、移動にどれくらいの年月がかかるか等調べると役に立つかもしれません。そして、地元住民の同意を得るという活動についても、このような新聞や地域イベントを通してアピールすれば、ツルを知ってもらい、さらにツルを好きになってもらうことにつながると思います。

鶴荘ボランティアチャレンジ
壁新聞のタイトル:ツルがクルー新聞

荘中ボランティアチャレンジ C班のみなさんへ
師範から一言――

力作の新聞をつくってくれてありがとう。
釧路と出水の中学校どうして交流をもつのはいいことですね。同じことを目指している仲間は地域をこえてたくさんいると思うので、このようなエコ新聞をきっかけに仲間がもっと増えるきっかけになるでしょう。残数調査をどのようにするのか知りませんでしたが、イラストを使って説明してくれたのでよく分かりました。たくさんツルのツルが、同時に異なる方向に飛び立ったら大変でしょうね。仲間との協力なしにはできない調査だと思えます。年々ツルの数が増えているのは、記事にも書いてくれましたが、ツルが暮らしやすい環境になっているのだと思えます。そして、ツルのエサにとってもいい環境ということになります。「世界一のツルの渡来地になるまでの苦勞」の話は、うなずきながら読んでしまいました。ツルのくちばしの長さの違いを利用するというアイデアは、日々の観察と試行錯誤があったのでしょうか。きっと他にも苦勞話はありそうなので、連載できそうですね。
分散状況調査は貴重なデータですね。29年間も続いていることは大変すばらしいことです。「調査」は自然保護活動の重要な柱のひとつですので、是非これからも続けていってください。病気感染の観点から、分散することが大切であることが分かりやすく説明されています。鳥インフルエンザのニュースがでるたびに、人が飼育している鳥だけでなく渡来する鳥たちのことが心配になります。“なぜ分散しなくなってきたか”といった原因を考えると、新聞に書ききれない意見もきっとあるでしょう。調査年の気温やエサの状況との関係にも興味があります。生き物が単独で生活するか集団でするかは生態によりませんが、人の影響で生活できる場所を減らしてしまうことは避けたいものです。
ツルクラブへの意気込みは頼もしいですね！長年続いている伝統として調査を引き継ぐことも大切ですが、ツルに対する想いを後輩に引き継いでいってください。



とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
ツルのガイドをツルガイド博士になった人が行っているようですが、そんな博士たちの感想を楽しく読ませてもらいました。「人に伝えるのはすごく難しい」、これはまさにその通りです。知識を話すだけでは聞いた人もすぐに忘れてしまうので、参加者への問いかけをして考えてもらったり、五感を使った体験をガイドのアクティビティに取り入れたりと様々な工夫をするといいと思います。「恥ずかしいという思い」、これは慣れという部分が大きいのですが、それと同時にガイドする人自身が楽しむことが大切です。楽しいときは話はずみ、モチベーションも高くなるものです。がんばってください。

鶴荘ボランティアチャレンジ
壁新聞のタイトル:ツルがクルー新聞

荘中ボランティアチャレンジ B班のみなさんへ
師範から一言――

まず新聞の見出しにあるレタリングにおどろきました。文字の配置や大きさなどが、記事全体のバランスがとても上手だと思えます。羽数調査の結果をグラフで表すことで、読み手が増加数を一目で理解できるように工夫されています。最大羽数を主張する文字も、色紙で強調されていて、うまく余白を使っていますね。新聞ではこういう目をひくものがあると、ちょっと読んでみようと思ってくれるものです。マナヅルもナベヅルも4羽家族が減って3羽家族が増えたとのことですが、その結果はどうなったのか？理由は何だったのか？この新聞の考察を受けて、ぜひ次の新聞で教えてくださいね。
とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
羽数調査の結果を表したグラフの中で、数が大きく減っている年、増えている年がありますね。特に減っている年というのは、大雪であったり食べ物が少ないと、何かしらの理由が、日本もしくは繁殖先で起こった可能性が高いのではないかと思います。そのことも調べてみて記事にすると、より新聞の内容がふくらんで、もっとよくなるのではないかと考えます。次の新聞を期待して待っていますね。



荘中ボランティアチャレンジ D班のみなさんへ
師範から一言――

ほどよい写真の枚数や色使いで、とても読みやすい新聞になっています。私も経験がありますが、冬の調査は寒さがとてもきびしいですね…。みなさん、よくがんばったと思います。「ツルクラブを守ろう！」の記事の中にある、「自然は自分たちの手では変えられない。でも、その気候に合ったツルの住みやすい環境を人工的に変えることは可能である。」という一文は、まさにその通りだと思います。人がすこしの手間をかけることで、生きていくことが出来るようになる野生動物はたくさんいます。そういったちょっとした発見を、ツルクラブの皆さんの力で多くのお友だちに伝えてほしいと思います。
とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★
ツルクラブのあらすじの中で戦前と戦後のツルの羽数について書かれていますね。この間に10分の1以下にまで減少してしまったというとても驚くべき数字があります。文字の太さや色を変えるなど目立たせて、他の文字と区別がつくようにすると、読んでいる人も「お、なんだろう？」と目を引かれて、ツルのこと、そしてツルクラブのことをより理解してもらえるのではないかと思います。



あおきっこエコクラブのみなさんへ

師範から一言一

中央に大きなサツマガモの絵があるかべ新聞は初めてですが、とても印象的で人目をひきますね。成功です。このカモを中心に8つほどの活動記録が紹介されています。メッセージの中にも「できるだけ自然にやさしい米づくりを实践することだ」と書いていますね。実践があったから、「塩水選(えんすいせん)」なんて言葉を、元より田んぼ農家でなければ使わない言葉ですね。よく覚えて解説をしてくれました。このような農作業から生まれたことがあります。植物でも同じ時期に白い花を咲かせるタネツケバナがあります。白い花がついたら塩水選をして苗床をつくりなさいという季節がやってきたことを教えてくれます。

このようにわが国では米づくりへの理解活動と言うのもあり、さらには太陽光パネルを乗せたりで、忙しい毎日を過ごしております。塩水楔なんて言葉は専門の田んぼ言葉でなければわからないと思いました。足ふみ脱穀機と言うのもなつかしい機械です。この機械をさわりたいくて、この「さつまがも農法」を学びにきたのでしょうか？日本人なら稲作の原理などは何時でも話ができるように、頭の中を整理しておいてほしいものです。



とっておきのゴシドウ★……★……★……★……★……★

中央のカモにはおどろきましたが、これを作った 47 名分の感動が伝わってこないのがちょっとさみしいね。大きな声で自分の感じたこと、みんなに伝えたいことをまとめてみて下さい。私達はお米を食べるので、お米がどのような手順で作られるのか、田んぼに住んでい、マとしてよく観察をして覚えて下さい。

このかべ新聞では、活動のテーマ「自然に優しい米作りを体験しよう」が大切だと思います。はっきりわかるように活動のテーマを入れて下さい。特別なゴシドウとしては、どのコラムも熱心にくれたのはわかるのですが、コラムの中の文字の大きさはきちんとそろえて書いてみて下さい。今回は黄緑、ピンク、ムラサキなど高貴な身分の人々に利用されている色模様です。これでは我が国の国際的な価値の増加が考えられません。もっとコントラストのはっきりした色使いが大切になってくると思います。時々、絵の道具を出して、デッサンをやることを忘れずに練習して下さい。

沖縄県本部町 もとぶ元気村エコクラブ

壁新聞のタイトル:どんぐりの森は海の恋人

47-02

もとぶ元気村こどもエコクラブさんへ

師範から一言一

どんぐりの森づくりによって、沖縄の海を守るという活動についてかべ新聞にまとめてくれました。調べたことや新しく知ったことがていねいに書かれているなと思います。豊かな森から流れてくる水には、海の生物に必要な栄養素がたくさん含まれているので、豊かな海を作ることにつながりますね。赤土の流出というのは知らなかったですが、きちんと整備された森は大雨が降ってもくずれないように、土を流出させない効果があるのですね。みなさんのかべ新聞を読むことでよくわかりました。

とっておきのゴシドウ★.....★.....★.....★.....★.....★.....★。
 その中で、なぜ最近赤土の流出が起きているのか、疑問に思いました。
 開発などによって森が減っているからなのかな？調べてみるといいです
 ね。

どんぐりの苗木を育てたり、植えたりするときに大変だったことはありますか？水やりをしたり、なかなかうまく育たなかったり、むずかしかったことと、それをどんな工夫で解決したか、ぜひ今度は書いてみましょう。そのようなみなさんの体験からえられる言葉は、読む人にもよく伝わると思います。みなさんの活動がもっと多くの人の印象にのこると思いますよ。



OMRC こどもエコクラブさんへ

師範から一言――

「食育」をテーマに一年間みんなで楽しく活動できたようですね。海での体験、田んぼでの体験と色々なフィールドでたくさんのことが学べたと思います。応募用紙の方には「沖縄の味を楽しもう!!」とありますが、まさにその通りの活動ですね。8月に田植えをして、12月に稲刈りというのはさすが沖縄だなあと感じました。私の家の近くでは、9月頃にはすでに稲刈りをするところもありますよ。

とっておきのゴシンドウ★.....★.....★.....

それぞれの活動を書いた紙を、タコやバームクーヘンの形にしているのはおもしろいと思いました。なので、活動した日付やタイトルを大きくわかりやすく書く、もっと見やすくなると感じます。また、模造紙を2枚貼って、食べ物がみんなの体の中に入っていくことを表現していますね。個人的にはとてもおもしろい発想だと思いますが、かべ新聞として応募する時には1枚にまとめましょう。

また一年間活動しての感想やまとめがあるのもいいと思います。食べ物を作ったりとったりする大変さを学んで、今後やってみたいことや、家で食事をする時に気を付けたいと思ったことはどんなことですか？みなさんのすばらしい体験から、ぜひ一歩進めて自分にできることを考えてほしいと思います。



西表ヤマネコクラブさんへ

師範から一言――

ヤマネコクラブの活動のすばらしさは、沖縄県じゃないとできないこと、沖縄県だからできることを続けて実行していることです。何かと言うと、12月にホテルの観察をしていることです。17年目になっているとはビックリです。続けていることがとても大切です。それともう一つ、サバイバルキャンプです。沖縄県以外でやろうとすると、食べ物を自然から取ってくることはむずかしい、海の幸と山の幸が取れることも良い条件ですね、場所は近くの島ですか？と言うことを考えるとヤマネコクラブの活動はとくちょうがあります。

この二つは私も良くおぼえていて、今年もみんなががんばったなと感心しました。ホテルの観察結果は、去年と今年の比較になっていますが、いつかこれまでの結果を一覧表にして、ホテルが増えたり、減ったりする原因が、みんなが考えている通りであるか、報告してくれるとうれしいです。

今年は、去年と比べて工事の影響が少なくなってイリオモテボタルが復活したようで、良かったですね。写真はメスですが、オスのホテルを見つけることができたのですね。オオシママドボタルは、気候の影響なのでみんなにとっては、どうしようもないですね。残念ですね。

このような雨がきょくたんに少ないとか、ごう雨のように雨がが多いなど、最近では異常な気象が増えていそうですね。これは地球温暖化によるらしいと言われています。生き物にとっても地球温暖化は大変なことで、生きていることがだんだんとむずかしくなるようです。

前にも書きましたが、私は神奈川県に住んでいます。神奈川県ではホテルは6月頃にしか見られません。沖縄県では、12月に見られるので、とてもびっくりしています。神奈川県では12月は冬ですから、とても寒いので、虫などはみなどこかに行ったり、卵やさなぎになって寒い冬を過ごしています。沖縄県はやっぱり暖かいのですね。沖縄県では、ホテルは12月以外の月、例えば6月でも見られるのですか？ホテルのエサはカワニナと思っていましたが、カタツムリがエサになることも初めて知りました。

サバイバルキャンプはとっても楽しいイベントですね。今年はエコ料理対決をして、競争をしたのですね。このような工夫があると、みんなも一生けん命に料理を作るのでしょうか。味の対決と言うことですが、エコ対決はどうだったのでしょうか？料理の材料も火の材料も自然から取ってきたから引き分けかな？みんなが作った料理の味が想像できないのが残念です。どんな味だったのでしょうか？ご飯がよくたけた、テントとトイレが上手くできた。去年よりは進歩したようですね。でもまだまだ大人の人にたよる所もあったようで、来年はがんばろう。



クリーンアップ大作戦で集落のごみの調査とごみひろいをやったのですね。中野地区はごみが多いようですが、どうしてですか？反対に住吉地区はごみがとても少なかったようですね。中野地区と住吉地区のちがいは何だったんだろうか？このことを良く観察し、考えると、ごみを少なくするうまい改善法が見つかるかも知れません。でも、今回の活動で気付いたことと改善法が良く一致していたと思いました。草むらやア(?)ダンの林の中にごみが捨てられている。

では捨てられないためには、と言うことで改善法として草を刈る、その通りです。すばらしいことに気が付きましたね。草ぼうぼうでごみがかくれてしまう。それならば草を刈って、かくれるところを無くそう。捨てる人の気持ちになると、見えないから大丈夫だろうと思って捨てるけれど、見つかってしまうと捨てるのをあきらめるよね！と言うことでどういう所にごみが捨てられているかを良く観察し、ごみが少ない所とくらべると、ごみが捨てられない対策、改善法が見つかると思います。看板を作って、捨てないように注意することも良いでしょう。

もっとほかの方法はないかな？みんながごみを拾っている写真を看板にするのはどーかな？みんなで話し合ってみると思わぬ改善法も見つかるかも知れないよ。例えば、たばこのポイ捨てが多いバス停にタバコ専用のごみ箱を置いて、ごみはごみ箱に捨てることに気付いてもらう、あるいは、みんながごみ拾いしている所を大人の人に見てもらうことも良いと思います。こども達が一生けん命きれいにしているところを見れば、大人の人も捨ててはいけな一と気が付いてくれるでしょう。

ESDフォーラムに参加して、ほかのクラブの活動を知り、自分たちももっと活動ができることがあると気付いたのは、すばらしいです。ぜひ、ほかのクラブの活動を知る機会があったら参加してみると良いと思います。逆にヤマネコクラブの活動もほかのクラブの人たちには、参考になっていると思います。来年のかべ新聞に、ほかのクラブの活動を参考にして、自分たちもやってみました、という報告があったらうれしいです。

船浦中の文化祭に参加して、アンケートを取ったり、クイズを出して、みんなも楽しんだようですね。アンケートを見るとエコに関心が高く、多くの人が環境に良い暮らし方をしていることに感心しました。クイズもいいねー。問題2は世界の環境問題ですね。身近な現象や出来事からほかの国の環境に対する取り組みも知ることができますね。沖縄県は周りが海でいろいろな外国との接点にもなっているので、このような場所の特ちょうを活かした環境問題に取り組むのも沖縄県ならではの活動になっていると思います。

とっておきのゴシンドウ★……★……★……★……★……★

クイズの答えがちがっているのがあったよ！問題1の正解は、①の浦内川ですね。クイズの正解を教えるだけでなく、今回は、水質調査の結果もみんなに見てもらったのだと思います。

ぜひ、そうしてください。クイズでは、クイズで見つかった問題点なども参加者に知ってもらうことが大切です。例えば、問題3のホタルの問題では、ヤマネコクラブが長い間調べているホタルの発見数と地域の開拓状況や気候との関係なども発表するようにすると良いと思います。

水 質調査で3回、測るやり方は大変良いやり方です。1回だけではぐうぜんそのような数値が出たのかも知れませんが、3回やるとそのような心配はありません。薬品の数は増え、お金はかかりますが、データの信頼性が高まりますので、測定はみんながやっているように3回はやってください。

来年はホタルの数がどうなっているか、かべ新聞を見るのが、楽しみです。